

史跡飛山城跡Ⅲ

平成11年3月

宇都宮市教育委員会



①「蜂家」墨書土器 (SI18)



②火舎香炉 (ST12)



③獅子埴 (ST13)



④黄褐釉壺

例 言

1. 本書は、平成4～9年度に行った飛山城跡発掘調査の調査報告書である。尚、本城跡は宇都宮市竹下町392-1他に所在し、史跡整備に伴う発掘調査である。
2. 本調査は、国・県の補助金を導入し、宇都宮市教育委員会が主体となり調査を行った。調査は、第Ⅲ次調査が平成4年6月15日～同年11月14日、第Ⅳ次調査が平成5年9月1日～6年3月28日、第Ⅴ次調査が平成6年9月1日～7年3月22日、第Ⅵ次調査が平成7年9月4日～8年3月18日、第Ⅶ次調査が平成8年9月2日～9年3月25日、第Ⅷ次調査が平成9年9月10日～10年2月27日の期間に実施した。
3. 調査面積は、第Ⅲ次調査が900㎡、第Ⅳ次調査が約1,800㎡、第Ⅴ次調査が約2,700㎡、第Ⅵ次調査が約4,500㎡、第Ⅶ次調査が約5,000㎡、第Ⅷ次調査が約3,400㎡である。
4. 遺跡地における測量、写真撮影等は横堀聡、齊藤恒夫、清水豊、内海亨、佐々木仁、手塚佳介、阿久津正代子、入江タカ子、入江文字、入江通子、入江つや子、入江晴江、入江誠、藤戸佳代、齊藤しのぶ、堀中國代、原典子、津久井美和子、阿久津巳琴、大島賢子、竹石佳子、萩原君子、鈴木智子の協力を得て、梁木誠、大塚雅之、富川努、神野安伸、今平利幸がこれにあたった。
また、現地における基準杭の設置及び空撮は、国際航業株式会社、シン技術コンサルが行った。
5. 遺構、遺物の整理、実測等は、福田貴久栄、鈴木道子、鈴木芳子、樋口静子、大森八重子、大野節子、賀来孝代、横堀聡、清水豊、大澤順子、君島朱美、岡田有紀子の協力を得て、今平利幸がこれにあたった。また、遺物の写真撮影は横堀聡、大澤順子、賀来孝代、君島朱美、岡田有紀子、今平利幸がこれにあたった。尚、陶磁器に関しては、国立歴史民俗博物館の吉岡康暢教授、小野正敏教授に、青銅製品及び鉄製品に関しては、東京国立博物館池田宏主任研究官に鑑定して頂いた。
6. 本書の執筆は、今平が担当した。
7. 本遺跡出土の遺物及び図面・写真は、宇都宮市教育委員会が保管している。尚、遺物の注記はUTBとした。
8. 発掘調査の関係者は次のとおりである。

(指導助言)

文化庁記念物課	田中哲雄	本中眞		
飛山城跡保存整備委員会委員	峰岸純夫	飛山城跡保存整備委員会委員	高瀬要一	
同	阿部 昭	同	嶋 静夫	
同	市村高男	同	橋本澄明	
同	大金宣亮	同	藤本正行	
同	定岡明義	同	濱島正士	

(事務局)

<第Ⅲ次調査時>

教育長 藤田昌平 教育次長 近能忠良 文化課長 安達光政
文化振興係長 北条和久 係 湯沢孝夫 臼井成志 高栖良子
文化財保護係長 定岡明義 係 手塚俊男 梁木誠 小松俊雄 大塚雅之 神野安伸 今平利幸

<第Ⅳ次調査時>

教育長 藤田昌平 教育次長 近能忠良 文化課長 横堀杉生

文化振興係長 湯沢孝夫 係 臼井成志 阿部邦男 高橋良子 小野敬子
文化財保護係長 定岡明義 係 手塚英男 梁木誠 小松俊雄 大塚雅之 神野安伸 今平利幸

<第V次調査時>

教育長 大塚一之 教育次長 近能忠良 文化課長 横瀬杉生
文化振興係長 桜井敬嗣 係 臼井成志 高橋良子 小野敬子
文化財保護係長 手塚英男 係 梁木誠 小松俊雄 大塚雅之 富川努 神野安伸 今平利幸
国文祭推進班長 湯沢孝夫 班 小林修一 浜野均 関口淳 吉沢秀和 秋田靖

<第VI次調査時>

教育長 大塚一之 教育次長 青柳弘之 文化課長 横瀬杉生
文化振興係長 桜井敬嗣 係 臼井成志 高橋良子 小野敬子
文化財保護係長 手塚英男 係 梁木誠 小松俊雄 大塚雅之 富川努 神野安伸 今平利幸
国文祭推進班長 湯沢孝夫 班 関口淳

<第VII次調査時>

教育長 大塚一之 教育次長 大貫徹 文化課長 橋崎征
文化課補佐 桜井敬嗣 係 関口淳 大島修司 高橋良子 小野敬子
文化財保護係長 手塚英男 係 梁木誠 小松俊雄 大塚雅之 栗原武夫 富川努 神野安伸 今平利幸 清水正幸 吉沢宣行

<第VIII次調査時>

教育長 大塚一之 教育次長 大貫徹 文化課長 小野三男
文化課補佐 桜井敬嗣 係 関口淳 大島修司 荒井厚文 小野敬子 石田康子
文化財保護係長 手塚英男 係 梁木誠 小松俊雄 大塚雅之 栗原武夫 富川努 神野安伸 京極隆利 今平利幸 清水正幸 高野欽哉 吉沢宣行

〔調査補助員〕

阿久津タツ、阿久津キヨ、阿久津陽子、阿久津フジイ、阿久津みちい、阿久津正代子、荒井シゲ、荒井操、荒井セン、入江タカ子、入江つや子、入江テル、入江文子、入江通子、大橋勇、大橋みどり、小川ミノ、小川覚治、菊池一弥、小池シズエ、坂寄修二、坂寄忠、坂寄ミヨノ、坂本政次、坂本ヨシ、島田カウ、関谷勇、諏訪トモ、高橋ソメ、高橋清二、野口栄子、榎山ナミ子、三坂キヨ、山中金三郎、矢島久夫、藤戸佳代、斉藤しのぶ、手塚佳介、清水豊、関谷ヨネ、大塚清、小松英雄、吉沢良助、熊田幹、菱沼喜裕、高橋邦夫、福田昭二、野口ハツ、関谷実、横堀聡、斉藤恒夫、内海亨、佐々木仁、入江晴江、入江誠、堀中国代、原典子、津久井美和子、阿久津巴琴、大島賢子、竹石佳子、萩原君子、鈴木智子

9. 発掘調査及び報告書作成に関しては、次の諸機関、諸氏の御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(敬称略)

栃木県教育委員会文化課、栃木県埋蔵文化財センター、秋元陽光、秋山隆雄、足立佳代、阿部知己、石部正志、石塚久則、市橋一郎、泉森紋、井上信正、内山敏行、江原英、大沢伸啓、小森哲也、斉藤和行、芹沢清八、金坂清則、鍋木理広、亀谷弘明、木下良、木本雅康、小池伸彦、佐原真、佐藤信、坂井秀弥、坂井隆、酒寄雅志、坂爪久純、鈴木靖民、鈴木泰浩、千田嘉博、田熊清彦、田代隆、磚田伊史、津野仁、中島實、野口静男、初山孝行、福田定信、藤田典夫、三沢正善、平川南、安河内敬志、八巻孝夫、初山明、宮田毅、吉岡康暢、山口耕一、山村信榮

凡 例

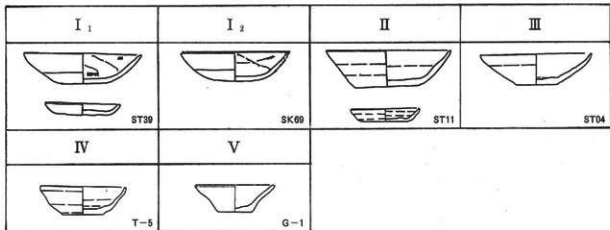
1. 挿図の縮尺は、竪穴住居跡・竪穴建物跡が1/60、掘立柱建物跡・土坑・堀が1/80、カマドが1/30を基本とし、遺物は1/3を基本とした。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び写真図版の遺物番号と一致する。尚、写真図版内で、例えば87-10とあるのは、第87図の10を意味する。
2. 断面図基準線は標高であり、平面図の方は真北を示す。
3. 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
 ロームブロック…ロームB 今市バミス…IP 七本桜バミス…SP 鹿沼バミス…KP 焼土…SY
 炭化物…C 粘土…Ne
4. 遺構においては次の略号を使用した。
 竪穴住居跡…SI 竪穴建物跡…ST 掘立柱建物跡…SB 溝…SD 柱穴列…SA 不明…SX
5. 土層断面図において は黒色地山、 はローム層、 は鹿沼軽石層を示す。
6. 遺構平面図において は粘土、 は焼土、 は炭化物を示す。
7. 土器実測図の は釉の範囲、 は煤の範囲を示す。
8. 土器観察表内の(H)は土師器を示し、(S)は須恵器を示す。
9. 第Ⅲ・Ⅳ次調査と第Ⅵ次調査のトレンチ番号は、年次毎に番号を付けたため重複している。よって、本文中では、調査次とトレンチ番号を併記したので参照されたい。尚、全体図では、それが分かりづらいので第1図と合わせてトレンチの位置を確認いただきたい。
10. 中世遺物観察表中(第37表～第89表)の土師器皿の器形と調整の分類は以下のとおりである。

(器形分類)

- I₁ 丸みを帯びた平底で、体部は内湾し口縁部に至る。
- I₂ 丸底で半球形状を呈する。
- Ⅱ 平底で体部が外傾し、口縁部に至る。口唇部を摘み上げるものとそうでないものの2種類がある。
- Ⅲ 平底で体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部に至る。口唇部を摘み上げるものとそうでないものの2種類がある。
- Ⅳ 平底で中位に明瞭な稜線が見られ、口縁端部外面が直立する。
- V 平底で体部が外反気味に立ち上がり、口縁部に至る。

(成形・調整分類)

- a 非ロクロ成形。内面板目状工具による調整後ナデのもの、ナデのみのもの2種類がある。
- b₁ ロクロ成形。底部回転承切り。内面見込部に1～数条のナデが施される。
- b₂ ロクロ成形。底部回転承切り。内面見込部無調整のもの。
- b₃ ロクロ成形。底部回転承切り。内面見込部にロクロ目が明瞭に残るもの。



器形分類図

目 次

序・例言・凡例

I はじめに

1 調査の経過と方法	1
2 遺跡の環境	2

II 調査概要

1 縄文・弥生時代	8
(1) 土坑	8
(2) 遺構外出土遺物	8
2 古代	12
(1) 竪穴住居跡	12
(2) 掘立柱建物跡	29
(3) 土坑	29
(4) 表探	29
3 中世	44
(1) 堀と土塁	44
① 1号堀	44
② 2号堀	44
③ 3号堀	44
④ 4号堀と土橋	44
⑤ 5号堀と土橋	47
⑥ 6号堀	55
⑦ 木橋跡	59
⑧ 溝	63
(2) 竪穴建物跡	66
(3) 掘立柱建物跡	106
(4) 土坑	125
(5) 積石造構	127
(6) 柱穴列	128
(7) その他の出土遺物	130
① 古銭	130
② 青銅品	131
③ 鉄製品	132
④ 表探	134

III おわりに

1 古代について	168
2 中世について	168

插图 目次

第1图	年次別調査区域図	2	第37图	SI09出土遺物実測図	25
第2图	地形測量図	3	第38图	SI10平・断面図	26
第3图	周辺道跡分布図	6	第39图	SI10カマド平・断面図	27
第4图	周辺小字各図	7	第40图	SI10出土遺物実測図(1)	28
第5图	縄文時代土坑平・断面図	8	第41图	SI10出土遺物実測図(2)	29
第6图	SK105出土縄文土器実測図	9	第42图	SI18平・断面図	30
第7图	SK116出土縄文土器実測図	9	第43图	SI18カマド平・断面図	31
第8图	遺構外出土縄文土器実測図(1)	10	第44图	「烽火」墨書土器実測図	31
第9图	遺構外出土縄文土器実測図(2)	11	第45图	SI18出土遺物実測図	32
第10图	遺構外出土縄文時代石器実測図	11	第46图	SI19平・断面図	33
第11图	SI01平・断面図	12	第47图	SI19カマド平・断面図	34
第12图	SI01出土遺物実測図	12	第48图	SI19出土遺物実測図	34
第13图	SI02平・断面図	13	第49图	SB39平・断面図	35
第14图	SI02出土遺物実測図	14	第50图	SB39出土遺物実測図	35
第15图	SI03平・断面図	15	第51图	SK92出土遺物実測図	35
第16图	SI03カマド平・断面図	15	第52图	古代表採遺物実測図(1)	36
第17图	SI03出土遺物実測図	16	第53图	古代表採遺物実測図(2)	37
第18图	SI04平・断面図	16	第54图	1～3号堀平・断面図	45
第19图	SI04カマド平・断面図	17	第55图	G-1 遺構平面図	46
第20图	SI04出土遺物実測図	17	第56图	G-1 遺構断面図(1)	47
第21图	SI05平・断面図	18	第57图	G-1 遺構断面図(2)	48
第22图	SI05北カマド平・断面図	18	第58图	G-16遺構平・断面図	49
第23图	SI05東カマド平・断面図	19	第59图	G-16コンタ図	50
第24图	SI05遺物平面図	19	第60图	G-17遺構平面図	51
第25图	SI05出土遺物実測図	20	第61图	G-17コンタ図	52
第26图	SI06平・断面図	21	第62图	G-17遺構断面図	53
第27图	SI06カマド平・断面図	21	第63图	G-18遺構平・断面図	54
第28图	SI06出土遺物実測図	22	第64图	G-18コンタ図	55
第29图	SI07平・断面図	22	第65图	G-20遺構平・断面図	56
第30图	SI07カマド平・断面図	23	第66图	5号・6号堀平・断面図	57・58
第31图	SI07出土遺物実測図	23	第67图	G-23遺構平面図	60
第32图	SI08平・断面図	24	第68图	G-24遺構平面図	60
第33图	SI08カマド平・断面図	24	第69图	2号木橋跡平・断面図	61
第34图	SI08出土遺物実測図	24	第70图	溝出土遺物実測図	61
第35图	SI09平・断面図	25	第71图	1号木橋跡平・断面図	62
第36图	SI09カマド平・断面図	25	第72图	堀出土遺物実測図	65

第73图	ST01平·断面图	67	第111图	ST23出土遗物实测图(1)	96
第74图	ST04平·断面图	68	第112图	ST23出土遗物实测图(2)	97
第75图	ST04出土遗物实测图	68	第113图	ST25·26·27·28平·断面图	98
第76图	ST05平·断面图	68	第114图	ST29平·断面图	99
第77图	ST07平·断面图	69	第115图	ST30平·断面图	99
第78图	ST07出土遗物实测图	70	第116图	ST31平·断面图	100
第79图	ST08平·断面图	70	第117图	ST32·33·35平·断面图	101
第80图	ST10平·断面图	70	第118图	ST36·37平·断面图	102
第81图	ST11平·断面图	71	第119图	竖穴建物出土遗物实测图	103
第82图	ST11出土遗物实测图(1)	72	第120图	ST38·39平·断面图	104
第83图	ST11出土遗物实测图(2)	73	第121图	ST39出土遗物实测图	105
第84图	ST11出土遗物实测图(3)	74	第122图	SB01平·断面·出土遗物实测图	107
第85图	ST11遗物平面图	74	第123图	SB02·06平·断面图	108
第86图	ST12平·断面图	75	第124图	SB10平·断面图	109
第87图	ST12出土遗物实测图	76	第125图	SB11平·断面图	110
第88图	ST13平·断面图	77	第126图	SB13平·断面图	110
第89图	ST13出土遗物实测图(1)	78	第127图	SB12平·断面图	111
第90图	ST13出土遗物实测图(2)	79	第128图	SB14平·断面图	112
第91图	ST13出土茶臼实测图	80	第129图	SB16·20·34平·断面图	113
第92图	ST13遗物平面图	80	第130图	SB35·36·37平·断面图	114
第93图	ST14平·断面·遗物平面图	81	第131图	SB38·40·41·42平·断面图	115
第94图	ST14出土遗物实测图(1)	82	第132图	SB43·44·45·46平·断面图	116
第95图	ST14出土遗物实测图(2)	83	第133图	SB47平·断面图	117
第96图	ST15平·断面图	84	第134图	SB48平·断面图	117
第97图	ST15出土遗物实测图(1)	85	第135图	SB49平·断面图	118
第98图	ST15出土遗物实测图(2)	86	第136图	SB50平·断面图	118
第99图	ST15遗物平面图	86	第137图	SB51平·断面图	119
第100图	ST16·17平·断面图	87	第138图	SB52平·断面图	120
第101图	ST16·17出土遗物实测图	87	第139图	SB53平·断面图	121
第102图	ST21平·断面图	88	第140图	SB54平·断面图	121
第103图	ST21出土遗物实测图(1)	89	第141图	SB55平·断面图	122
第104图	ST21出土遗物实测图(2)	90	第142图	SB56·57·59·67平·断面图	123
第105图	ST21遗物平面图	90	第143图	SB68·69平·断面图	124
第106图	ST22平·断面图	91	第144图	据立柱建物出土遗物实测图	125
第107图	ST22出土遗物实测图(1)	92	第145图	SK02~13平·断面图	127
第108图	ST22出土遗物实测图(2)	93	第146图	SK14~23·35平·断面图	128
第109图	ST22遗物平面图	94	第147图	SK24~59平·断面图	129
第110图	ST23平·断面·遗物平面图	95	第148图	SK57·60~70平·断面图	130

第149図	SK71~92平・断面図	131	第160図	古銭	140
第150図	SK93~111平・断面図	132	第161図	青銅品出土遺物実測図	142
第151図	SK112~128平・断面図	133	第162図	鉄釘実測図(1)	143
第152図	SK129~146平・断面図	134	第163図	鉄釘実測図(2)	144
第153図	土坑出土遺物実測図	135	第164図	小札実測図(1)	146
第154図	SK69出土遺物実測図	136	第165図	小札実測図(2)	147
第155図	SK144出土遺物実測図	137	第166図	武器類実測図	148
第156図	SX10平・断面図	137	第167図	その他の鉄製品実測図	149
第157図	SX10出土遺物実測図	138	第168図	鉄滓実測図	149
第158図	SA01~13平・断面図	139	第169図	表探遺物実測図(中近世)(1)	150
第159図	石製品(表探)	139	第170図	表探遺物実測図(中近世)(2)	151

表 目 次

第1表	調査経過表	1	第25表	SD09遺物観察表	64
第2表	発掘調査及び整理作業行程表(1)	4	第26表	5号堀遺物観察表	64
第3表	発掘調査及び整理作業行程表(2)	5	第27表	6号堀遺物観察表	66
第4表	SI01遺物観察表	33	第28表	土坑一覽表	126
第5表	SI02遺物観察表(1)	35	第29表	柱穴列一覽表	129
第6表	SI02遺物観察表(2)	37	第30表	古銭一覽表	141
第7表	SI03遺物観察表	37	第31表	青銅品観察表(1)	142
第8表	SI04遺物観察表	38	第32表	青銅品観察表(2)	143
第9表	SI05遺物観察表	38	第33表	鉄釘観察表	145
第10表	SI06遺物観察表	39	第34表	小札観察表	147
第11表	SI07遺物観察表	39	第35表	その他鉄製品観察表(1)	148
第12表	SI08遺物観察表	39	第36表	その他鉄製品観察表(2)	149
第13表	SI09遺物観察表	40	第37表	ST04遺物観察表	152
第14表	SI10遺物観察表(1)	40	第38表	ST07遺物観察表	152
第15表	SI10遺物観察表(2)	41	第39表	ST11遺物観察表(1)	152
第16表	SI18遺物観察表(1)	41	第40表	ST11遺物観察表(2)	153
第17表	SI18遺物観察表(2)	42	第41表	ST12遺物観察表(1)	153
第18表	SI19遺物観察表	42	第42表	ST12遺物観察表(2)	154
第19表	SB39遺物観察表	42	第43表	ST13遺物観察表(1)	154
第20表	SK92遺物観察表	42	第44表	ST13遺物観察表(2)	155
第21表	古代表探遺物観察表	43	第45表	ST14遺物観察表(1)	155
第22表	SD01遺物観察表	64	第46表	ST14遺物観察表(2)	156
第23表	SD03遺物観察表	64	第47表	ST14遺物観察表(3)	157
第24表	SD11遺物観察表	64	第48表	ST15遺物観察表(1)	157

第49表	ST15遺物観察表(2)	158	第70表	SB48遺物観察表	163
第50表	ST16遺物観察表	158	第71表	SB50遺物観察表	163
第51表	ST17遺物観察表	158	第72表	SB51遺物観察表	163
第52表	ST21遺物観察表(1)	158	第73表	SB54遺物観察表	163
第53表	ST21遺物観察表(2)	159	第74表	SB57遺物観察表	163
第54表	ST22遺物観察表(1)	159	第75表	SK08遺物観察表	163
第55表	ST22遺物観察表(2)	160	第76表	SK19遺物観察表	163
第56表	ST23遺物観察表	160	第77表	SK22遺物観察表	164
第57表	ST24遺物観察表	160	第78表	SK26遺物観察表	164
第58表	ST26遺物観察表	161	第79表	SK36遺物観察表	164
第59表	ST27遺物観察表	161	第80表	SK64遺物観察表	164
第60表	ST28遺物観察表	161	第81表	SK91遺物観察表	164
第61表	ST29遺物観察表	161	第82表	SK74遺物観察表	164
第62表	ST31遺物観察表	161	第83表	SK108遺物観察表	164
第63表	ST32遺物観察表	161	第84表	SK146遺物観察表	164
第64表	ST35遺物観察表	162	第85表	SK69遺物観察表	165
第65表	ST36遺物観察表	162	第86表	SK144遺物観察表	165
第66表	ST38遺物観察表	162	第87表	SX10遺物観察表	165
第67表	ST39遺物観察表	162	第88表	表採遺物実測図(中近世)(1)	166
第68表	SB01遺物観察表	163	第89表	表採遺物実測図(中近世)(2)	167
第69表	SB11遺物観察表	163			

写真図版目次

P L 1	①SK105 ②SK116 ③SI01 ④SI01カマド ⑤SI02 ⑥SI02カマド ⑦SI02出土遺物 ⑧SI03
P L 2	①SI03カマド ②SI04出土遺物 ③SI05 ④SI05東カマド ⑤SI05北カマド ⑥SI06出土遺物 ⑦SI06 ⑧SI07
P L 3	①SI07カマド ②SI08 ③SI08カマド ④SI09 ⑤SI10, ST35 ⑥SI10, ST35出土遺物 ⑦SI10カマド ⑧SI10出土遺物
P L 4	①SI18 ②SI19 ③SK92 ④1号堀[T-31] ⑤2号堀[T-30] ⑥2号堀[T-36] ⑦2号堀, SD06[G-25] ⑧3号堀[T-9]
P L 5	①4号堀[G-1] ②4号堀, 木橋[G-1]
P L 6	①4号堀[G-1] ②4号堀[G-10] ③5号堀[G-16] ④4号堀[G-26] ⑤5号堀, 土橋[G-17] ⑥旧5号堀[T-102]
P L 7	①5号堀[G-17] ②5号堀[G-18] ③5号堀[G-27] ④6号堀[G-20] ⑤6号堀[G-20] ⑥木橋跡[G-3] ⑦木橋跡[G-3] ⑧SD11[G-29]
P L 8	①木橋[G-29] ②SD01[T-13] ③SD01[T-14] ④SD01[G-3坑] ⑤SD02[T-100]
P L 9	①SD03・04[T-4] ②SD06[T-25] ③SD07[T-51] ④SD09[T-73] ⑤SD13, SK36・37 ⑥ST03, SB06 ⑦ST01 ⑧ST03
P L 10	①ST04 ②ST04出土遺物 ③ST06, SK23 ④ST07 ⑤ST10 ⑥ST11 ⑦ST12 ⑧ST12出土遺物
P L 11	①ST13 ②ST13 ③ST13狛犬 ④ST14 ⑤ST14出土遺物 ⑥ST15 ⑦ST16 ⑧ST17

- P L 12 ①ST21 ②ST22 ③ST23・石 ④ST23 ⑤ST25 ⑥ST27 ⑦ST28 ⑧ST29
- P L 13 ①ST30 ②ST32 ③ST31 ④ST36 ⑤ST37 ⑥ST38 ⑦ST39
- P L 14 ①SB01 ②SB01出土遺物 ③SB02, SK11 ④SB10, SA12・13 ⑤SB11, SA05 ⑥SB12, SK27
⑦SB13, SA04 ⑧SB14
- P L 15 ①SB20, SA09 ②SB34 ③SB35・42 ④SB36 ⑤SB40 ⑥SB41 ⑦SB43 ⑧SB44
- P L 16 ①SB45・46 ②SB47・59 ③SB47・48, SK129・130・131 ④SB49 ⑤SB50・52 ⑥SB51 ⑦SB53
⑧SB54・57
- P L 17 ①SB55 ②SB56 ③SB67・68 ④SB69 ⑤SK03 ⑥SK04~07 ⑦SK12
- P L 18 ①SK08 ②SK13 ③SK20 ④SK22 ⑤SK27 ⑥SK28・29 ⑦SK30・31・32 ⑧SK36
- P L 19 ①SK37 ②SK57・60 ③SK64 ④SK62・63 ⑤SK65, ST16 ⑥SK66 ⑦SK68
- P L 20 ①SK69 ②SK75 ③SK76 ④SK77 ⑤SK78・79・80 ⑥SK85 ⑦SK84
- P L 21 ①SK86 ②SK91 ③SK98 ④SK98 ⑤SK101 ⑥SK102 ⑦SK107
- P L 22 ①SK108 ②SK109 ③SK114 ④SK115 ⑤SK117 ⑥SK120 ⑦SK128, SD05 ⑧SK129・130
- P L 23 ①SK135 ②SK137 ③SK141 ④SK145 ⑤SX10 [V次] ⑥SX10 [VI次] ⑦調査員の方々と木橋
- P L 24 ①SK105出土縄文土器 ②SK116出土縄文土器 ③遺構外出土縄文遺物 ④SI01出土遺物
- P L 25 ①SI02出土遺物 ②SI03出土遺物 ③SI04出土遺物
- P L 26 ①SI05出土遺物 ②SI06出土遺物(1)
- P L 27 ①SI06出土遺物(2) ②SI07出土遺物 ③SI08出土遺物 ④SI09出土遺物 ⑤SI10出土遺物(1)
- P L 28 ①SI10出土遺物(2)
- P L 29 ①SI18出土遺物(1)
- P L 30 ①SI18出土遺物(2) ②SI19出土遺物 ③SB39出土遺物 ④古代表採出土遺物
- P L 31 ①堀出土遺物 ②溝出土遺物 ③ST04出土遺物 ④ST07出土遺物 ⑤ST11出土遺物(1)
- P L 32 ①ST11出土遺物(2) ②ST12出土遺物 ③ST13出土遺物(1)
- P L 33 ①ST13出土遺物(2) ②ST14出土遺物 ③ST15出土遺物 ④ST21出土遺物
- P L 34 ①ST22出土遺物 ②ST23出土遺物
- P L 35 ①その他の竪穴建物出土遺物 ②ST39出土遺物 ③土坑出土遺物
- P L 36 ①SK69出土遺物 ②SK144出土遺物 ③掘立柱建物出土遺物 ④SX10出土遺物 ⑤中世表採出土遺物
- P L 37 ①瀬戸折縁皿 ②瀬戸即皿 ③瀬戸瓶子・梅瓶 ④瀬戸その他 ⑤天目茶碗 ⑥染め付け ⑦鉄胎陶器
⑧砥石
- P L 38 ①釘 ②武器 ③小札
- P L 39 ①その他の鉄製品・鉄滓 ②石製品 ③古銭・青銅品

I. はじめに

1. 調査の経過と方法

これまでに飛山城跡では8回の調査が行われている。これを表にしたのが第1表である。

第1次調査は、国の指定を受ける以前で、栗林造成のために壊された城跡北東部の内堀における調査である。この後、本城跡は昭和52年3月8日付けで国指定史跡となる。同時に史跡の買い上げ事業を開始し、平成9年3月末現在で史跡の約92%が公有化された。

昭和63年度に行った第Ⅱ次調査は、当初指定から外されていた造成により壊された部分と南側の6号堀外周部分の調査を実施し、その結果を基に追加指定の申請を行い、平成2年4月3日付けでその範囲が指定された。

平成4年度から今年度までの調査は、史跡の買い上げがほぼ終了に近づくにあたり、今後の史跡整備に先立ち、その基礎となる資料を得るための発掘調査である。本報告では、第Ⅲ～第Ⅶ次調査分を報告する。各調査年次の概要は次の通りである。

第Ⅲ次調査と第Ⅳ次調査は、曲輪Ⅰ～Ⅲの調査のためT-1～T-38とG-1～G-15を設定した。この調査区における堀は1号～3号堀である。尚、Ⅲ次・Ⅳ次調査においては、中世の遺構面が非常に浅いと判断から、表土除去には重機を使わず、手掘りで調査を行った。この場合、調査における破壊は最小限に食い止められるものの、トレンチ調査で、しかも黒色土中での遺構捜しとなり、調査を進めるにあたりかなり困難を極めた。

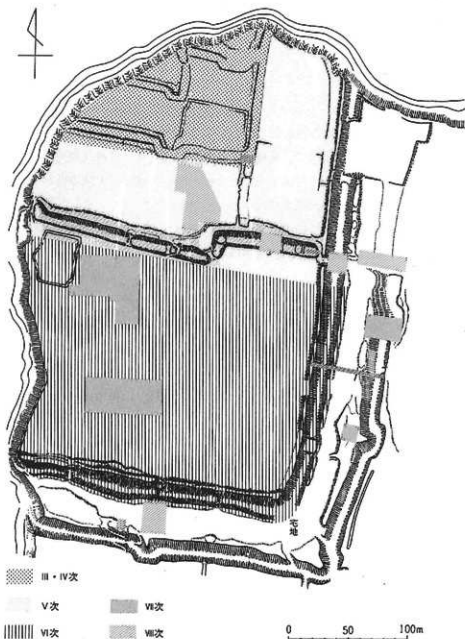
第Ⅴ次調査は、曲輪Ⅳ・Ⅴの遺構確認のためにT-4～T-45とG-5,G-7,G-9,G-11を設定した。また、城の南と北を分ける大きな堀（以下4号堀と称す）の調査のため、G-1,G-2,G-8,G-10を設定した。尚、前2回の調査よりも調査範囲が広く、そのトレンチの本数から、全部手掘りで行うことは困難と判断し、前年度までの調査結果を基に、表土下30cmまでは重機により表土剥ぎをすることとした。

第Ⅵ次調査は、5haにおよぶ平坦な曲輪Ⅵの機能を把握するためにT-50～T-101を設定した。また、内堀（以下5号堀と称す）の規模の確認とそれを渡る施設としての土橋の確認のためG-16～G-18を設定した。調査によってその目的はほぼ達成されたが、この他に予期せぬ成果が得られた。詳しくは後述するが、「烽火」墨書土器の発見である。これにより全国的に報道がなされ、古代の遺跡としても注目を浴びるようになった。

第Ⅶ次調査は、前年に確認した烽火関連遺構の確認のために昨年度のG-15を拡張し、さらに南側にG-19を設定した。また、5号堀と一番外側の堀（以下6号堀と称す）の関係を確認するためにT-102を設定し、6号堀に付属する榭台部分を確認するためにG-20とG-21を設定した。

調査次	調査期間	調査地区	調査面積㎡	調査内容	調査担当
第Ⅰ次	昭和51年12月26日～52年3月4日	曲輪Ⅵ北東	56	栗林造成に先立つ5・6号堀調査	塚・山野井
第Ⅱ次	昭和63年7月4日～63年8月3日	史跡境界部	587	追加指定に先立つ6号堀調査	宇都宮市教育委員会
第Ⅲ次	平成4年6月15日～4年11月14日	曲輪Ⅰ～Ⅲ	900	史跡整備に先立つ確認調査	＊
第Ⅳ次	平成5年9月1日～6年3月28日	曲輪Ⅰ～Ⅲ	1800	＊	＊
第Ⅴ次	平成6年9月1日～7年3月22日	曲輪Ⅳ・Ⅴ	4500	＊	＊
第Ⅵ次	平成7年9月4日～8年3月18日	曲輪Ⅵ	4500	＊	＊
第Ⅶ次	平成8年9月2日～9年3月25日	曲輪Ⅵ・Ⅶ	5000	＊	＊
第Ⅷ次	平成9年9月10日～10年2月27日	曲輪Ⅳ・Ⅵ	5500	＊	＊

第1表 調査経過表



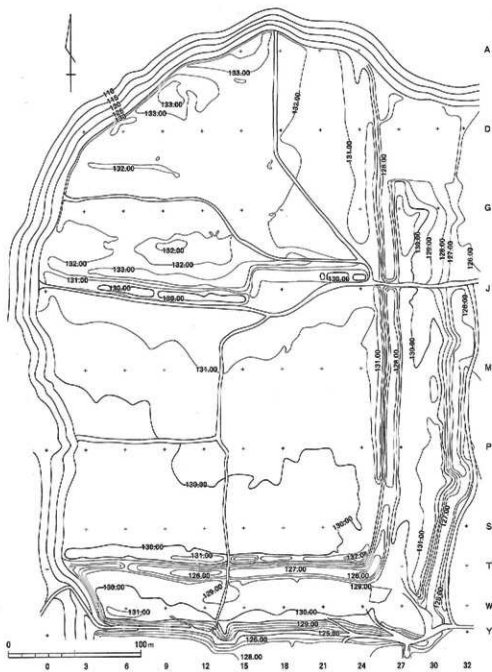
第1図 年次別調査区域図

第Ⅷ次調査は、大手口から本丸に至るルート沿いの遺構確認のために第Ⅴ次調査のG-11を拡張し、G-26～G-29を設定した。また、搦手口と考えられるⅦの曲輪の両側部分を確認するためG-23とG-24を設定した。この調査により、大手口に掛かる木橋跡の確認の他、外柵形の施設が確認できた。

以上、開発に伴う調査1回と追加指定のための調査1回、そして史跡整備に先立つ調査6回の計8回の調査が行われたわけであるが、その調査面積は全体の2割程度であり、飛山城跡の全体像を十分に把握し得たとは言えない。しかし、1～6号堀の規模や各曲輪の性格は概ね把握でき、以下その調査成果を報告する。

本城跡における基本層序は、1. 褐色土（表層）→2. 黒褐色土→3. 暗褐色土→4. 褐色土（ローム漸移層）→5. 田原ローム層→6. 暗色帯（ブラックバンド）→7. 宝木ローム層（上部）→8. 鹿沼礫石層→9. 宝木ローム層（下部）の順で、遺構の確認は3の暗褐色土中で行った。

2. 遺跡の環境



第2図 地形測量図

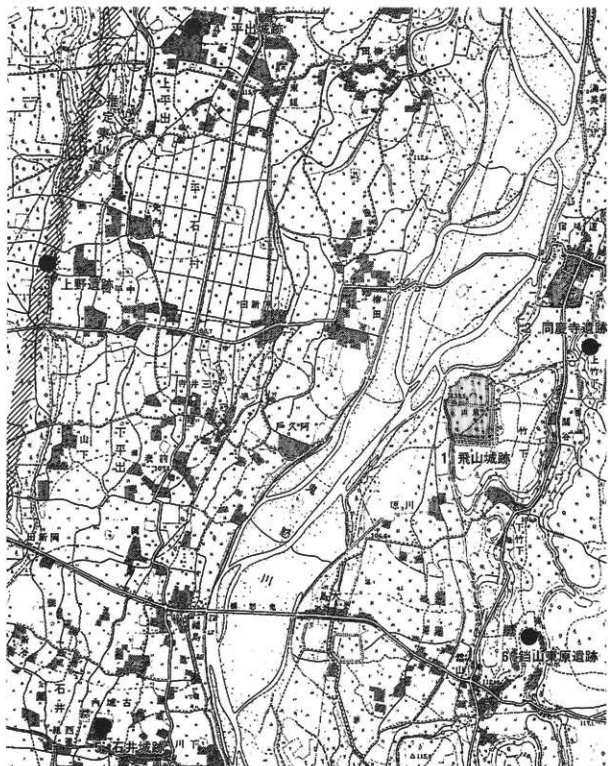
飛山城跡は、宇都宮市の中心から東方へ約7kmに所在する。本城跡は、南北に貫流する鬼怒川左岸の段丘上に立地する。城跡の標高は130～133mで、鬼怒川の河床からの比高は約20mを測る。城跡の北側と西側は鬼怒川の浸食作用により断崖をなし、まさに自然の要害である。これに対し、南側と東側は人工の二重の堀により守られる。これらにより守られた城域は、約14haと広大である。現在、ほとんどが雑木林である。

本城跡の所在する清原地区は、1954年に宇都宮市に合併する以前は芳賀郡清原村であった。城跡の東側の谷間に関谷という地名があり、そこに以前は村役場があった。また、合併後も市の出張所や公民館が置かれ、この地区の中心的位置を占めていた。近年、清原工業団地が造成され、その中に清原地区市民センターが建設されたため行政の中心は移ってしまったが、竹下浅間山古墳や同慶寺の銅鐘、芳賀氏累代の墓碑等の文化財は飛山城跡を中心とした周辺に集中する。

次に、本城跡周辺の古代及び中世の歴史的環境について概略を述べる。

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第Ⅲ次調査 (平成4年度)	発掘作業	打合せ・準備・取付 トンナリ建設・測量調査 T-1-14 T-14-21 測量取り下り 堅穴建物・掘立柱・柱礎掘削計画 1号機・2,1号機・本館取り下り 掘削・写真・測量取り上げ (掘2本、溝、堅穴建物3基、掘立柱建物数棟、土坑、栗石遺構、木組)											
	整理作業	第Ⅲ次調査木組・柱礎・掘立柱 第Ⅲ次調査一部写真 トンナリ掘削・本館実測図作成											
第Ⅳ次調査 (平成5年度)	発掘作業	打合せ・準備 取付・取付 トンナリ・写真・F建設・測量調査 測量取り下り T-11-15 G-1-1 G-1K G-4-1 1-19 T-11-11(ST4) (M) 6M (本館) (ST1-1) G-1-1 G-1-1 SB91 (本館) (ST4TSK1) 掘削・写真・測量取り上げ (堅穴建物5基、地下式坑2基、掘立柱建物数棟、土坑、栗石遺構、木組)											
	整理作業	第Ⅳ次調査測量図・測量 第Ⅳ次調査測量図・測量 第Ⅳ次調査写真 第Ⅳ次調査一部写真											
第Ⅴ次調査 (平成6年度)	発掘作業	打合せ・準備 取付・取付 トンナリ・写真・F建設・測量調査 測量取り下り G-1-1(1号機) SK1-1, 11 ST11-11 SB10 G-11 SB SB11-14 T-11-11 T-11-11 SB11-11 G-1K G-1-1 G-1K SK11 G-1 SK11 (土組) (土組) 掘削・写真・測量取り上げ (堅穴建物10基、掘立柱建物9棟、土坑、栗石遺構、土組3ヵ所)											
	整理作業	第Ⅴ次調査木組・柱礎・掘立柱 第Ⅴ次調査測量図 第Ⅴ次調査写真 第Ⅴ次調査一部写真											
第Ⅵ次調査 (平成7年度)	発掘作業	打合せ・準備 取付・地形測量 測量土組 トンナリ・写真・F建設 測量取り下り G-1, G-1 T-51 G-11(ST11, 11) ST11 SK11(ST15 (ST11-S111, 11-ST11-S11) T-11-11 T-11-11 1号機 掘削・写真・測量取り上げ (堅穴建物8軒、堅穴建物6基、掘立柱建物14棟、土坑、土組2ヵ所)											
	整理作業	第Ⅵ次調査木組・柱礎・掘立柱 第Ⅵ次調査測量図 第Ⅵ次調査写真 第Ⅵ次調査一部写真 第Ⅵ次トンナリ測量図作成											

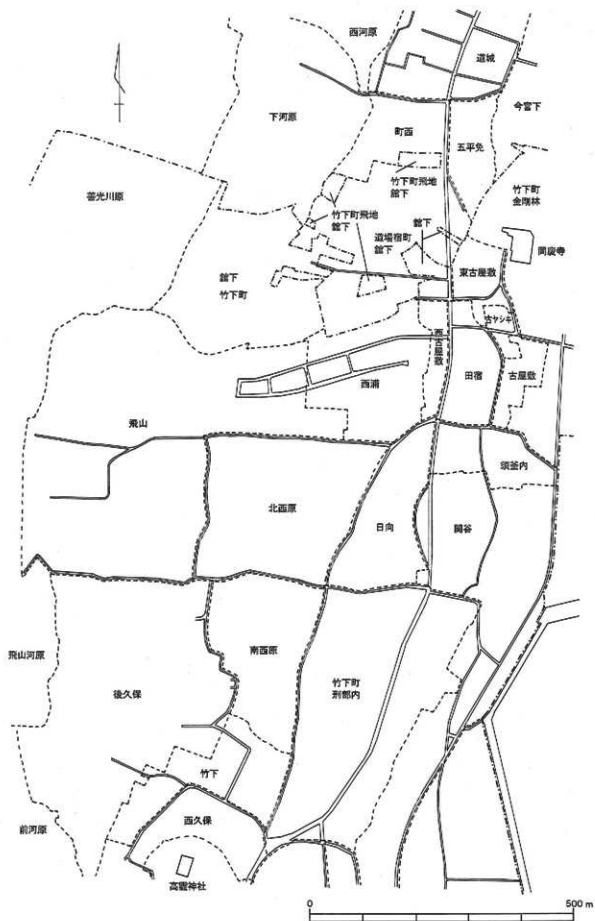
第2表 発掘調査及び整理作業行程表(1)



第3図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)

地と考えられる。また、江戸時代には板戸、道場宿、石井に河岸が設けられ、1885年の東北本線の開通以前までは、この地は物資流通の拠点であった。

芳賀氏と宇都宮氏との関係は、『宇都宮興廃記』の「清原高親カ時ニ至テ、宇都宮宗綱カ幕下ニ随ヒ」とあるように、中世の前半に宇都宮氏の傘下に入り、益子氏とともに「紀清両党」と呼ばれ、宇都宮勢力の重要な一翼を担っていた。また、両氏は姻戚関係にあり広い意味での同族とも言え、芳賀入道禪可が宇都宮氏綱の「後見」になる等、宇都宮氏の重臣という立場でもあった。しかし、乱世の世にあっては、時には敵対することもあり、その意味ではこの鬼怒川が両氏の境界線であったと言える。



第4図 周辺小字名図

II. 調査概要

1. 縄文・弥生時代

(1) 土坑

SK105 (第5・6図)

調査次 第Ⅶ次 位置 K-8 杭付近。規模と形状 直径1.6mのやや歪な円形で、深さ1.0m。遺物 実測可能な遺物は、埋土中より深鉢3点が出土。第6図1は、口径23.9cm、口縁部が無文帯で、「ノ」字状の貼付文を有し、口縁部と胴部を区画するように隆帯が貼り付けされ、その上を指頭による押捺が施される。胴部上半はRLの縄文が施され、下半は磨かれている。胎土に砂粒・小石を含み、色調は暗褐色、外面には煤が付着している。3は1と同一個体。2は、口縁部片で、波頂部に円形の穿孔とその両脇に棒状工具による刺突文と8字形の貼付文、口縁部と胴部は沈線文により区画され、胴部は縦回転のLRの縄文が施される。

SK113 (第5図)

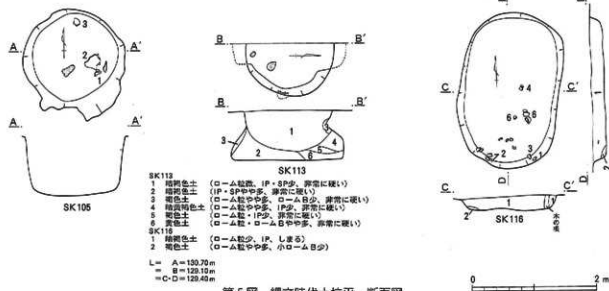
調査次 第Ⅶ次 位置 G-9 杭付近。規模と形状 直径1.4mの円形で、深さ0.8mで断面が袋状を呈する。遺物 実測可能な遺物は無。

SK116 (第5・7図)

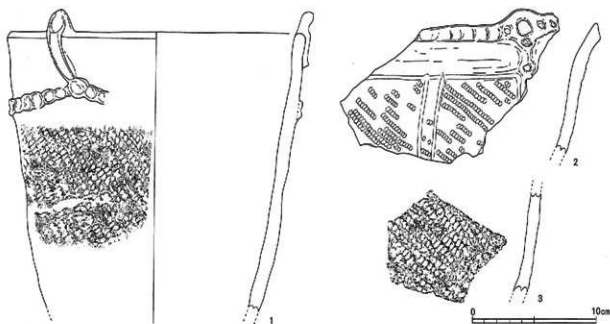
調査次 第Ⅶ次 位置 P-10 杭付近。規模と形状 長軸2.5m×短軸1.6mの楕円形を呈し、深さは20cmと浅い。遺物 1は、内傾する口縁部で、沈線による文様が施される。2～4と6は同一個体で、胴部に襍糸文を施す。6の底部は布目痕。外面に炭化物が付着する。5は外面に沈線文を施す。

(2) 遺構外出土遺物

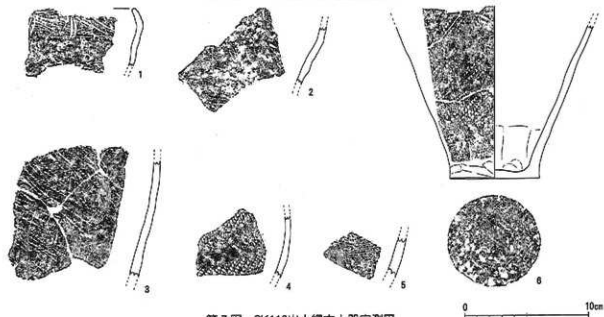
第8図1～10は口縁部破片である。1はG-15出土で、凹線状の浅い沈線により区画され、その中をRLの縄文が充填される。2はT-27出土で、渦巻き状の貼り付けを持ち、RLの縄文が施された後、2本の沈線により区画され、その中は磨り消される。3はG-13出土で、把手を有する両耳壺。地文にLRの縄文を施す。4はG-8出土で、丁寧に研磨され、その後沈線による文様が施される。5はG-19出土で、口縁部無紋帯、胴部にLRの縄文を施す。6はG-6出土で、無文で、「ノ」の字状の貼付文を有する。7はT-23出土で、内面に沈線を施し、外面は口縁部無文帯の下に三角形の区画文を有する。口縁部内面直下に円形の



第5図 縄文時代土坑平・断面図

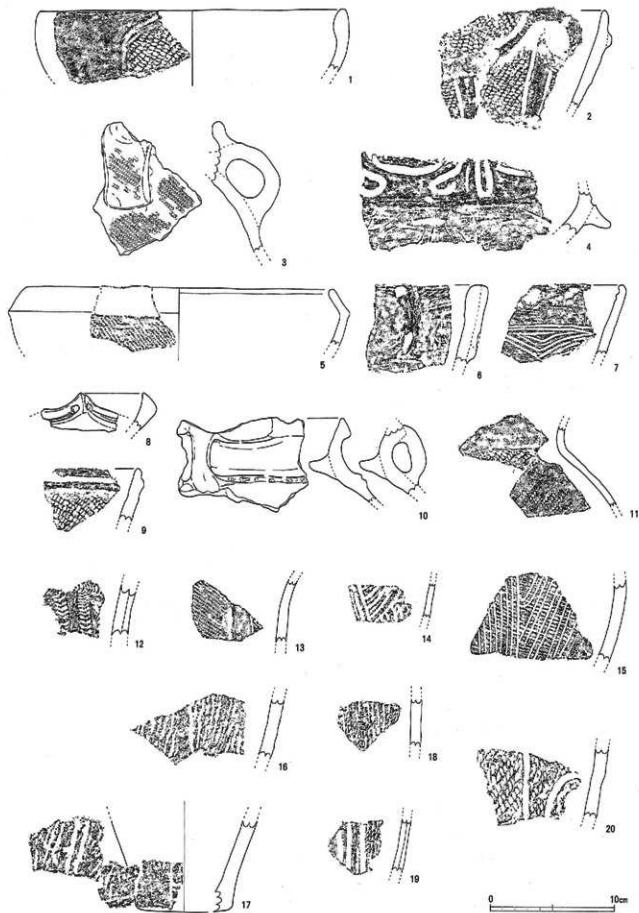


第6図 SK106出土縄文土器実測図

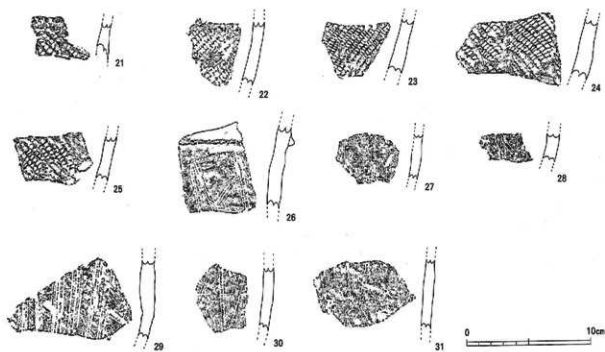


第7図 SK116出土縄文土器実測図

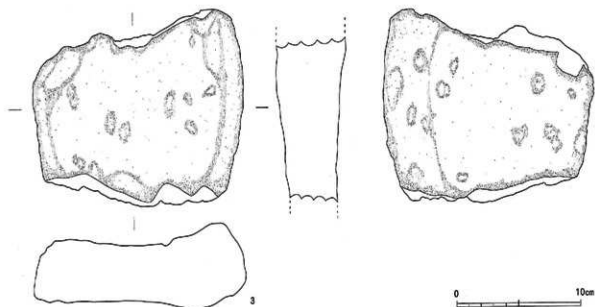
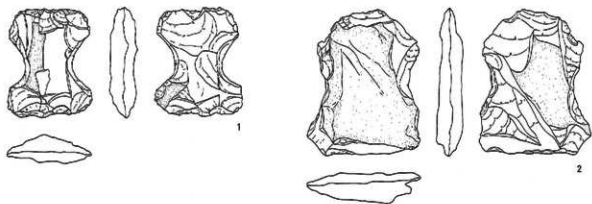
刺突を2ヶ所有す。地紋にLRの縄文。8はG-15出土で、端部に円形の刺突が施され、口唇部直下に沈線がめぐる。9はL-7杭付近出土で、口唇部外面に沈線がめぐり、胴部にRLの縄文。10はT-24出土で、橋状把手を有し、口縁部無文帯と胴部の境に刺突文により区画される。11はG-19出土の頸部片で、胴部にLRの縄文。第8図12~20、第9図21~31は胴部破片である。12はG-26出土で、半截竹管による爪形文を施す。13はG-19出土で、地文にLRの縄文、2本の隆起線により区画し、その中を擦り消す。14・15は地文に縄文、集合沈線で区画文をつくる。16~19はG-19出土の同一個体で、地文は無節のRで、2本の沈線による懸垂文が施される。20はG-15出土で、地文にLRの縄文、その後2本の沈線を施す。21、24、25はLRの縄文、22、23はRLの縄文。26~31は縦位の条線文。第10図1~3は石器である。1はG-15出土の打製石斧で、長さ8.6cm、最大幅7.0cm、最大厚2.1cm、重さ140g。2は表採の打製石斧で、長さ11.6cm、最大幅9.0cm、最大厚2.3cm、重さ280g。3はG-11出土の石皿片で、現存長13.0cm、最大幅12.7cm、最大厚5.5cm、重さ1730g。



第8图 道溝外出土縄文土器実測図(1)



第9圖 遺構外出土繩文土器実測圖(2)



第10圖 遺構外出土繩文時代石器実測圖

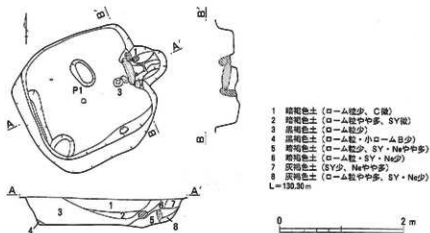
2. 古代

古代の遺構は竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡1棟が確認された。これらは、G-15を中心として南北約150m×東西約60mの範囲内で見晴らしのよい西崖寄りに立地する。

(1) 竪穴住居跡

SI01 (第11・12図)

調査次 第VI・VII次 位置 12軒の住居跡中、北東寄りに位置する。平面形 南北2.4m×東西2.2mのほぼ正方形。方位 N-65°-E 床面 ローム地山。壁 確認面から深さ45cm。壁溝 無。柱穴 P1の1本。カマド 北東壁に設置され河原石による袖石を持つ。遺物 実測可能な遺物は、須恵器環3。



第11図 SI01平・断面図



第12図 SI01出土遺物実測図

SI02 (第13・14図)

調査次 第VI次 位置 SI01の南西約12mに位置する。平面形 南北3.8m×東西4.7mのほぼ正方形。方位 N-23°-W 床面 ローム地山。壁 確認面から深さ30cm。壁溝 有。柱穴 2本。カマド 北西壁に設置され、粘土を主体として構築。遺物 実測可能な遺物は、土師器環1、須恵器環7、蓋1、高台環1、甕1、土師器甕1。備考 SD07に切られる。

SI03 (第15~17図)

調査次 第VI次・VII次 位置 K-9杭西側に位置する。平面形 南北3.7m×東西4.2mのほぼ正方形。方位 N-9°-W 床面 ローム地山。壁 確認面から深さ30cm。壁溝 有。柱穴 2本。カマド 北壁東よりに設置され、粘土を主体として構築。遺物 実測可能な遺物は、須恵器環2、蓋2、高台付環2、甕2、甕1。備考 SD08に切られる。

SI04 (第18~20図)

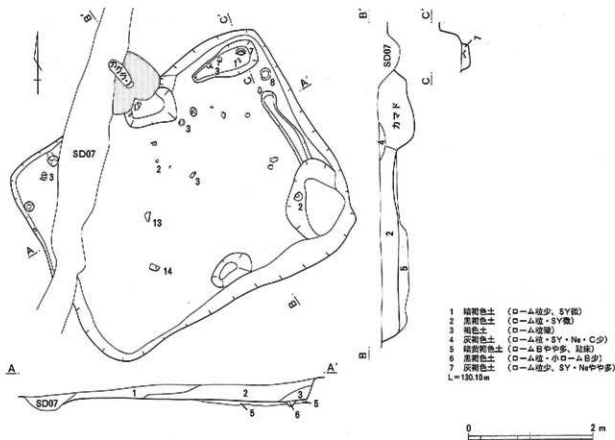
調査次 第VI次 位置 12軒の住居跡中、北東寄りに位置する。平面形 南北3.7m×東西3.5mのほぼ正方形。方位 N-12°-W 床面 四隅に床下掘り込みがあり、いずれもロームB等による貼床が施されている。壁 確認面から深さ20cm。壁溝 無。柱穴 P1・P2の2本、その他の穴は浅目である。カマド 北壁やや東よりに設置され、粘土を主体として構築。遺物 実測可能な遺物は、土師器甕2、坏1、須恵器鉢1、甕1、鉄製刀子1。1と5は北東コーナー部床直から完形で出土した。

SI05 (第21~25図)

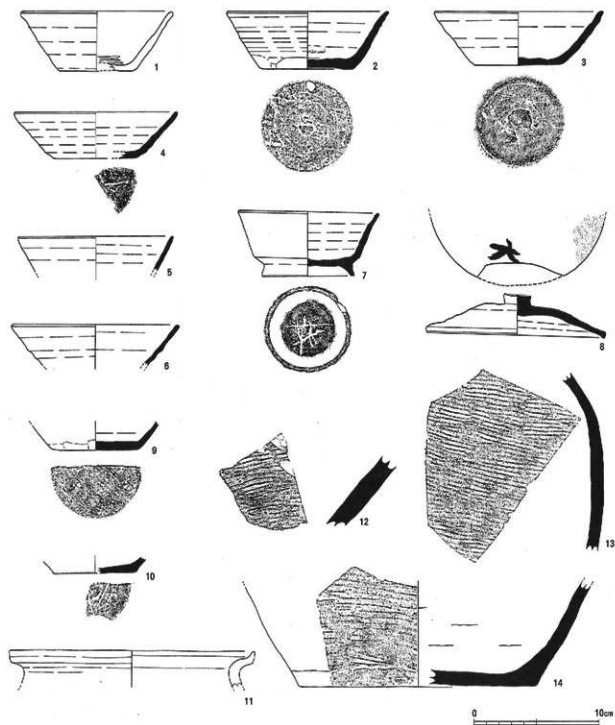
調査次 第VII次 位置 P'-6杭の西側に位置する。平面形 南北3.2m×東西4.2mのやや横長の方形。方位 N-8°-W 床面 ローム地山で固く締まる。壁 確認面から深さ35cm。壁溝 南と西に一部。柱穴 P1~P3の3本 カマド 北壁やや東よりと東壁南よりの2カ所。北壁のカマド袖は不明瞭で、東壁カマド袖には凝灰岩による袖石や支脚が確認できたことから、北カマド→東カマドの変遷が考えられる。遺物 実測可能な遺物は、土師器甕6、坏3、須恵器坏4、高台付坏1。備考 住居跡中央の埋土中から多量の炭化物が出土した。

SI06 (第26~28図)

調査次 第VII次 位置 Q-11杭の南側に位置する。平面形 南北4.4m×東西4.5mの正方形。方位 N-1°-W 床面 貼床。床面には灰土や粘土が散在する。壁 確認面から深さ60cm。壁溝 東側に一部。柱穴 P1の1本。カマド 北壁やや東よりで、粘土を主体として構築。遺物 実測可能な遺物は、土師器甕3、須恵器坏1、高台付坏1、甕1、土唾5。そのうち墨書土器が2点有り、10の高台付坏の内面には、薄くて分かり難いが、「烽家」と書かれている可能性がある。



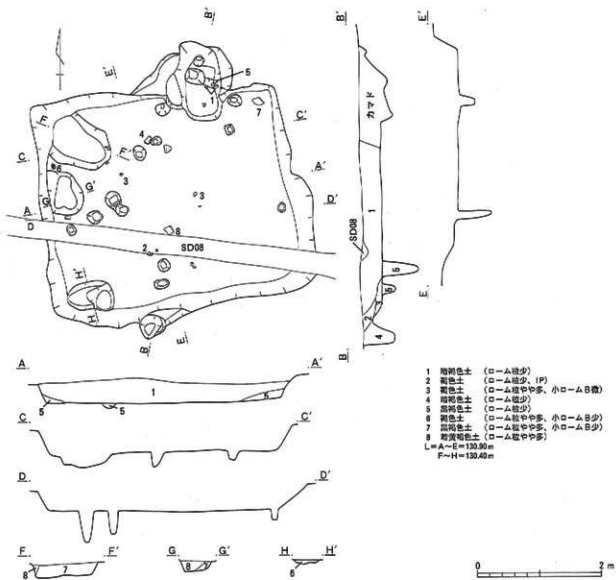
第13図 SI02平・断面図



第14図 SI02出土遺物実測図

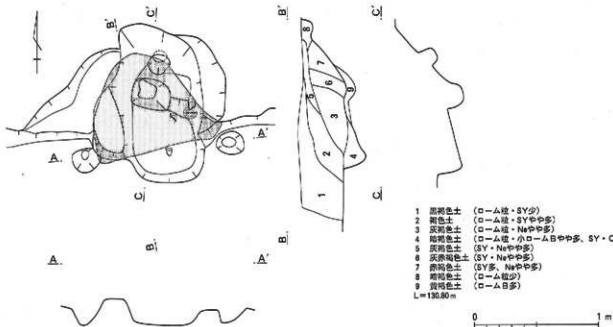
SI07 (第29~31図)

調査次 第七次 位置 L-7 杭の西側に位置する。平面形 南北3.6m×東西3.9mのほぼ正方形。
 方位 N-0°-E 床面 ローム地山。壁 確認面から深さ50cm。壁溝 無。柱穴 無。カマド 北東
 コーナーに近い位置に設置され、粘土を主体として構築。煙道が約1.5mと長い。遺物 実測可能な遺物は、
 土師器甕1、須恵器杯5、高台付杯2、甕1、土鍾1。



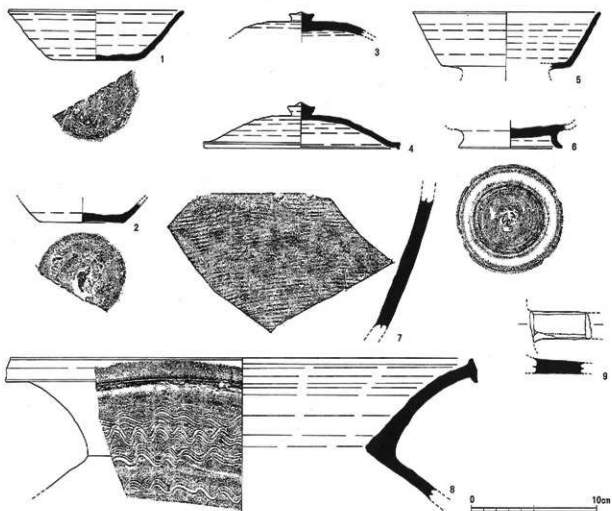
第15図 SI03平・断面図

- 1 黒褐色土 (O-A粒少)
 - 2 黄褐色土 (O-A粒少、1P)
 - 3 黄褐色土 (O-A粒やや多、小O-AB数)
 - 4 黄褐色土 (O-A粒少)
 - 5 黄褐色土 (O-A粒少)
 - 6 黄褐色土 (O-A粒やや多、小O-AB数)
 - 7 黄褐色土 (O-A粒やや多、小O-AB数)
 - 8 黄褐色土 (O-A粒やや多)
- L=A-E=130.80m
F-H=130.45m

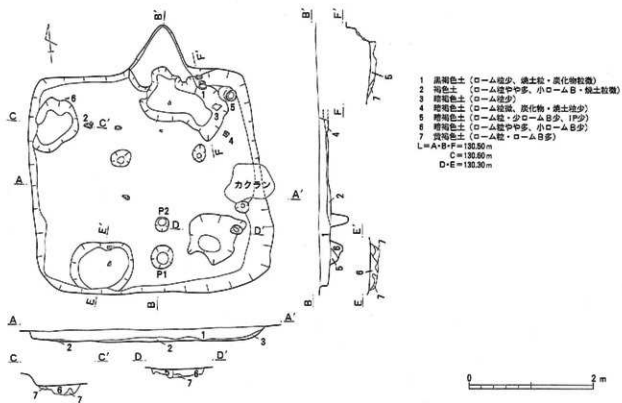


第16図 SI03カマド平・断面図

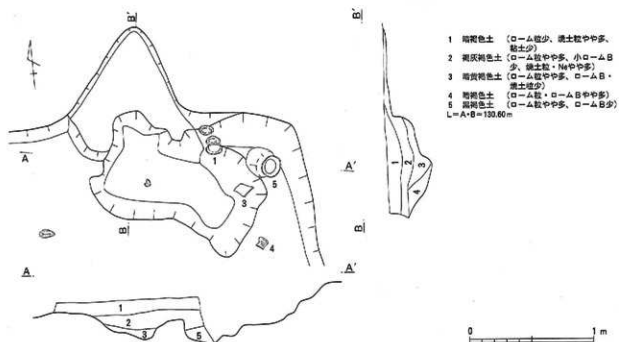
- 1 黒褐色土 (O-A粒・SY少)
 - 2 黄褐色土 (O-A粒・SYやや多)
 - 3 灰褐色土 (O-A粒・NaPP多)
 - 4 黄褐色土 (O-A粒・小O-ABやや多、SY・C)
 - 5 灰褐色土 (SY・NaPP多)
 - 6 灰褐色土 (SY・NaPP多)
 - 7 黄褐色土 (SY多、NaPP多)
 - 8 黄褐色土 (O-A粒少)
 - 9 黄褐色土 (O-AB多)
- L=136.80m



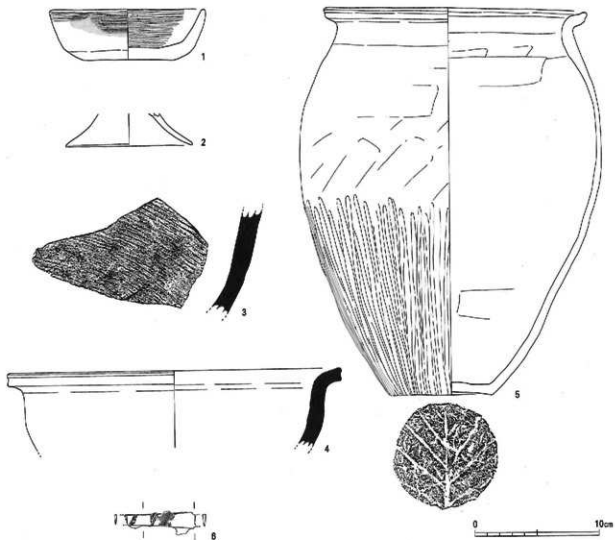
第17図 SI03出土遺物実測図



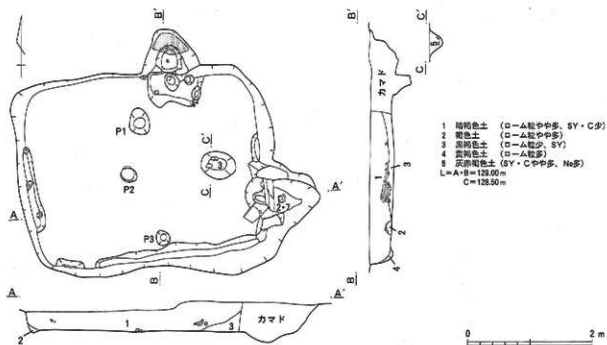
第18図 SI04平・断面図



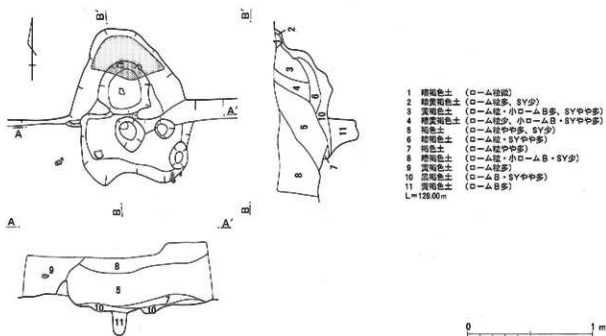
第19図 SI04カマド平・断面図



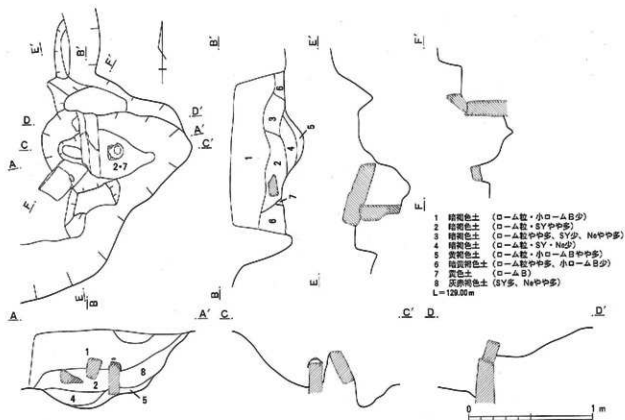
第20図 SI04出土遺物実測図



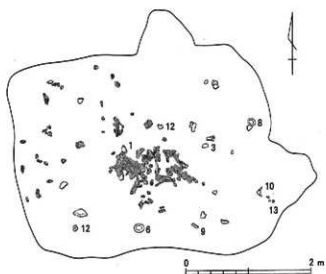
第21図 SI05平・断面図



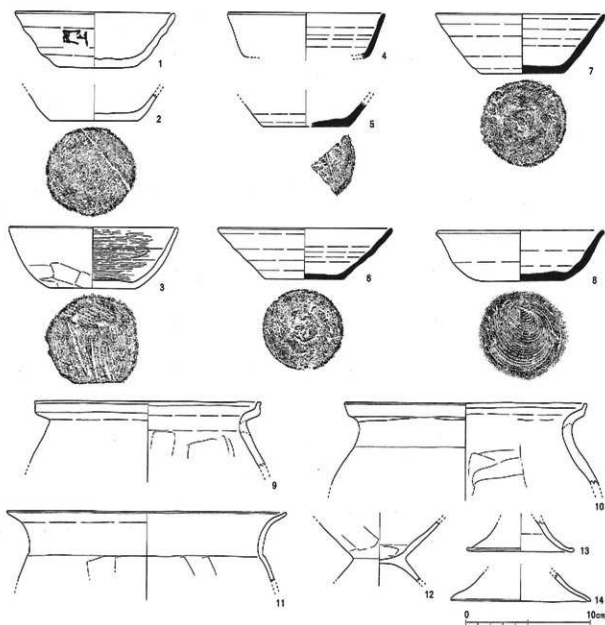
第22図 SI05北カマド平・断面図



第23図 SI05東力マド平・断面図



第24図 SI05遺物平面図



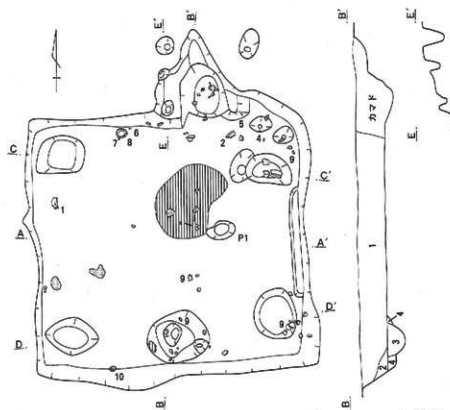
第25図 S105出土遺物実測図

S108 (第32~34図)

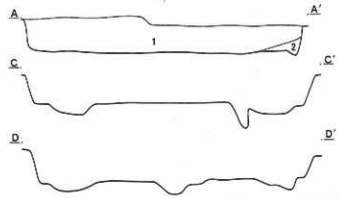
調査次 第Ⅶ次 位置 P-7杭の西側に位置する。平面形 南北2.8m×東西2.9mの正方形の西側角が掘り残され、L字形を呈する。方位 N-0°-E 床面 貼床。壁 確認面から深さ45cm。壁溝 無。柱穴 P1の1本。カマド 東壁やや南より。カマド中央に河原石の支脚あり。遺物 実測可能な遺物は、土師器甕1、須恵器坏3。

S109 (第35~37図)

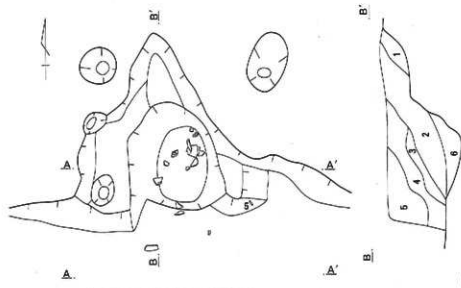
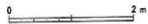
調査次 第Ⅶ次 位置 Q-10杭の西側に位置する。平面形 南北3.5m×東西3.5mの正方形。方位 N-8°-W 床面 貼床。壁 確認面から深さ50cm。壁溝 無。柱穴 7本の柱穴が確認できたが何れも浅い。カマド 北壁に設置される。遺物 実測可能な遺物は、須恵器坏1、高台付坏1、鉄製鎌1。



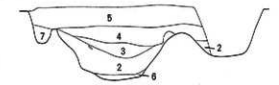
- 1 褐色土 (ロ-ム粒・SV少、C)
- 2 黒褐色土 (ロ-ム粒や中多)
- 3 灰褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ム目・SV少、Naや中多)
- 4 黄褐色土 (ロ-ム粒や中多、ロ-ムB少)
- L=129.30m



第26図 SI06平・断面図

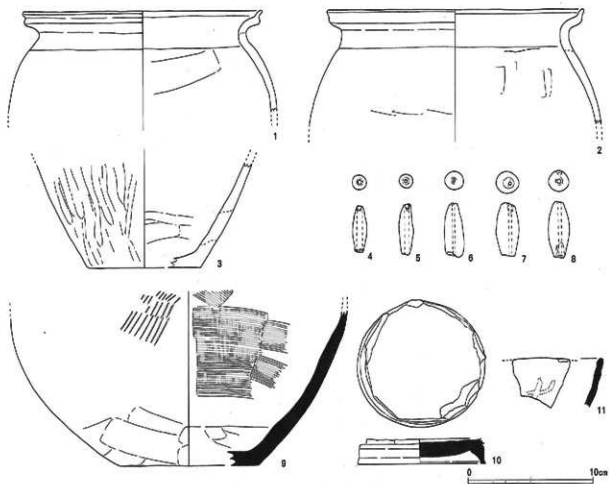


- 1 緑灰褐色土 (SV少・C少、Naや中多)
- 2 赤灰褐色土 (SV・Na多)
- 3 灰褐色土 (SV少、Na多)
- 4 暗褐色土 (小ロ-ムB・SV・C少)
- 5 暗褐色土 (SV少)
- 6 黄褐色土 (ロ-ム粒や中多、ロ-ムB少)
- 7 暗褐色土 (ロ-ム粒)
- L=129.30m

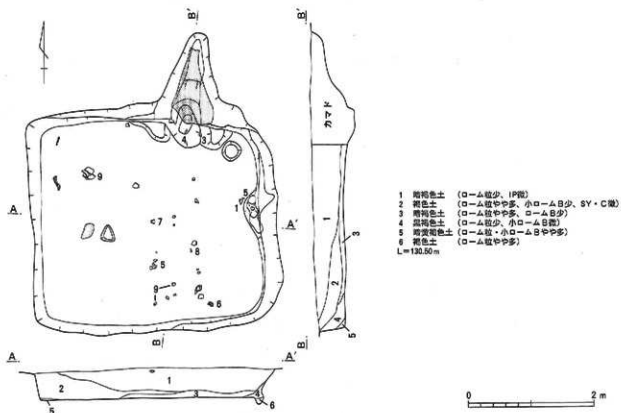


第27図 SI08カマド平・断面図



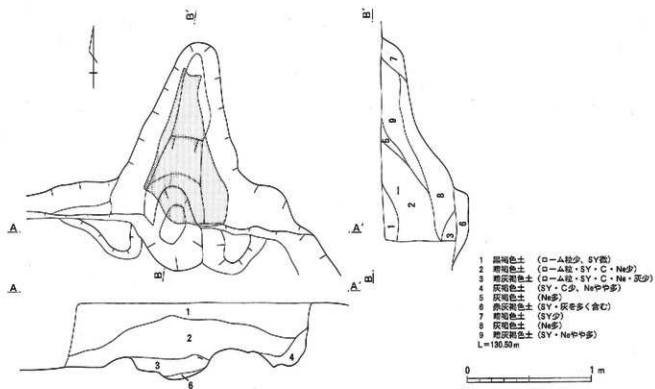


第28図 SI06出土遺物実測図

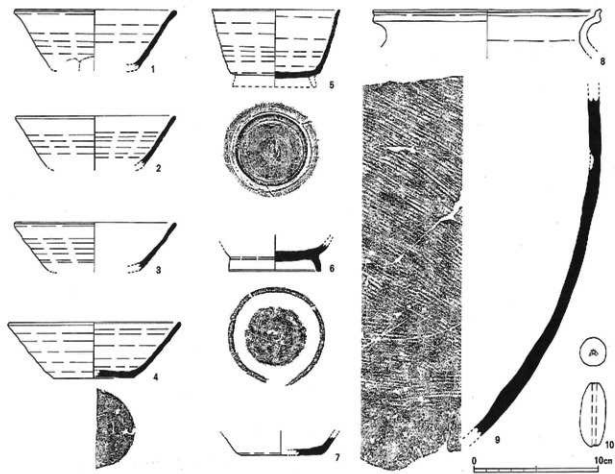


第29図 SI07平・断面図

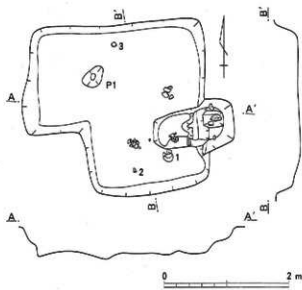
- 1 暗褐色土 (□-△磁少、IP層)
 - 2 褐色土 (□-△磁中や多、小□-△磁少、SY・C層)
 - 3 暗褐色土 (□-△磁中や多、□-△磁少)
 - 4 暗褐色土 (□-△磁少、小□-△磁層)
 - 5 厚黄褐色土 (□-△磁・小□-△磁中や多)
 - 6 褐色土 (□-△磁中や多)
- L=130.50m



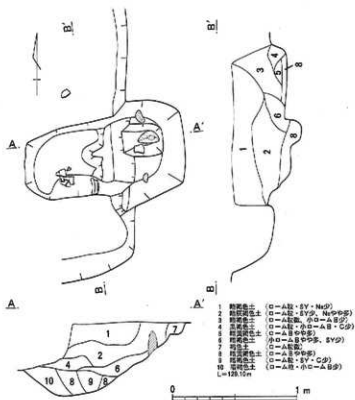
第30図 SI07カマド平・断面図



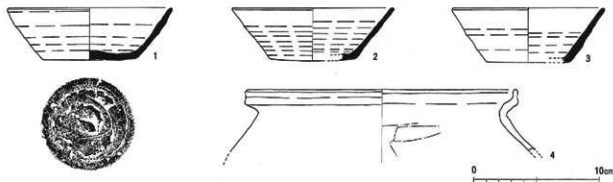
第31図 SI07出土遺物実測図



第32図 SI08平・断面図



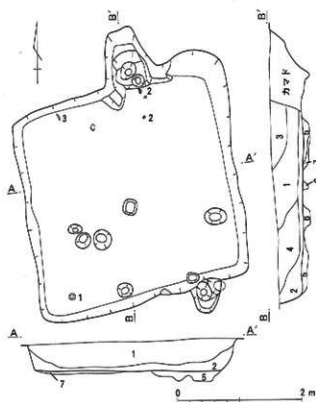
第33図 SI08カマド平・断面図



第34図 SI08出土遺物実測図

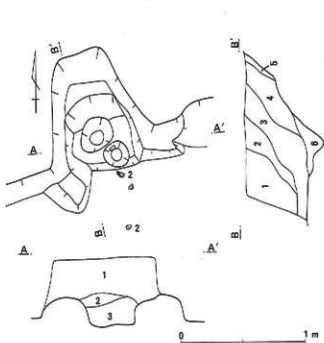
SI10 (第38~41図)

調査次 第VII次 位置 K-5 杭の北側に位置する。平面形 南北6.2m×東西7.2mのやや横長の方形。方位 N-2°-E 床面 貼床。壁 確認面から深さ40cm。壁溝 東、北、西の一部にある。柱穴 主柱穴4本 (P1~P4) とカマドの両脇に2本 (P5・P6)、この他に小柱穴が多数確認できた。カマド 東壁やや南よりに設置されている。遺物 土師器甕8、坏1、須恵器坏14、高台付坏4、蓋2、高坏1、紡錘車1、鉄製刀子2。備考 南東コーナーで多量の粘土の塊を確認。SD08、ST35に切られる。



- 1 暗褐色土 (ローム粒やや多、ロームB微)
 - 2 暗褐色土 (ローム粒少)
 - 3 暗褐色土 (ローム粒微)
 - 4 暗褐色土 (ローム粒やや多、ロームB少)
 - 5 暗褐色土 (ローム粒少、ロームBやや多、硬質)
 - 6 暗褐色土 (ローム粒、ロームBやや多、硬質)
 - 7 黄褐色土 (ロームB多)
- L=129.30m

第35図 SI09平・断面図

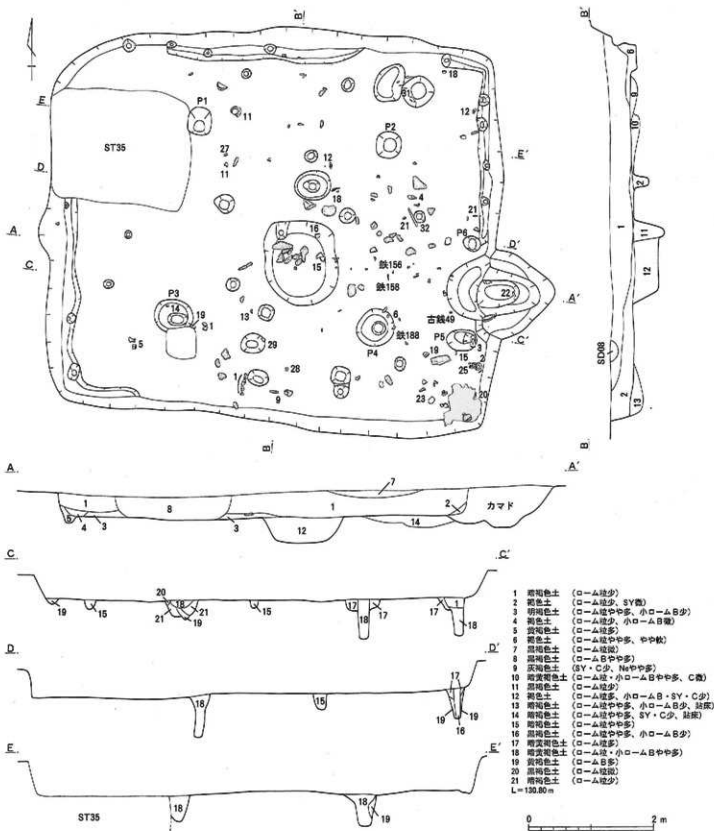


- 1 暗褐色土 (ローム粒・SY少)
 - 2 暗褐色土 (ローム粒微、Ne少)
 - 3 灰褐色土 (SY少、Ne多)
 - 4 赤褐色土 (SY・Ne多)
 - 5 暗褐色土 (ローム粒微)
 - 6 暗褐色土 (ローム粒・SY・Ne少)
- L=129.30m

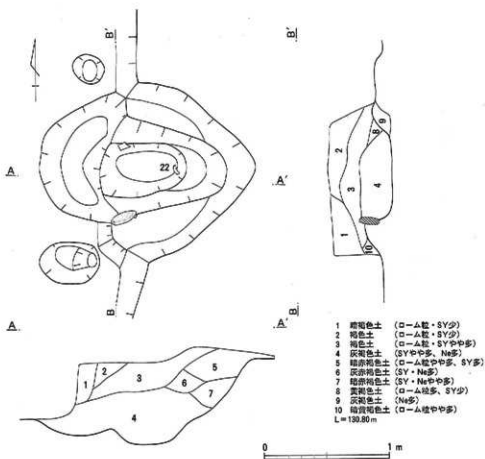
第36図 SI09カマド平・断面図



第37図 SI09出土遺物実測図



第38図 SI10平・断面図



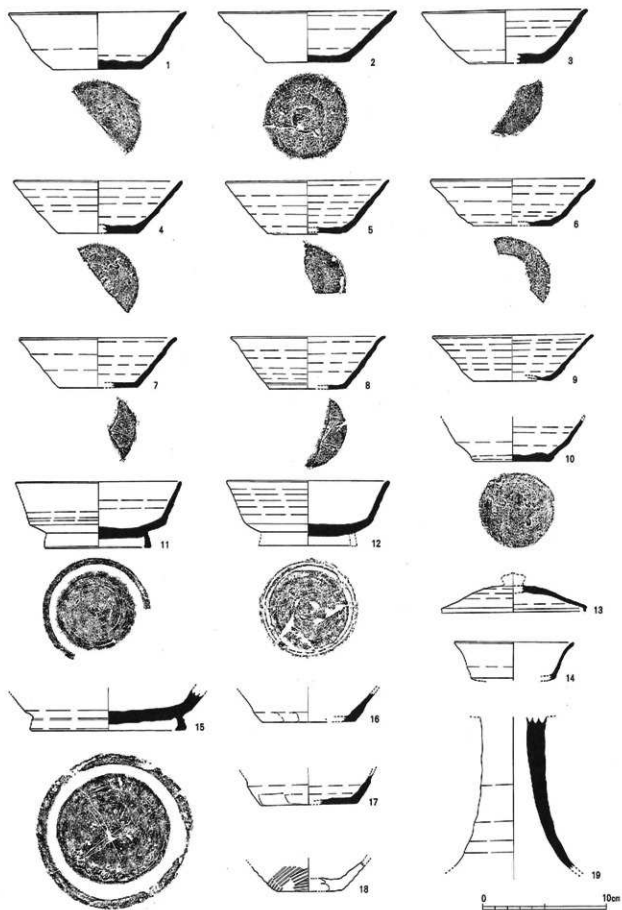
第39図 SI10カマド平・断面図

SI18 (第42~45図)

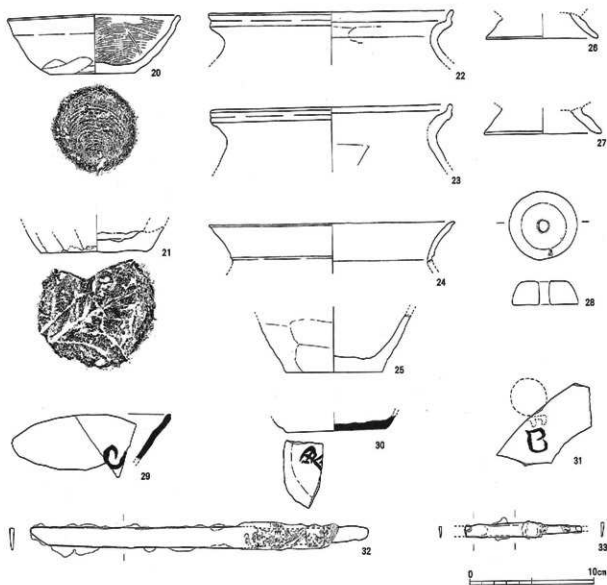
調査次 第VI次 位置 12軒の住居跡中ほぼ中央に位置する。平面形 南北7.5m×東西4.6mの長方形。方位 N-95°-E 床面 南側2/3は非常に硬くしまったローム地山で、残り北側1/3は貼床(5層)である。壁 確認面から深さ10cmと非常に浅く、ローム地山を若干掘り込んだ程度である。壁溝 南東部隅と北東部隅の一部を除いて廻る。柱穴 10本、うち、住居跡内にはP1の1本があるのみで、他は壁際に等間隔に位置する。長軸方向の柱間は9尺で、短軸方向の柱間は8尺である。尚、南側の柱穴は棟持部分を確認できず、両脇の2本は南壁から離れた場所に位置する。カマド 東壁やや南より。両側の袖石として砂質凝灰岩を使用。遺物 実測可能な遺物は、土師器甕5、坏1、須恵器环8、蓋2、盤1、紡錘車1。なお、住居跡中央床面から「烽火」墨書土器が出土した(第44図)。

SI19 (第46~48図)

調査次 第VI次 位置 SI18の西隣に位置する。平面形 南北5.0m×東西5.6mのほぼ正方形。方位 N-16°-W 床面 中央部の一部を除いて貼床である。壁 確認面から深さ40cm。壁溝 東と南と西に一部あり。柱穴 6本、拡張の可能性がある、P1, P2, P5が第1期目の柱穴で、P3, P4, P6が第2期目の柱穴である。1期と2期の柱配置からすると、全体的に東と南に拡張したものと考えられる。尚、P5, P6は出入口に関係するピットと考えられる。カマド 北壁やや東より。両側の袖石として砂質凝灰岩を使用。遺物 実測可能な遺物は、土師器甕1、須恵器环3、高台付坏1、蓋1、土鍋5、鉄製刀子1。



第40图 SI10出土物実測図(1)



第41図 S10出土遺物実測図(2)

(2) 掘立柱建物跡

SB39 (第49・50図)

調査次 第VII次 位置 K-7杭の東側に位置する。平面形 南北4.8m×東西3.6mのほぼ長方形。
間数 2間×2間。方位 N-18°-E 遺物 灰釉陶器蓋1。備考 ST31、SK107に切られる。

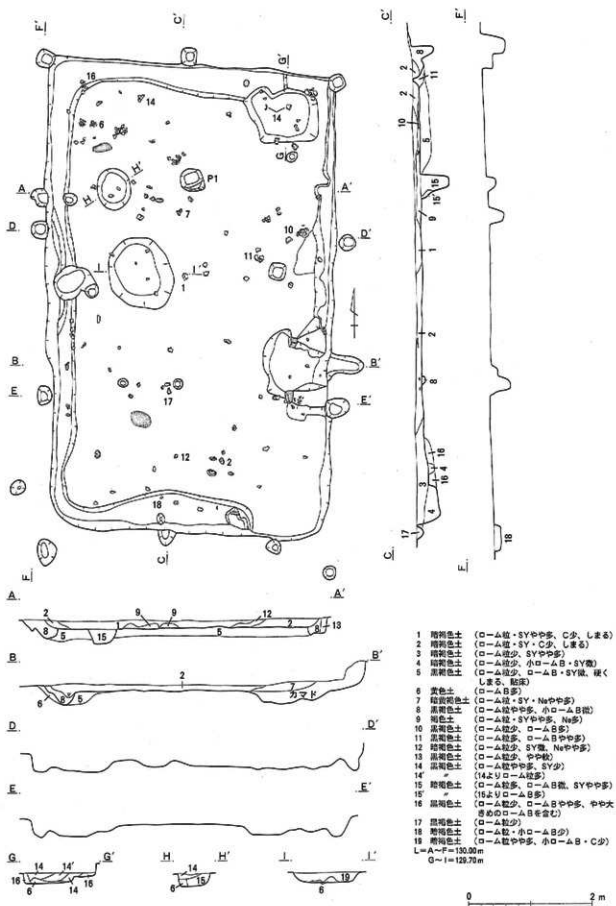
(3) 土坑

SK92 (第51・149図)

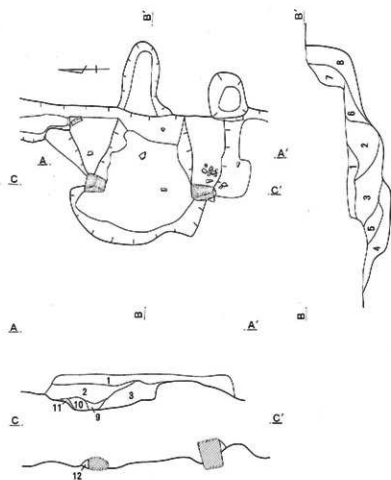
調査次 第VII次 位置 K-7杭の東側に位置する。平面形 長軸1.06m、短軸0.9m、深さ0.7mの方形。
方位 N-18°-E 遺物 須恵器高坏1、高台付坏1。

(4) 表採

古代の表採遺物は、堅穴住居跡の確認された周辺に限られ、器種も殆ど同じ内容であるが、第53図27のような丸底の皿も1点出土している。



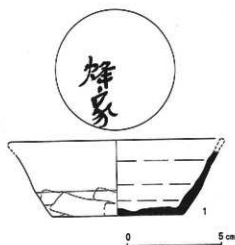
第42図 SI18平・断面図



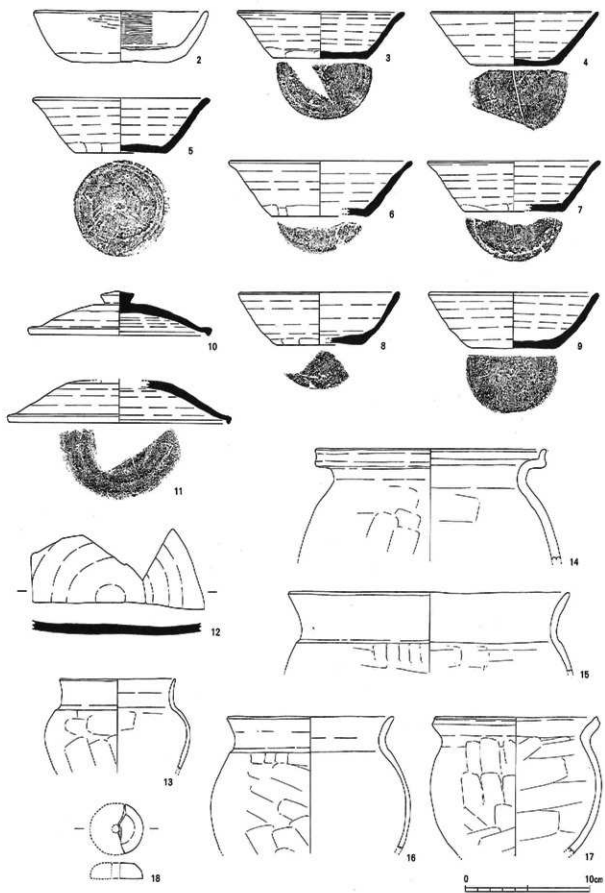
- 1 褐色土 (ロ-A粒・SY少)
 - 2 赤灰褐色土 (ロ-A粒多、SY中や多、Ne少、灰多)
 - 3 赤灰褐色土 (2よりSY、ロ-A少)
 - 4 黄褐色土 (ロ-A多)
 - 5 暗赤灰褐色土 (ロ-A粒・SY中や多)
 - 6 赤褐色土 (SY多)
 - 7 灰褐色土 (ロ-A粒・灰・SY中や多)
 - 8 暗褐色土 (灰少、SY中や多)
 - 9 黄褐色土 (ロ-A粒多、灰や多)
 - 10 暗赤褐色土 (ロ-A粒や多、SY少、Ne)
 - 11 暗灰褐色土 (ロ-A粒や多、SY少)
 - 12 粘土
- L=A・B=130.00m
C=129.00m



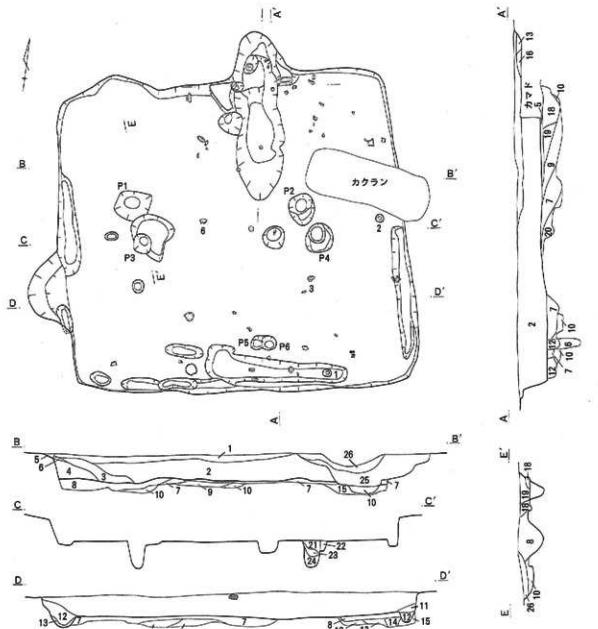
第43図 SI18カマド平・断面図



第44図 「峰家」墨器土器実測図



第45图 SI18出土遺物実測図

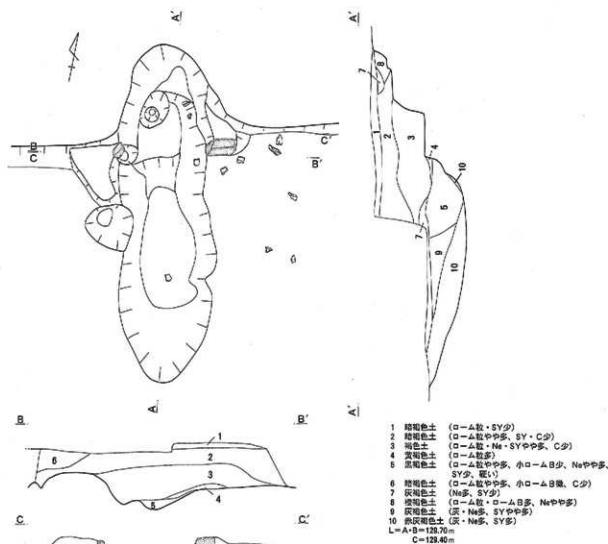


- | | | |
|------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色土 (ローム粒多, C粒・SV粒多) | 12 黒褐色土 (ローム粒少, 小ロームB粒, C粒
やや多) | 21 暗褐色土 (ローム粒やや多) |
| 2 褐色土 (ローム粒少, C粒・SV粒少) | 13 暗褐色土 (ローム粒多, C粒・SV粒) | 22 暗褐色土 (ローム粒やや多, ロームB粒 (粒多)) |
| 3 暗褐色土 (ローム粒少, C粒・SV粒少) | 14 黒褐色土 (ローム粒やや多, 小ロームBやや多,
C粒) | 23 褐色土 (ローム粒やや多, 小ロームBやや多) |
| 4 暗褐色土 (ローム粒少, 量が少) | 15 黄褐色土 (ローム粒やや多) | 24 黄褐色土 (ローム粒多) |
| 5 褐色土 (ローム粒少) | 16 褐色土 (ローム粒やや多, C粒・SV粒少) | 25 黄褐色土 (ローム粒多) |
| 6 暗褐色土 (ローム粒多) | 17 灰褐色土 (Ns多, SV少) | 26 褐色土 (ローム粒少) |
| 7 暗褐色土 (ローム粒多, C粒, SV粒 (粒多)) | 18 暗褐色土 (ローム粒多, 小ロームBやや多) | |
| 8 暗褐色土 (ローム粒やや多, 小ロームB少) | 19 褐色土 (ローム粒やや多, 小ロームB粒) | |
| 9 暗褐色土 (ローム粒多) | 20 暗褐色土 (ローム粒やや多) | |
| 10 黄褐色土 (ローム粒多, ロームB多) | | |
| 11 暗褐色土 (ローム粒多, C粒, SV粒) | | |
- L=A-D=126.70m
E=129.30m

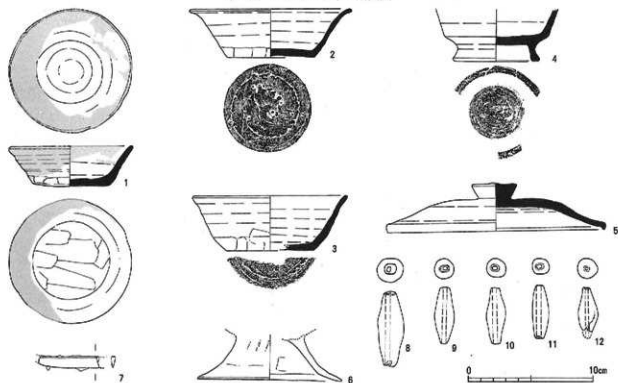
第46図 S119平・断面図

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	形成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	杯(S)	13.8	4.5	7.4	平底で、ほぼ直線的に口縁部に至る。	ロクロ成形後体部下端手持ちヘラケズリ、底部は2方向の手持ちヘラケズリ。	灰色	砂粒 雲母	良好	カマド	口縁部一部欠損
2	杯(S)	(13.0)	4.6	7.1	平底で、やや外反気味に口縁部に至る。	ロクロ成形後体部下端手持ちヘラケズリ。底部は静止承り後2方向の手持ちヘラケズリ。	暗灰色	白色砂粒多	良好	埋土中層	2/3残
3	杯(S)	13.1	4.5	6.9	平底で、ほぼ直線的に口縁部に至る。	ロクロ成形後底縁ヘラ切り。	灰色	白色砂粒	良好	床直	壳形

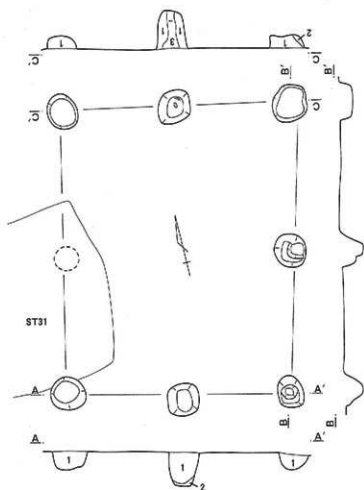
第4表 S101遺物観察表



第47図 SI19カマド平・断面図



第48図 SI19出土遺物実測図



- 1 黒褐色土 (ローム粒・小ローム多、硬質)
 2 黒褐色土 (小ローム多、硬質)
 3 褐色土 (ローム粒・SYPP多)
 L=130.70m

第49図 SB39平・断面図



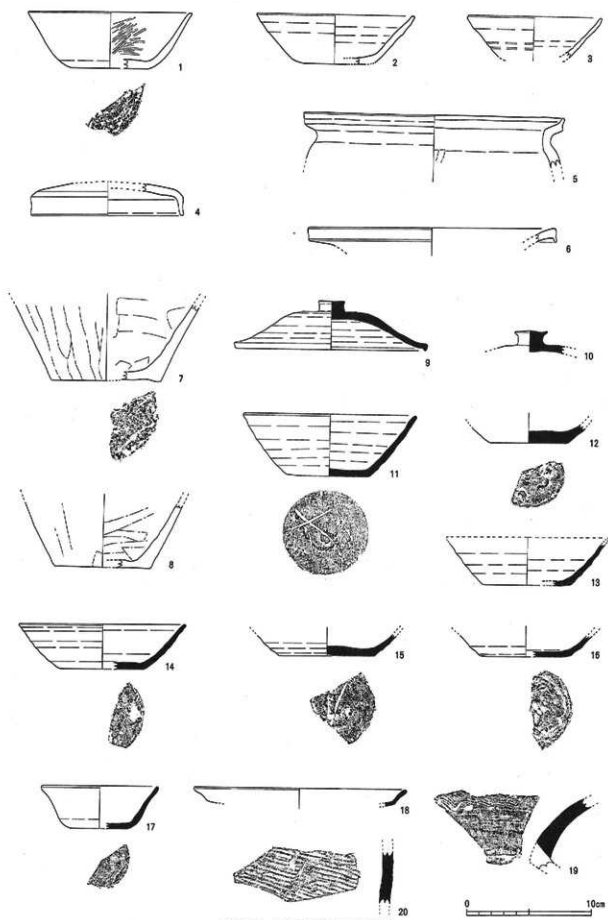
第50図 SB39出土遺物実測図



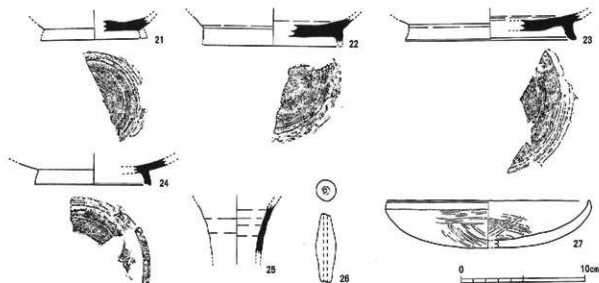
第51図 SK92出土遺物実測図

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	杯(H)	(13.2)	4.8	(6.8)	平底で、外側斜めに立ち上がり、口縁部でやや外反する。	ロクロ成形、内面ヘラミガキ。底部外面は回転糸切り後ナガ。	淡褐色 暗灰色	砂粒 卵石 赤色コリ粒	良好	カマド	1/5 残
2	杯(S)	12.9	4.7	7.3	平底で、ほぼ直線的に口縁部に至る。	ロクロ成形後底部下縁手持ちヘラケズリ。底部は静止糸きり後二方向の手持ちヘラケズリ。	灰褐色	白色砂粒 雲母	良好	埋土中層	2/3 残
3	杯(S)	13.5	4.5	6.4	平底で、やや内側斜めに口縁部に至る。	ロクロ成形後回転ヘラ切り。	暗灰色	白色砂粒 小石多	良好	床直	2/3 残
4	杯(S)	(13.0)	3.7	(6.4)	平底で、やや内側斜めに口縁部に至る。	ロクロ成形後回転ヘラ切り。	暗灰色	白色砂粒 小石多	良好	埋土中層	1/5 残
5	杯(S)	(12.4)			直線的に口縁部に至る。	ロクロ成形。	灰色	白色砂粒	良好	埋土下層	破片
6	杯(S)	(13.4)			直線的に口縁部に至る。	ロクロ成形。	灰色 灰褐色	白色砂粒	良好	埋土下層	破片
7	高台付杯(S)	(13.1)	7.4	5.3	高台を付し、体部は直線的に立ち上がり口縁部に至る。	ロクロ成形。底部外面にヘラ記号「井」。	灰色	砂粒 小石 白色砂粒	良好	埋土下層	2/3 残

第5表 SI02遺物観察表(1)



第52图 古代表探遺物実測図(1)



第53図 古代表採遺物実測図(2)

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
8	蓋(S)	(13.0)	3.7		笠鉢状のつまみを付す。	ロクロ成形。	灰色	砂粒	良好	埋土下層	内面に(大)の墨書
9	杯(S)			(7.2)	平底。	ロクロ成形後底部下端手持ちヘラケズリ。底部外面は一方の手持ちヘラケズリ。	灰色	白色砂粒	良好	埋土下層	底部破片
10	杯(S)			(7.0)	平底。	ロクロ成形。底部外面は回転糸切り後ヘラで記号。	灰褐色	白色砂粒	良好	埋土下層	底部破片
11	甕(H)	(19.6)			口唇部をつまみ上げる。	口縁部内外面ヨコナデ。	褐色	雲母多	良好	埋土中	破片
12	甕(S)					内面ナデ。外面平行タタキ。内面に自然釉。	暗灰色	雲母やや多	良好	埋土中	破片
13	甕(S)					内面丁寧なナデ。外面平行タタキ。	灰色	微白色砂粒	良好	埋土中層	胴部破片
14	甕(S)			(19.2)		内面ナデ。外面平行タタキ。	黒灰色	微白色粒多	良好	埋土中層	底部破片

第6表 SI02遺物観察表(2)

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	杯(S)	(14.0)	4.0	6.8	平底で、外縁収縮に立ち上がる。	ロクロ成形。底部外面は回転糸切り後ナデ。	灰色	白色砂粒 小石多	良好	カマド	1/3残
2	杯(S)			6.6	平底。	ロクロ成形後回転ヘラケズリ。	灰色	砂粒小石	良好	埋土中層	1/4残
3	蓋(S)				擬笠鉢状のつまみを付す。	外面底部上位回転ヘラケズリ。	灰色	白色砂粒	良好	埋土中層	1/4残
4	蓋(S)	15.5	4.0		擬笠鉢状のつまみを付す。	外面底部上位回転ヘラケズリ。	青灰色	白色砂粒 小石多	良好	床直	2/3残
5	高台付杯(S)	17.4			直線的に口縁部に至る。	ロクロ成形。	青灰色	白色砂粒 小石	良好	カマド	1/6残
6	高台付杯(S)			8.5	「ハ」字に開く高台を付す。	ロクロ成形。回転ヘラ切り後、高台を貼り付ける。	青灰色	白色砂粒 小石	良好	埋土中層	1/3残
7	甕(S)					胴部外面タタキ。	灰色	白色砂粒 小石	良好	床直	破片
8	甕(S)	37.0			胴部は「く」字に曲出し、外反し口唇部に至る。口唇部を上下につまみ出す。	口縁部外面に4条の縦状文を施す。内外面に自然釉が付着。	灰色	白色砂粒 小石	良好	床直	破片
9	甕(S)						灰色	白色砂粒	良好	埋土中	破片

第7表 SI03遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	坏(H)	12.5	4.1	7.1	平底で、体部が直線的に立ち上がる。	ロクロ成形。内面及び口縁部外縁へラミガキ。底部外面は回転へラ切り後へラケズリ。	内面黒色 外面淡褐色	砂粒 赤色コハ粒	良好	カマド脇	口縁部一部欠損 内面黒色処理
2	台付甕(H)			(10.2)	台部が「ハ」字状に開く。	内外面共にヨコナデ。	暗赤褐色	微砂粒	良好	埋土上層	破片
3	甕(S)					外歪平打タケキ。	灰色	白色砂粒	良好	埋土上層	破片
4	鉢(S)	(26.8)			内湾する体部から口縁部は大きく外反する。	口縁部端部は面取り。	灰色	白色砂粒	良好	埋土上層	1/8 残
5	甕(H)	21.3	31.2	8.3	長胴で、胴部は大径を上半に持つ。口唇部がつまみ出され、外面に凹溝がめぐる。	胴部上半ナデ。下半へラミガキ。底部木炭灰が残る。	暗褐色	白色砂粒 赤色コハ粒 雲母	良好	床直	完形
6	鉄製刀	最大幅 1.3			阿瓦	一部繊維状のものが付着。				埋土中層	切先と室部分欠損

第8表 SI04遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	坏(H)	12.5	4.5	6.1	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。	内面黒色 外面淡褐色	砂粒 赤色コハ粒	良好	埋土中層	「門上」の墨書
2	坏(H)			7.0	平底。	ロクロ成形。底部は回転糸切り後外周のみへラケズリ。	淡褐色	砂粒 赤色コハ粒	良好	カマド	1/3 残
3	坏(H)	13.4	4.9	6.8	平底で、内湾如くに口縁部に至る。	ロクロ成形。体部は外面下半へラケズリ。内面へラミガキ。底部は二方向へのへラケズリ。	内面黒色 外面褐色	砂粒 輝石	良好	埋土下層	1/2 残 内面黒色処理
4	高台付坏(S)	(12.4)			直線的に口縁部に至る。	ロクロ成形。底部は回転へラ切り。	灰褐色	白色砂粒 小石	良好	埋土上層	1/8 残
5	坏(S)			(6.9)	平底。	ロクロ成形。底部は回転へラ切り。へラ記号有り。	青灰色	白色砂粒 小石	良好	カマド	破片
6	坏(S)	13.8	4.1	6.3	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。底部は回転へラ切り。	暗灰色	白色砂粒 小石多	良好	床直	完形
7	坏(S)	13.6	4.7	6.9	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。底部は回転へラ切り。	暗灰色	白色砂粒 小石多	良好	カマド	4/5 残 支脚部分に使用
8	坏(S)	13.4	4.0	6.8	平底で、内湾如くに口縁部に至る。	ロクロ成形。底部は回転糸切り。	灰白色	砂粒 小石 輝石	良好	床直	ほぼ完形 内外面露付着灯明皿か
9	甕(H)	(18.0)			口唇部がつまみ出され外面に凹溝がめぐる。	口縁部ヨコナデ。胴部内面へラナデ。	淡褐色	砂粒 雲母	良好	床直	破片 内外面に露付着
10	甕(H)	(19.4)			口唇部がつまみ出され直立する。	口縁部ヨコナデ。胴部内面へラナデ。	褐色	砂粒 雲母	良好	カマド	破片 外面露付着
11	甕(H)	(22.4)			口縁部が「コ」字状を呈する。	胴部外面上半横位のへラケズリ。	赤褐色	砂粒	良好	埋土中層	破片
12	台坏甕(H)					胴部外面下半、ナナメのへラケズリ。	暗赤褐色	砂粒	良好	埋土中層	破片
13	台坏甕(H)			(8.4)	台部は「ハ」字状に開く。	ヨコナデ。	赤褐色	砂粒	良好	埋土上層	破片
14	台坏甕(H)			(11.2)	台部は「ハ」字状に開く。	ヨコナデ。	赤褐色	砂粒	良好	埋土上層	破片

第9表 SI05遺物観察表

No.	器 種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
1	甕(H)	(19.0)			口唇部がつまみ出され外面に凹面がめぐる。	口縁部ヨコナダ。胴面上半ナダ。	褐色	砂粒 雲母	良好	床直	破片
2	甕(H)	(20.6)			口唇部がつまみ出され、外面に凹面を形成し直立する。	口縁部ヨコナダ。胴上半ナダ。	淡褐色	砂粒 雲母	良好	床直	破片
3	甕(H)			(9.0)	平底。	胴部外面ヘラミガキ、内面ヘラナダ。	褐色	砂粒 雲母	良好	埋土下層	破片 木炭痕
4	土 罐	長さ 3.7	最大径 1.1	口径 0.3	中央部が膨らむ円筒形。		暗灰色		良好	埋土下層	
5	土 罐	長さ 4.0	最大径 1.1	口径 0.25	中央部が膨らむ円筒形。		暗褐色		良好	埋土下層	一徹欠損
6	土 罐	長さ 4.3	最大径 1.5	口径 0.2	中央部が膨らむ円筒形。		暗褐色		良好	埋土中層	
7	土 罐	長さ 4.3	最大径 1.8	口径 0.2	中央部が膨らむ円筒形。		暗褐色		良好	埋土中層	外面磨付差
8	土 罐	長さ 4.5	最大径 1.7	口径 0.3	中央部が膨らむ円筒形。		褐色		良好	埋土中層	外面磨付差
9	甕(S)			(11.2)	平底で、内湾部に立上がる。	胴部外面タキ後底部及び能加間辺ヘラケズリ。内面模位のヘケ。	暗灰色	砂粒 小石	良好	埋土中層	1/6 残
10	高台付 杯(S)			10.3	高台を付す。				良好	埋土中層	「持家」? 黒底深い
11	杯(S)								良好	埋土上層	黒底深い

第10表 SI06遺物観察表

No.	器 種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
1	杯(S)	(13.0)		(6.5)	平底で、外傾し口縁部に至る。	クロコ成形。体部下半ヘラケズリ。	灰 色	白色砂粒 小石	良好	埋土上層	破片
2	杯(S)	(12.8)			平底で、外傾し口縁部に至る。	クロコ成形。	淡灰色	砂粒 赤色の打粒	良好	カマド	破片
3	杯(S)	(13.0)			平底で、外傾し口縁部に至る。	クロコ成形。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	床直	破片
4	杯(S)	(13.8)	4.5	(6.2)	平底で、外傾し口縁部に至る。	クロコ成形。底部は回転ヘラ削り。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	カマド	1/4 残
5	高台付 杯(S)	(10.2)			直線的に口縁部に至る。	クロコ成形。底部は回転ヘラ削り後高台を貼り付ける。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	床直	3/4 残 台部欠損
6	高台付 杯(S)			(7.3)	高台部が直立する。	クロコ成形。底部は回転ヘラ削り後高台を貼り付ける。ヘラ記号「井」。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	埋土中層	1/3 残
7	杯(S)			(6.6)	平底。	クロコ成形。底部は回転ヘラ削り。	青灰色	白色砂粒 小石	良好	埋土上層	破片
8	甕(H)	(18.4)			口唇部がつまみ出され外面に凹面がめぐる。	口縁部ヨコナダ。	褐色	砂粒 雲母	良好	埋土中層	破片
9	甕(S)					胴部外面中位はナメ模位のタタキ。下位は模位のタタキ。内面ヘラナダ。	灰白色	砂粒 雲母	良好	床直	1/8 残
10	土 罐	長さ 5.1	最大口径 2.2	口径 0.3		中央部が膨らむ円筒形。	乳白色		良好	埋土下層	

第11表 SI07遺物観察表

No.	器 種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
1	杯(S)	13.1	4.2	7.2	平底で、内湾部に口縁部に至る。	クロコ成形。底部は回転ヘラ削り後ナダ。	灰 色	白色砂粒 小石	良好	床直	凹形
2	杯(S)	(13.0)	(4.2)	(7.2)	平底で、外傾し口縁部に至る。	クロコ成形。底部は回転ヘラ削り。	暗灰色	白色砂粒多	良好	床直	1/6 残
3	杯(S)	(12.2)	(4.4)	(6.6)	平底で、外傾し口縁部に至る。	クロコ成形。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	埋土中層	1/6 残
4	甕(H)	(22.0)			口唇部がつまみ出され外面に凹面がめぐる。	口縁部ヨコナダ。	褐色	砂粒 雲母	良好	カマド	破片

第12表 SI08遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	施成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	高台付 杯(S)			9.4	高台部は「ハ」字状に開く。	ロクロ成形、回転ヘラケズリ後高台部を付す。	青灰色	白色砂粒 小石	良好	埴土下層	1/3 残 転用観
2	杯(S)	(13.0)	4.5	(7.0)	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形、底部外面に回転ヘラ切り、底部にヘタ記号。	青灰色	白色砂粒 小石	良好	床直	1/4 残
3	鉄線線	現存長(11.0)	最大幅(2.8)								

第13表 SI09遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	施成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	杯(S)	(14.2)	4.6	(6.6)	平底で、やや外反気味に口縁部に至る。	ロクロ成形、底部に回転ヘラ切り。	暗灰色	石英 小石	良好	床直	1/3 残
2	杯(S)	14.3	4.1	6.5	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形、底部に回転ヘラ切り。	灰色	砂粒 小石	良好	埴土中層	2/3 残
3	杯(S)	(13.5)	4.3	(6.0)	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形、底部に回転ヘラ切り。	灰色	砂粒 小石	良好	埴土上層	1/3 残 外面に溝付着
4	杯(S)	(13.6)	4.2	(6.4)	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形、底部に回転ヘラ切り。	灰褐色	白色砂粒 小石	良好	床直	1/4 残
5	杯(S)	(13.2)	4.2	(6.2)	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形、底部に回転ヘラ切り。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	埴土中層	1/5 残
6	杯(S)	(13.2)	3.8	(6.4)	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形、底部に回転ヘラ切り。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	床直	1/4 残
7	杯(S)	(12.8)	4.0	(6.4)	平底で、外傾し口縁部で外反する。	ロクロ成形、底部に回転ヘラ切り、ヘタ記号有り。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	埴土中	1/5 残
8	杯(S)	(12.4)	4.2	(6.2)	平底で、外傾し口縁部で外反する。	ロクロ成形、底部に回転ヘラ切り、ヘタ記号有り。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	埴土下層	1/4 残
9	杯(S)	(13.4)	3.7	(6.2)	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形、底部に回転ヘラ切り。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	埴土中層	1/6 残
10	杯(S)			6.1	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形、底部に回転ヘラ切り、底部外面にヘタ記号有り。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	埴土上層	1/3 残
11	高台付 杯(S)	13.1	5.4	8.3	体部は直線的に立ち上がる。	ロクロ成形、回転ヘラケズリ後高台部を付す。	灰色	白色砂粒 小石	良好	床直	一部欠損
12	高台付 杯(S)	13.1			体部は直線的に立ち上がる。	ロクロ成形、回転ヘラケズリ後高台部を付す。	灰色	砂粒 小石	良好	埴土中層	台部欠損
13	蓋(S)	(11.6)				ロクロ成形。	暗灰色	白色砂粒	良好	埴土中層	破片 油漉付着
14	杯(S)	(9.6)			体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部で外反する。	ロクロ成形。	暗灰色	白色砂粒	良好	埴土下層	破片 油漉付着
15	高台付 杯(S)			12.2	高台を付す。	ロクロ成形、内外欄ナデ、ヘラ記号「X」有り。	暗灰色	白色砂粒 小石	良好	床直	底部のみ
16	杯(S)			(7.4)	平底、ほぼ直線的に立ち上がる。	ロクロ成形、体部下層部方向のヘラケズリ、底部に回転ヘラ切り。	灰褐色	白色砂粒 小石	良好	埴土上層	破片
17	杯(S)			(7.6)	平底、ほぼ直線的に立ち上がる。	ロクロ成形、体部下層部方向のヘラケズリ、底部に回転ヘラ切り。	灰色	白色砂粒 雲母	良好	埴土中	破片
18	甕(H)			(5.2)	平底、外面クタクキ。	外面クタクキ。	乳白色	石英 長石 砂粒 小石	良好	埴土上層	破片
19	高 杯 (S)				脚部が長く、腹部で「ハ」字状に開く。	ロクロ成形。	灰色	白色砂粒	良好	埴土下層	破片
20	杯(H)	13.0	4.6	6.2	平底で、内湾気味に立ち上がる。	ロクロ成形、底部は回転系削り、底部端部及び体部下層ヘラケズリ、内面ヘラミガキ。	内面黒色 外面褐色	砂粒 小石	良好	埴土中層	一部欠損
21	甕(H)			9.0	平底。	外面削り方向のヘラケズリ、底部外面木葉流。	褐色	砂粒 雲母多	良好	埴土上層	底部のみ
22	甕(H)	(19.8)			口唇部がつまみ出され、外側に凹線がめぐる。	口唇部ヨコナデ、脚部外面ナデ。	褐色	砂粒 雲母多	良好	埴土上層	破片
23	甕(H)	(19.4)			口唇部がつまみ出され、外側に凹線がめぐる。	口唇部ヨコナデ、脚部外面ナデ。	暗褐色	砂粒 雲母多	良好	埴土下層	破片

第14表 SI10遺物観察表(1)

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
24	甕(H)	(19.8)			口縁部が外反して「く」字状を呈する。		暗褐色	砂粒 雲母多	良好	埋土上層	破片
25	甕(H)		7.7		平底。	低位のヘラケズリ。	暗褐色	砂粒 小石	良好	埋土下層	底部のみ
26	台付甕(H)		(9.0)		「へ」字状に開く台部を付す。	ヨコナダ。	暗褐色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	破片 煤付着
27	台付甕(H)		(9.0)		「へ」字状に開く台部を付す。	ヨコナダ。	暗褐色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	破片
28	鈎踵甕	径 (4.1)					灰 色		良好	埋土下層	石製
29	杯(S)							良好	床直	破片 外面 に墨書	
30	杯(S)			(7.9)				良好	埋土中	破片 底部 外面に墨書	
31	蓋(S)							良好	埋土中層	破片 外面 に墨書	
32	鉄製 刀子	現存長 (27.1)	最大幅 (2.3)								木質部分が 残る
33	鉄製 刀子	現存長 (9.4)	最大幅 (1.2)								

第15表 SI10遺物観察表(2)

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	杯(S)	(11.4)	(4.0)	7.0	平底で、外傾し口縁部に歪む。	ロクロ成形。体部下端ヘラケズリ。底部は二方向のヘラケズリ。	暗灰色	砂粒 雲母	良好	床直	口縁部一部 欠損 内面に「株家」墨書
2	杯(H)	(14.0)	4.1	(7.8)	平底で、体部が直線的に立ち上がる。	ロクロ成形。口縁部外面ヘラミガキ、ヘラケズリ後ナダ。	内面黒色 外面淡褐色	砂粒 赤色スリ7粒	良好	床直	1/3 残 内面黒色処理
3	杯(S)	(13.6)	4.3	(7.2)	平底で、外傾し口縁部に歪む。	ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り。底部外面ヘラ書を有り。	青灰色	白色砂粒	良好	埋土上層	1/3 残
4	杯(S)	13.4	3.8	7.5	平底で、口縁部で外反する。	ロクロ成形。体部下端ヘラケズリ。底部外面は回転ヘラ切り後ヘラケズリ。ヘラ書き有り。	灰 色	白色砂粒 雲母	良好	埋土上層	2/3 残 火傷が見られる
5	杯(S)	(14.2)	4.4	7.4	平底で、口縁部で外反する。	ロクロ成形。体部下端ヘラケズリ。底部は回転ヘラ切り後ヘラケズリ。	灰白色	白色砂粒 雲母	良好	埋土上層	2/3 残
6	杯(S)	(14.0)	4.1	(8.0)	平底で、口縁部で若干外反する。	ロクロ成形。体部下端ヘラケズリ。	灰褐色	白色砂粒 雲母	良好	埋土上層	1/4 残 内外面に煤付着
7	杯(S)	(14.7)	4.4	(7.8)	平底で、口縁部で若干外反する。	ロクロ成形。体部下端ヘラケズリ。底部は二方向のヘラケズリ。	灰褐色	白色砂粒 雲母	良好	埋土上層	1/5 残 外面に火傷が見られる
8	杯(S)	(13.0)	4.2	(7.0)	平底で、やややや湾気味に立ち上がる。	ロクロ成形。体部下端ヘラケズリ。底部は二方向のヘラケズリ。	灰 色	白色砂粒 雲母	良好	埋土上層	1/4 残
9	杯(S)	(13.8)	4.5	7.2	平底で、やや湾気味に立ち上がる。	ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り。	暗灰褐色	白色砂粒 小石	良好	埋土中層	1/2 残
10	蓋(S)	14.7	3.5			天井部回転ヘラケズリ後、探査床状つまみを貼り付ける。	灰 色	白色砂粒 小石	良好	埋土中層	壳形
11	蓋(S)	(17.6)				天井部回転ヘラケズリ。内面に線刻。	青灰色	白色砂粒 小石	良好	カマド	1/3 残
12	蓋(S)					底部外面回転ヘラケズリ。	青灰色	白色砂粒 小石	良好	埋土中層	転用後の可能性有
13	甕(H)	(9.2)			口縁部が直立する。	胴部上半横位のヘラケズリ、下半縦位のヘラケズリ。	暗赤褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/6 残 内外面に煤付着
14	甕(H)	(18.6)			口縁部が「く」字状を呈する。	口縁部ヨコナダ、胴部上半横位のヘラケズリ。	淡赤褐色	雲母砂粒 赤色スリ7粒	良好	埋土中層	1/12 残

第16表 SI18遺物観察表(1)

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
15	甕(H)	(22.7)			胴部で、口縁部は「く」字状を呈する。	胴部上半段位のヘラケズリ、下半段位のヘラケズリ。	赤褐色	砂粒	良好	埋土上層	口縁部1/3残
16	甕(H)	(13.4)			口縁部はつまみ上げ直立する。	口縁部コロナデ、肩部横位のナデ、以下縦位のナデ。	暗褐色	砂粒 雲母	良好	埋土上層	1/12残 外面灰付着
17	甕(H)	(13.2)			口縁部が積み出され外面に厚層がめぐる。	口縁部コロナデ。胴部外面ナデ。	暗赤褐色	砂粒 雲母 長石	良好	埋土中層	1/3残
18	鉢鉢車	径(4.1)					灰色		良好	埋土下層	石製

第17表 SI18遺物観察表(2)

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	杯(S)	9.9	3.3	6.1	平底で、ほぼ直線的に口縁部に至る。	ロクロ成形。体部下端ヘラケズリ。底部は二方向のヘラケズリ。	青灰色	砂粒 小石	良好	埋土中層	完形 内外面に煤が付き 灯明皿か
2	杯(S)	13.0	3.9	7.0	平底で、口縁部で外反する。	ロクロ成形。体部下端ヘラケズリ。底部は回転ヘラ切り後ヘラケズリ。	灰色	白色砂粒	良好	埋土中層	完形
3	杯(S)	(12.4)	4.4	(7.0)	平底で、口縁部で若干外反する。	ロクロ成形。体部下端ヘラケズリ。底部は回転ヘラ切り後ヘラケズリ。	灰褐色	白色砂粒 雲母	良好	埋土中層	1/4残
4	高台付杯(S)			(7.0)	高台を付す。	ロクロ成形。	灰褐色	白色砂粒 雲母	良好	埋土上層	1/3残
5	蓋(S)	17.5	3.9		縦坐珠状つまみ。	天井部回転ヘラケズリ後、つまみを貼り付ける。	灰褐色	白色砂粒 小石	良好	埋土下層	ほぼ完形
6	台付甕(H)			11.6	台部が「ハ」字状に開く。	内外面コロナデ。	淡赤褐色	微砂粒	良好	埋土中層	破片
7	鉄製刀子	最大幅	1.0						良好	埋土上層	切先及び基部欠損
8	土罐	長さ6.0	最大径2.1	孔径0.4	中央部が膨らむ円筒形。	暗褐色		良好	埋土上層		
9	土罐	長さ4.5	最大径1.6	孔径0.3	中央部が膨らむ円筒形。	褐色		良好	埋土下層		
10	土罐	長さ4.5	最大径1.5	孔径0.3	中央部が膨らむ円筒形。	褐色		良好	埋土上層		
11	土罐	長さ4.2	最大径1.3	孔径0.35	中央部が膨らむ円筒形。	褐色		良好	埋土上層	一部欠損	
12	土罐	長さ(4.1)	最大径1.6	孔径0.25	中央部が膨らむ円筒形。	褐色		良好	埋土中層	一部欠損	

第18表 SI19遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	蓋(灰釉胴部)	(12.4)			口縁部は直立する。	外面に灰釉がかかる。	灰オリ 一ツ色	砂粒 赤色の付粒	良好	埋土中	破片

第19表 SB39遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	高杯(S)				脚部に長方形の透かしを穿つ。	ロクロ成形。	暗灰色	灰白色粒	良好	埋土中	脚部破片
2	高台付杯(S)				高台を付す。	ロクロ成形。	灰色	砂粒	良好	埋土中	破片

第20表 SK92遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	杯 (H)	(13.0)	4.5	(6.2)	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。内面ヘラミダギキ。底部外面は回転糸切り後ナデ。	褐色 赤褐色	砂粒 輝石	良好	ST30	1/4 残
2	杯 (H)	(12.8)	3.95	(5.2)	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。底部内面ヘラナデ。底部外面は回転糸切り後ナデ。	暗褐色	砂粒	良好	6号罐	1/2 残
3	杯 (H)	(10.8)			外傾気味に口縁部に至る。	ロクロ成形。	暗褐色	砂粒 輝石 赤色 小片	良好	ST31	破片
4	蓋 (灰輪陶器)	(12.0)	3.7	(6.4)		灰釉がのびる。	灰白-フ 色	糠密	良好	ST31	破片
5	甕 (H)	(21.0)			口縁部が膨み出され、外面に凹線がめぐる。	口縁部ヨコナデ。	褐色	砂粒 白雲母	良好	ST30	破片
6	甕 (H)	(20.0)			口縁部を垂下させる。	口縁部ヨコナデ。	灰白色	砂粒 輝石	良好	ST31	破片
7	甕 (H)			(8.8)	平底。	木炭板を残す。	暗褐色	砂粒 白雲母	良好	ST30	破片
8	甕 (H)			(7.6)	平底。	外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	暗赤褐色	砂粒 小石 雲母	良好	ST35	破片
9	蓋 (S)	(15.6)	3.9		中央部が扁平なボタン状のつまみ。	ロクロ成形。天井部凹線ヘラケズリ後つまみを貼りつける。	暗灰色	白色粒	良好	T-50	完形
10	蓋 (S)				縦生珠状つまみ。	ロクロ成形。	灰色	白色粒	良好	SX10	破片
11	杯 (S)	14.0	6.6	5.0	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。底部外面は凹線ヘラ切りで、「大」字のヘラ記号有り。	灰色	白色粒	良好	T-50	完形
12	杯 (S)			(6.2)	平底。	ロクロ成形。底部外面は凹線ヘラ切り。	暗赤灰色	砂粒 小石	良好	SX10	破片
13	杯 (S)			7.2	平底で、外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。底部外面は凹線ヘラ切り。	灰色	白色粒 砂粒	良好	ST23	破片
14	杯 (S)	(13.2)	3.6	(6.6)	平底で、体部が外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。底部外面は凹線ヘラ切り。ヘラ記号有り。	暗灰色	砂粒 小石	良好	ST31	1/5 残
15	杯 (S)			(7.6)	平底。	ロクロ成形。底部外面は凹線ヘラ切り。ヘラ記号有り。	暗灰色	砂粒	良好	ST31	1/6 残
16	杯 (S)			(6.6)	平底。	ロクロ成形。底部外面は凹線ヘラケズリ。	灰色	砂粒 小石	良好	ST31	1/6 残
17	杯 (S)	(9.2)	3.4	(4.4)	平底で、外傾気味に口縁部に至る。	ロクロ成形。底部外面は凹線糸切り。	灰色	砂粒	良好	SX69	1/4 残
18	蓋 (S)	(17.0)			口縁部が外反する。	ロクロ成形。	灰色	砂粒 小石	良好	G-19 西	破片
19	甕 (S)				頸部が「く」字に曲曲する。	口縁部外面に波状文。	灰色	砂粒 小石	良好	G-19	破片
20	甕 (S)					外面平行タタキ。	灰色	砂粒	良好	ST23	破片
21	高台付杯 (S)			(7.0)		ロクロ成形。底部凹線ヘラケズリ後台部を付す。	灰色	砂粒 白色粒	良好	ST23	破片
22	高台付杯 (S)			(10.0)	高台は直立する。	ロクロ成形。底部凹線ヘラケズリ後台部を付す。	灰色	砂粒	良好	SX10	破片
23	高台付皿 (S)			(13.6)	高台は「ハ」字状に開く。	ロクロ成形。底部凹線ヘラケズリ後台部を付す。	灰色	砂粒 小石	良好	ST31	破片
24	高台付盤 (S)			(9.2)	高台は「ハ」字状に開く。	ロクロ成形。底部凹線ヘラケズリ後台部を付す。	青灰色	砂粒	良好	ST31	破片
25	長頸蓋 (灰輪陶器)					ロクロ成形。	暗灰色	白色粒 黒色粒	良好	G-15	破片
26	土罐	長さ 5.35	最大径 1.6	孔径 0.3	中央部が膨らむ円筒形。		淡褐色		良好	SX60	一部欠損
27	鉢 (H)	(16.4)	3.8	(3.8)	丸底で、内傾気味に立ち上がり、口縁部がつまみ出される。	外面ヘラミダギキ。内面はヘラミダギキ後ナデ。	外面暗褐色 内面黒色	砂粒 輝石	良好	ST13	1/4 残 内面黒色地肌

第21表 古代表採遺物観察表

3. 中世

(1) 堀と土塁

① 1号堀

1号堀は2号堀と接続し、Iの曲輪を逆L字形に囲み、南東隅に24m×6mの突出部を持つ。T-30～T-32とG-2によりその規模等を確認した。その結果、断面が薬研堀で、その規模は上幅が約5m、下幅が約0.25m、深さが約3～4mを測ることがわかった。また堀の埋土状況は、T-31の土層断面（第54図）の観察により、堀底から約60cm程（51層）がローム粒の多い砂質の自然堆積層で、その上約2.3mが人為的に埋められた層であることがわかった。その後約50cm程（I・5層）の黒色土の自然堆積層がみられる。この人為埋土層は両側から土を落とした状況が窺えるが、多くは北側（曲輪I内側）からである。本城跡においては基本的に堀の内側に高い土塁、堀の外側に低い土塁を持つと言う傾向が見られることから、この所見はそれを裏付けるものと考えられる。このことから、土塁を復元し堀の深さを考えるならば、前述の深さに1～1.5m程加算されるものと推定できる。尚、同様の所見が他のトレンチでも確認できた。

② 2号堀

2号堀は、IIIの曲輪を逆L字形に囲み、南側ほぼ中央に16m×8mの突出部を持つ。T-17～T-19、T-33～T-38とG-3によりその規模等を確認した。その結果、断面が薬研堀状で、その規模は上幅が約5.6m、下幅が約0.5m、深さが約2.4mを測ることがわかった。1号堀に比べると、底面が広く、深さも浅くなっている分、傾斜が緩くなる。また堀の埋土状況は、T-37の土層断面（第54図）の観察により、堀底から約40cm程（28, 51, 43層）が自然堆積層で、その上約1.5mが人為的に埋められた層であることがわかった。その後約60cm程（I・5層）の黒色土の自然堆積層がみられる。人為埋土層はほとんどが内側の土塁を崩した際のものである。このような状況は、1号堀と同様で土塁を復元し堀の深さを考えるならば、前述の深さに1m程加算されるものと推定できる。

このトレンチで特筆すべき点は、竪穴建物（ST04）との切り合いが見られることである。断面図からもわかるようにST04を2号堀が切っている。尚、ST04の床面からは多量の炭と土師器皿が確認された。ST04は他の竪穴建物同様、人為的に埋め戻されていた。その埋め戻しに際し、上層に石が投げ込まれていた。

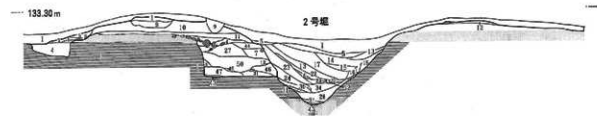
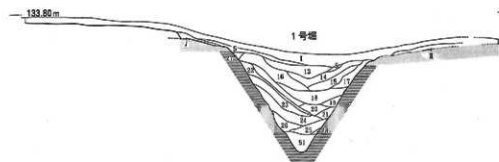
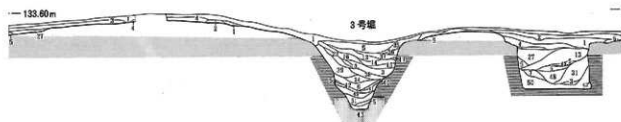
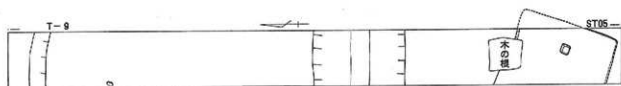
③ 3号堀

3号堀は、IIの曲輪を逆L字形に囲み、南東隅に12m×8mの突出部を持つ。T-6～T-10によりその規模等を確認した。その結果、断面が薬研堀状で、その規模は上幅が約3.15m、下幅が約0.5m、深さが約2.4mを測ることがわかった。2号堀と深さ及び下幅はほぼ同じであるが、上幅は1号・2号堀よりも狭い。また堀の埋土状況は、T-9の土層断面（第54図）の観察により、堀底から約70cm程が自然堆積層で、その上約1.1mが人為的に埋められた層であることがわかった。その後約40cm程（I・5層）の黒色土の自然堆積層がみられる。3号堀南側のST05は外側の土塁盛土層（3層）下であることから、3号堀とは併存していなかったものと考えられる。尚、ST02も人為的に埋め戻されていた。

④ 4号堀と土橋

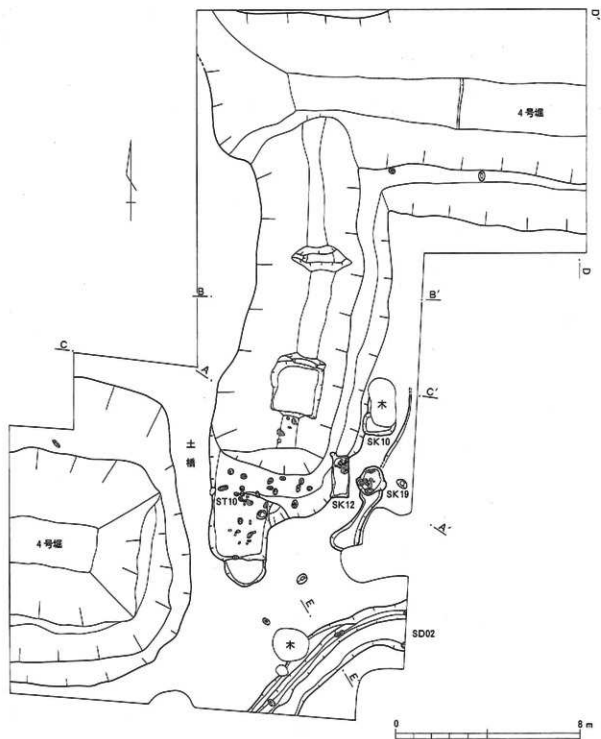
5号堀で囲まれた内側を北（曲輪I～V）と南（曲輪VI）とに分ける大きな堀である。G-1、G-2、G-8、G-10においてその規模を確認した。その結果、断面が箱堀状で、その規模は上幅が約15m、下幅が約0.7～2m、深さが約5～6mを測ることがわかった。

G-1は4号堀が鉤の手状に曲がった「折り」の部分で、「折り」隅から対岸に斜めに架けられた大きな



- | | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗黄褐色土 (ロ-ム粒中多, 小ロ-ム粒, 厚く(しる) | 18 暗黄褐色土 (ロ-ム粒多, ロ-ム粒少, KP中多, KP少) | 35 暗褐色土 (KP少) |
| 2 暗褐色土 (ロ-ム粒多, 中粒少) | 19 暗褐色土 (ロ-ム粒少, 大ロ-ム粒多, 大KP少) | 36 暗褐色土 (ロ-ム粒・KP少) |
| 3 黄褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB多) | 20 黄褐色土 (ロ-ム粒少, 大ロ-ム粒多) | 37 暗褐色土 (ロ-ム粒・KP中多) |
| 4 黄褐色土 (ロ-ム粒中多, 小ロ-ムB少) | 21 暗黄褐色土 (ロ-ム粒少, 小ロ-ムB多, 小KP少) | 38 暗褐色土 (ロ-ム粒中多, 小ロ-ムB少) |
| 5 褐色土 (ロ-ム粒・KP少) | 22 黄褐色土 (ロ-ム粒多, KP・小KP少) | 39 暗褐色土 (ロ-ム粒・KP中多) |
| 6 暗褐色土 (ロ-ム粒少) | 23 暗褐色土 (ロ-ム粒中多, 小ロ-ムB少) | 40 黄褐色土 (ロ-ム粒) |
| 7 褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB中多) | 24 黄褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB中多, KP少) | 41 黄褐色土 (ロ-ムB多) |
| 8 暗褐色土 (ロ-ム粒中多) | 25 暗褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB中多, ロ-ムB少) | 42 暗褐色土 (C) |
| 9 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB少) | 26 暗黄褐色土 (ロ-ム粒中多, 小ロ-ムB多, KP中多) | 43 黄褐色土 (ロ-ム粒多) |
| 10 黄褐色土 (ロ-ム粒) | 27 黄褐色土 (ロ-ム粒・KP少) | 44 暗褐色土 (ロ-ム粒少, 小ロ-ムB粒) |
| 11 暗褐色土 (ロ-ム粒少, KP粒) | 28 暗黄褐色土 (ロ-ム粒多, KP少) | 45 暗褐色土 (ロ-ム粒少, N多) |
| 12 黄褐色土 (ロ-ム粒多, 小ロ-ムB少) | 29 暗黄褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB少) | 46 暗褐色土 (ロ-ム粒中多, 小ロ-ムB少, C) |
| 13 暗黄褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB中多) | 30 暗褐色土 (小ロ-ムB少, 灰中多) | 47 暗褐色土 (ロ-ム粒少, 小ロ-ムB中多) |
| 14 暗黄褐色土 (ロ-ム粒多, 小ロ-ムB中多) | 31 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB中多) | 48 暗黄褐色土 (ロ-ム粒多, C・ロ-ムB) |
| 15 黄褐色土 (ロ-ム粒多, 小ロ-ムB少, 大ロ-ムB多, KP少) | 32 暗褐色土 (灰中多, 小ロ-ム少) | 49 暗褐色土 (ロ-ム少) |
| 16 暗黄褐色土 (ロ-ム粒多, 小ロ-ムB・KP中多) | 33 黄褐色土 (大ロ-ムB中多) | 50 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB中多, C) |
| 17 暗褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB少) | 34 暗褐色土 (灰多, 小ロ-ムB少) | 51 暗黄褐色土 (ロ-ム粒多, 小ロ-ムB少) |

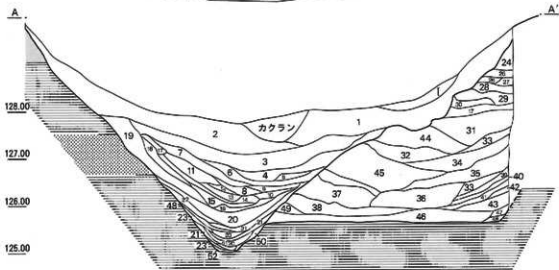
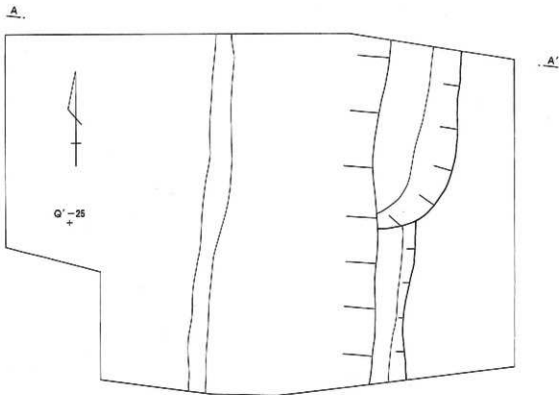
第54図 1～3号堀平・断面図



第55図 G-1遺構平面図

土橋は、地山を削りだして造られている。「折り」東側の掘底は、下幅が0.7mと狭い上に、「堀障子」のような凹凸があり、他の掘底との相違を見せる。

また堀の埋土状況は、土層断面（第56図）の観察により、掘底から約40cm程（27～31，33～38層）が自然堆積層で、その上約2mが人為的に埋められた層であることがわかった。その後に約60cm程（1～4，6層）の自然堆積層がみられる。人為埋土層の多くは曲輪Ⅳ側からであることから、本来は内側の土塁が現況より

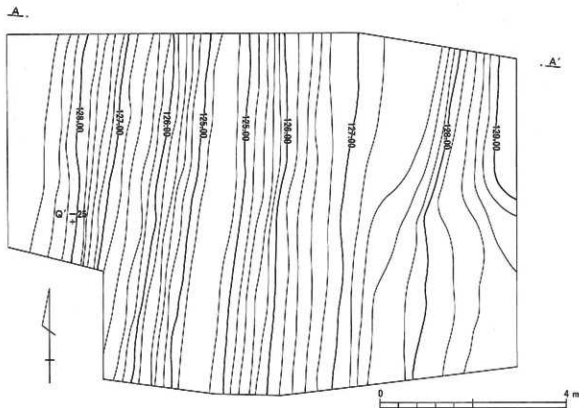


- | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 褐色土 (ローム粒少, KPP中多) | 19 暗褐色土 (ローム粒少, KPP中多) | 38 褐色土 (ローム粒・小ロームB少) |
| 2 褐色土 (ローム粒少) | 20 暗褐色土 (ローム粒多, KPP中多, 砂質) | 39 暗褐色土 (ローム粒中多, 砂質) |
| 3 暗褐色土 (ローム粒, KPP少, 砂質) | 21 褐色土 (ローム粒多, KPP少, 砂質) | 40 暗褐色土 (ローム粒中多, 砂質) |
| 4 暗褐色土 (ローム粒中多, 砂質) | 22 暗黄褐色土 (ローム粒中多, KPP少, 砂質) | 41 褐色土 (ローム粒多, KPP少, 砂質) |
| 5 褐色土 (ローム粒中多, 砂質) | 23 黄褐色土 (ローム粒多, 砂質) | 42 暗褐色土 (小ロームB中多) |
| 6 暗褐色土 (ローム粒少, KPP中多, 砂質) | 24 暗褐色土 (ローム粒・小ロームB少, KPP中多, 硬くしまる) | 43 褐色土 (ローム粒多, KPP少, 砂質) |
| 7 暗褐色土 (ローム粒・小ロームB・KPP少) | 25 暗褐色土 (ローム粒・KPP少, 硬くしまる) | 44 黄褐色土 (ローム粒中多, ロームB多, 大ロームB, 大KPP) |
| 8 暗褐色土 (ローム粒・KPP) | 26 暗黄褐色土 (ローム粒少, KPP多) | 45 黄褐色土 (ロームB多, 大ロームB中多) |
| 9 暗褐色土 (ローム粒・KPP) | 27 暗褐色土 (ローム粒少, KPP中多, KPP少) | 46 黄褐色土 (ロームB多, 硬くしまる) |
| 10 暗黄褐色土 (ローム粒・小ロームB中多, ロームB・KPP少) | 28 暗褐色土 (ローム粒少, 小ロームB中多, KPP少) | 47 暗黄褐色土 (ローム粒多, 中粒, 砂質) |
| 11 暗褐色土 (ローム粒中多・小ロームB少, KPP中多) | 29 黄褐色土 (大ロームB多, KPP少) | 48 暗褐色土 (ローム粒多, KPP中多, 砂質) |
| 12 褐色土 (ローム粒・KPP少) | 30 暗褐色土 (ローム粒中多, 小ロームB・KPP少) | 49 褐色土 (ロームB少, しまる) |
| 13 暗黄褐色土 (ローム粒・小ロームB中多, KPP少) | 31 黄褐色土 (ローム粒・ロームB中多, KPP少) | 50 暗褐色土 (ローム粒多, KPP少, 砂質) |
| 14 暗褐色土 (ローム粒・小ロームB・KPP少) | 32 黄褐色土 (ローム粒・小ロームB中多, ロームB・KPP少) | 51 暗黄褐色土 (ローム粒中多, 小ロームB多, KPP中多) |
| 15 暗黄褐色土 (ローム粒中多, 小ロームB中多, P少) | 33 暗褐色土 (ローム粒・小ロームB中多) | 52 暗褐色土 (ローム粒・ロームB少, 粘性有り) |
| 16 暗褐色土 (ロームB・KPP少) | 34 黄褐色土 (ローム粒多, 小ロームB中多) | |
| 17 暗褐色土 (ローム粒少, KPP) | 35 高褐色土 (ローム粒・小ロームB少) | |
| 18 褐色土 (ローム粒・KPP少) | 36 暗黄褐色土 (小ロームB中多, 大ロームB多) | |
| | 37 黄褐色土 (ロームB多) | |

L-A=130.0m



第58図 G-16遺構平・断面図



第59図 G-16コンタ図

G-16 (第58・59図)

G-16は、5号堀の南東部の幅広い土橋状の盛り上がり部分の調査である。これに対応するように内側の土塁が幅広く途切れている。

調査の結果、G-16の北半分は堀が自然に埋まっていることがわかり、南半分は人為的に埋め戻されていることがわかった。堀の形態は薬研状を呈し、その規模は上幅約17m、下幅40cm、深さ約7mを測る。尚、堀底の標高は125.00mであり、堀の傾斜角は47°である。

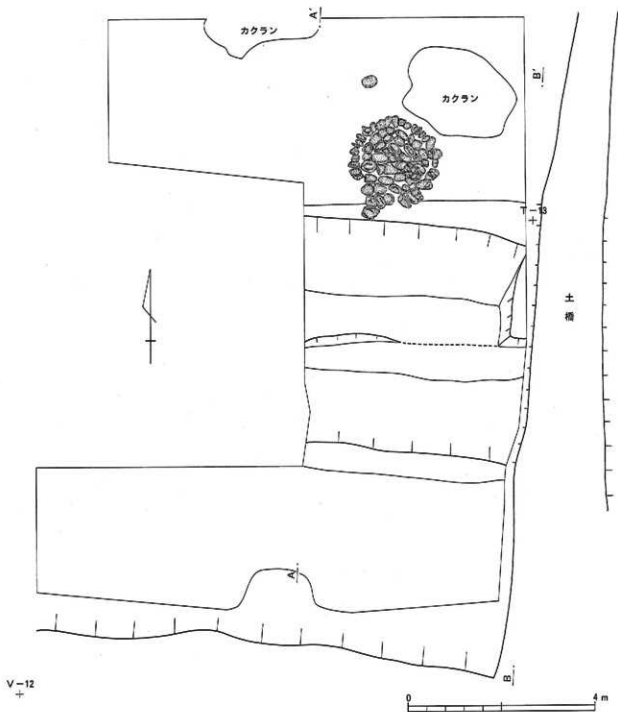
また、堀の東面（堀の外側の傾斜部分）ではローム地山が見られず盛土であったため、トレンチの北壁にそって1m幅の断ち割りを入れたところ5号堀の堀底よりも約60cmほど高い位置からフラットな床面が確認できた。後述するが、他のトレンチでも同様な状態が確認されたことから5号堀に先行する堀で、人為的に埋め戻されていることを確認した（第58図セクション参照）。以後これを旧5号堀とする。この堀の形態は箱堀で、その規模は下幅約5m（堀底の標高は125.60m）、堀の傾斜角は50°で、現地表面からの深さは4.4mを測る。これから推察される上幅は12～13mである。

当初の目的の土橋かどうかであるが、平成6年度までの調査でも見られた、1号～4号堀のような土層観察が見られること、先にも述べた土塁の切れ目と対応することなどから、土橋状の盛り上がりは、土塁を崩して堀を埋めた結果できたものと判断できる。

G-17 (第60～62図)

G-17は、5号堀の南中央部に位置する土橋状の盛り上がり部分の調査である。これに対応するように内側の土塁が切り通し状になっている。

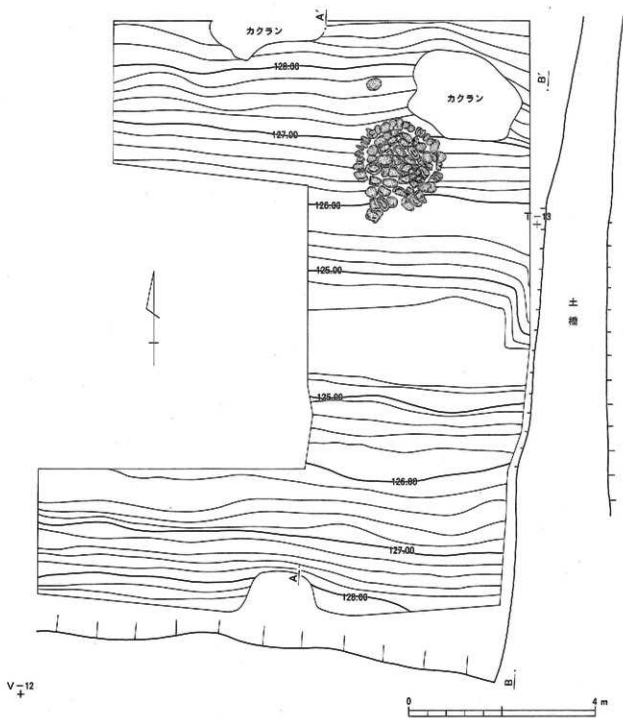
G-17の東壁（SPB-B'）と西壁（SPA-A'）のセクションを比べてみると、前者の16～26層が人為的な



第80図 G-17遺構平面図

埋土であるのに対し、後者は1～9層まで自然堆積である。また、平面図では、東壁間際で北側の堀の下場が直角に曲がっている。つまり、ローム地山の掘り残し部分がある。このことから、ここが盛土による土橋と考えられる。V次調査でみられたように、4号堀における土橋が地山掘り残しによるものであるのに対し、対照的であるが、これはこの後述べる5号堀が数回に渡り堀の造り替えを行っていることに起因する。

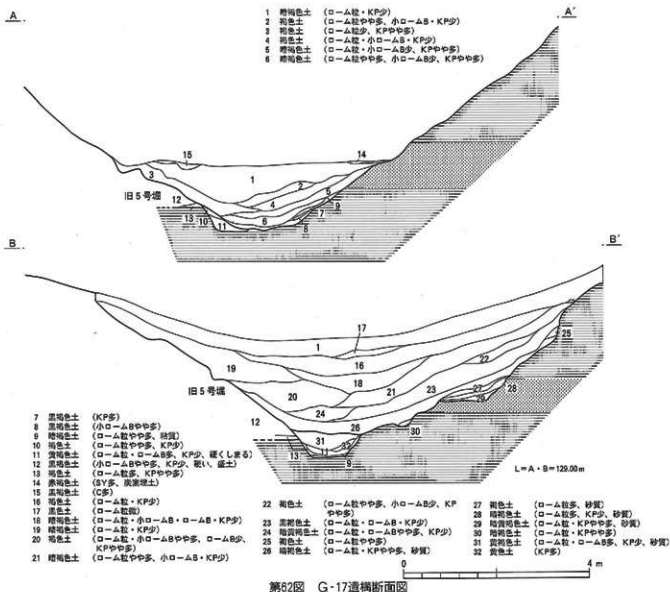
G-16では1回の堀の作り替えが確認でき、G-17においても同様に旧5号堀→5号堀という変遷が窺えた。さらにこのトレンチにおいては、5号堀の掘り直しの状況が確認できた。すなわち、SPA-A'からわかるよ



第61図 G-17コンタ図

うに、12・13層を埋土にもつ旧5号堀を10・11層を埋土にもつ薬研堀（以後5号堀Aと称す）が切り、その後、1～9層の箱堀（以後5号堀Cと称す）が切っている。これに対しSPB-B'は土橋部分であるため若干様相を異にする。16・22層を埋土にもつ旧5号堀を17～19層を埋土にもつ薬研堀（5号堀A）が切るところまでは同じであるが、その後10・11層を埋土にもつ箱堀（以後5号堀Bと称す）が切り、最終段階で1～9層により盛土され土橋となる。尚、12～14層を埋土にもつ部分も堀の可能性が指摘できる。

以上をまとめて堀の変遷を整理してみると、旧5号堀→5号堀A→5号堀B→5号堀Cとなり、5号堀C段階に土橋が設置された。それぞれの堀底幅及び堀底標高をみてみると、旧5号堀の堀底幅は一部分の調査

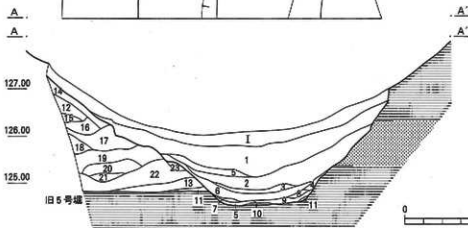
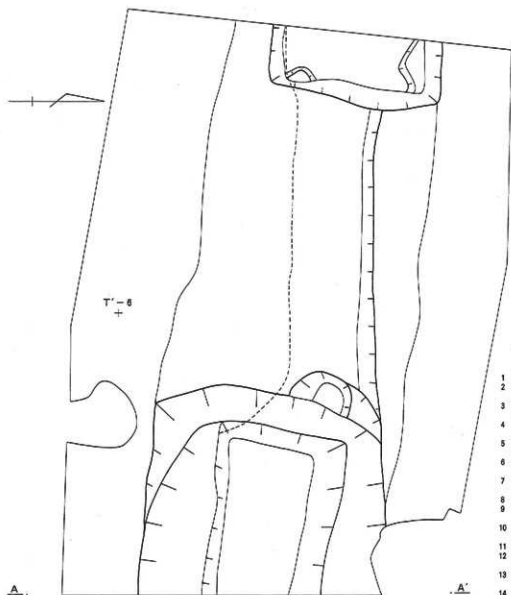


のため不明、堀底標高124.94~125.00m、5号堀Aの堀底幅は65~70cm、堀底標高124.50~124.54m、5号堀Bの堀底幅は1.6m、堀底標高125.00m、5号堀Cの堀底幅は1.4m、堀底標高124.56mである。唯一上幅のわかる5号堀C上幅は約16mである。

G-18 (第63・64図)

G-18は、5号堀の南西隅に位置する土橋状の盛り上がり部分の調査である。G-17ほどではないが若干土層が窪み切り通し状になっている。また調査前の現状では、土橋状の盛り上がり部分は2段になっていた。

調査の結果もこれに対応するように、トレンチ東側1/3までは5号堀が続くが、急に地山の掘り残しにより立ち上がり堀が途切れる。地山掘り残し部分のフラットな面は8mほど続く。4号堀でみられた土橋状の地山掘り残しとの違いは、この幅の広さと、地山をすべて残すのではなく標高126.40mの鹿沼層直上まで掘り込んでいる点である。言い換えれば、この部分だけ鹿沼の上のローム層(田原ローム)をカットしているのである。そして、トレンチ西壁から約2mほどのところから、約25cmの浅い掘り込みがみられる。この掘り込みはある時期まで自然に埋まっているが、その後人為的に約1.5m程の盛土がされる。この状況が、発掘調査前2段に見えた原因である。



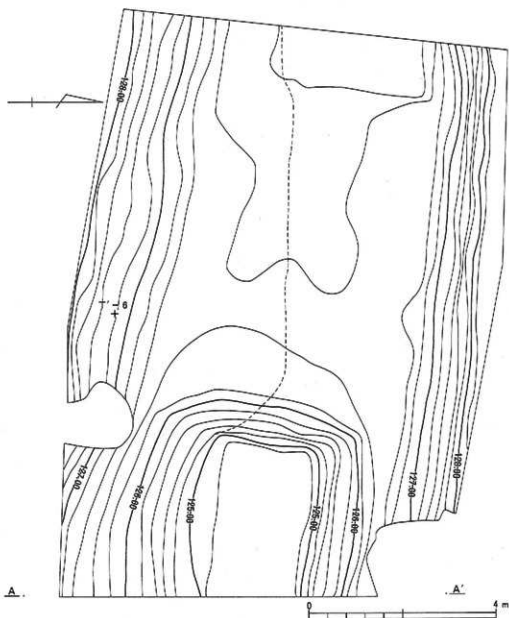
----- 旧5号堤上端ライン

- 1 暗褐色土 (ローム粒・KPs少、砂質)
- 2 暗褐色土 (ローム粒・小ロームB少、KPyや多、砂質)
- 3 褐色土 (ローム粒やや多、KPs少、砂質)
- 4 褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB・KPs少、砂質)
- 5 暗褐色土 (ローム粒やや多、KPs多、砂質)
- 6 暗褐色土 (ローム粒・KPyや多、砂質)
- 7 褐色土 (ローム粒やや多、KPs多、砂質)
- 8 黄土 (KPs多)
- 9 黄褐色土 (ローム粒少、KPyや多、砂質)
- 10 暗褐色土 (ローム粒・小ロームBやや多)
- 11 黄土 (ローム粒多)
- 12 黄褐色土 (ローム粒少、ロームBやや多、KPs少、しまる)
- 13 暗褐色土 (小ロームB・ロームBやや多、しまる)
- 14 暗褐色土 (ローム粒・KPs少)
- 15 黄褐色土 (大ロームB多)
- 16 暗褐色土 (ローム粒やや多、ロームB・KPs少)
- 17 暗黄褐色土 (ローム粒多、小ロームBやや多、KPs・KPs少)
- 18 暗褐色土 (ロームBやや多、しまる)
- 19 暗褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB少、しまる)
- 20 暗褐色土 (ローム粒・ロームBやや多、KPs少、しまる)
- 21 褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB少、しまる)
- 22 黄土 (ロームB多、KPs少、しまる)
- 23 褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB・KPs少、ややしまる)

L = A = 128.10 m

0 4 m

第63図 G-18遺構平・断面図



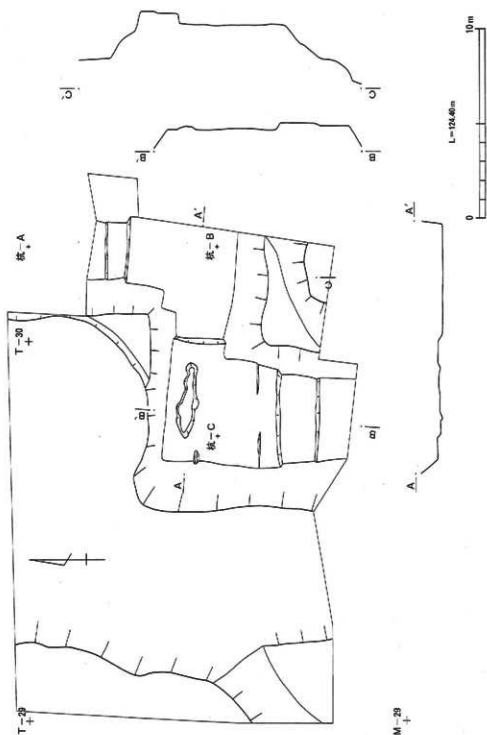
第64図 G-18コンタ図

また、このトレンチでも他と同様旧5号堀と5号堀の切り合い関係が確認できた。さらにここでは、地山の掘り残し部分があったお蔭で、旧5号堀の内側のラインが確認できた。旧5号堀の堀底標高は124.90m、5号堀の堀底幅は1.8m、堀底標高124.60m、上幅約15mである。尚、5号堀の断面をみると若干であるが、南側半分が窪んでいる様子が窺えることから、この部分が薬研堀の5号堀Aの痕跡であると考えられる。

遺物は、上層より染付(第72図1)と球形石製品(第72図2)が出土している。

⑥ 6号堀

6号堀は城を囲む一番外側の外郭線にあたり、5号堀と平行し逆L字形を呈する。また、南側に1ヶ所、南東コーナーに1ヶ所、東側に3ヶ所の計5ヶ所の突出部が取り付く。これを便宜上、南側より時計回りで番号を付け、櫓台1～5と呼ぶこととする。



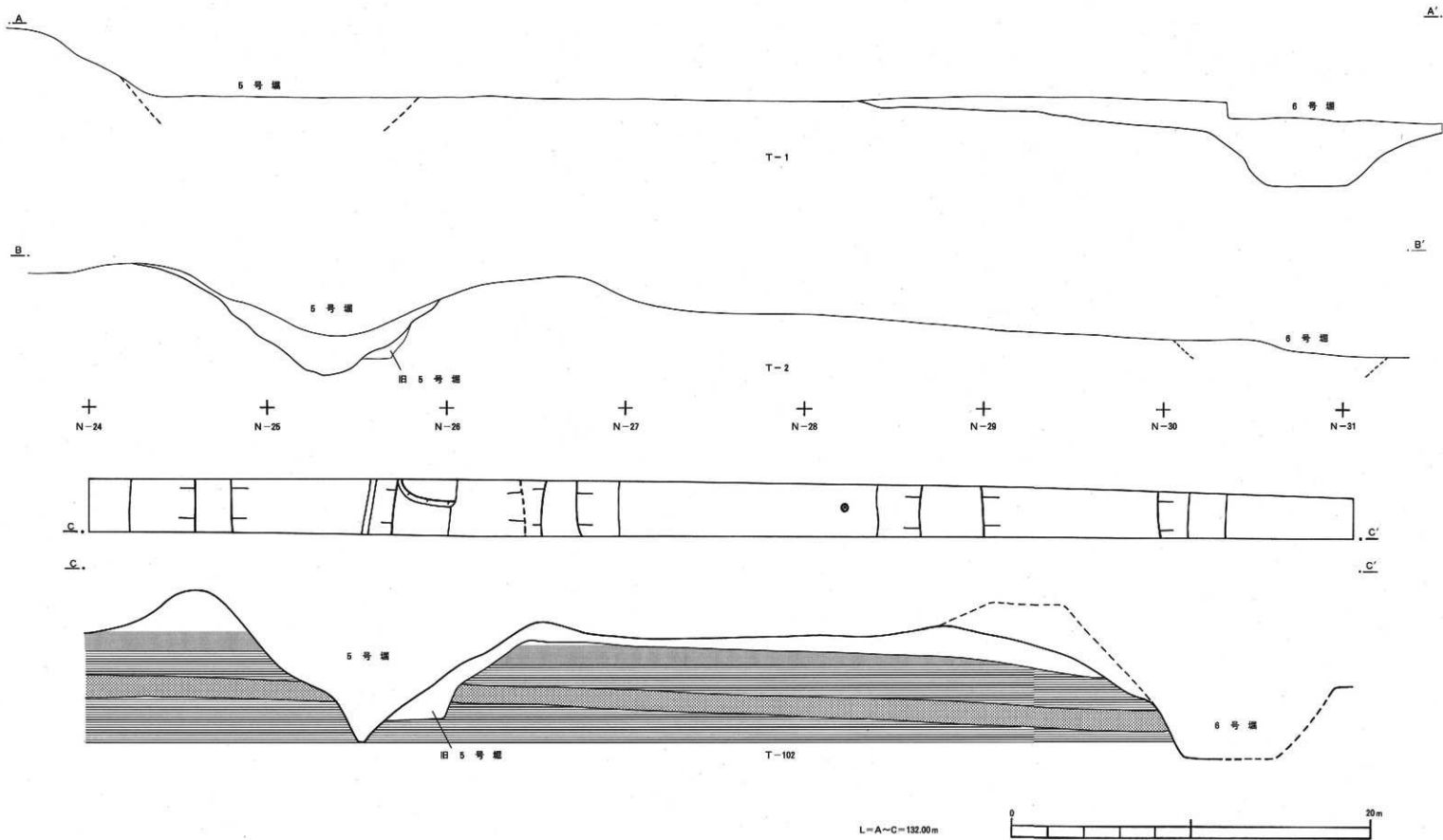
第65図 G-20遺構平・断面図

調査は、T-1、T-2、T-102で6号堀の規模と形状の確認、G-20、G-23、G-24で櫓台の形状及びその上の建物の確認、G-29で6号堀を渡る施設の確認の3点について行った。

T-1・T-2・T-102 (第66図)

T-1は昭和51年度と昭和63年度の調査分を図面上で合わせて作成したものである。櫓台5の部分に当り、後世の削平により現状での痕跡は見とめられないものの、調査の結果、確認面での上幅11m、下幅4.5m、確認面からの深さ3mであることがわかった。また、断面形状は箱堀である。

T-2はT-1同様昭和51年度と昭和63年度の調査分を図面上で合わせて作成したものである。調査の結果、



第66图 5号·6号墩平·断面图

確認面での上幅が12mであることがわかった。完掘していないためその他のデータはわからない。

T-102は第Ⅶ次調査分である。その設定位置は櫓台3と4のほぼ中間である。現況では、堀が良好に残り当時の姿をとどめているように窺えたが、調査の結果、2.5mほど埋め戻されていることが確認できた。堀の規模は、上幅14m、推定下幅6m、確認面からの深さ6mとなる。但し、内側の土塁を崩し、堀を埋めている状況であることから、堀の上幅及び深さはもっと大きなものであったと想定できる。第66図にはその想定線を破線で示した。断面形状は他と同様箱堀である。

G-20、G-23、G-24（第65・67・68図）

G-20は、第Ⅶ次調査分である。櫓台4の約半分を面的に調査した。平面形状は、角がほぼ直角となる形状を呈する。突出し部分の推定規模は、東西約9m、南北約8mである。断面形状は他と同様箱堀であるが、堀底面は20～50cmの段差が見られる。埋土状況は、T-102と同様に人為的に埋め戻されている。そのためか、現況の形状も堀底に向かってなだらかに傾斜している。

G-23とG-24は櫓台1の周辺部分を確認するためのもので、第Ⅶ次調査分である。G-24は櫓台部分だけでなく、5号堀と6号堀の平坦面上にも建物が有るかを確認する意味でも設定した。その結果、建物跡は一切確認できず、旧地表面に盛り土をし造成することにより平坦面及び土塁を造り出していることがわかった。土塁の規模は、6号堀側で、幅14m、高さ約1m、5号堀側で幅7m、高さ0.5mである。

G-29（第71図）

G-29でも5号堀と6号堀との平坦面部分の遺構確認を行った。その結果、5号堀を渡る手前で「コ」字状の溝状遺構が確認できた。溝の幅は、2.2～3mで確認面からの深さは約1mの築研状である（以下SD11）。SD11は、セクションの観察により、Ⅶの曲輪造成後に掘り込まれていることが確認できた。また、SD11に接続する浅い溝は、セクションの状況から同時へ依存していたものと判断できる。その規模は、長さ8.5m、幅1.3m、確認面からの深さが0.3mである。尚、SD11の南側溝底面からは、小規模であるが柱穴が2ヶ所確認できた。

⑦ 木橋跡（第69図）

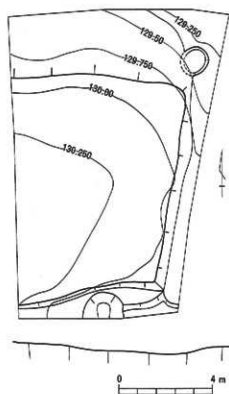
木橋跡は、2号堀（以後2号木橋とする）と6号堀（以後1号木橋とする）の2箇所で確認できた。

2号木橋は、2号堀南側中央突出部より東に10mのところに位置する。この部分は堀幅が6.4mから4.5mに狭まる場所で、堀底を20cm程高くした高まりのところに4本の柱穴が確認できた。柱穴の掘り方は平面形が楕円形もしくは隅丸方形で、上場が長軸約70cm×短軸約60cm、深さが1～1.2mを測る。柱痕も確認でき、西側には直径約35cmの木材を、東側には直径約25cmの木材を使用したものと推定される。柱穴間の距離は、東西が1.65m、南北西側が2.4m、南北東側が2.7mを測る。

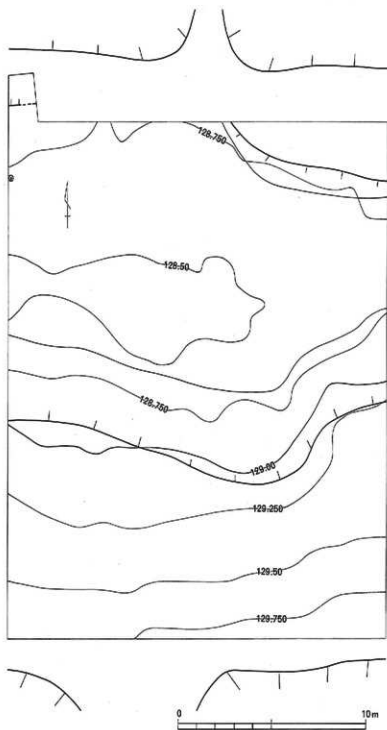
この木橋跡から北に5.6mの位置に2号堀と平行してSD01が確認できた。現況調査の際に確認できなかったのは人為的に埋め戻されていた所為による。SD01の規模は、上幅で2.6～3.6m、下幅1.05～1.25m、深さ約40cmである。底面はほぼ平坦であるが、一部に高まりがあり、その上に柱穴が確認できた。この柱穴と木橋跡堀底西側柱穴は一直線上に並ぶ。SD01内からは火鉢、内耳鍋等が出土した（第70図）。

1号木橋は、6号堀の櫓台4から北へ40mのG-29で確認できた。ここは現状でも赤道が通っている場所で、それを進むと5号堀を渡る土橋へと通ずる。

2号木橋と同様に約15m程の堀幅がこの場所で8mと狭くなり、堀底を20cm程高くしたところに4本の柱穴が確認できた。それぞれの柱間は南北方向で2.7m、東西方向では南側が2.7m、北側が3.0mである。尚、

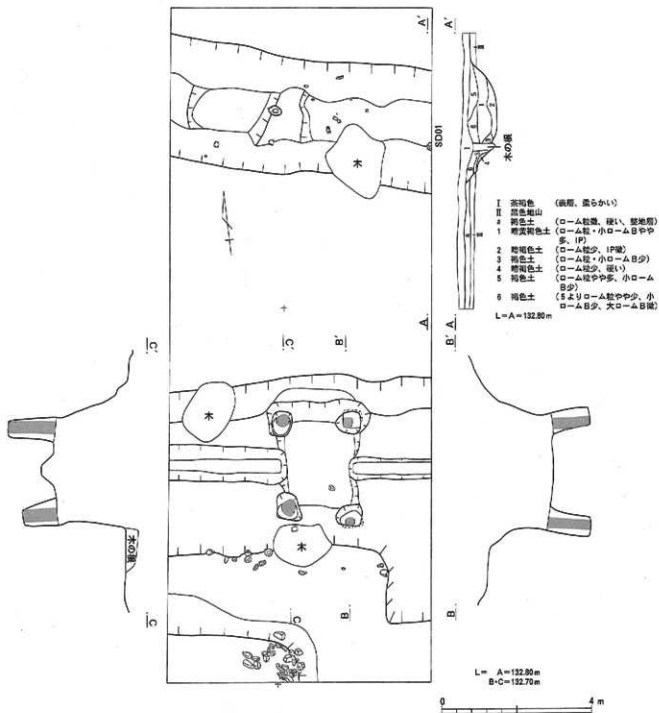


第67図 G-23遺構平面図

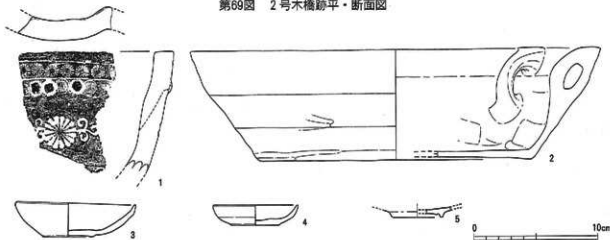


第68図 G-24遺構平面図

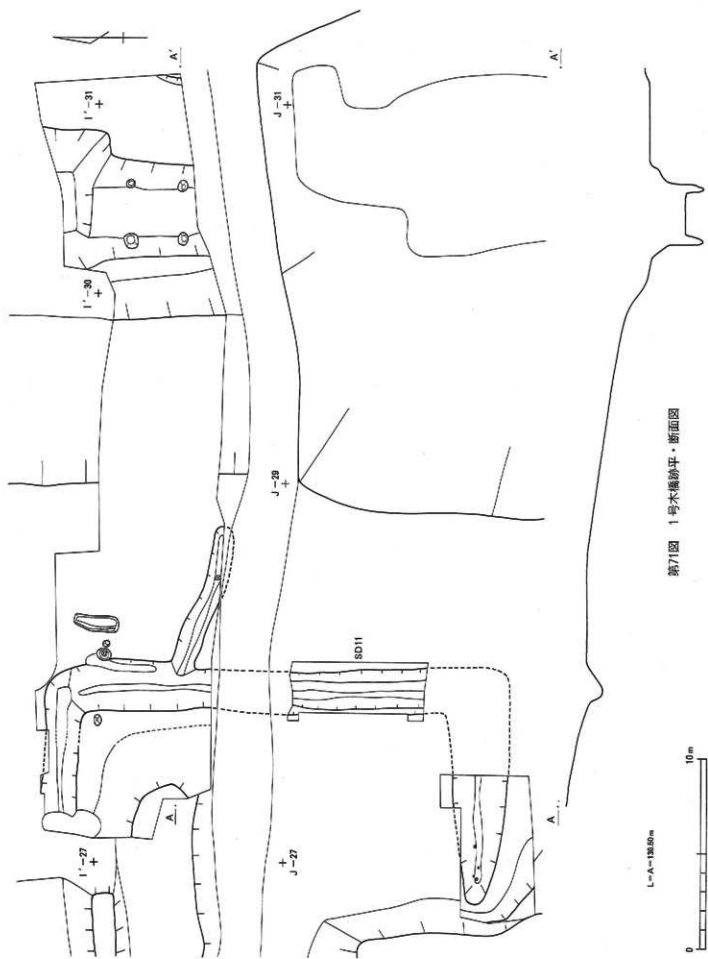
北東隅の柱穴からは、埋土中より土師器（第72図6）が出土し、堀の埋土中からは、常滑甕（第72図12）が出土している。各柱穴の掘り方は、楕円形もしくは隅丸方形で、上場は一辺が20~40cm、深さが1~1.2mである。



第69図 2号木橋跡平・断面図



第70図 溝出土遺物実測図



第71图 1号木構跡平・断面図

⑤ 溝

SD01～SD13の13条が確認できた。現況で溝として明瞭に確認できたのはSD01、SD06、SD07で、その他は若干窪んでいる様子が観察できた程度である。実際の調査結果もロームを若干掘り込む程度の浅いものが多い。

SD01は、第三次調査のT-12～T-15、T-20、T-21、T-23、T-24で確認した。曲輪Ⅲ南東部の南北約30m×東西60mの範囲を区画する。溝の規模は上幅約1.7～3m、下幅0.3～1.9m、深さは約30～90cmで、断面逆台形を呈する。また、基準層位Ⅱ層から掘り込まれ、北と西側は自然堆積であるが南側は人為的に埋め戻されており、現況でも平坦であった。出土遺物は、第70図1の火鉢と2の内耳土器が出土している。

SD02は第V次調査のG-1～G-3と第VI次調査のG-14、T-75、T-86、T-90で確認した。4号堀と3mほど間隔をおき約30m平行した後、土橋の手前で2度折れ曲がり、30mほど南に行ったところで再び2度折れ曲がる。さらに、そこから60m南下したところでまた1度折れ曲がり東に40mほど延びる。このコーナー部分で、近代のものと思われる炭灰が作られているため溝の状況が不明瞭となるが、その前後で溝は一端途切れる。溝の規模は上幅約1.6～1.9m、下幅0.2m、深さは約35cmである。断面はG-1～G-3の部分で二段の薬研状を呈するが、それから以南は逆台形である。また、基準層位Ⅱ層から掘り込まれ、自然堆積である。出土遺物は図示していないが白磁片が出土している。

SD10は、このSD02と対応するものと考えられる。T-95では溝が確認出来ず、T-94で見られることから、この間で再び溝が現れるものと考えられる。第VI次調査のT-88～T-92、T-99～T-101で確認した。T-95の南側に若干地形が曲がるところが観察できることから、その地点まで延びていることが予想される。そして、SD02が途切れたと考えられる地点から南に60mのところまで西に折れ曲がり、40mのところまで南に折れ曲がり、10mほどでまた西に折れ曲がる。今回の調査で、T-99までは延びていることが確認できた。溝の規模は上幅約1～1.2m、下幅20～30cm、深さは約20cmで、断面逆台形を呈する。また、基準層位Ⅱ層から掘り込まれている。

SD03は、第V次調査のT-4、T-6、T-9、T-10、T-11、T-12で確認した。曲輪Ⅳ南西部の南北約15m×東西約30mの範囲を区画する。溝の規模は上幅約1～1.4m、下幅0.15～1.1m、深さは約20～45cmで、断面逆台形を呈する。また、基準層位Ⅱ層から掘り込まれ、自然堆積である。また、北東コーナー部分でSX10と接続する。出土遺物は、第70図3の土師器皿が出土している。

SD04は、第V次調査のT-4、T-6、T-9、T-10で確認した。溝の規模が上幅約0.8～1.7m、下幅0.4～1.3m、深さは約10～20cmと浅い。確認前の地形測量の際には長方形に区画する溝のように見えたが、確認の結果は非常に浅く、T-9のように一部不明瞭な部分がある。

SD05は、第Ⅶ次調査のG-11で確認した。曲輪Ⅳの東部をクランクし区画する。溝の規模は上幅約0.8～1.4m、下幅0.1～0.3m、深さは約20～30cmで、断面は二段の掘り込みとなり、薬研状を呈する。また、基準層位Ⅱ層から掘り込まれており、SB51などすべての遺構を切る。

SD06は、第V次調査のG-6、T-23～T-25で確認した。2号堀の南北方向の堀の延長状に位置し、曲輪Ⅳと曲輪Ⅴを区画する。溝の規模は上幅2.4～3.9m、下幅0.7～1.0m、深さは約0.5～1.8mで、薬研状を呈する。また、基準層位Ⅱ層から掘り込まれている。深さは一定せず、G-6では畝状の遺構が確認できたほか、T-23では土橋が確認できた。

SD07は、第VI次調査のT-50～T-55で確認した。曲輪Ⅵの北西端に南北44～56m×東西30～32mのやや歪な長方形に溝が廻る。掘り方は、まず緩い傾斜に掘り、底面をさらに逆台形状に掘り込む。このため上幅は

広く2～4m、部分的には5m程のところもある。下幅20～80cm、深さは浅い所で60cm、深い所で95cmを測る。この溝に囲まれた中は中央にST16が確認された他は小ピットが散在する程度である。この溝はSI02、ST24を切り、4号堀の外側土塁の一部を形成していることから、4号堀と同時期の遺構と考えられる。

SD08は、第VI次のG-15で確認した。地表面での観察では一周するように見えたが、北西部の一角のみが確認できた。溝の規模は上幅0.3～0.4m、下幅0.1～0.2m、深さは約10～20cmで、U字形を呈する。SI03、ST28、ST31などすべての遺構を切る。遺構的に浅く、形状も他の溝と異なることから、後世のものと考えられる。

SD09は、第VI次調査のT-73、T-74で確認した。G-13では確認できなかったことから、30m程の直線で終わってしまうものと想定できる。溝の規模は上幅0.95m、下幅0.5m、深さは約30cmで、逆台形を呈する。T-74では堅穴建物遺構を切る。

SD11は、第VII次調査のG-29で確認した。溝の規模は上幅1.8～2.65m、下幅0.2～0.6m、深さは約0.75～1mで、薬研状を呈する。平面形は「コ」の字状を呈する。現存する土塁との対応を考えると、北側土塁が一部現存し、溝と平行して土塁が巡っていたと考えられる。これに対し、南側は溝と土塁の接続部分で土塁の幅が狭まることから考えて、この部分で土塁が途切れていたと考えられる。なお、掘り込みは、曲輪Ⅶ(5号堀と6号堀の間)の造成後である。出土物は、第70図4の土師器皿が埋土中より出土しているほか、第166図200の小刀が曲輪Ⅶ造成面から出土している。

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	大鉢 (瓦質)				浅鉢形で、口縁部が明確に上方にまっすぐのびる。	外面がよく磨かれ、口縁部は2条の沈線間に菊文、その下に円形線文、体部に大きめの菊文を押捺する。	緑灰色	砂粒	良好	埋土中	1/10 残
2	内耳鍋 (H)	(33.0)	8.7	(21.8)	口唇部は平直。体部が外板状に立ち上がる。	内外面ともナデ。体部下端を削る。	褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/3 残 外面に煤付着

第22表 SD01遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
3	皿 (H)	(9.2)	2.7	(4.0)	12	b1	白色	砂粒 卵石 赤色=17粒	良好	埋土中	1/2 残

第23表 SD03遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
4	皿 (H)	(6.8)	1.6	(3.0)	11	b2	淡褐色	砂粒 卵石 赤色=17粒	良好	埋土中	1/3 残

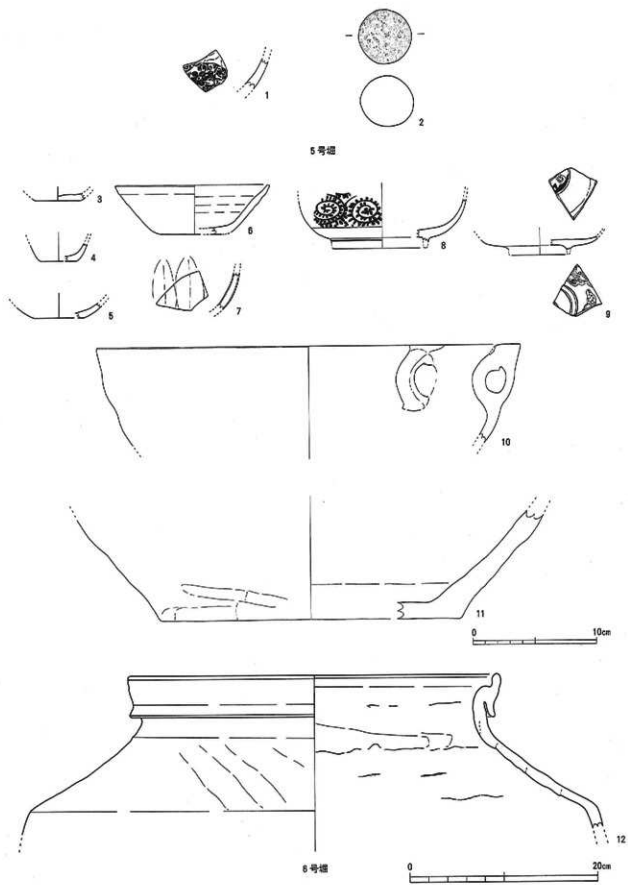
第24表 SD11遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
5	皿(骨白磁)			(4.0)	狭い高台を付す。		青白色	緻密 微細な黒色粒	良好	埋土中	底面破片

第25表 SD09遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	壺(朱付)					白地に藍色の染付け。	白藍色	緻密	良好	土層付込	破片
2	玉	長 4.3	幅 4.2	厚 4.0			淡褐色	大谷石	良好	埋土中層	武蔵?

第26表 5号堀遺物観察表



第72图 掘出土器物实测图

No.	器 種	寸法 (cm)			器形の特徵	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
3	皿 (H)			5.6	II	b2	淡褐色	砂粒 白色粒	良好	埋土中層	底部破片
4	皿 (H)			(2.8)	II	b	灰白色 淡褐色	砂粒	良好	埋土下層	破片
5	皿 (H)			(4.0)	II	b	淡褐色	砂粒 赤色o17粒	良好	埋土中層	破片
6	皿 (H)	(12.6)	3.9	(5.2)	II2	b1	暗褐色	砂粒	良好	木桶柱穴 埋土中	1/2残
7	碗(青磁)						緑灰色	緻密	良好	埋土中	破片
8	碗(灰付)						白地に青色	緻密	良好	埋土上層	破片
9	皿(灰付)						白地に青色	緻密	良好	埋土上層	破片
10	内耳鍋 (H)	(34.0)					暗褐色	砂粒 小石 金炭母	良好	埋土下層	破片
11	甕(常滑)			(24.0)	平底		明赤褐色	砂粒 小石	良好	埋土中	底部破片
12	甕(常滑)	(34.0)			縁帯が通下して頸部に接 着する。	内外面にヘラ ナダ。	暗赤褐色	砂粒 小石	良好	木桶付近 埋土中層	口縁部破片

第27表 6号堀遺物観察表

(2) 竪穴建物跡

竪穴建物跡はⅢ・Ⅳ次で7基、Ⅴ次で10基、Ⅵ次で23基、Ⅶ次で10基、Ⅷ次で2基の計52基を確認し、そのうちの39基を完掘した。

分布的には、Ⅰ、Ⅱ、Ⅶの曲輪以外に存在する。また、切り合い関係は、竪穴同士では確認できないが、堀や溝により切られる状況が数ヶ所で見られる。

ST01 (第73図)

調査次 Ⅲ・Ⅳ次 位置 G-4南東隅。重複 SK01に切られる。平面形 長方形で、西壁中央やや北寄りに入口施設を持つ。規模 長軸3.9m×短軸2.4m×深さ1.0m 主軸方向 N-73°-W 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 長軸上に4本、入口部分の階段上両脇に2本。埋土状況 人為一括埋土。網かけの部分は盛土され高くなっている。遺物 床面より古銭が8 (第30表・第160図5・7・9～11・23・37・38)、埋土中より小札5 (第164図159～163)、土師器皿が出土。

ST04 (第74・75図)

調査次 Ⅳ次 位置 T-37。重複 2号堀に南側が切られる。平面形 不明。規模 深さ1.0m 主軸方向 不明 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 不明。埋土状況 人為一括埋土。上層 (5・6層) にやや大き目の河原石が混入。さらに2号堀土塁 (3層) により覆われる。遺物 床面より土師器皿13と炭化物が多量に出土した。

ST05 (第76図)

調査次 Ⅳ次 位置 G-6北側。重複 3号堀の外側土塁が上層 (3・4層) にのる。平面形 長方形。規模 長軸2.5m×短軸2.0m×深さ0.7m 主軸方向 N-20°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 1本のみ確認。埋土状況 人為一括埋土。遺物 実測可能な遺物は無いが、土師器皿等が出土。

ST07 (第77・78図)

調査次 Ⅳ次 位置 G-10南西隅。平面形 長方形で、北壁中央やや西寄りに階段状の出入口を持つ。規模 長軸5.04m×短軸3.7m×深さ1.5m 主軸方向 N-12°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 全体的には平坦であるが、出入口に接続する部分で盛り土による高まりは見られる。柱穴 長軸上に2本、出入口部分に3本。埋土状況 下層から中層 (6～8層) にかけて多量に石を投棄後自然堆積 (1～5層)。遺物 実測可能な遺物は、土師器皿2、須恵質鉢1、青磁2。

ST08 (第79図)

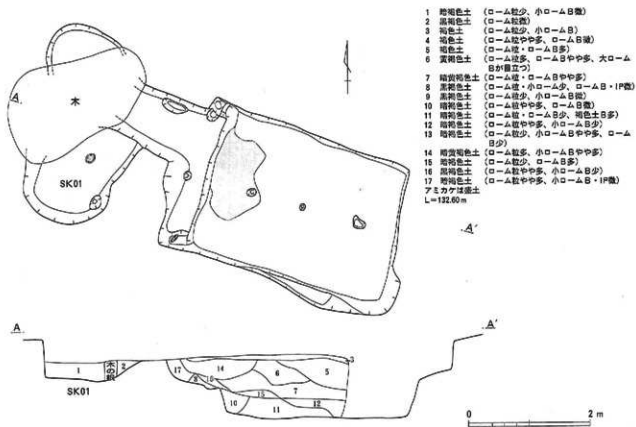
調査次 第IV次 位置 T-8西側。重複 3号堀に切られる。平面形 不明。規模 深さ1.0m 主軸方向 不明 壁 垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 不明。埋土状況 人為一括埋土。その上に3号堀の土塁(6層)がのる。遺物 無。

ST10 (第80図)

調査次 第V次 位置 G-1。重複 4号堀に切られる。平面形 長方形。規模 短軸1.3m×深さ0.5m 主軸方向 N-4°-W 壁 やや緩く立ち上がる。床面 平坦。柱穴 長軸上に3本。埋土状況 自然堆積。遺物 埋土中に河原石が若干混入。

ST11 (第81~85図)

調査次 第V次 位置 G-3。重複 SK18に切られる。平面形 長方形で、長辺(南側)と短辺(西側)の二方向に入口施設を持つ。規模 長軸9.35m×短軸4.6m×深さ1.2m 主軸方向 N-6°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 長軸上に7本、南側入口部分の階段両脇に2本と先端に1本、西側入口部分の階段上両脇に2本(1本は棟持柱と兼用)と先端に1本。埋土状況 人為一括埋土。遺物 埋土中から多量の遺物が出土。特に常滑大甕(30)は南東部から1個体分がまとめて出土。実測可能な遺物は、土師器皿19、鉢1、瀬戸折縁深皿2、天目茶碗1、青磁2、常滑大甕5、常滑片口鉢1、古銭4(第30表・第160図15・24・41・42)、小札11(第164図164~174)、鉄釘20(第162図1~20)、鉄鎌1(第166図197)、手斧1(第167図203)、石臼1、不明鉄製品2(第167図210・213)。

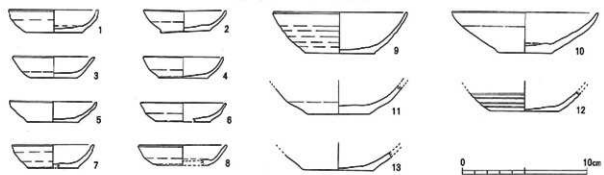


第73図 ST01平・断面図



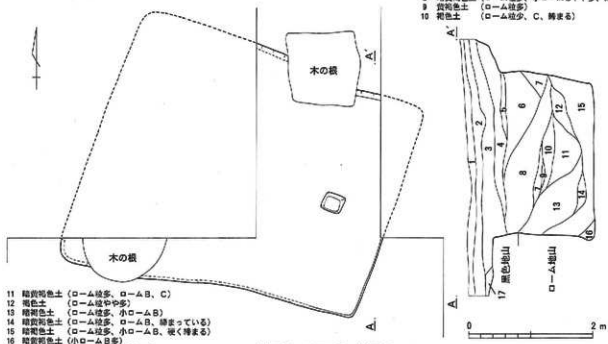
- 1 暗栗褐色土 (ローム粒・小ロームB・ロームBやや多)
 - 2 暗褐色土 (ローム粒・ロームB少)
 - 3 灰褐色土 (ローム粒少、小ロームB粒)
 - 4 暗褐色土 (ローム粒少、KPF粒、硬く締まる、膠地面)
 - 5 暗褐色土 (ローム粒少)
 - 6 褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB少、IP・SP粒)
 - 7 暗褐色土 (ローム粒少、小ロームB粒)
 - 8 褐色土 (ローム粒・小ロームBやや多)
 - 9 暗褐色土 (ローム粒・小ロームB少)
 - 10 褐色土 (ローム粒・小ロームBやや多)
 - 11 暗褐色土 (ローム粒・小ロームB・ロームBやや多、C少、硬く締まる)
 - 12 褐色土 (ローム粒やや多、炭かく砂質)
 - 13 灰褐色土 (ローム粒少、粘多)
 - 14 暗褐色土 (ローム粒)
 - 15 暗褐色土 (ローム粒多、小ロームB・C少)
 - 16 暗褐色土 (ローム粒・小ロームB・Cやや多、硬く締まる)
 - 17 暗褐色土 (ローム粒少、小ロームBやや多、硬く締まる)
 - 18 灰褐色土 (ローム粒多)
 - 19 暗褐色土 (ローム粒・KPF少)
 - 20 暗褐色土 (ローム粒・小ロームB少)
 - 21 暗栗褐色土 (ローム粒・小ロームB少)
 - 22 暗褐色土 (ローム粒多、KPF・小KPF少)
 - 23 暗褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB少)
 - 24 暗褐色土 (ローム粒・小ロームBやや多、KPF少)
 - 25 灰褐色土 (小ロームB少、灰やや多)
 - 26 暗褐色土 (ローム粒・ロームBやや多)
- L=133.30m

第74図 ST04平・断面図



第75図 ST04出土遺物実測図

- 1 暗褐色土 (ローム粒多、炭か)
- 2 暗褐色土 (ローム粒多、炭か)
- 3 暗褐色土 (ローム粒やや多、C、硬土、締まる)
- 4 暗褐色土 (ローム粒多、ロームB少、C、締まる)
- 5 灰褐色土 (ローム粒・ロームB多)
- 6 暗褐色土 (ローム粒・ロームBやや多、C、締まる)
- 7 褐色土 (ローム粒少)
- 8 暗栗褐色土 (ローム粒多、小ロームBやや多、締まっている)
- 9 灰褐色土 (ローム粒多)
- 10 褐色土 (ローム粒少、C、締まる)

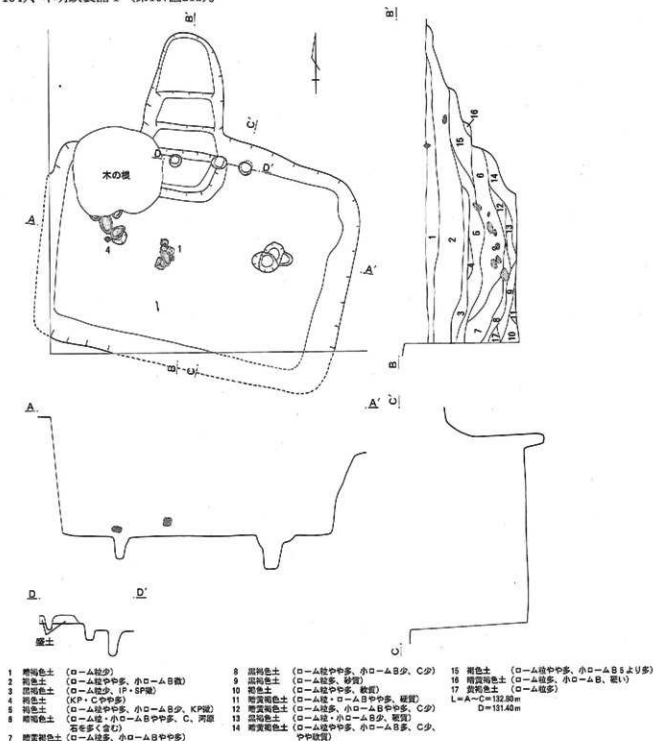


- 11 暗栗褐色土 (ローム粒多、ロームB、C)
 - 12 褐色土 (ローム粒やや多)
 - 13 暗褐色土 (ローム粒多、小ロームB)
 - 14 暗栗褐色土 (ローム粒多、ロームB、締まっている)
 - 15 暗栗褐色土 (ローム粒多、小ロームB、硬く締まる)
 - 16 暗栗褐色土 (小ロームB多)
 - 17 褐色土 (ローム粒少、炭か)
- L=133.00m

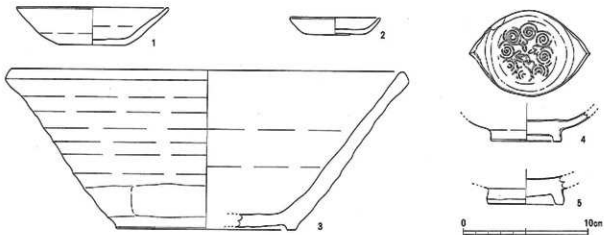
第76図 ST05平・断面図

ST12 (第86・87図)

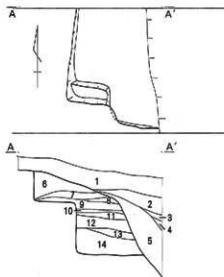
調査次 第V次 位置 G-3北西側。平面形 長方形で、南側に入口施設を持つ。規模 長軸5.15m × 短軸2.7m × 深さ0.86m 主軸方向 N-7°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 入口部分がやや高くなる。柱穴 長軸上に3本、南側入口部分に3本。埋土状況 人為一括埋土。遺物 床面から瀬戸卸皿と青銅製香炉が転倒した状況で出土した。実測可能な遺物は、土師器皿4、鉢1、火鉢1、常滑大甕1、瀬戸卸皿1、青磁碗1、青銅製香炉1 (第87図)、鞍1、不明青銅品1 (第161図4・5)、鉄鍔1 (第166図194)、不明鉄製品1 (第167図218)。



第77図 ST07平・断面図

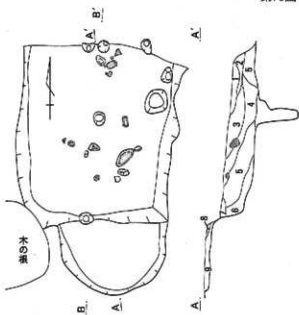


第78図 ST07出土遺物実測図



第79図 ST08平・断面図

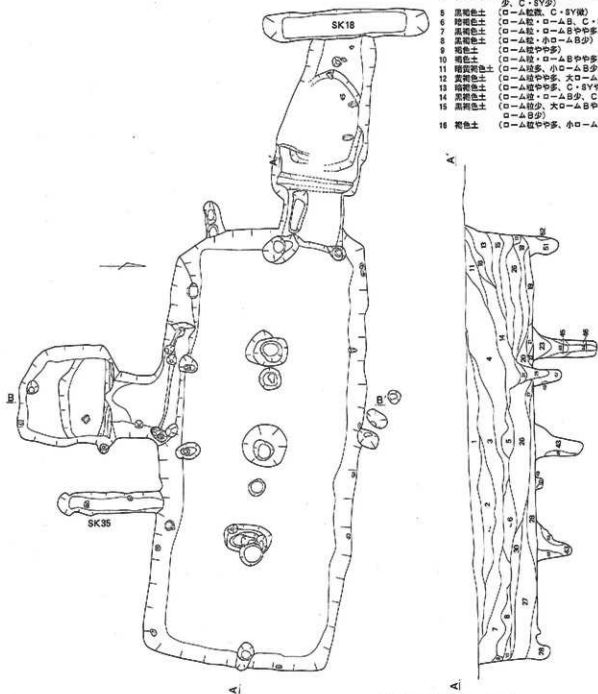
- 1 明褐色土 (ロ-ム粒少、腐植土層)
 - 2 黄褐色土 (ロ-ム粒・大ロ-ムB多、KP中中多、網走層)
 - 3 暗褐色土 (ロ-ム粒中中多、小ロ-ムB多、大ロ-ムB少、KP、網走層)
 - 4 黄褐色土 (ロ-ム粒多、大ロ-ムB中中多、KP、網走層)
 - 5 黄褐色土 (ロ-ム粒中中多、小ロ-ムB少、KP、網走層)
 - 6 褐色土 (ロ-ム粒少、炭がら)
 - 7 暗褐色土 (ロ-ム粒少、大ロ-ムB、硬質)
 - 8 褐色土 (ロ-ム粒少、硬)
 - 9 粘黄褐色土 (ロ-ム粒中中多、小ロ-ムB少、硬質)
 - 10 黄褐色土 (ロ-ム粒少、硬質)
 - 11 暗褐色土 (ロ-ム粒少、小ロ-ムB中中多、IP、硬質)
 - 12 黄褐色土 (ロ-ム粒中中多、小ロ-ムB少、硬質)
 - 13 褐色土 (ロ-ム粒少、硬質)
 - 14 暗褐色土 (ロ-ム粒中中多、ロ-ムB少、IP、硬質)
- L=129.70m



第80図 ST10平・断面図

- 1 茶褐色土 (ロ-ム粒中中多、KP少)
 - 2 茶褐色土 (ロ-ム粒中中多、KP1より少ない)
 - 3 暗褐色土 (ロ-ム粒少、KP微、網走層)
 - 4 黄褐色土 (ロ-ム粒中中多、小ロ-ムB少、SY・C)
 - 5 黄褐色土 (ロ-ム粒中中多、大ロ-ムB、SY・C中中多)
 - 6 黄褐色土 (ロ-ム粒中中多、小ロ-ムB少、SY・C中中多)
 - 7 茶褐色土 (ロ-ム粒多)
 - 8 暗黄褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB中中多)
 - 9 褐色地山
- L=131.30m

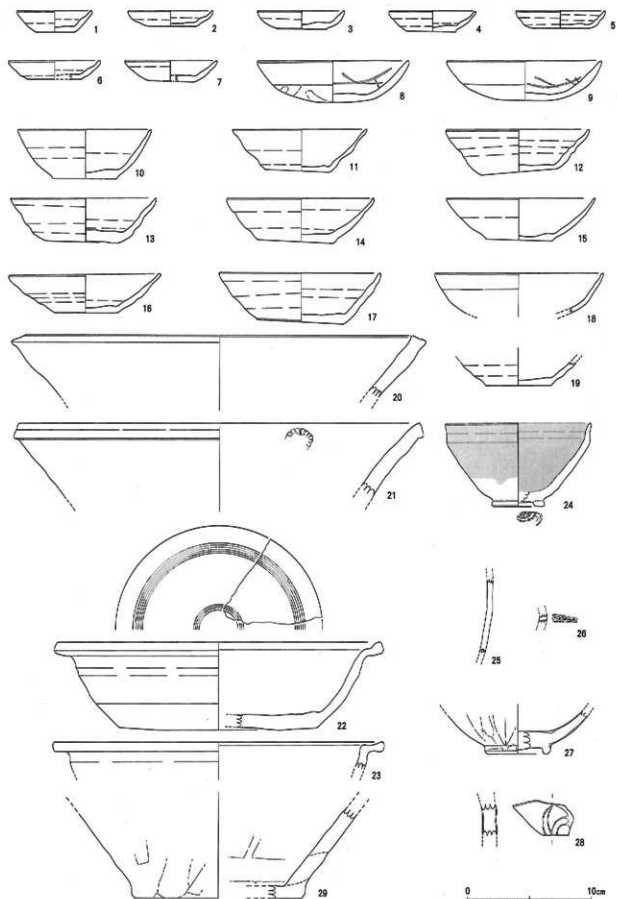
- 1 褐色土 (ロ-ム粒・C・白色粒状)
- 2 暗褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB・SY散)
- 3 黒褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB少、C中多、SY少)
- 4 暗黄褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB中多、ロ-ムB少、C・SY少)
- 5 黒褐色土 (ロ-ム粒・C・SY散)
- 6 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB・C・SY散)
- 7 黒褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB中多、C・SY散)
- 8 黒褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB少)
- 9 暗褐色土 (ロ-ム粒中多)
- 10 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB中多)
- 11 暗黄褐色土 (ロ-ム粒多、小ロ-ムB少、C散)
- 12 黄褐色土 (ロ-ム粒中多、大ロ-ムB多)
- 13 暗褐色土 (ロ-ム粒中多、C・SY中多)
- 14 黄褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB少、C・SY少)
- 15 黒褐色土 (ロ-ム粒少、大ロ-ムB中多、小ロ-ムB少)
- 16 褐色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB散)



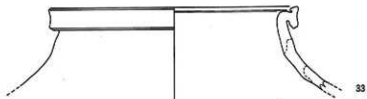
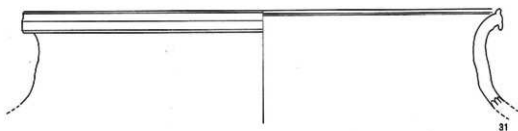
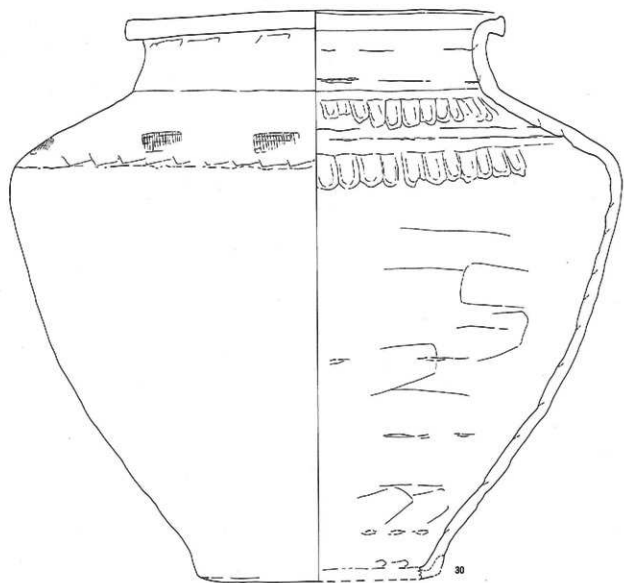
- 17 黒褐色土 (ロ-ム粒やや多、や軟らかい)
- 18 黄褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB多、ロ-ムB中多)
- 19 黄褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB中多)
- 20 黄褐色土 (ロ-ム粒多、ロ-ムB中多)
- 21 黄褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB多)
- 22 黒褐色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB散)
- 23 褐色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB散、やや軟らかい)
- 24 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB少)
- 25 褐色土 (ロ-ム粒やや多、小ロ-ムB少、軟らかい)
- 26 褐色土 (ロ-ム粒多、小ロ-ムB中多、ロ-ムB少、締まっている)
- 27 暗褐色土 (ロ-ム粒多、ロ-ムB中多、締まっている)
- 28 暗褐色土 (ロ-ム粒中多、硬い)
- 29 褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB中多)

- 30 黄褐色土 (ロ-ム粒散)
- 31 褐色土 (ロ-ム粒中多、軟らかい)
- 32 褐色土 (ロ-ム粒多、ロ-ムB中多、小ロ-ムB少)
- 33 黄褐色土 (ロ-ム粒少、ロ-ムB散)
- 34 黄褐色土 (ロ-ム粒少、C中多、SY散)
- 35 黄褐色土 (ロ-ム粒・大ロ-ムB中多)
- 36 黄褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB少)
- 37 褐色土 (ロ-ム粒多、小ロ-ムB中多)
- 38 褐色土 (ロ-ム粒中多、硬い)
- 39 褐色土 (ロ-ム粒少、や軟らかい)
- 40 暗褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB少、硬い)
- 41 暗褐色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB少、締まっている)
- 42 暗褐色土 (ロ-ム粒やや多、小ロ-ムB少、締まっている)
- 43 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB多、K中)
- 44 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB多、K中)
- 45 黄褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB多、K中多)
- 46 黄褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB多、K中多)
- 47 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB多、暗褐色土少)
- 48 暗褐色土 (ロ-ム粒多、ロ-ムB多)
- 49 暗褐色土 (ロ-ム粒多)
- 50 暗褐色土 (ロ-ム粒多)
- 51 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB多、暗褐色土少)
- 52 黄褐色土 (ロ-ム粒多)

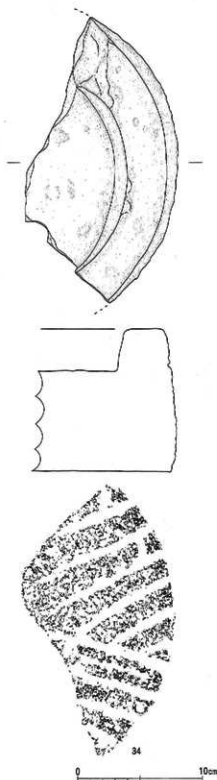
第81図 ST11平・断面図



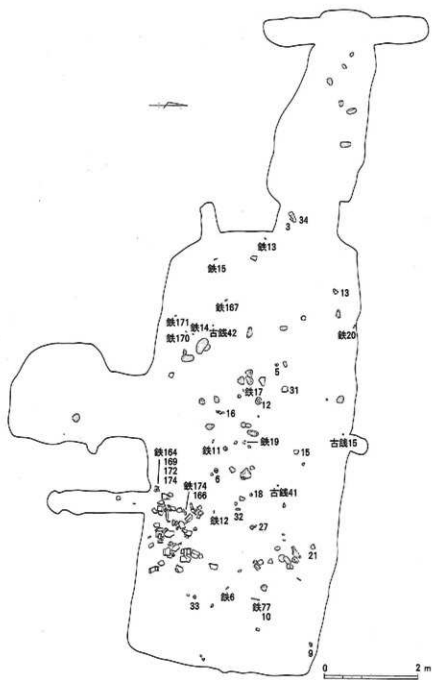
第82图 ST11出土遗物实测图(1)



第63图 ST11出土遺物実測図(2)



第84図 ST11出土遺物実測図(3)

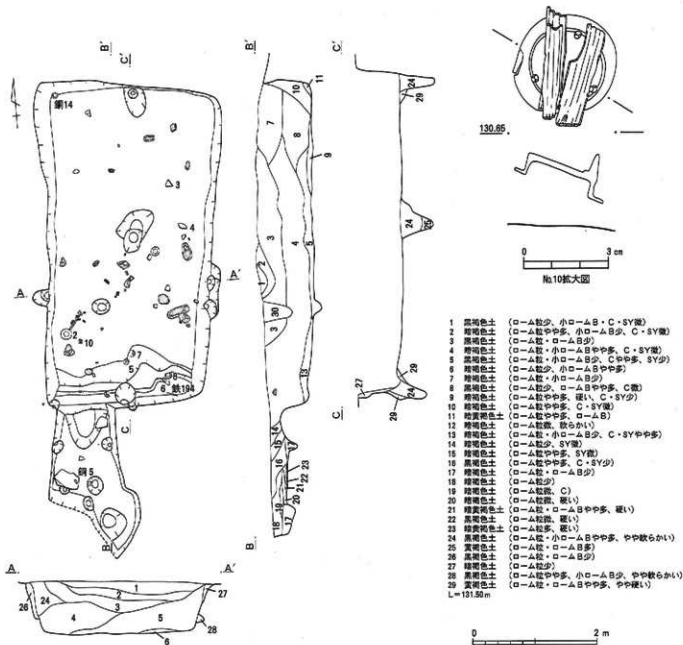


第85図 ST11遺物平面図

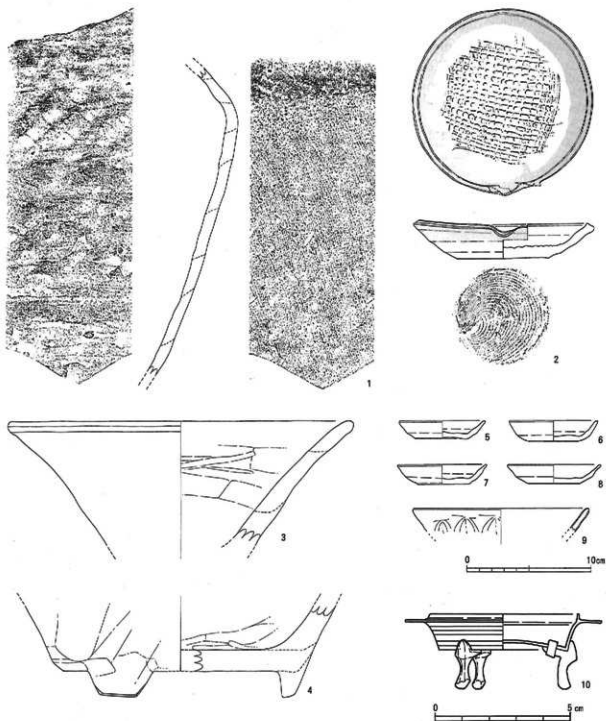
ST13 (第88~92図)

調査次 第V・Ⅷ次 位置 G-7 杭付近。平面形 南北に長い長方形で、南と西側に出入口施設を持つ。

規模 長軸6.2m×短軸5.0m×深さ1.42m 主軸方向 N-4°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面平坦。柱穴 長軸上に3本、南側入口部分に4本、西入口部分に2本。埋土状況 下層(16・18層)中に多量の河原石が混入し、それより上層は自然堆積。遺物 床面からは、茶臼、瀬戸折縁深皿等多量の遺物が出土した。尚、青銅製獅子鈕は茶臼の直上から横たわった状態で出土した。実測可能な遺物は、土師器皿34、青磁碗1、青磁片3、青白磁梅瓶5、陶枕1、瀬戸折縁深皿1、天目1、白磁小鉢1、常滑壺2、片口鉢1、黄楊釉壺片7、土師器鉢1、鉄釘29(第162図21~49)、鉄鎌2(第166図195・199)、刀子1(第166図192)、小札2(第164図175・176)、砥石1、茶臼1(第91図62・63)、青銅製獅子鈕1(第161図1)、小鈎1(第161図10)、古銭3(第30表・第160図16・36・43)。



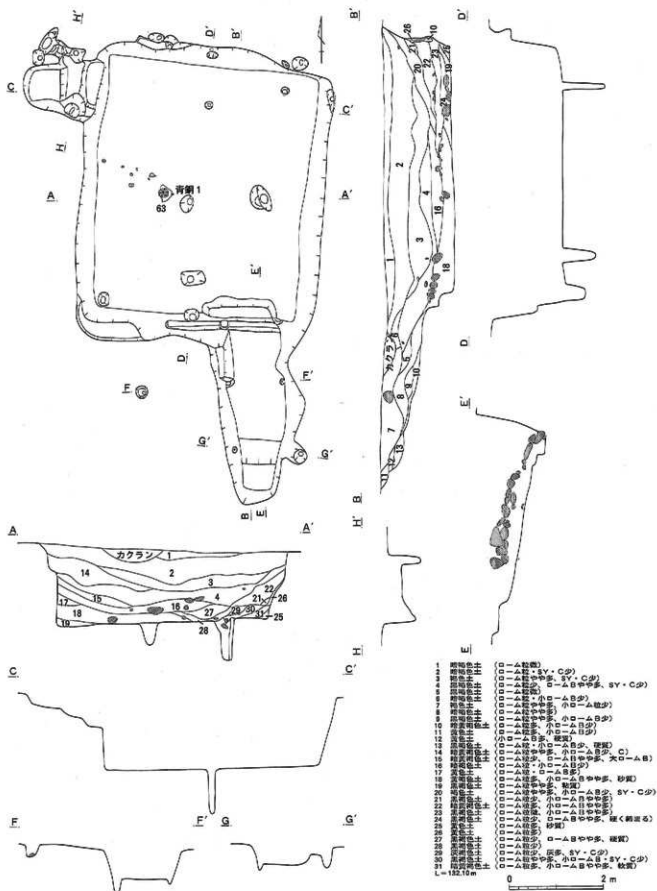
第86図 ST12平・断面図

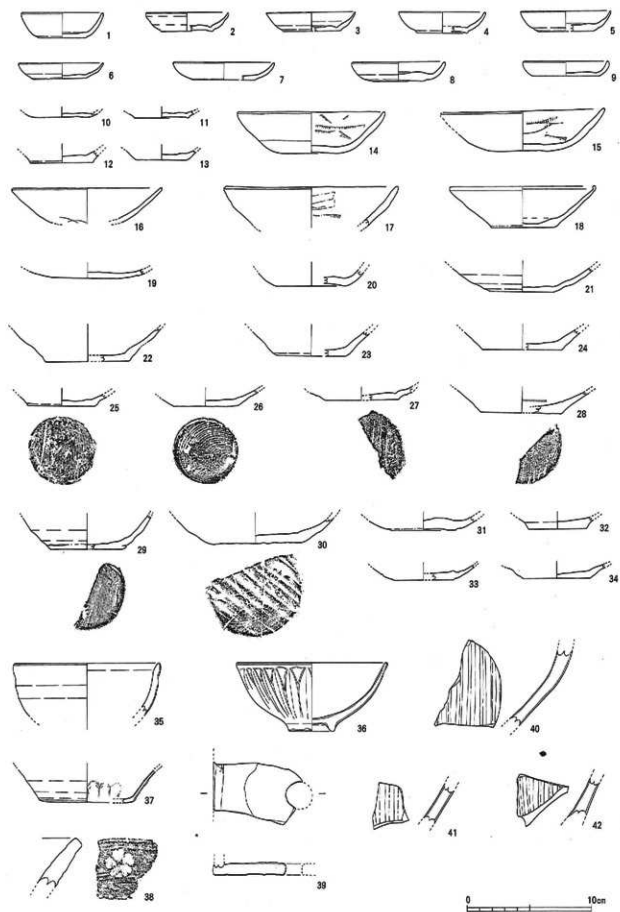


第87図 ST12出土遺物実測図

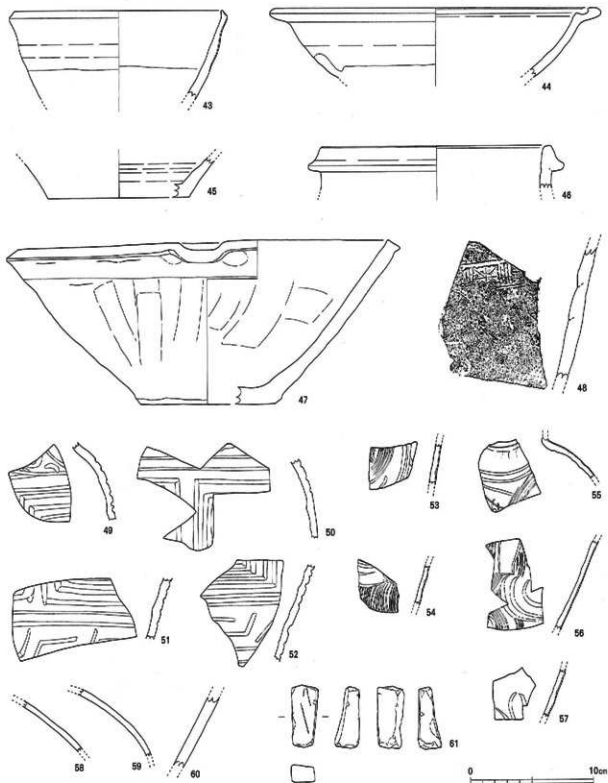
ST14 (第93~95図)

調査次 第V次 位置 G-7 杭付近、ST13の北西側約3m。平面形 方形で、南側に出入口施設を持つ。規模 長軸3.7m×短軸3.2m×深さ1.15m 主軸方向 N-0°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 外側に4本。埋土状況 人為一括埋土。埋土中に炭化物及び焼土を多く含む。遺物 土師器皿が埋土中より多量に出土。実測可能な遺物は、土師器皿97、青銅製足金物1(第161図6)、鉄釘9(第162図50~58)、古銭1(第30表44)。





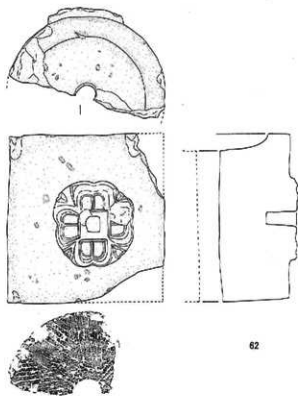
第89图 ST13出土遺物実測図(1)



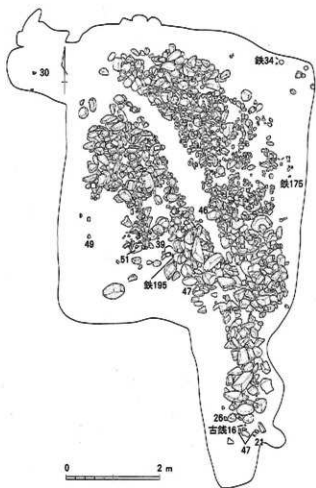
第90図 ST13出土遺物実測図(2)

ST15 (第96~99図)

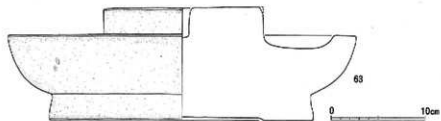
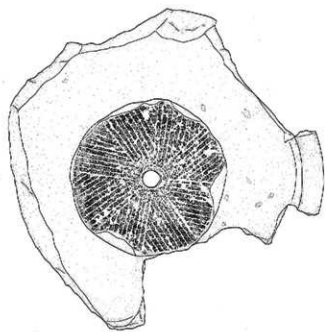
調査次 第V次 位置 G-8 杭付近、ST13の北東側約10m。重複 SB16と重複。平面形 長方形で、南側に階段状の出入口施設を持つ。規模 長軸6.3m×短軸4.7m×深さ1.13m 主軸方向 N-16°-E



62



第92圖 ST13遺物平面圖



第91圖 ST13出土茶臼美測圖

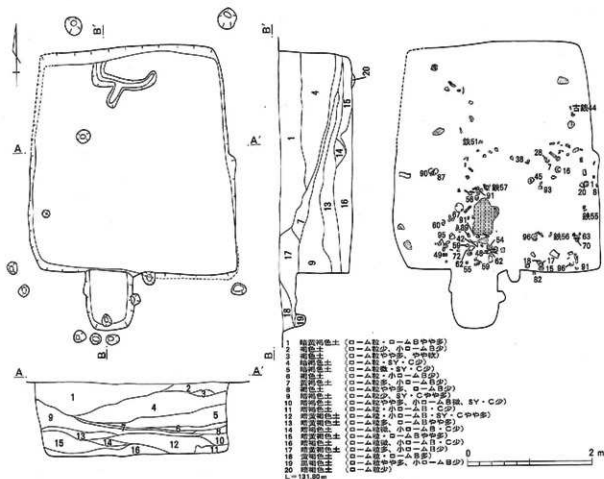
壁 垂直に立ち上がる。床面 平坦で、点線内は非常に硬くしめる。柱穴 棟持柱は長軸上の3（2本しか確認していない）本で、その他に浅い小さな穴が10本確認できた。また、入口施設に関係あると思われる柱穴は2本。埋土状況 自然堆積。遺物 実測可能な遺物は、土師器皿16、常滑壺3、瀬戸碗2、青磁2、褐釉壺2、青銅製小鉤1（第161図11）、座金具1（第161図7）、不明花形製品2（第161図12・13）、覆輪（第161図3）、鉄釘32（第162・163図59～90）、小札4（第165図177～180）、鉄鎌1（第166図198）、毛抜き1（第167図204）、不明鉄製品3（第167図211・212・217）、古銭1（第160図12）、不明石製品2。

ST16（第100・101図）

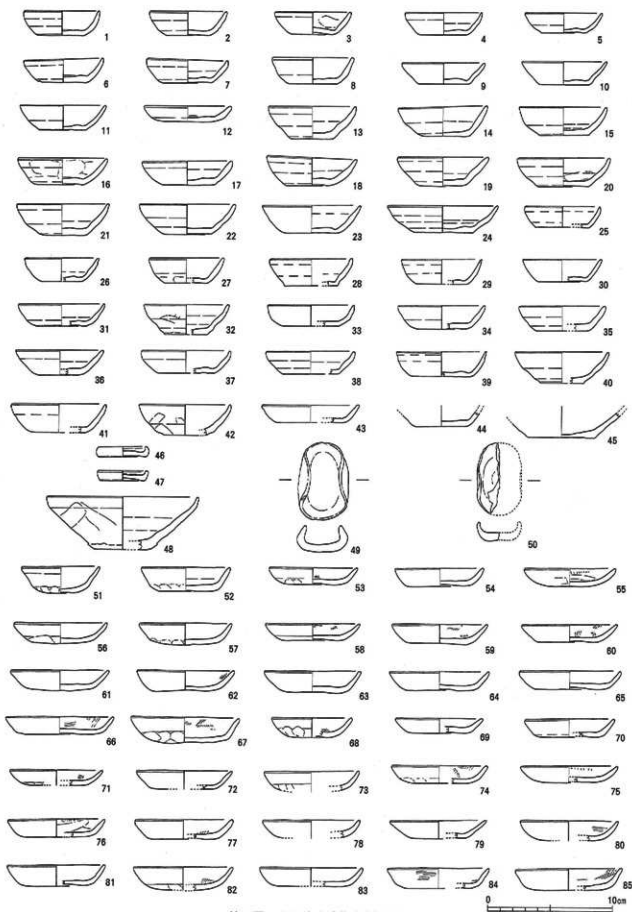
調査次 第六次 位置 G-12。平面形 長方形。規模 長軸5.35m×短軸2.0m×深さ1.0m 主軸方向 N-4°-E 壁 やや緩く立ち上がる。床面 平坦。柱穴 無。埋土状況 人為一括埋土。遺物 実測可能な遺物は、土師器皿1、古銭1（第160図26）、不明鉄製品4（第167図206・219～221）。

ST17（第100・101図）

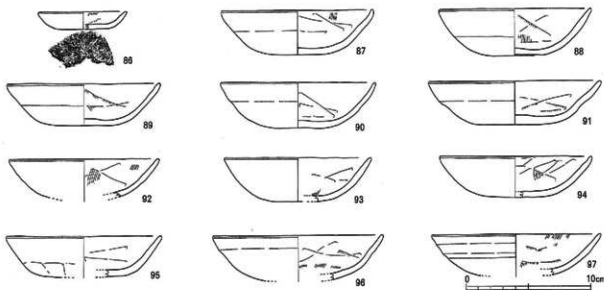
調査次 第六次 位置 G-15掘。重複 SI01を切る。平面形 方形。規模 長軸2.0m×短軸1.9m×深さ1.3m 主軸方向 N-3°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 無。埋土状況 人



第93図 ST14平・断面・遺物平面図



第94图 ST14出土遗物实测图(1)



第95図 ST14出土遺物実測図(2)

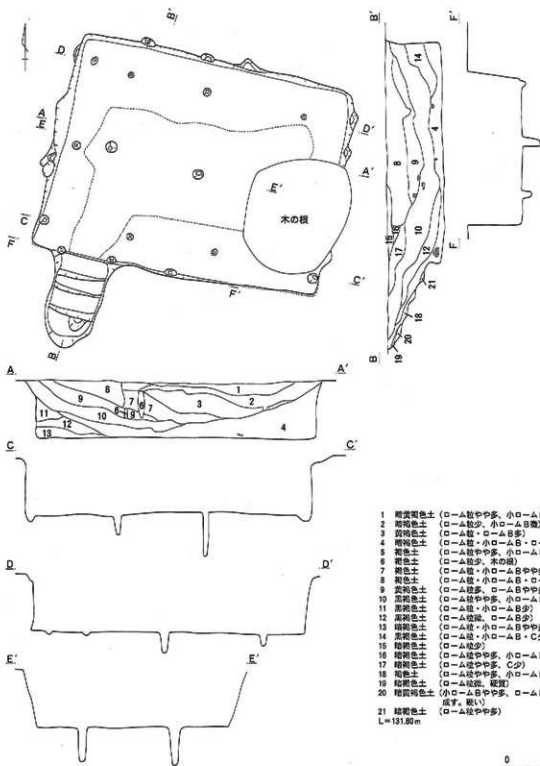
為一括埋土。遺物 実測可能な遺物は、土師器皿3、古銭2（第30表・第160図2・50）、鉄釘2（第163図103・104）、小札2（第165図181・182）、不明鉄製品1（第167図209）、青銅品1（第161図8）。

ST21（第102～105図）

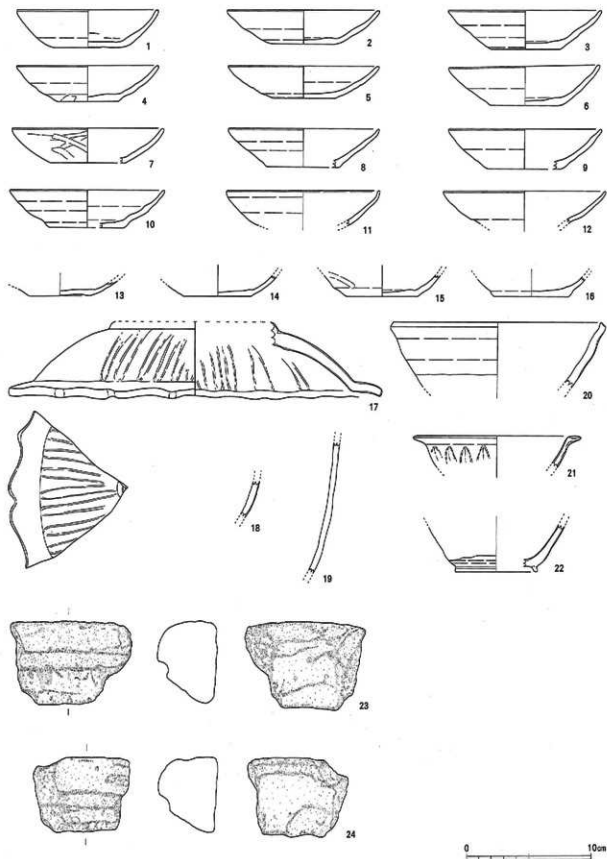
調査次 第VI次 位置 G-13。平面形 長方形で、長辺東側の中央に入口施設を持つ。規模 長軸8.0m×短軸3.8m×深さ1.2m 主軸方向 N-9°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦、出入口部分が盛り土により1段高くなる。柱穴 長軸上に4本、入口部分の階段下両脇に2本。長軸上の4本の柱間間隔は1.8m（6尺）である。また、北から2本目の柱穴には平らな河原石が据えられていた。埋土状況 1層は自然堆積、2層以下は人為的一括埋土で、その中に多量の河原石が混入。遺物 埋土中より瀬戸、常滑、青磁等が出土。また、甕（第167図201・202）は床直から出土。実測可能な遺物は、土師器皿5、瀬戸戸皿1、四耳壺2、青磁2、常滑甕6、鉄釘1（第163図108）、磁石2。

ST22（第106～109図）

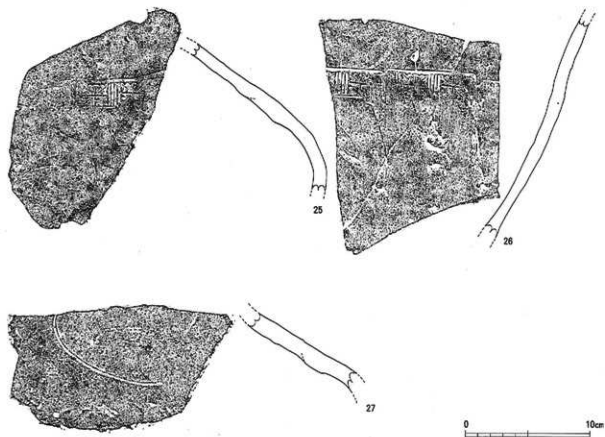
調査次 第VI次 位置 G-13、ST21の南西側。平面形 L字形で、曲家風の建物跡である。北側にあたる東西に長い室を奥室とし、これと直交する南側にあたる南北に長い室を前室とし、さらに南側の張り出しを出入口部とすると、奥室と前室とは、前室の方が奥室より20cm程床が上がり、さらに出入口部は前室より80cmほど上がる。規模 奥室 長軸6.5m×短軸3.4m×深さ1.3m 前室 長軸3.6m×短軸3.0m×深さ1.1m 出入口部 長軸2.4m×短軸1.2m×深さ0.3m 主軸方向 N-4°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。奥室の柱穴間に間仕切り溝のようなものが見られる。柱穴 奥室 長軸上に3本 柱間間隔は2.0m（6.6尺） 前室 奥室側3本、出入口部側3本の計6本。出入口部は2本。埋土状況 1層は自然堆積、2層以下は人為的一括埋土。6層以下に多量の川原石が南側から投げ捨てられた様な状況で出土。遺物 瀬戸、常滑、青磁、鉄釘、古銭等多量に出土。尚、ST21の遺物との接合関係がある。実測可能な遺物は、土師器皿2、瀬戸折縁深皿2、四耳壺1、瓶子4、青磁3、青白磁2、常滑甕8、石鉢1、碗2、碁石1、鉄釘12（第163図91～102）、刀子1（第166図190）、毛抜き1（第167図208）、不明鉄製品1（第167図216）、



第96図 ST15平・断面図



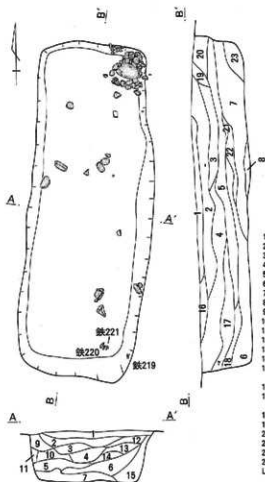
第97图 ST15出土遺物実測図(1)



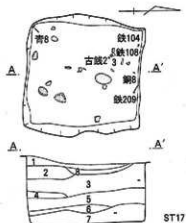
第98図 ST15出土遺物実測図②



第99図 ST15遺物平面図



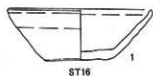
ST16



ST17

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色土 (ロ-A粒少, SY・C散) | 1 褐色土 (ロ-A粒・小ロ-AB少) |
| 2 暗褐色土 (ロ-A粒多) | 2 褐色土 (ロ-A粒中多, 小ロ-AB少) |
| 3 褐色土 (ロ-A粒・小ロ-AB中多) | 3 暗褐色土 (ロ-A粒中多, ロ-AB少, C) |
| 4 暗褐色土 (ロ-A粒・ロ-AB少) | 4 褐色土 (ロ-A粒多, ロ-AB中多) |
| 5 暗褐色土 (ロ-A粒・ロ-AB中多, SY, C) | 5 暗褐色土 (ロ-A粒・ロ-AB少, C) |
| 6 暗褐色土 (ロ-A粒・ロ-AB中多, C少) | 6 暗褐色土 (ロ-A粒多, 小ロ-AB・ロ-AB少) |
| 7 暗褐色土 (ロ-A粒多) | 7 暗褐色土 (ロ-A粒少, ロ-AB中多, 雑多) |
| 8 褐色土 (ロ-A粒中多) | 8 暗褐色土 (ロ-A粒散) |
| 9 暗褐色土 (ロ-A粒・ロ-AB中多) | L=130.80m |
| 10 暗褐色土 (ロ-A粒・ロ-AB中多) | |
| 11 褐色土 (ロ-A粒少) | |
| 12 褐色土 (ロ-A粒多) | |
| 13 暗褐色土 (ロ-A粒少, 灰, C, Na) | |
| 14 暗褐色土 (ロ-A粒散, C, Na) | |
| 15 暗褐色土 (ロ-A粒・小ロ-AB中多, ロ-A B少, C) | |
| 16 褐色土 (ロ-A粒・ロ-AB中多) | |
| 17 褐色土 (ロ-A粒・小ロ-AB中多, ロ-A B, C中多) | |
| 18 褐色土 (ロ-A粒中多) | |
| 19 暗褐色土 (ロ-A粒・小ロ-AB・C中多) | |
| 20 暗褐色土 (ロ-A粒散, 灰少, C) | |
| 21 暗褐色土 (ロ-A粒少, C) | |
| 22 暗褐色土 (ロ-A粒・小ロ-AB中多) | |
| 23 暗褐色土 (小ロ-AB中多, ロ-AB少) | |

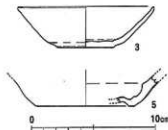
第100図 ST16・17平・断面図



ST16



ST17

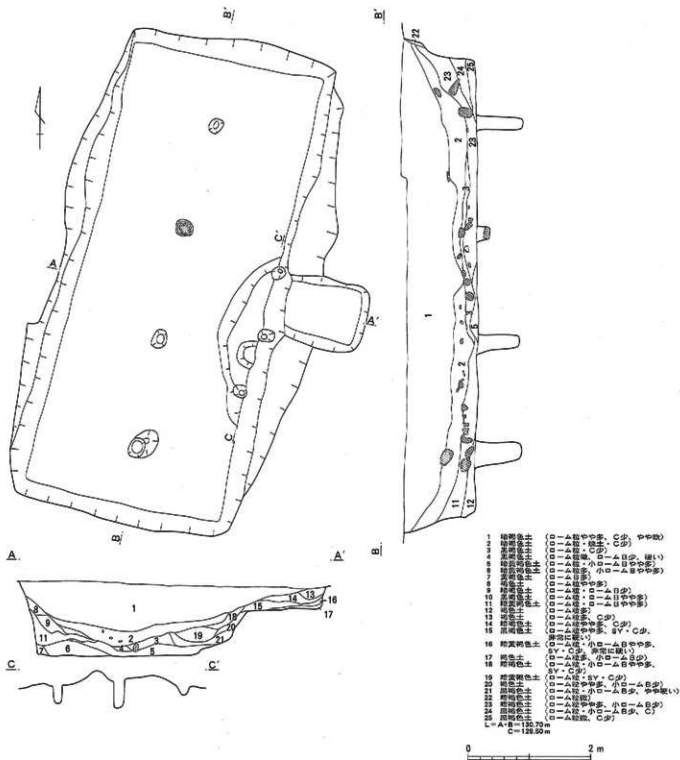


第101図 ST16・17出土遺物実測図

古銭2 (第160図4・6)。

ST23 (第110~112図)

調査次 第VI次 位置 G-15。平面形 長方形で東側に階段状の出入口施設を持つ。規模 長軸6.1m × 短軸2.6m × 深さ1.4m 主軸方向 N-2°-E 壁 やや緩やかに立ち上がる。床面 溝状の遺構と土坑を4カ所確認。そのうち土坑の大きなものは、上幅の直径が1~1.2m、下幅0.5~0.6m、深さが0.6~0.7mである。両方とも人為的に埋められた状況が観察できる。柱穴 入口脇に1本確認できた。埋土状況 上層(1・2層)は自然堆積で、中層(3層)以下は人為一括埋土。4・25層埋土中及び東側出

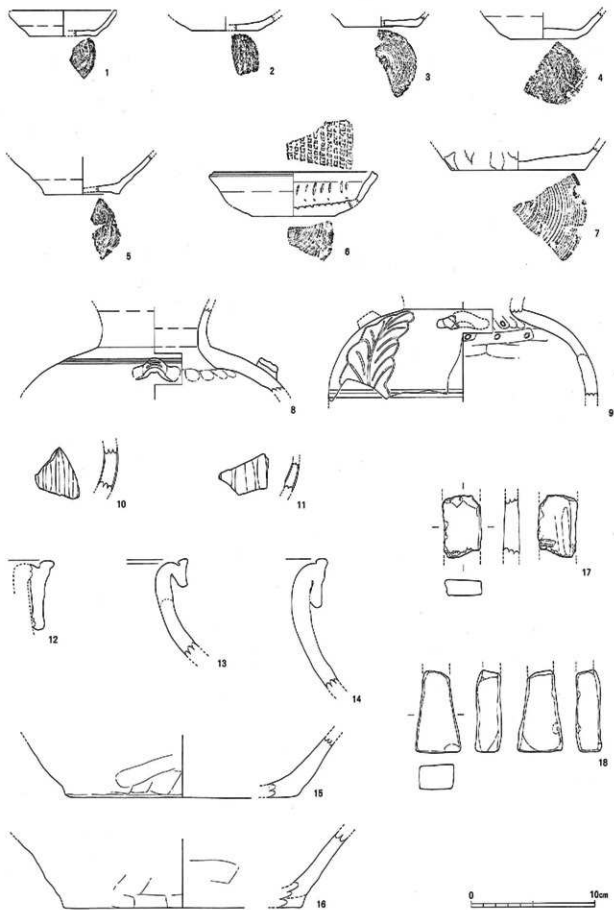


第102図 ST21平・断面図

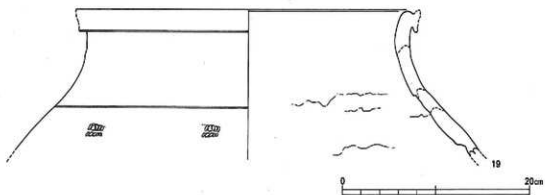
入口部分埋土中に多量の河原石が混入。遺物 実測可能な遺物は、土師器皿7、火鉢1、瀬戸御皿1、瓶子2、片口鉢1、碗1、常滑壺5、鉄釘1(第163図109)、古銭1(第30表47)。

ST24

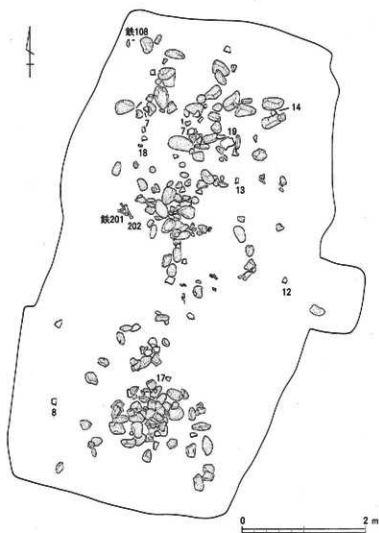
調査次 第VI次 位置 M-1杭付近。平面形 不明。規模 不明。主軸方向 不明。壁 不明。床面 不明。柱穴 不明。埋土状況 人為一括埋土。遺物 実測可能な遺物は土師器皿1(第119図1)。



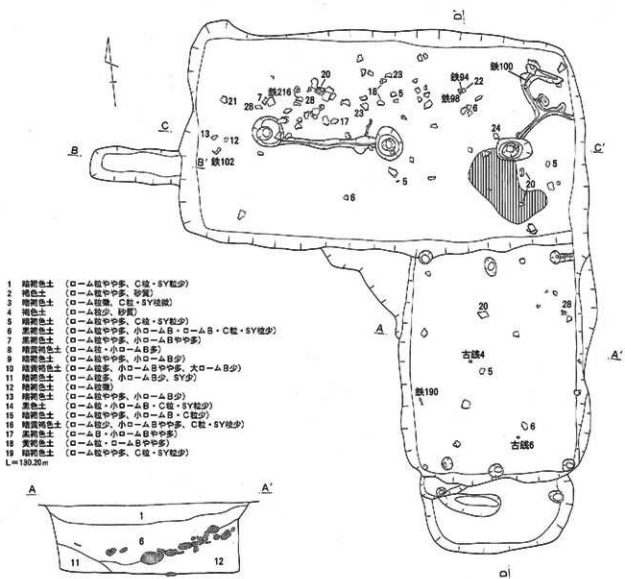
第103图 ST21出土文物实测图(1)



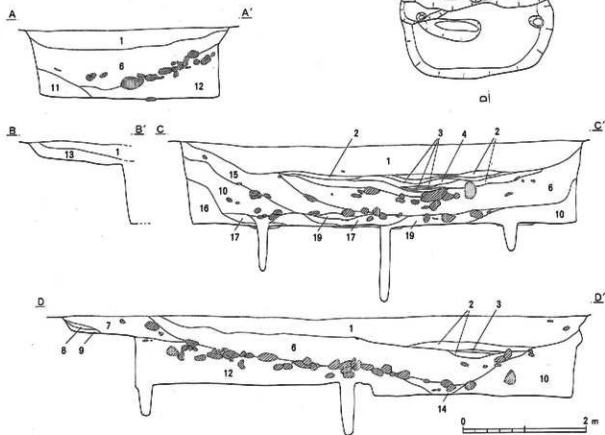
第104図 ST21出土遺物実測図(2)



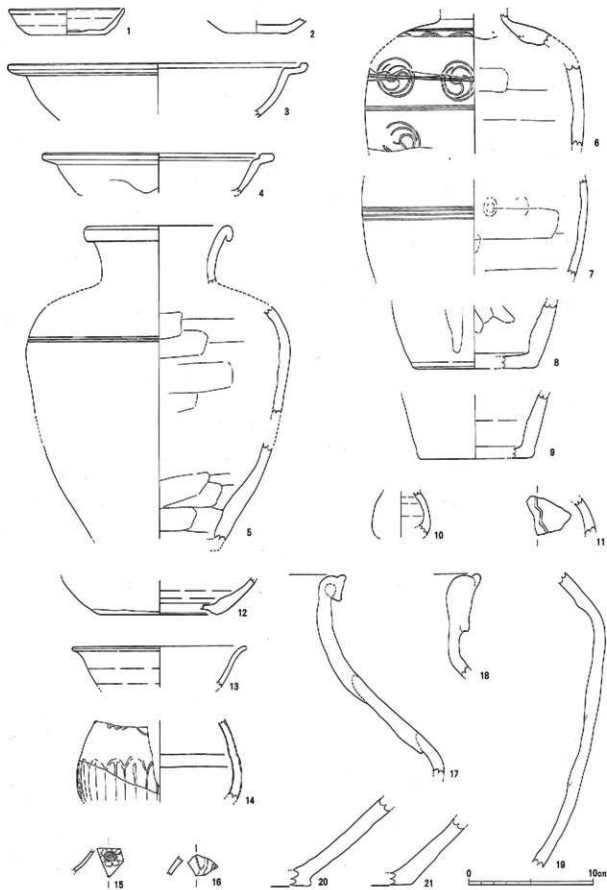
第105図 ST21遺物平面図



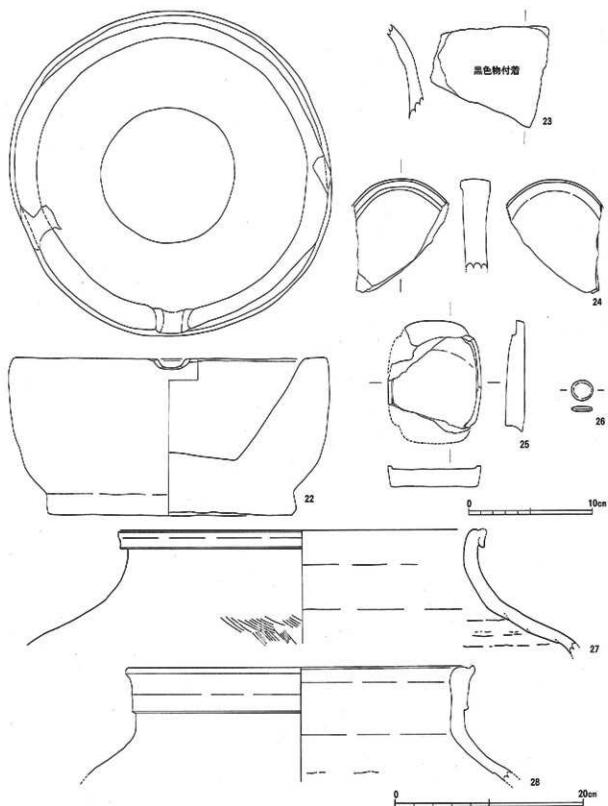
- 1 粉紫色土 (ロ-ム粒中多、C粒・SY粒少)
 - 2 褐色土 (ロ-ム粒中多、砂質)
 - 3 粉紫色土 (ロ-ム粒微、C粒・SY粒微)
 - 4 褐色土 (ロ-ム粒少、砂質)
 - 5 粉紫色土 (ロ-ム粒中多、C粒・SY粒少)
 - 6 黄褐色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB・ロ-ムB・C粒・SY粒少)
 - 7 黄褐色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB中多)
 - 8 黄褐色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB中多、大ロ-ムB少)
 - 9 粉紫色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB少、SY少)
 - 10 粉紫色土 (ロ-ム粒微)
 - 11 粉紫色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB少)
 - 12 粉紫色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB少)
 - 13 黄褐色土 (ロ-ム粒、小ロ-ムB・C粒・SY粒少)
 - 14 黄褐色土 (ロ-ム粒中多、小ロ-ムB・C粒少)
 - 15 粉紫色土 (ロ-ム粒少、小ロ-ムB中多、C粒・SY粒少)
 - 16 黄褐色土 (ロ-ムB・小ロ-ムB中多)
 - 17 黄褐色土 (ロ-ムB・ロ-ムB中多)
 - 18 粉紫色土 (ロ-ム粒中多、C粒・SY粒少)
- L=130.20m



第106图 ST22平·断面图



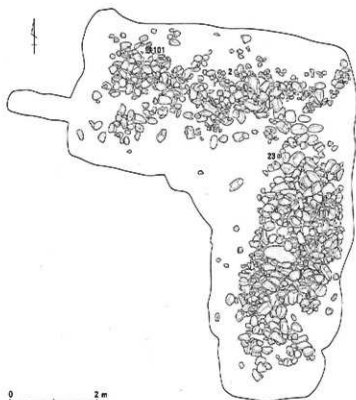
第107图 ST22出土遗物实测图(1)



第108図 ST22出土遺物実測図(2)

ST25 (第113図)

調査次 第VI次 位置 T-91。平面形 不明。規模 短軸2.0m×深さ0.5m 主軸方向 N-93°-E
 壁 やや緩やかに立ち上がる。床面 平坦。柱穴 不明。埋土状況 人為一括埋土。埋土中(3・5層)
 に石が多量混入。遺物 実測可能な遺物は無。



第109図 ST22遺物平面図

ST26 (第113図)

調査次 第Ⅶ次 位置 G-15拵。平面形 長方形。規模 長軸3.1m×短軸1.75m×深さ0.75m 主軸方向 N-0°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 中央に浅い穴が1本。埋土状況 人為一括埋土。遺物 実測可能な遺物は、土師器皿3 (第119図2~4)。

ST27 (第113図)

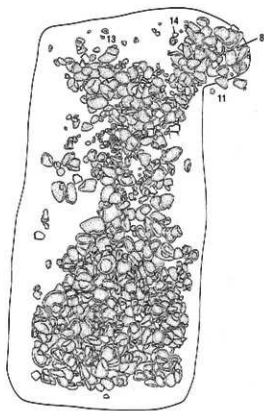
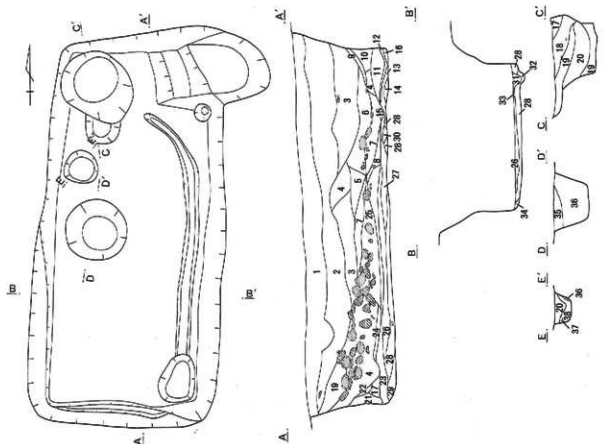
調査次 第Ⅶ次 位置 G-15拵。重複 SB41と切り合う。平面形 方形。規模 長軸1.8m×短軸1.7m×深さ0.7m 主軸方向 N-1°-W 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 無。埋土状況 人為一括埋土。遺物 土師器1 (第119図5)、刀子1 (第166図189)、古銭2 (第160図18・19)。

ST28 (第113図)

調査次 第Ⅶ次 位置 G-15拵。重複 SD08に切られる。平面形 方形。規模 長軸3.2m×短軸2.9m×深さ1.1m 主軸方向 N-93°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦、南側に土坑1。柱穴 中央に1本、階段脇に2本、どれも浅目である。埋土状況 人為一括埋土。遺物 土師器6、足高台1、瀬戸瓶子1 (第119図6~13)、鉄釘3 (第163図105~107)。

ST29 (第114図)

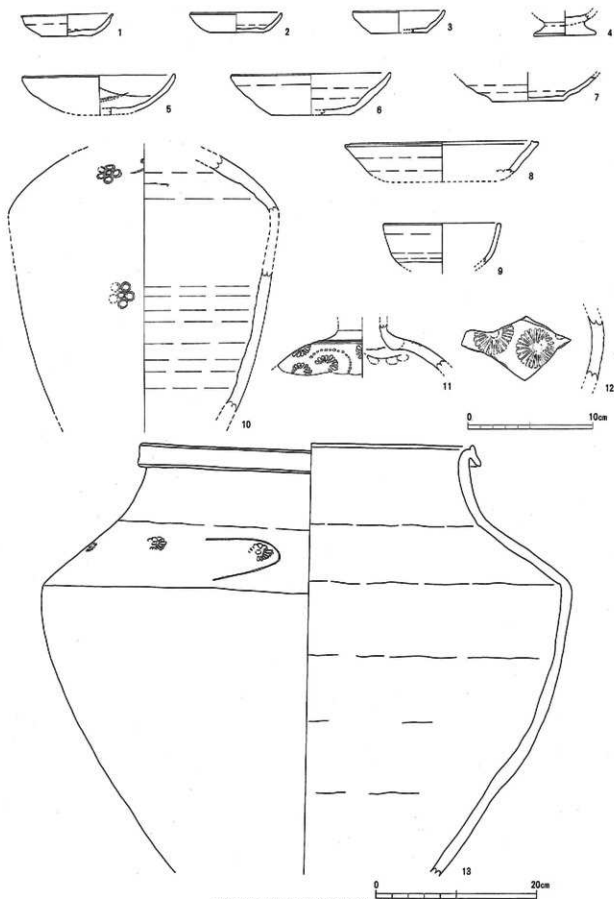
調査次 第Ⅶ次 位置 G-15拵。平面形 長方形で、南側に出入口施設を持つ。規模 長軸3.15m×短軸2.1m×深さ1.1m 主軸方向 N-1°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 両壁際に2本。埋土状況 人為一括埋土。遺物 瀬戸卸皿1 (第119図14)。



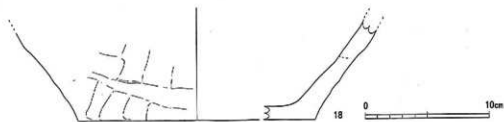
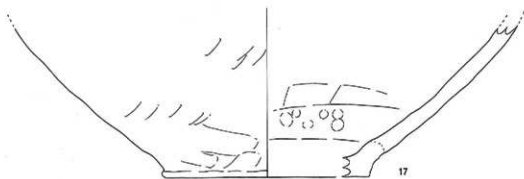
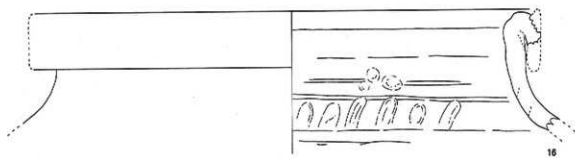
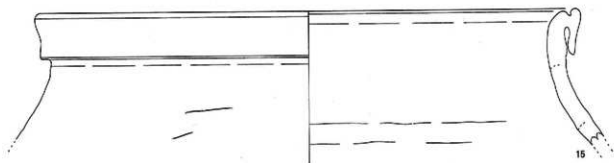
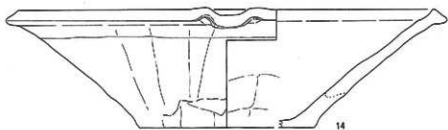
- 1 褐色土 (□-△粒中中多, C少, 中中軟)
 - 2 暗褐色土 (□-△粒、小□-△B中中多, □-△B少)
 - 3 暗黃褐色土 (□-△粒多, 小□-△B、□-△B少, SY·C粒)
 - 4 黑褐色土 (□-△粒多)
 - 5 暗褐色土 (□-△粒中中多, 小□-△B粒)
 - 6 暗黃褐色土 (□-△粒、小□-△B多, □-△B少)
 - 7 黑褐色土 (□-△粒、C·SY少)
 - 8 暗黃褐色土 (□-△粒中中多, 小□-△B少, 砂質)
 - 9 暗褐色土 (□-△粒中中多, 砂質)
 - 10 灰褐色土 (□-△粒、□-△B中中多, SY少)
 - 11 暗褐色土 (□-△粒少, 小□-△B中中多, SY少)
 - 12 灰色土 (砂主體層)
 - 13 灰色土 (□-△B主體層, 硬)
 - 14 暗黃褐色土 (□-△粒中中多, 小□-△B多, 砂質)
 - 15 灰褐色土 (□-△粒多, 小□-△B少, SY·C中中多)
 - 16 黃褐色土 (□-△B中中多)
 - 17 暗褐色土 (□-△粒中中多)
 - 18 灰褐色土 (□-△粒、小□-△B中中多, SY少, 粘性有)
 - 19 暗褐色土 (□-△粒、小□-△B多, SY少, 粘性有)
 - 20 暗褐色土 (□-△粒、小□-△B少)
 - 21 黃色土 (□-△粒多)
 - 22 灰色土 (□-△粒多, 雜質多)
 - 23 暗黃褐色土 (□-△粒多, 小□-△B少)
 - 24 暗黃褐色土 (□-△粒多, 小□-△B少)
 - 25 暗褐色土 (□-△粒、小□-△B·IF·SY·C少)
 - 26 暗黃褐色土 (□-△粒、□-△B中中多, C多(含C, 硬質))
 - 27 黃色土 (□-△粒多, 雜質多)
 - 28 暗褐色土 (□-△粒少, □-△B中中多, SY·C少, 硬質)
 - 29 黑褐色土 (□-△粒少, 雜質多)
 - 30 暗黃褐色土 (□-△粒多, 中中軟)
 - 31 灰褐色土 (□-△粒多, C少, 中中軟)
 - 32 暗黃褐色土 (□-△粒、小□-△B中中多)
 - 33 暗褐色土 (□-△粒少)
 - 34 暗褐色土 (□-△粒中中多, □-△B少)
 - 35 黃褐色土 (□-△粒多, □-△B中中多)
 - 36 黃褐色土 (□-△粒、小□-△B中中多)
 - 37 暗褐色土 (砂多(含C))
 - 38 暗黃褐色土 (□-△粒中中多)
- L-A-B=130.50m
C-E=128.00m

0 2 m

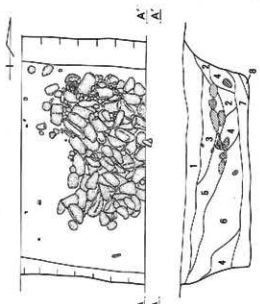
第110圖 ST23平·断面·遺物平面圖



第111图 ST23出土遺物実測図(1)

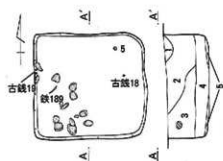


第112图 ST23出土遺物実測図(2)



- 1 暗褐色土 (口-A粒少)
 - 2 黑褐色土 (口-A粒中多)
 - 3 暗褐色土 (口-A粒·小口-A B中多、河原石多(含む))
 - 4 黑褐色土 (口-A粒中多、小口-A B少)
 - 5 褐色土 (口-A粒·口-A B中多)
 - 6 暗褐色土 (口-A粒·小口-A B中多、口-A B)
 - 7 暗褐色土 (口-A粒中多)
 - 8 暗褐色土 (口-A粒中多)
- L=129.80m

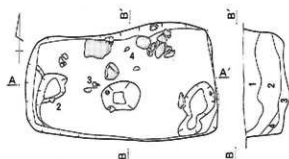
ST25



- 1 暗褐色土 (口-A粒中多、小口-A B少)
 - 2 黑褐色土 (口-A粒·大口-A B·口-A B少)
 - 3 褐色土 (口-A粒中多、小口-A B少)
 - 4 黄褐色土 (口-A粒中多、口-A B多)
 - 5 黑褐色土 (口-A粒少)
- L=130.30m

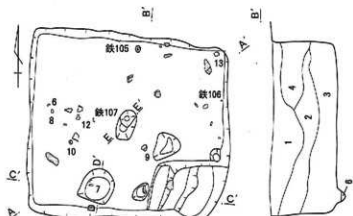
ST27

- 1 褐色土 (口-A粒中多、小口-A B·口-A B少)
 - 2 黑褐色土 (口-A粒少、小口-A B中多、口-A B少)
 - 3 褐色土 (口-A粒·小口-A B中多、C少)
 - 4 暗褐色土 (口-A粒·小口-A B少)
 - 5 褐色土 (口-A粒中多)
 - 6 黄褐色土 (口-A粒中多)
 - 7 黄褐色土 (口-A B多)
 - 8 暗褐色土 (口-A粒·口-A B中多)
 - 9 暗褐色土 (口-A粒少)
- L=A-C=130.30m
D-E=129.10m



- 1 褐色土 (口-A粒·小口-A B·C中多)
 - 2 暗褐色土 (口-A粒·小口-A B·C少)
 - 3 暗褐色土 (口-A粒中多、C少)
 - 4 褐色土 (口-A粒中多)
 - 5 褐色土 (口-A粒·小口-A B少)
 - 6 暗褐色土 (口-A粒·小口-A B中多)
 - 7 黄褐色土 (口-A B多)
 - 8 黄褐色土 (大口-A B多)
- L=130.30m

ST26

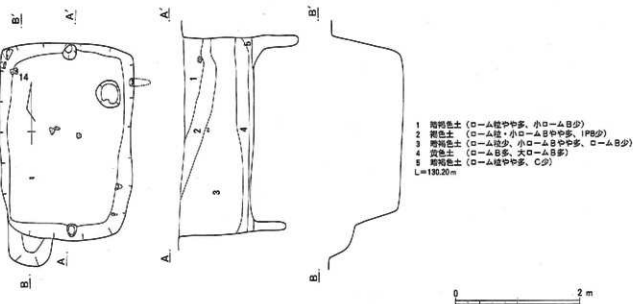


- 1 褐色土 (口-A粒中多、小口-A B·口-A B少)
 - 2 黑褐色土 (口-A粒少、小口-A B中多、口-A B少)
 - 3 褐色土 (口-A粒·小口-A B中多、C少)
 - 4 暗褐色土 (口-A粒·小口-A B少)
 - 5 褐色土 (口-A粒中多)
 - 6 黄褐色土 (口-A B多)
 - 7 暗褐色土 (口-A粒·口-A B中多)
 - 8 暗褐色土 (口-A粒少)
- L=A-C=130.30m
D-E=129.10m

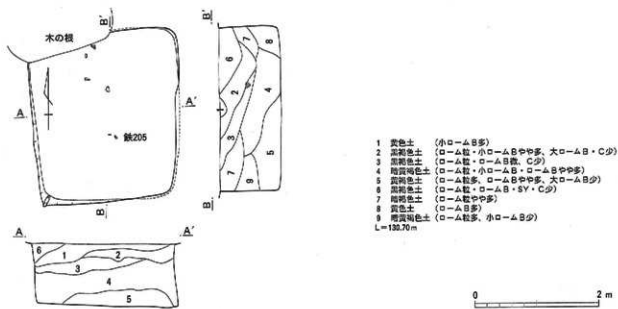
ST28



第113圖 ST25・26・27・28平・断面圖



第114図 ST29平・断面図



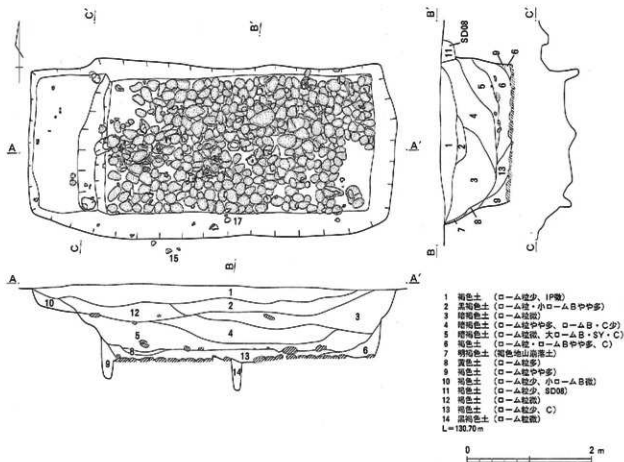
第115図 ST30平・断面図

ST30 (第115図)

調査次 第Ⅵ次 位置 G-15拵。平面形 方形。規模 長軸2.7m×短軸2.25m×深さ1.0m 主軸方向 N-5°-W 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 無。埋土状況 人為一括埋土。遺物 鉄釘1 (第163図110)、小札1 (第165図183)、毛抜き1 (第167図205)。

ST31 (第116図)

調査次 第Ⅶ次 位置 G-15拵。重複 SB39を切り、SD08に切られる。平面形 長方形で西壁に出入口施設を持つ。規模 長軸5.85m×短軸2.65m×深さ1.1m 主軸方向 N-90°-E 壁 ほぼ垂直に立



第116図 ST31平・断面図

ち上がる。床面 平らな河原石が一面に敷きつめられている。柱穴 長軸上に2本と出入口部両脇に2本。埋土状況 2層以下は人為埋土で、5層に石を多量に含む。1層は自然堆積。遺物 土師器皿4、青磁1 (第119図15~19)、鉄滓2 (第168図222・227)。

ST32 (第117図)

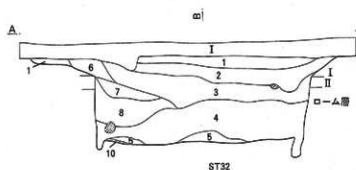
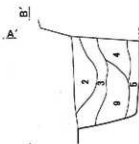
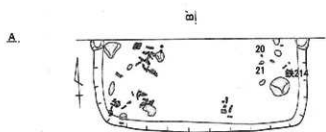
調査次 第Ⅶ次 位置 G-15坩。平面形 方形。規模 長軸3.45m×深さ1.4m 主軸方向 N-2°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 壁際両脇に2本。埋土状況 人為一括埋土。遺物 土師器皿2 (第119図20~21)、不明鉄製品1 (第167図214)。床面から炭化物が多量に出土。

ST33 (第117図)

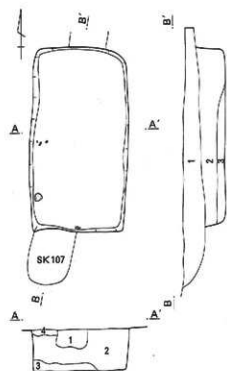
調査次 第Ⅶ次 位置 G-15坩。重複 SK107に切られる。平面形 長方形。規模 長軸2.95m×短軸1.15m×深さ0.65m 主軸方向 N-1°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 無。埋土状況 人為一括埋土。遺物 無。

ST35 (第117図)

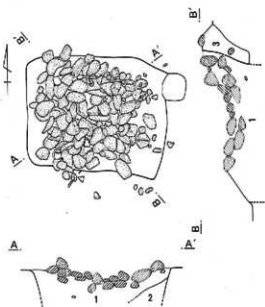
調査次 第Ⅶ次 位置 G-15坩。重複 SI10を切る。平面形 方形。規模 長軸2.2m×短軸1.9m 主軸方向 N-1°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 不明。柱穴 不明。埋土状況 上層に多量の河原石。遺物 土師器片口鉢1 (第119図22)、刀子1 (第166図193)。備考 上層部のみ確認。



- 1 表面
 II 褐色堆山
 1 褐色土 (口-A粒少)
 2 粘褐色土 (口-A粒·SY·C少)
 3 褐色土 (口-A粒中多、口-A B·大口-A B少)
 4 黄褐色土 (口-A粒·小口-A B中多、口-A B少)
 5 粘褐色土 (口-A粒少、C多)
 6 褐色土 (口-A粒·C少)
 7 粘黄褐色土 (口-A粒中多、小口-A B少)
 8 粘褐色土 (口-A粒·小口-A B中多、C少)
 9 黄褐色土 (口-A粒中多、小口-A B·口-A B少)
 10 灰土 (口-A粒多)
 L=131.40m



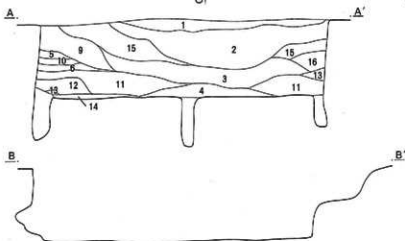
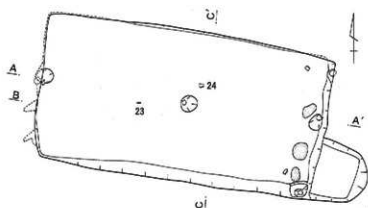
- 1 褐色土 (口-A粒少、中中粒、SK107)
 2 褐色土 (口-A粒·小口-A B中多)
 3 粘黄褐色土 (口-A粒·口-A B中多)
 4 黄褐色土 (口-A粒中多、小口-A B多)
 ST33 L=139.70m



- 1 粘褐色土 (口-A粒少、SY弱)
 2 褐色土 (口-A粒中多)
 3 粘褐色土 (口-A粒少)
 L=130.90m
 ST35

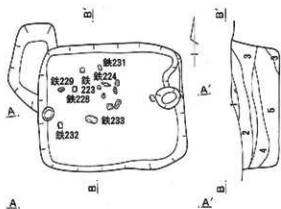


第117图 ST32·33·35平·断面图

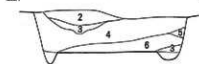


- 1 粉褐色土 (ロ-ム粒少、小ロ-ムB弱)
 - 2 黄褐色土 (ロ-ム粒強)
 - 3 黄褐色土 (ロ-ム粒やや多、ロ-ムB少)
 - 4 暗紫褐色土 (ロ-ム粒多、ロ-ムBやや多)
 - 5 暗褐色土 (ロ-ム粒少)
 - 6 黄褐色土 (ロ-ム粒多)
 - 7 褐色土 (ロ-ム粒やや多、小ロ-ムB少)
 - 8 暗褐色土 (ロ-ム粒やや多、ロ-ムB弱)
 - 9 褐色土 (ロ-ム粒やや多、小ロ-ムB少)
 - 10 黄褐色土 (ロ-ム粒やや多)
 - 11 黄褐色土 (ロ-ム粒、ロ-ムBやや多)
 - 12 黄土 (ロ-ムB多)
 - 13 褐色土 (ロ-ム粒やや多)
 - 14 黄褐色土 (小ロ-ムB少)
 - 15 黄褐色土 (ロ-ム粒、ロ-ムB少)
 - 16 褐色土 (ロ-ム粒、小ロ-ムBやや多)
- L=129.00m

ST36



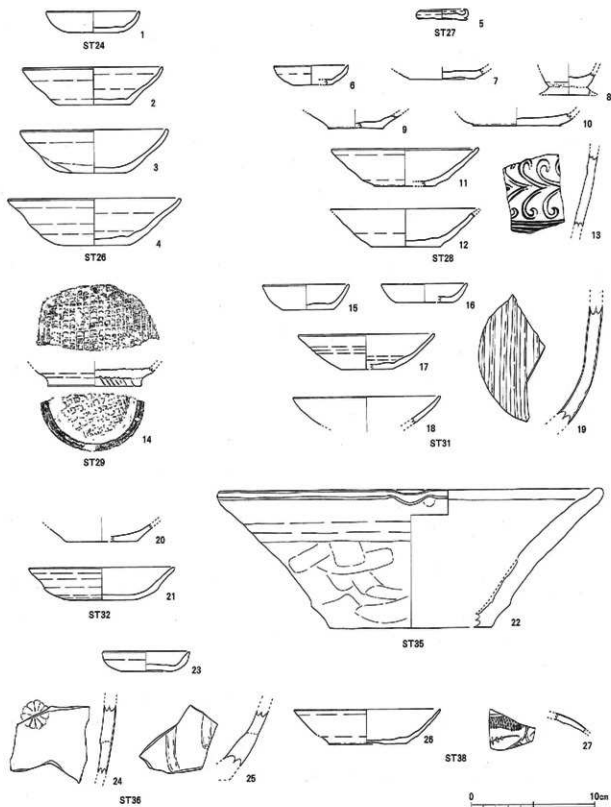
- 1 粉褐色土 (ロ-ム粒強、Nやや多)
 - 2 粉褐色土 (ロ-ム粒、小ロ-ムB少)
 - 3 黄褐色土 (ロ-ム粒少)
 - 4 黄褐色土 (ロ-ム粒強)
 - 5 黄褐色土 (ロ-ム粒やや多、小ロ-ムB少)
 - 6 黄褐色土 (小ロ-ムBやや多、SY・C少)
- L=129.75m



ST37



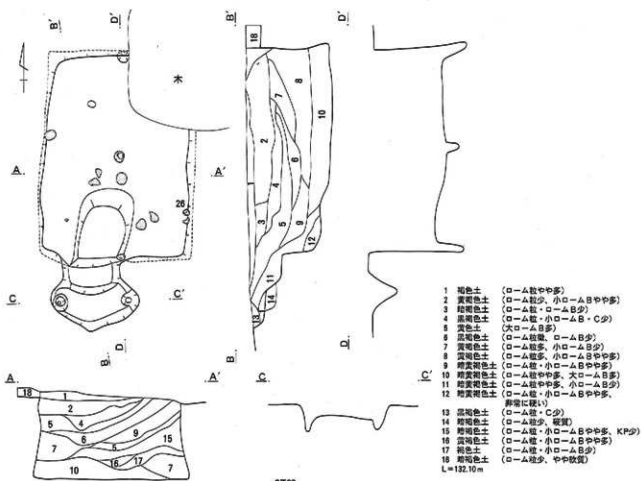
第118図 ST36・37平・断面図



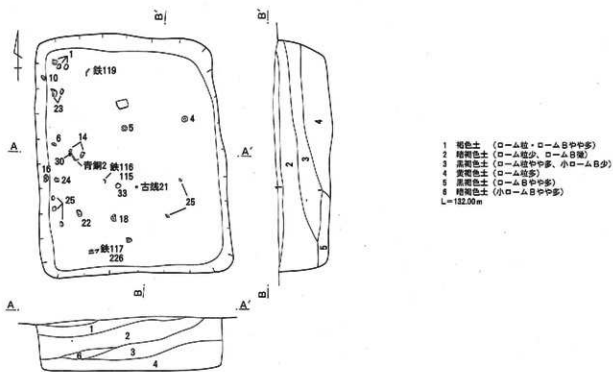
第119図 竪穴建物出土遺物実測図

ST36 (第118図)

調査次 第Ⅶ次 位置 G-19。平面形 長方形で東壁に出入口施設を持つ。規模 長軸 4.7m×短軸2.4m×深さ1.2m 主軸方向 N-80°-W 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 長軸上に3本。埋土状況 人為一括埋土。遺物 土師器皿1、瀬戸瓶子1、壺1 (第119図23~25)。



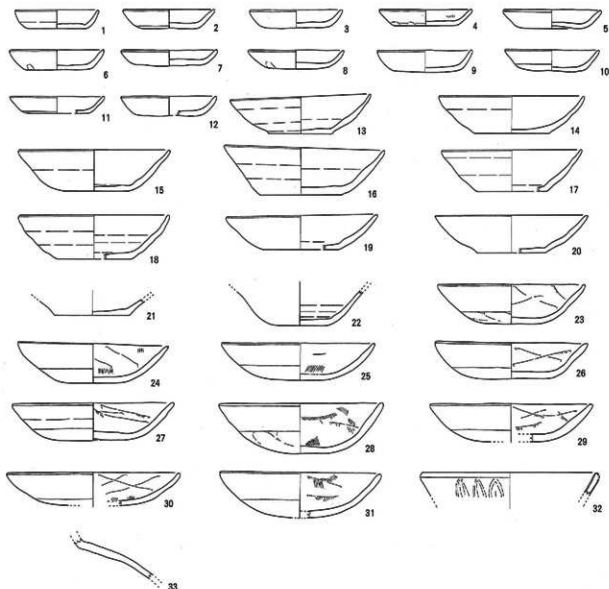
ST38



ST39

0 2 m

第120圖 ST38・39平・断面圖



ST37 (第118図)

第121図 ST39出土遺物実測図

調査次 第Ⅶ次 位置 G-19。平面形 方形。規模 長軸2.35m×短軸2.0m×深さ0.75m 主軸方向 N-2°-W 壁 やや緩く立ち上がる。床面 平坦。柱穴 壁際両脇に2本。埋土状況 人為一括埋土。遺物 鉄釘4 (第163図111~114)、小札1 (第165図184)、鉄滓7 (第168図223・224・228・229・231~233)。

ST38 (第120図)

調査次 第Ⅷ次 位置 G-11拵。平面形 長方形で南側に出入口施設を持つ。規模 長軸3.3m×短軸2.25m×深さ1.4m 主軸方向 N-2°-E 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 長軸上に3本、出入口部に2本。埋土状況 人為一括埋土。遺物 土師器皿1、青磁1 (第119図26・27)。

ST39 (第120・121図)

調査次 第Ⅷ次 位置 G-11拵。平面形 長方形。規模 長軸3.9m×短軸3.0m×深さ0.9m 主軸方向 N-4°-W 壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床面 平坦。柱穴 無。埋土状況 人為一括埋土。遺物 土師器皿31、青磁碗1、黄褐釉壺1、鉄釘5 (第163図115~119)、小札1 (第165図185)、覆輪1 (第161図2)、青銅製片口碗1 (第161図14) 古銭2 (第30表・第160図21・51)。

(3) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、Ⅲ・Ⅳ次調査で8棟、Ⅴ次調査で9棟、Ⅵ次調査で14棟、Ⅶ次調査で8棟、Ⅷ次調査で12棟の計51棟が確認され、そのうち、37棟を完掘した。

建物の分布は、ⅠとⅦの曲輪以外に存在する。また、Ⅴの曲輪北半分とⅥの曲輪西1/3は散在する程度でその数は少ない。

SB01 (第122図)

調査次 Ⅲ・Ⅳ次 位置 G-1 中央 規模 桁行3間(6.8m) × 梁間2間(3.8m)。柱間 桁行2.1~2.4m、梁間1.85~1.9m。主軸方向 N-4°-E 柱穴 円形(直径25~35cm)で、確認面からの深さが55~95cm。遺物 実測可能な遺物は土師器皿3(第122図1~3)。備考 南側に幅50cm、長さ5.3mで直線的に石が敷かれた部分と、楕円形の石の集石箇所が3か所確認できた。

SB02 (第123図)

調査次 Ⅳ次 位置 G-4 規模 桁行2間(6.3m) × 梁間1間(2.4m)。柱間 桁行3.6m、梁間2.4m。主軸方向 N-4°-E 柱穴 円形(直径50cm)と楕円形(長軸50cm、短軸30cm)で、確認面からの深さが12~70cm。

SB06 (第123図)

調査次 Ⅳ次 位置 G-12 規模 桁行1間(4.4m) × 梁間1間半(4.2m)。東側に半間の庇を持つ。柱間 桁行4.4m、梁間2.7m 主軸方向 N-3°-E 柱穴 円形(直径45cm)、楕円形(長軸60cm、短軸40cm)、隅丸方形(一辺35~40cm)で、確認面からの深さが72~90cm。

SB10 (第124図)

調査次 Ⅴ次 位置 G-12 規模 桁行3間(6.4m) × 梁間2間半(5.4m)。南側に半間の庇を持つ。柱間 桁行2.1mと2.2、梁間2.1mと2.2m。主軸方向 N-3°-E 柱穴 円形(直径35~40cm)と楕円形(長軸70cm、短軸30cm)で、確認面からの深さが12~52cm。

SB11 (第125図)

調査次 Ⅴ次 位置 G-11 規模 桁行5間(11.5m) × 梁間2間(4.1m)。柱間 桁行2.2mと2.4m、梁間1.8mと2.2m。主軸方向 N-5°-E 柱穴 円形(直径30cm)、隅丸方形(直径25~35cm)と楕円形(長軸56cm、短軸25cm)で、確認面からの深さが15~55cm。実測可能な遺物は、土師器皿3、瀬戸四耳壺片1(第144図1~4)が出土。

SB12 (第127図)

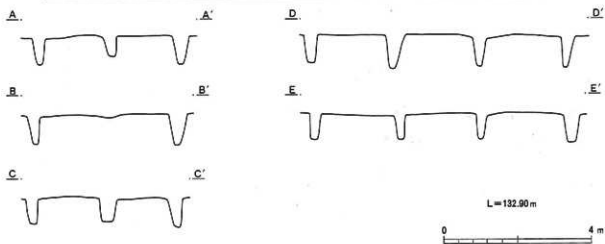
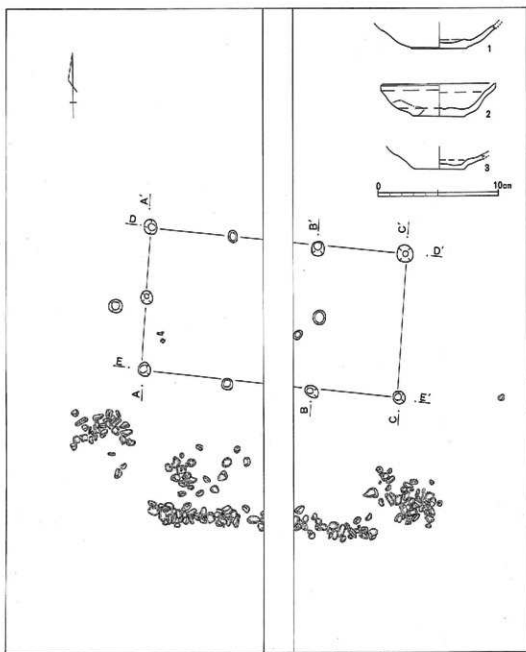
調査次 Ⅴ次 位置 G-11 規模 桁行5間(10.3m) × 梁間2間半(5.2m)。南側に半間の庇と東と北側に半間分の張出を持つ。柱間 桁行2.1m、梁間1.7mと2.5m。主軸方向 N-1°-W 柱穴 円形(直径30~40cm)、楕円形(長軸45cm、短軸20cm)、隅丸方形(直径30~45cm)、確認面からの深さが13~40cm。備考 SK27と重複。

SB13 (第126図)

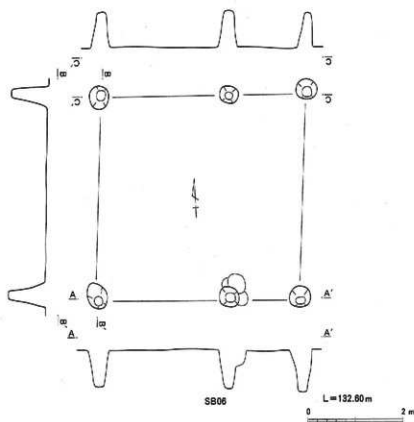
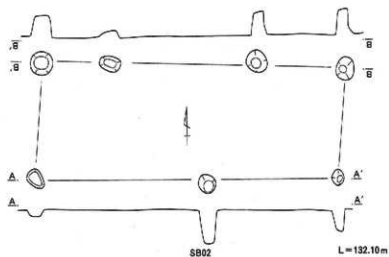
調査次 Ⅴ次 位置 G-11 規模 桁行2間(4.4m) × 梁間2間(4.1m)。柱間 桁行2.0mと2.1m、梁間2.0mと2.1m。主軸方向 N-7°-E 柱穴 隅丸方形(直径20~40cm)と円形(直径25~40cm)で、確認面からの深さが15~60cm。備考 柱穴上層から石が出土。

SB14 (第128図)

調査次 Ⅴ次 位置 G-11 規模 桁行4間(9.4m) × 梁間1間(4.4m)。柱間 桁行2.3m~2.6



第122圖 SB01平・断面・出土遺物実測図

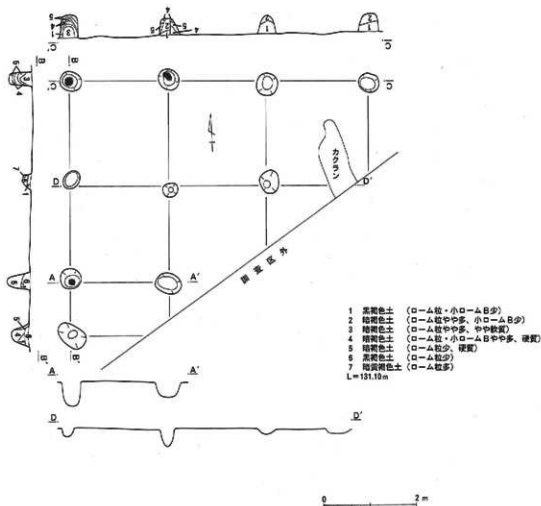


第123図 SB02・06平・断面図

m、梁間4.4m。主軸方向 $N-10^{\circ}-E$ 柱穴 隅円方形（直径25~30cm）、円形（直径20~30cm）、楕円形（長軸50cm、短軸25cm）、確認面からの深さが15~60cm。

SB16（第129図）

調査次 V次 位置 G-11 規模 桁行2間（4.2m）× 梁間1間（2.3m）。柱間 桁行2.0mと2.1m、梁間2.3m。主軸方向 $N-1^{\circ}-W$ 柱穴 隅円方形（直径20~30cm）で、確認面からの深さが20~30cm。備考 ST15と切り合う。



第124図 SB10平・断面図

SB20 (第129図)

調査次 VI次 位置 G-11 規模 桁行4間(8.2m) × 梁間2間(4.2m)。柱間 桁行1.9m~2.2m、梁間2.0mと2.1m。主軸方向 N-1°-E 柱穴 隅円方形(直径20~30cm)で、確認面からの深さが20~30cm。備考 SK62と重複。

SB34 (第129図)

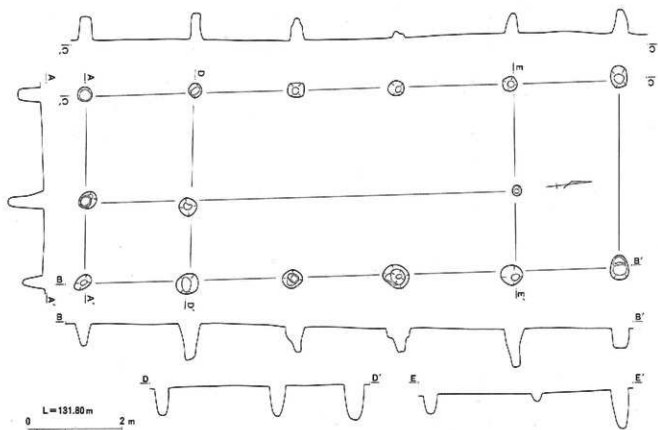
調査次 VII次 位置 G-15拡 規模 桁行2間(4.3m) × 梁間1間(2.1m)。柱間 桁行1.8mと1.9m、梁間2.1m。主軸方向 N-5°-W 柱穴 隅円方形(直径30~40cm)と楕円形(長軸40cm、短軸30cm)で、確認面からの深さが20~35cm。

SB35 (第130図)

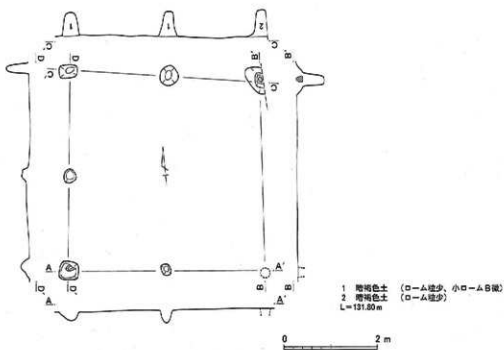
調査次 VII次 位置 G-15拡 規模 桁行2間(3.2m) × 梁間1間半(2.8m)。東側に半間の底を持つ。柱間 桁行1.6m、梁間1.8m。主軸方向 N-1°-E 柱穴 円形(直径15~30cm)で、確認面からの深さが15~32cm。

SB36 (第130図)

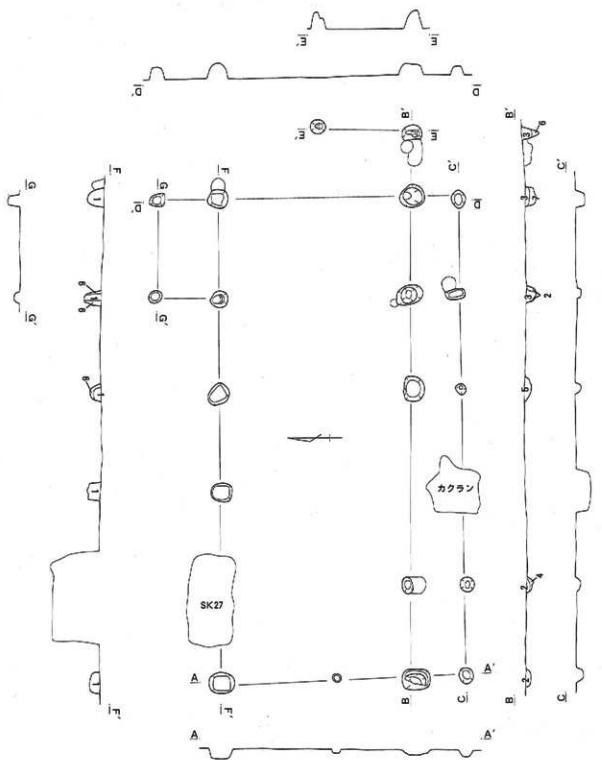
調査次 VII次 位置 G-15拡 規模 桁行3間(5.6m) × 梁間2間(3.4m)。柱間 桁行1.8~2.0m、梁間1.6mと1.8m。主軸方向 N-5°-E 柱穴 円形(直径30~40cm)で、確認面からの深さが15~70cm。



第125图 SB11平·断面图



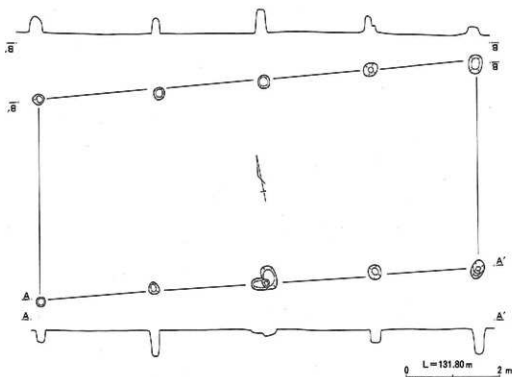
第126图 SB13平·断面图



- 1 黒褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB少、L来る)
- 2 黒褐色土 (ローム粒・小ロームB微)
- 3 暗褐色土 (ローム微)
- 4 暗褐色土 (ローム多)
- 5 褐色土 (ローム粒・ロームB少、IP)
- 6 黒褐色土 (ローム粒少、小ロームBやや多)
- 7 暗褐色土 (ローム粒少、小ロームB微)

L=131.99m

第127図 SB12平・断面図



第128図 SB14平・断面図

SB37 (第130図)

調査次 VII次 位置 G-15抔 規模 桁行2間(4.1m) × 梁間1間(4.1m)。柱間 桁行2.0mと2.1m、梁間4.1m。主軸方向 N-0°-E 柱穴 円形(直径30~40cm)で、確認面からの深さが10~30cm。

SB38 (第131図)

調査次 VII次 位置 G-15抔 規模 桁行2間(4.2m) × 梁間2間(3.2m)。柱間 桁行1.9mと2.3m、梁間1.3~1.7m。主軸方向 N-24°-W 柱穴 隅円方形(直径30~35cm)と楕円形(長軸55cm、短軸25cm)、確認面からの深さが10~40cm。

SB39

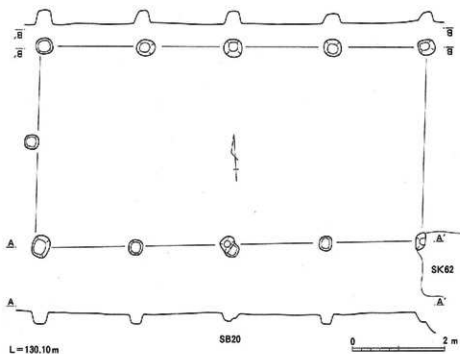
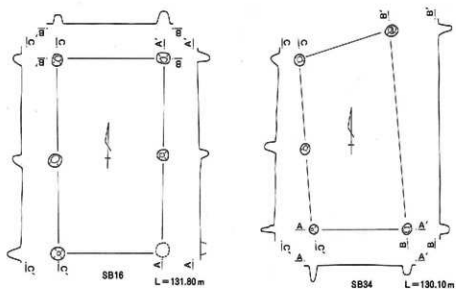
調査次 VII次 位置 G-15抔 規模 桁行2間(4.7m) × 梁間2間(3.6m)。柱間 桁行2.3mと2.4m、梁間1.7~1.9m。主軸方向 N-14°-E 柱穴 隅円方形(直径50~55cm)、円形(直径55~55cm)と楕円形(長軸55cm、短軸50cm)で、確認面からの深さが20~60cm。備考 ST31に切られる。

SB40 (第131図)

調査次 VII次 位置 G-15抔 規模 桁行1間(3.5m) × 梁間1間(2.7m)。柱間 桁行1.8m、梁間2.7m。主軸方向 N-1°-E 柱穴 楕円形(長軸30cm、短軸20cm)で、確認面からの深さが20~40cm。

SB41 (第131図)

調査次 VII次 位置 G-15抔 規模 桁行1間(3.5m) × 梁間1間(2.7m)。柱間 桁行1.5mと1.9m、梁間2.5m。主軸方向 N-2°-E 柱穴 楕円形(長軸35cm、短軸20cm)、円形(直径15~40cm)、確認面からの深さが20~40cm。備考 ST27に切られる。



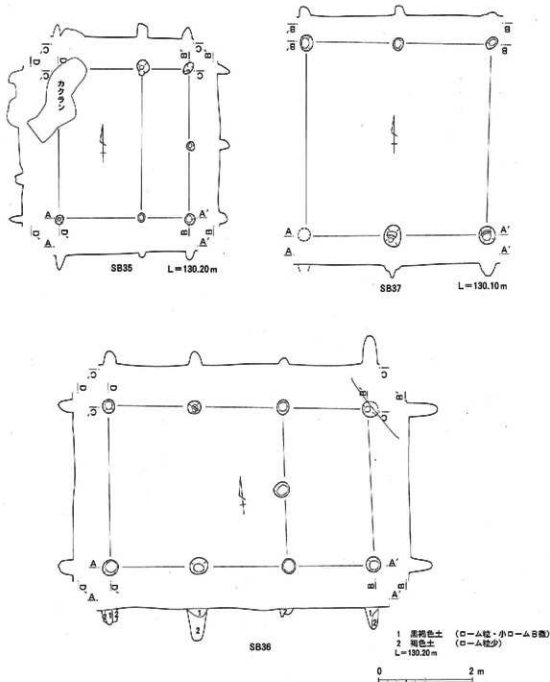
第129図 SB16・20・34平・断面図

SB42 (第131図)

調査次 VII次 位置 G-15拡 規模 桁行2間(4.5m) × 梁間1間(2.1m)。柱間 桁行1.9mと2.4m、梁間2.1m。主軸方向 N-6°-E 柱穴 隅円方形(直径20~40cm)と楕円形(長軸30cm、短軸15cm)で、確認面からの深さが10~30cm。

SB43 (第132図)

調査次 VII次 位置 G-19 規模 桁行3間(4.3m) × 梁間2間(2.2m)。柱間 桁行1.3mと1.5m、梁間1.2m。主軸方向 N-0°-E 柱穴 円形(直径20~25cm)と楕円形(長軸35cm、短軸20cm)で、確認面からの深さが20~50cm。



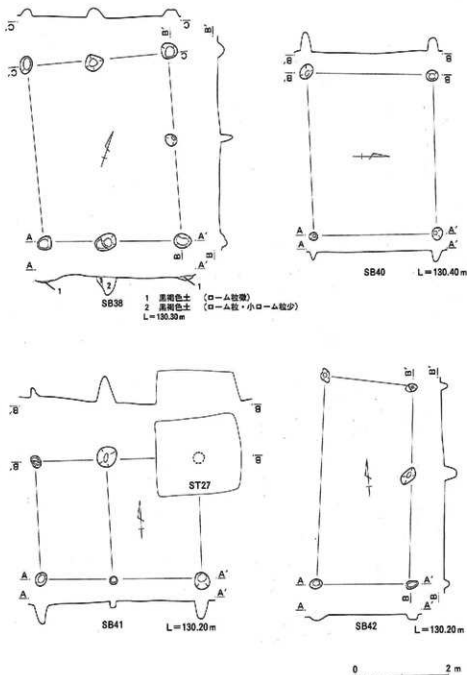
第130図 SB35・36・37平・断面図

SB44 (第132図)

調査次 Ⅶ次 位置 G-19 規模 桁行2間(4.9m) × 梁間1間(1.4m)。柱間 桁行2.2~2.7m、梁間1.4m。主軸方向 N-3°-W 柱穴 円形(直径20~30cm)と楕円形(長軸15cm、短軸40cm)、確認面からの深さが10~40cm。

SB45 (第132図)

調査次 Ⅶ次 位置 G-19 規模 桁行1間(2.9m) × 梁間1間(1.5m)。柱間 桁行2.9m、梁間1.5m。主軸方向 N-3°-E 柱穴 円形(直径30cm)、楕円形(長軸70cm、短軸20cm)、確認面からの深さが30~50cm。



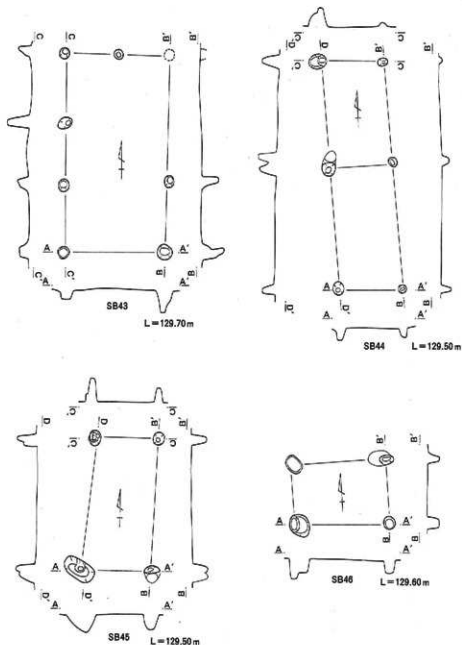
第131図 SB38・40・41・42平・断面図

SB46 (第132図)

調査次 Ⅶ次 位置 G-19 規模 桁行1間(2.0m) × 梁間1間(1.3m)。柱間 桁行2.0m、梁間1.3m。主軸方向 N-2°-E 柱穴 隅円方形(直径30~40cm)、円形(直径30cm)、楕円形(長軸55cm、短軸20cm)で、確認面からの深さが30~40cm。

SB47 (第133図)

調査次 Ⅶ次 位置 G-11拡 規模 桁行4間(9.5m) × 梁間2間(4.7m)。南側に半間の庇を持つ。柱間 桁行2.3mと2.4m、梁間2.1mと1.2m。主軸方向 N-5°-E 柱穴 円形(直径20~50cm)と楕円形(長軸60cm、短軸30cm)で、確認面からの深さが30~80cm。備考 SB59と切り合う。



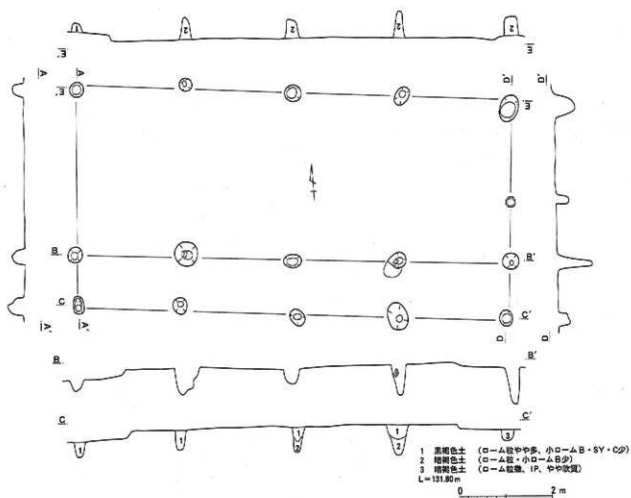
第132図 SB43・44・45・46平・断面図

SB48 (第134図)

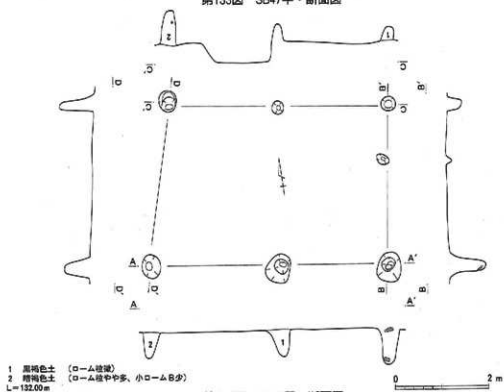
調査次 Ⅷ次 位置 G-11拡 規模 桁行2間(4.7m) × 梁間2間(3.5m)。柱間 桁行2.3mと2.4mと2.9m、梁間1.2mと2.3m。主軸方向 N-11°-E 柱穴 円形(直径30cm)、楕円形(長軸65cm、短軸20cm)で、確認面からの深さが15~80cm。備考 柱穴に石が落ち込んでいる。実測可能な遺物は土師器皿1(第144図5)が出土。

SB49 (第135図)

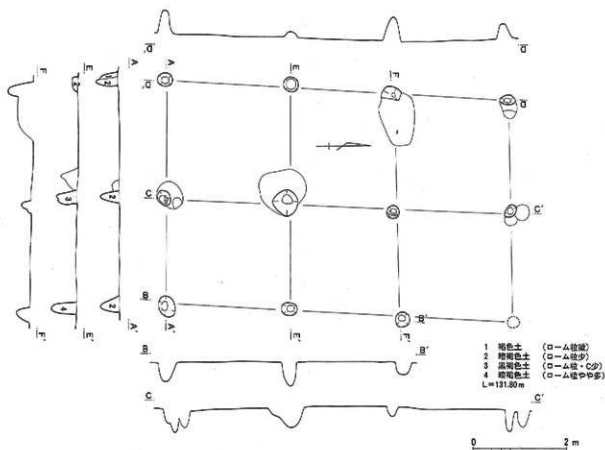
調査次 Ⅷ次 位置 G-11拡 規模 桁行3間(7.4m) × 梁間2間半(4.9m)。柱間 桁行2.2~2.7m、梁間2.3m~2.6m。主軸方向 N-4°-E 柱穴 円形(直径30~50m)と楕円形(長軸45cm、短軸20cm)で、確認面からの深さが30~55cm。



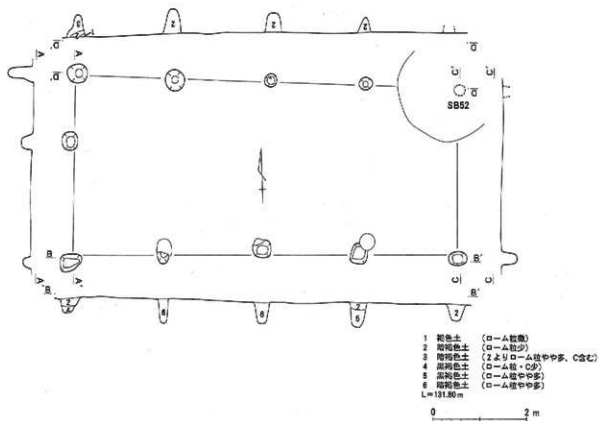
第133图 SB47平・断面图



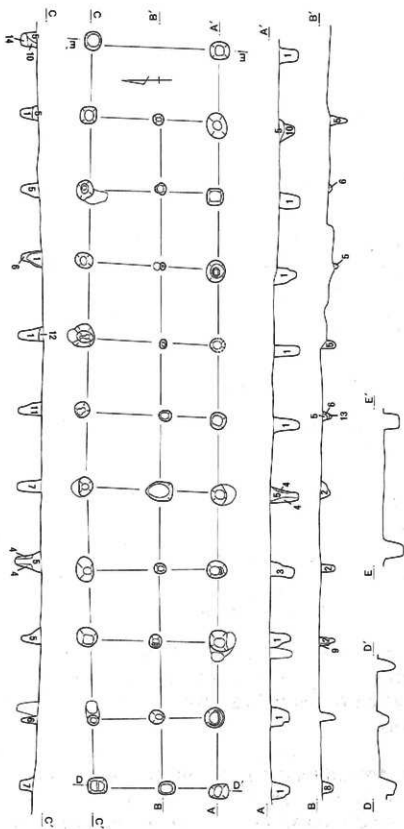
第134图 SB48平・断面图



第135图 SB49平・断面图



第136图 SB50平・断面图

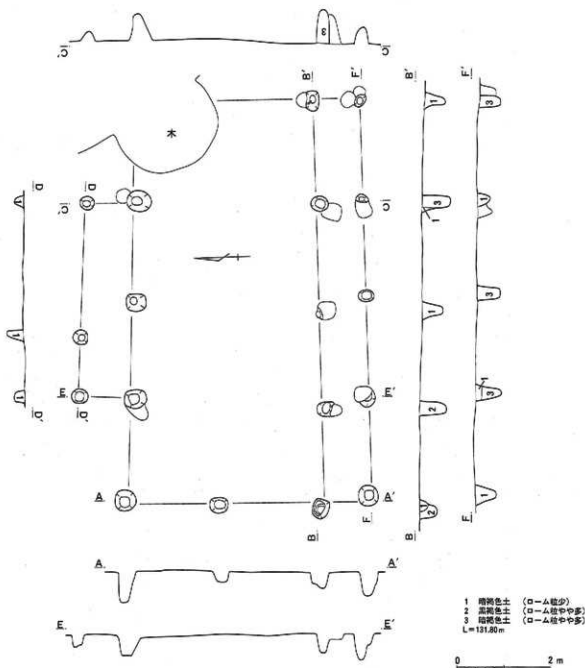


0 腐殖土 (D-4层厚)
 1 腐殖土 (D-4层厚, CP)
 2 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚)
 3 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚)
 4 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)
 5 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)
 6 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)
 7 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)
 8 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)
 L=12.00m

1 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚)
 2 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚)
 3 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)
 4 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)
 5 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)
 6 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)
 7 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)
 8 腐殖土 (D-4层厚, 小口-4层厚, 小口-4层厚)

0 4 m

第137图 SB61平·断面图



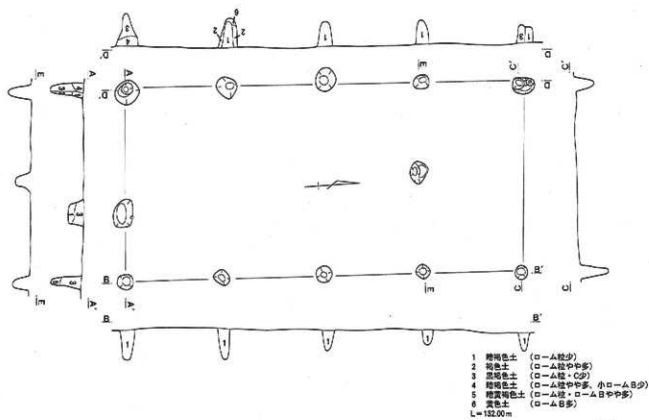
第138図 SB52平・断面図

SB50 (第136図)

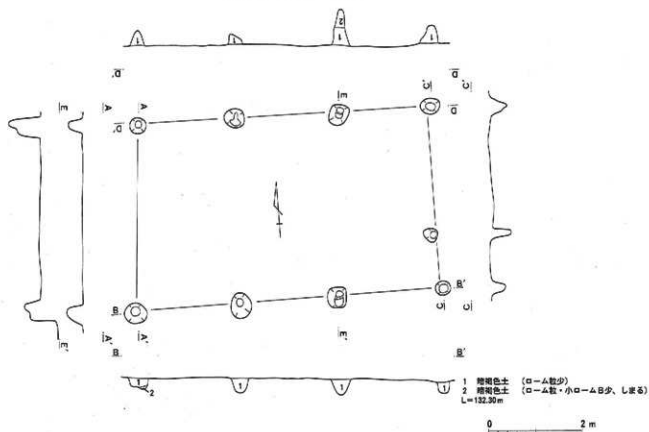
調査次 Ⅴ次 位置 G-11 規模 桁行4間(8.3m) × 梁間1間半(4.1m)。柱間 桁行2.0mと2.1m、梁間1.5mと2.6m。主軸方向 N-3°-E 柱穴 隅円方形(35~45cm)、円形(直径25~45cm)、楕円形(長軸45cm、短軸30cm)、確認面からの深さが30~50cm。備考 SB52と重複。実測可能な遺物は、土師器皿2(第144図6・7)が出土。

SB51 (第137図)

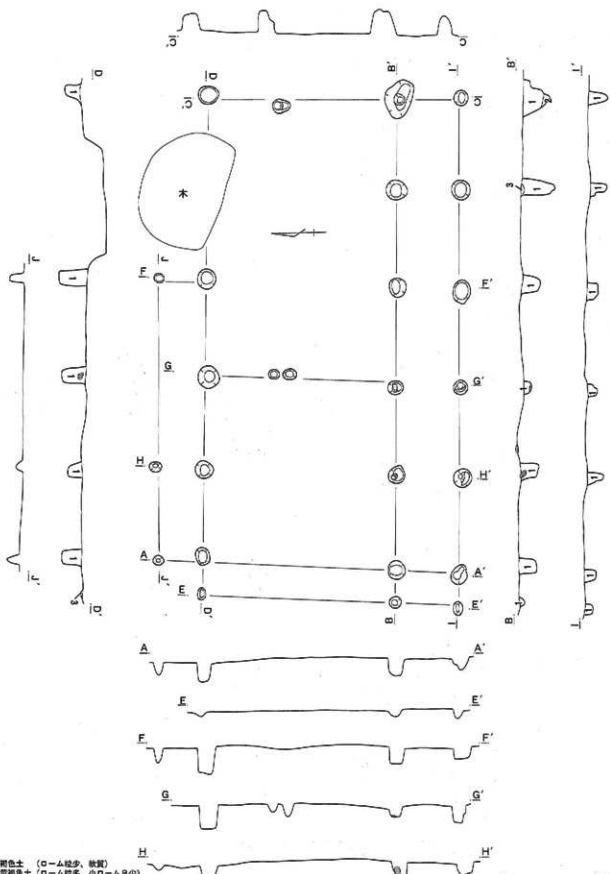
調査次 Ⅴ次 位置 G-11 規模 桁行10間(21.5m) × 梁間2間半(4.0m)。柱間 桁行2.2~2.8m、梁間2.0mと2.3m。主軸方向 N-3°-E 柱穴 隅円方形(40~60cm)、円形(直径30~60cm)、楕円形(長軸80cm、短軸10cm)で、確認面からの深さが10~100cm。備考 実測可能な遺物は、土師器皿1(第144図8)が出土。



第139図 SB53平・断面図



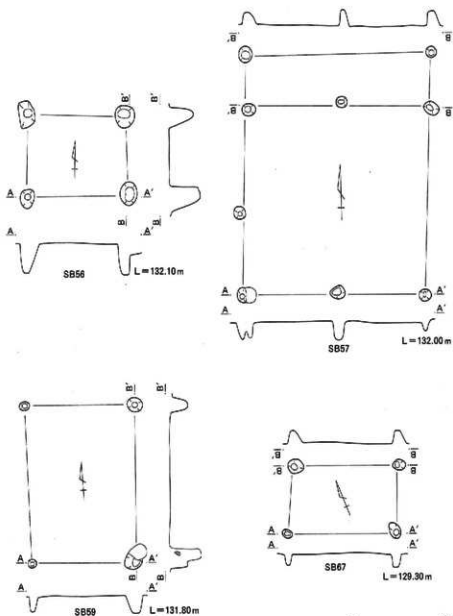
第140図 SB54平・断面図



- 1 暗褐色土 (□-△稀少、散在)
 2 暗褐色土 (□-△较多、小□-△B少)
 3 黄褐色土 (小□-△B少)

L=132.99m

第141图 SB55平·断面图



第142図 SB56・57・59・67平・断面図

SB52 (第138図)

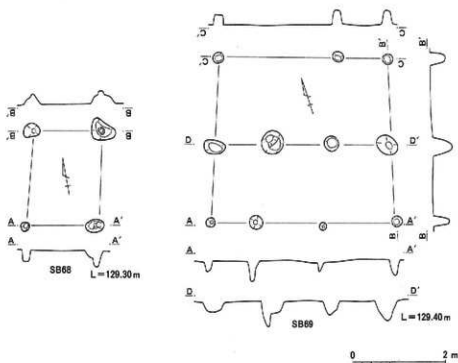
調査次 Ⅶ次 位置 G-11 規模 桁行4間(8.8m) × 梁間2間半(3.8m)。南側に半間の底と、北側に半間分の張出を持つ。柱間 桁行2.0m~2.3m、梁間2.1と2.2m。主軸方向 N-3°-E 柱穴 隅円方形(36~40cm)、円形(直径30~36cm)、楕円形(長軸40cm、短軸56cm)で、確認面からの深さが24~64cm。備考 SB50と切り合う。

SB53 (第139図)

調査次 Ⅶ次 位置 G-11 規模 桁行4間(8.65m) × 梁間1間半(4.1m)。柱間 桁行2.0m~2.3m、梁間2.7と1.5m。主軸方向 N-3°-E 柱穴 隅円方形(25~55cm)、円形(直径25~35cm)、楕円形(長軸65cm、短軸25cm)で、確認面からの深さが30~70cm。

SB54 (第140図)

調査次 Ⅶ次 位置 G-11 規模 桁行3間(6.6m) × 梁間1間半(4.0m)。柱間 桁行1.9m~



第143図 SB68・69平・断面図

2.2m、梁間2.7と1.2m。主軸方向 N-3°-E 柱穴 隅円方形(40~50cm)、円形(直30~35cm)、楕円形(長軸55cm、短軸30cm)で、確認面からの深さが25~50cm。実測可能な遺物は土師器皿1(第144図9)が出土。

SB55 (第141図)

調査次 Ⅶ次 位置 G-11 規模 桁行5間半(10m) × 梁間2間半(4.1m)。南と西に半間の底と北に半間の張出を持つ。柱間 桁行1.8m~2.2m、梁間1.5と2.6m。主軸方向 N-4°-E 柱穴 円形(直径25~50cm)、楕円形(長軸80cm、短軸20cm)で、確認面からの深さが15~70cm。備考 柱穴に石が落ち込んでいる。

SB56 (第142図)

調査次 Ⅶ次 位置 G-11 規模 桁行1間(2.2m) × 梁間1間半(1.8m)。柱間 桁行2.2m、梁間1.8m。主軸方向 N-3°-W 柱穴 楕円形(長軸50cm、短軸30cm)で確認面からの深さが50~65cm。

SB57 (第142図)

調査次 Ⅶ次 位置 G-11 規模 桁行2間半(5.2m) × 梁間2間(4.0m)。柱間 桁行1.8m~2.3m、梁間1.9m~2.1m。主軸方向 N-4°-E 柱穴 円形(直径25~30cm)と楕円形(長35cm、短軸25cm)で、確認面からの深さが20~45cm。備考 実測可能な遺物は、土師器皿1(第144図10)が出土。

SB59 (第142図)

調査次 Ⅶ次 位置 G-11 規模 桁行1間(3.4m) × 梁間1間(2.3m)。柱間 桁行3.4m、梁間2.3m。主軸方向 N-2°-E 柱穴 円形(直径20~35cm)で、確認面からの深さが35~75cm。備考 S B47と重複。柱穴に石が落ち込んでいる。

SB67 (第142図)

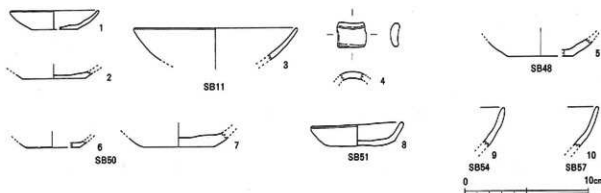
調査次 Ⅶ次 位置 G-11 規模 桁行1間(2.3m) × 梁間1間(1.5m)。柱間 桁行2.3m、梁間1.5m。主軸方向 N-28°-E 柱穴 楕円形(長軸35cm、短軸15cm)で、確認面からの深さが25~30cm。

SB68 (第143図)

調査次 VII次 位置 G-11 規模 桁行1間(2.0m) × 梁間1間(1.5m)。柱間 桁行2.0m、梁間1.5m。主軸方向 N-15°-E 柱穴 楕円形(長軸50cm、短軸20cm)で、確認面からの深さが25~35cm。

SB69 (第143図)

調査次 VII次 位置 G-11 規模 桁行3間(4.0m) × 梁間2間(3.5m)。柱間 桁行1.2m~1.6m、梁間1.6m~1.9m。主軸方向 N-17°-E 柱穴 円形(直径15~50cm)と楕円形(長軸50cm、短軸35cm)で、確認面からの深さが20~60cm。



第144図 掘立柱建物出土遺物実測図

(4) 土坑 (第145図~155図)

土坑は、第三次~第八次までの調査において146基が確認できた。その形状は様々で、第28表に示すとおり、A円形、B楕円形、C方形、D長方形、E隅丸長方形、F不整形がある。各タイプの規模の最大と最小は、Aの最大がSK07の直径0.9m、深さ0.4m、最小がSK110の直径0.7m、深さ0.2m、Bの最大がSK96の長軸1.75m、短軸0.5m、深さ0.12m、最小がSK34の長軸0.85m、短軸0.75m、深さ0.25m、Cの最大がSK22の長軸1.2m、短軸1.1m、深さ0.3m、最小がSK111の長軸0.9m、短軸0.75m、深さ0.65m、Dの最大がSK57の長軸5.25m、短軸1.0m、深さ0.4m、最小がSK72の長軸0.85m、短軸0.55m、深さ0.55m、Eの最大がSK107の長軸6.2m、短軸0.65m、深さ1.35m、最小がSK05の長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.7mである。

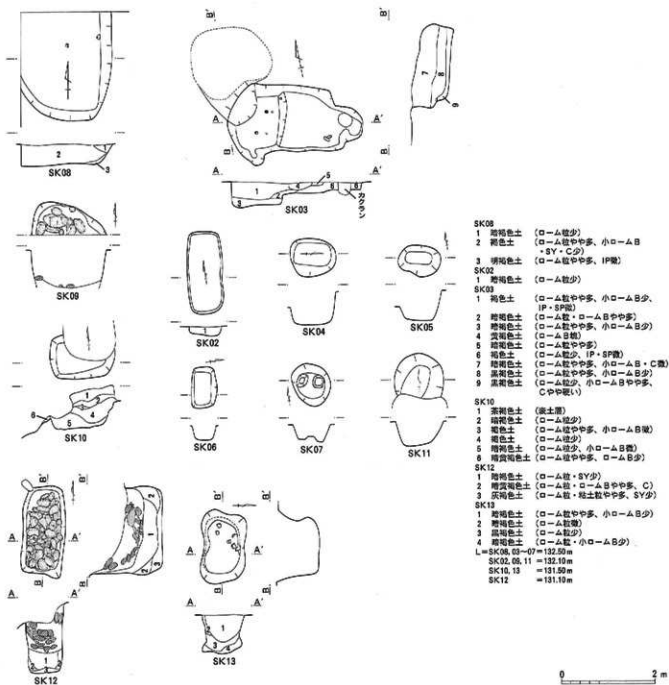
これらの土坑で用途の明確なものは、SK03の地下式坑である。天井部の崩落の可能性があるため完掘はしなかったが、入口部分が階段状となり、L字型に曲がって本体部分に入る。本体部分の規模は幅1.65m、奥行き1.5m、深さ0.8mと比較的小規模な造りである。この入口部分からは第153図1の青白磁が出土している。

また、これらの土坑の中には埋土中より多数の川原石が出土するものがある。上記のタイプ分けで見ると、Bタイプ(SK91)の1例、Dタイプ(SK12、SK20、SK27、SK36、SK64、SK75、SK137)の7例、Fタイプ(SK19)の1例挙げられる。SK64とSK91からは、青磁や瀬戸、常滑等の土器類も出土している。

この他に、SK144では、常滑壺1個体分が破砕後投棄されたような状態で出土している。

遺構名	調査次	位置	規模 (m)			形態	備考	遺構名	調査次	位置	規模 (m)			形態	備考
			長軸	短軸	深さ						長軸	短軸	深さ		
SK01	IV	G-4	3.20	1.70	0.30	F		SK73	*	*	0.94	0.88	0.32	C	
SK02	*	*	2.40	0.80	0.22	D		SK74	*	T-97	2.00	1.50	0.20	D	土器・石
SK03	*	G-8	3.00	1.60	0.90	F	土器・石・青白磁	SK75	VI	G-15 控	1.20	0.70	0.53	D	土器・石
SK04	*	G-6	1.00	0.80	0.69	E		SK76	*	*	3.30	0.70	0.16	E	
SK05	*	*	0.90	0.70	0.70	E		SK77	*	*	1.50	-	0.40	D?	土器
SK06	*	*	0.90	0.56	0.30	D		SK78	*	*	1.06	0.60	0.30	F	
SK07	*	*	0.95	0.80	0.40	A		SK79	*	*	-	0.60	0.20	F	
SK08	*	G-11	2.30	1.90	0.44	D	土器・石	SK80	*	*	1.10	0.70	0.20	F	
SK09	*	G-4	1.60	-	0.80	D?	石	SK83	*	*	3.15	0.50	0.20	E	
SK10	V	G-1	1.50	0.97	0.97	D		SK84	*	*	1.30	0.70	0.80	D	石
SK11	IV	G-4	-	1.18	0.63	B		SK85	*	*	1.30	0.64	0.20	D	
SK12	V	G-1	1.90	0.94	1.60	D		SK86	*	*	3.30	0.80	0.13	E	
SK13	*	G-3	1.60	1.00	0.97	E	土器・石	SK90	*	*	0.85	0.60	0.10	F	
SK14	*	*	1.90	1.50	0.28	F	土器・石	SK91	*	*	1.40	1.10	1.30	B	土器・石
SK15	*	*	2.80	1.80	0.68	F		SK92	*	*	1.06	0.90	0.70	C	土器
SK16	*	*	-	0.36	0.69	E		SK93	*	*	1.60	1.06	0.56	E	
SK17	*	*	-	1.94	0.44	F		SK96	*	*	1.70	0.50	0.12	B	
SK18	*	*	3.60	0.63	0.63	D		SK97	*	*	0.65	0.55	0.20	F	
SK19	*	G-1	1.30	1.30	0.15	F	土器・石	SK98	*	*	1.00	0.70	1.06	D	石
SK20	*	G-11	1.40	1.13	0.75	D	土器・石・鉄	SK100	*	*	1.80	0.50	0.20	E	
SK21	*	*	0.65	0.66	0.16	F		SK101	*	*	1.96	1.10	0.20	D	
SK22	*	*	1.20	1.10	0.30	C	土器	SK102	*	*	2.40	0.65	0.20	E	
SK23	IV	G-14	2.25	1.96	0.34	F		SK106	*	*	0.90	0.65	0.20	B	
SK24	V	G-11	-	0.69	0.25	F		SK107	*	*	6.20	0.65	0.35	E	鉄
SK25	*	*	1.25	0.90	0.19	F		SK108	*	*	3.00	1.30	0.25	E	土器・石
SK26	*	*	-	-	0.80	F	胎付	SK109	*	*	1.90	1.34	0.20	D	古銭
SK27	*	*	2.00	1.00	1.13	D	土器・石・炭	SK110	*	*	0.70	0.65	0.20	A	
SK28	*	*	1.40	0.78	0.90	D	石・古銭	SK111	*	*	0.90	0.75	0.64	C	土器・炭
SK29	*	*	1.80	0.40	0.63	D		SK112	*	G-19	1.20	1.10	0.36	B	
SK30	*	*	0.82	0.82	0.19	A		SK114	*	*	2.10	1.20	0.50	D	土器・石
SK31	*	*	0.94	0.80	0.22	A		SK115	*	*	1.60	0.90	0.12	E	
SK32	*	*	0.75	0.69	0.30	A		SK117	*	*	1.90	0.70	0.30	E	土器
SK33	*	*	0.90	0.80	0.20	A		SK119	*	*	1.00	0.90	0.50	F	
SK34	*	*	0.85	0.75	0.25	B		SK120	*	*	1.30	1.15	0.40	F	
SK35	*	G-3	-	0.56	0.50	D	土器	SK121	*	*	1.00	0.40	0.40	F	
SK36	*	G-11	2.06	1.20	-	D	土器・石・鉄	SK122	*	*	1.06	0.70	0.20	F	
SK37	*	*	1.80	0.86	0.19	D	石	SK124	*	*	1.20	0.60	0.30	B	
SK38	VI	T-51	-	1.25	0.30	D?	土器・石・鉄	SK125	*	*	1.20	-	0.40	B	
SK39	*	*	1.06	0.44	0.25	D?		SK127	*	G-15 控	1.30	0.97	1.00	D	石
SK40	*	*	-	1.20	0.50	F		SK128	VII	G-11	4.50	1.00	0.30	D	土器
SK41	*	G-15	5.25	1.00	0.40	D	土器	SK129	*	*	3.90	1.00	0.15	D	石
SK42	*	*	1.50	1.25	0.30	F		SK130	*	*	4.00	0.88	0.40	D	
SK43	*	*	1.30	0.84	0.40	B	土器	SK131	*	*	1.10	0.90	0.60	F	
SK44	*	*	3.30	1.40	0.40	D	土器	SK133	*	*	1.06	0.85	0.20	B	
SK45	*	*	2.80	1.56	0.56	D		SK134	VIII	G-11	1.12	0.80	0.35	D	
SK46	*	*	1.60	-	0.40	C?		SK135	*	*	1.00	0.70	0.60	E	土器
SK47	*	T-53	1.50	0.85	1.50	D	陶器・青磁・鉄・石・炭	SK136	*	*	0.90	0.75	1.20	C	石
SK48	VI	G-12	1.20	0.90	0.40	D		SK137	*	*	1.50	1.20	0.55	D	石
SK49	*	T-56	1.86	-	1.00	C?		SK141	*	*	1.15	-	0.85	E	石
SK50	*	T-53	1.40	0.68	0.65	D	土器・石	SK142	*	*	1.10	0.70	0.55	D	
SK51	*	*	1.70	1.40	-	D	土器・石・鉄・古銭	SK143	*	*	1.15	0.76	0.30	B	鉄
SK52	*	G-13	1.10	0.70	1.00	D	石・鉄	SK144	*	*	1.90	0.80	0.70	D	土器・石
SK53	*	*	1.06	0.62	0.20	F		SK146	*	*	-	0.55	-	E	土器
SK54	*	*	0.85	0.55	0.53	D	鉄								

第28表 土坑一覽表



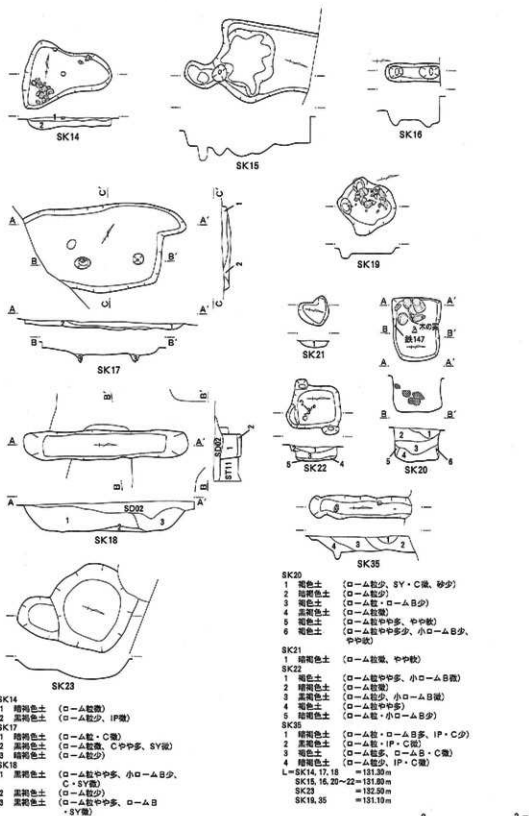
- SK08
 1 褐色色土 (ローム粒少)
 2 褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB・SY・C少)
- SK02
 1 褐色色土 (ローム粒少)
- SK09
 1 褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB少、IP・SP粒)
 2 褐色色土 (ローム粒・ロームBやや多)
 3 褐色色土 (ローム粒やや多、小ロームB少)
 4 黄褐色土 (ロームB粒)
 5 黄褐色土 (ローム粒やや多)
 6 褐色土 (ローム粒少、IP・SP粒)
 7 褐色色土 (ローム粒やや多、小ロームB・C粒)
 8 黄褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB少)
 9 黄褐色土 (ローム粒少、小ロームBやや多、Cやや粒い)
- SK10
 1 黄褐色土 (黄土層)
 2 黄褐色土 (ローム粒少)
 3 褐色土 (ローム粒やや多、小ロームB粒)
 4 褐色土 (ローム粒少)
 5 褐色色土 (ローム粒少、小ロームB粒)
 6 褐色色土 (ローム粒やや多、ロームB少)
- SK12
 1 褐色色土 (ローム粒・SY少)
 2 褐色色土 (ローム粒・ロームBやや多、C)
 3 黄褐色土 (ローム粒・粘土粒やや多、SY少)
- SK13
 1 褐色色土 (ローム粒やや多、小ロームB少)
 2 褐色色土 (ローム粒)
 3 黄褐色土 (ローム粒少)
 4 褐色色土 (ローム粒・小ロームB少)
- L=SK08, 03-07=132.50m
 SK02, 06, 11=132.10m
 SK10, 13=131.50m
 SK12=131.10m

第145図 SK02~13平・断面図

(5) 積石遺構 (SX10) (第156・157図)

IVの曲輪のほぼ中央において積石遺構を確認した。南北4.0m×東西3.8mの範囲内に拳大程度の川原石を主体に、土上部周囲に比較的大きな川原石を使用し、旧地表面からの高さ30cm程度、土饅頭状に石を積み上げている。A-A'ラインでの断ち割りを行ったが墓穴等の遺構は確認できなかった。また、東側約50cm離れた場所に南北1.5m×東西2.0mの長方形の集積遺構が確認でき、両者は関連遺構と考えられる。こちらの遺構の方が比較的大きな川原石を使用している。

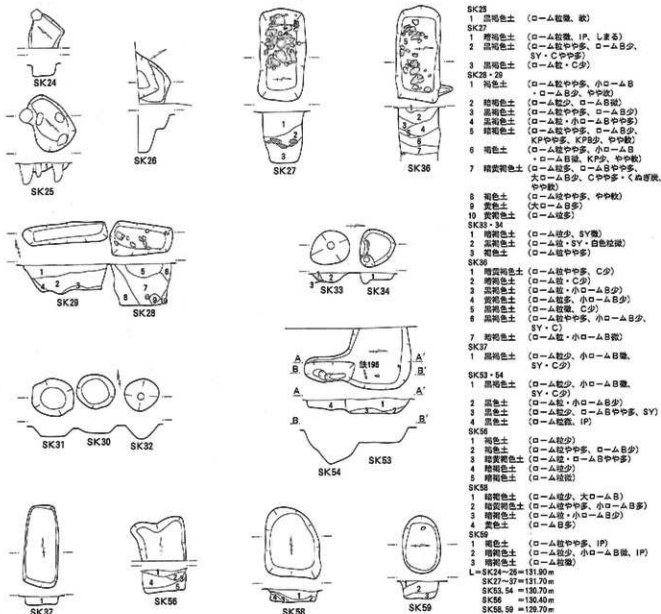
出土遺物は、土師器皿、青磁碗、青白磁梅瓶、龍の刻印をもつ黄褐釉壺、備前擂鉢、砥石、鉄滓などが積石の中に散在した状態で出土した。なお、5の青白磁梅瓶、12、13の黄褐釉壺とST13の出土遺物とは接合関係にある。



第146図 SK14~23・35平・断面図

(6) 柱穴列 (第158図・第29表)

柱穴列は、13基確認できたが、この他にも多数のピットが確認できていることから、本来はこのような冊状の遺構はもっと数が多いと思われる。

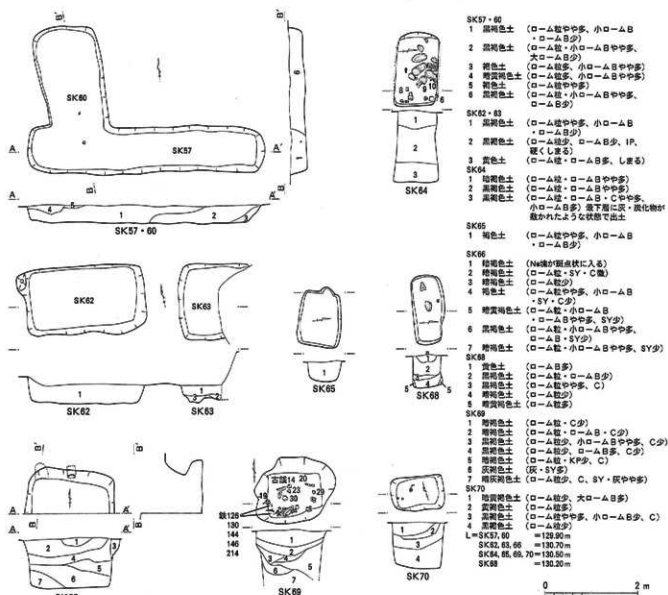


0 2 m

第147図 SK24~59平・断面図

遺構名	調査次	位置	長さ (m)	深さ (cm)	方位	柱間	備考
SA01	V・Ⅷ	G-11	11.3	15~30	N-87°-E	2.4mと2.7m	ST14の北側
SA02	V	G-11	6.6×1.8	15~60	N-84°-W	1.8m~2.3m	
SA03	V	G-11	4	15~35	N-87°-W	2.0m	
SA04	V	G-11	4.3	20	N-10°-E	1.8mと2.2m	
SA05	V	G-11	3.4	25	N-4°-W	1.7m	
SA06	Ⅷ	G-11	4.9	35~45	N-86°-W	2.4m	
SA07	V	G-1~G-4	4.1	25~50	N-74°-E	2.1m	
SA08	Ⅷ	G-15掘	2.8	10	N-80°-W	2.8m	
SA09	Ⅷ・Ⅷ	G-15	10.8	15~30	N-1°-E	1.8mと5.4m	
SA10	Ⅷ	G-15掘	2.4	20	N-81°-W	1.2m	
SA11	Ⅷ	G-15掘	4.6	10~25	N-8°-E	2.2mと2.4m	
SA12	V	G-1~G-4	7.8	25~35	N-2°-E	2.1mと3.3m	SB10の西側
SA13	V	G-1~G-4	3.9	20	N-86°-W	1.8m	SB10の北側

第29表 柱穴一覧表



第148図 SK57・60～70平・断面図

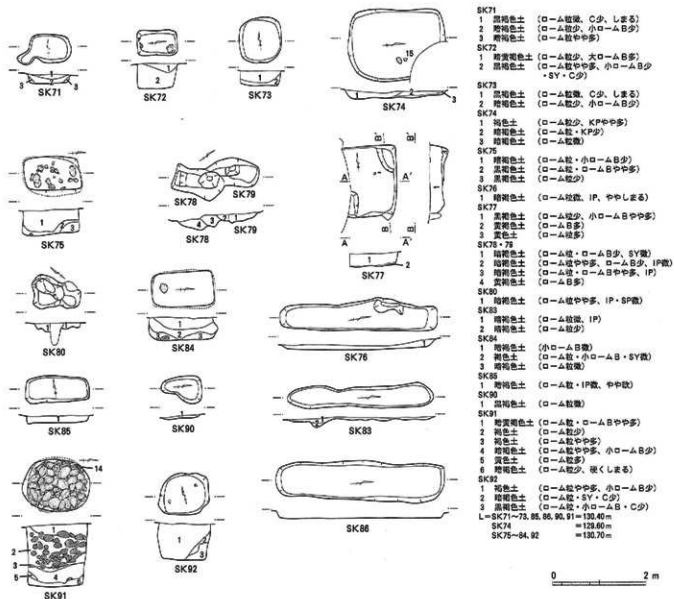
(7) その他の出土遺物

① 古銭 (第160図・第30表)

第Ⅶ次調査まで、52枚の古銭が出土している。この中には近世の寛永通寶7枚と文久永寶1枚も含まれている。また、全体の3割が文字の判読できない不明銭であるが、竪穴建物跡から出土しているものは中世のものと考えられる。

第30表からもわかるように、27の「宣徳通寶」が明銭である以外は、ほとんどが北宋銭である。中でも「熙寧元寶」が5枚、「元豐通寶」が5枚と多い。

遺構別の出土割合をみると、竪穴建物跡からが5割、土坑からが1割、表採等からが4割と竪穴建物跡が



第149図 SK71～92平・断面図

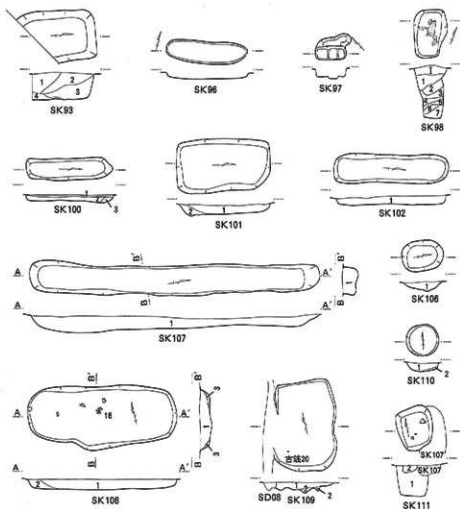
らの出土頻度が高い。また、ST01で6枚出土しているように、同じ堅穴建物跡から複数枚出土する場合が多い。

② 青銅品 (第161図・第31・32表)

第Ⅷ次調査までで、18点の青銅品が出土している。この中には近世のキセル4点も含まれている。ほとんどが堅穴建物跡から出土である。

容器の一部と考えられるのは、1と14である。

1は水瓶の蓋の摘み部にあたる獅子鈕である。獅子の尻部には円形の孔があき、蓋との接合部であることがわかる。鬣や尾などの表現が細かく古相を呈する。類例としては、大山祇神社所有の平重盛奉納品(重要文化財)、朝護孫子寺所有の「銅信貴形水瓶」が挙げられ何れも鎌倉時代の作である。



- SK93
 1 暗褐色土 (ロ-ム粒少, 小ロ-ムB少
 斑状に入る)
 2 暗褐色土 (ロ-ム粒少)
 3 暗褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB少,
 ロ-ムB粒)
 4 黄褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB多)
 SK99
 1 黄土層
 2 暗褐色土 (ロ-ム粒)
 3 暗褐色土 (ロ-ム粒少, 小ロ-ムBやや多)
 4 暗褐色土 (ロ-ム粒少)
 5 暗褐色土 (ロ-ム粒やや多, 小ロ-ムB少)
 6 暗褐色土 (ロ-ム粒)
 7 暗褐色土 (ロ-ム粒少, 小ロ-ムBやや多)
 8 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB少)

- SK100
 1 暗褐色土 (ロ-ム粒・C)
 2 褐色土 (IP, SP少)
 3 暗褐色土 (IP少)
 SK101
 1 褐色土 (ロ-ム粒少, 小ロ-ムBやや多)
 2 暗褐色土 (ロ-ム粒少)
 SK102
 1 黄褐色土 (ロ-ム粒・IF粒, しまる)
 SK106
 1 暗褐色土 (ロ-ム粒)
 SK107
 1 褐色土 (ロ-ム粒・やや軟)
 SK108
 1 暗褐色土 (ロ-ム粒少, 小ロ-ムB
 -SY・C粒)
 2 暗褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB粒)
 3 黄褐色土 (ロ-ム粒やや多)

- SK109
 1 暗褐色土 (ロ-ム粒)
 2 褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB少)
 SK110
 1 黄褐色土 (ロ-ム粒少, SY粒)
 2 暗褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB多)
 SK111
 1 褐色土 (ロ-ム粒やや多・小ロ-ムB少)
 2 暗褐色土 (ロ-ム粒少)
 L=SK99-97 =139.20m
 SK98 =139.80m
 SK100, 101, 109-110=139.50m
 SK102-108, 111 =139.70m

0 2 m

第150図 SK93~111平・断面図

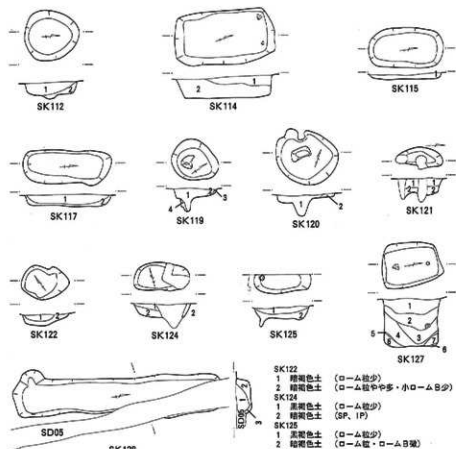
14は片口で、薄く仕上げられている。

武器、武具、馬具の一部と考えられるのは、2と3の覆輪、5の鞍、6の足金物、7の座金具、8の留金具、9の太刀金具、10と11の小鈎である。6の把手部分には炭化した紐が付着している。

この他の4、12、13は用途不明の部品である。

③ 鉄製品 (第162~168図・第33~35表)

第Ⅷ次調査までで、341点の鉄製品が出土し、その内の実測可能な233点を第162~168図に示した。各製品を割合別で見ると、釘が259点(76%)、武器類10点(3%)、小札24点(7%)、鉄滓12点(4%)、その他33点(10%)となる。これらのほとんどが堅穴建物跡からの出土である。



- SK112
1 暗褐色土 (ローム粒数, IP, 溝面に残い)
2 暗褐色土 (SP, IP, 溝面に残い)
- SK114
1 黒褐色土 (ローム粒やや多, 小ロームB少)
2 黒褐色土 (ローム粒・ロームBやや多)
- SK115
1 暗褐色土 (ローム粒数, IP, やや強)
2 暗褐色土 (ローム粒やや多)

- SK119
1 暗褐色土 (ローム粒少)
2 暗褐色土 (ローム粒数)
3 暗褐色土 (ローム粒やや多)
4 黄褐色土 (ロームB多)
- SK120
1 暗褐色土 (ローム粒少)
2 暗褐色土 (ローム粒数)
- SK121
1 暗褐色土 (SP, IP)
2 暗褐色土 (ローム粒少, IP)

- SK122
1 暗褐色土 (ローム粒少)
2 暗褐色土 (ローム粒やや多, 小ロームB少)
- SK124
1 黒褐色土 (ローム粒少)
2 暗褐色土 (SP, IP)
- SK125
1 黒褐色土 (ローム粒少)
2 暗褐色土 (ローム粒・ロームB多)
- SK127
1 黒褐色土 (ローム粒少, 小ロームB中多)
2 暗褐色土 (ローム粒少, ロームB数)
3 黒褐色土 (ローム粒数, ロームBやや多)
4 黒褐色土 (ローム粒数, Na少)
5 黄褐色土 (ロームB数)
6 暗褐色土 (ローム粒数)
7 暗褐色土 (ローム粒やや多, 小ロームB少)
- SK128
1 暗褐色土 (ローム粒・小ロームB少)
2 暗褐色土 (ローム粒少)
3 暗褐色土 (ローム粒やや多, 小ロームB少)

L=SK112~115 =129.20m
SK119, 120, 128 =129.30m
SK117, 121, 124 =129.70m
SK127 =129.80m
SK128 =131.80m

0 2 m

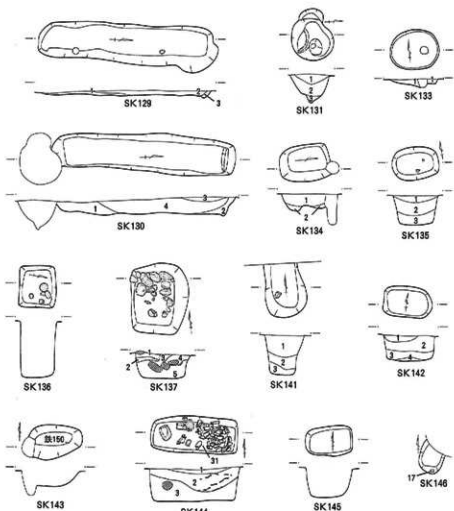
第151図 SK112~128平・断面図

釘は断面が四角のもので、長さのわかる製品と比較してみると、4.5cm以下の小さなものは23%、5~7.5cmの中くらいのは42%、8cm以上の大きいものは35%の割合となる。尚、46、121、124、125は片方の端を折り曲げて輪を作っているが、これは掛金用の釘(堀止)と考えられる。

小札は、伊予札と平札に大別され、その形状のわかるもので比較すると、3/4が伊予札で占められる。中には、黒漆が両面に付着しているものや、留金具が残っているものもある。大きさは、長さ6.0~6.8cmで、幅2.0~2.7cmとほぼ同規模のものである。ほとんどが堅穴建物跡の埋土中からの出土である。

武器類は、刀子、短刀、鉄鏝とに分けられる。刀子は189のような刃部が反るものと190のような反らないものがある。200は短刀の完形品で柄部に目釘孔がみられる。この遺物は、5号と6号堀の間にある外折形の施設を造成する以前の旧地表面から出土している。鉄鏝は先端まで残っているものが無いが、その形状から、箭頭部が細長いものと考えられる。

その他の鉄製品は、轡(201、202)、手斧(203)、毛抜き(204、205、208)、鋸? (207) 楔? (211、215)、火箸? (210)、鉄滓(222~233)等である。他の遺物同様ほとんどが堅穴建物跡からの出土である。尚、轡はST21の床面直上から出土し、鉄滓はST37から集中して出土した。



SK129

- 1 暗褐色土 (ロ-ム粒強, IP)
- 2 暗褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB少)
- 3 褐色土 (ロ-ム粒少)

SK130

- 1 暗褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB少)
- 2 褐色土 (ロ-ム粒少)
- 3 赤褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB少)
- 4 褐色土 (ロ-ム粒やや多, 小ロ-ムB・ロ-ムA・SY・C少)

SK131

- 1 褐色土 (ロ-ム粒やや多, 小ロ-ムB少)
- 2 暗褐色土 (ロ-ム粒やや多, 小ロ-ムB少)
- 3 暗褐色土 (ロ-ム粒多, 小ロ-ムB少)

SK132

- 1 暗褐色土 (ロ-ム粒強)
- SK134
- 1 暗褐色土 (ロ-ム粒少)
- 2 褐色土 (ロ-ム粒強)

SK135

- 1 暗褐色土 (ロ-ム粒・C・SY強)
- 2 暗褐色土 (ロ-ム粒・Cやや多)
- 3 褐色土 (ロ-ム粒やや多, 小ロ-ムB少, 粘質)

SK137

- 1 暗褐色土 (ロ-ム粒少)
- 2 褐色土 (小ロ-ムB少)
- 3 赤褐色土 (ロ-ム粒少, 小ロ-ムB強)
- 4 暗褐色土 (ロ-ム粒やや多)
- 5 赤褐色土 (ロ-ム粒少)

SK141

- 1 暗褐色土 (ロ-ム粒・KP少, C・SY強立つ)
- 2 暗褐色土 (KPやや多, KP強)
- 3 暗褐色土 (KP少)

SK142

- 1 褐色土 (ロ-ム粒少)
- 2 赤褐色土 (ロ-ム粒・小ロ-ムB少)
- 3 赤褐色土 (ロ-ム粒・ロ-ムB多)
- 4 赤褐色土 (ロ-ム粒少)

SK144

- 1 暗褐色土 (ロ-ム粒強)
- 2 赤褐色土 (ロ-ム粒・C少)
- 3 暗褐色土 (小ロ-ムB少, Cやや多)
- L=SK129~133 =131.60m
- SK134, 135, 143 =131.80m
- SK136~142, 144, 145=132.00m

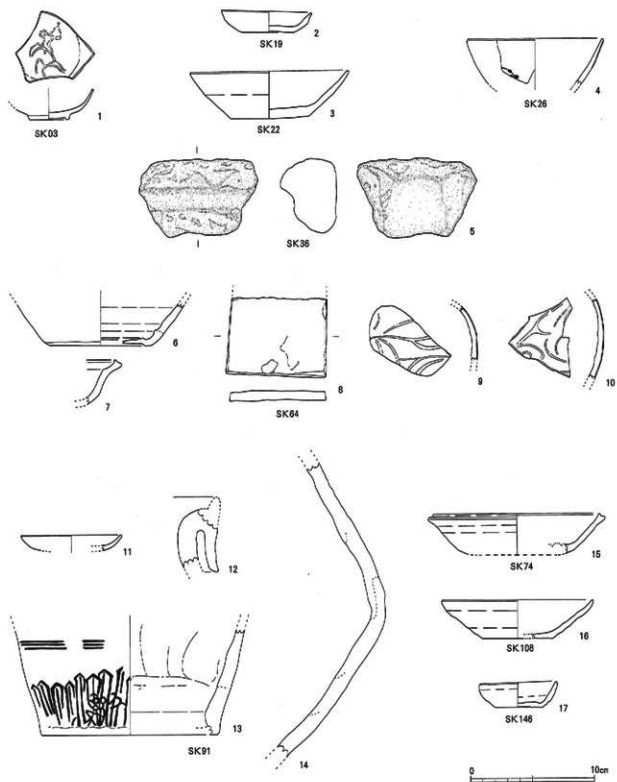
0 2 m

第152図 SK129~146平・断面図

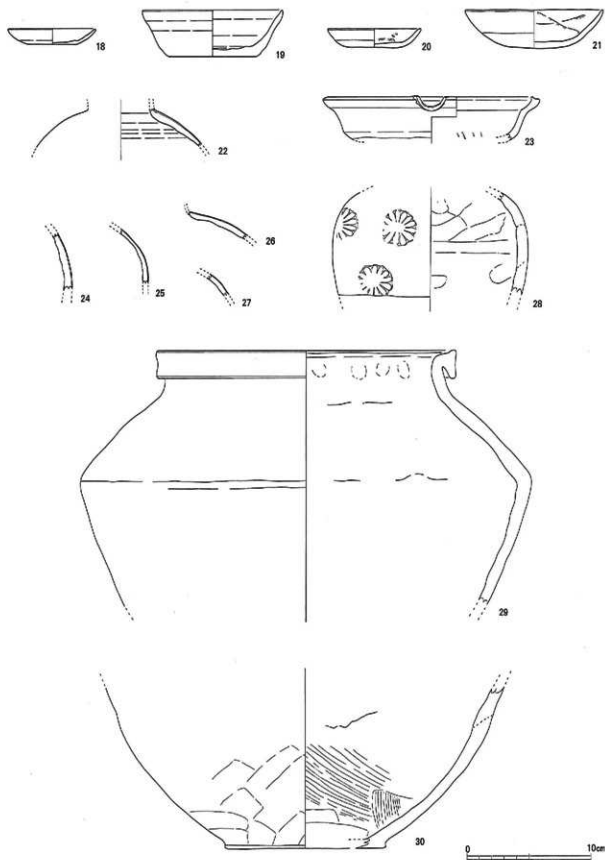
④ 表探 (第159・169・170図、第88・89表)

ここで取り扱う遺物は、遺構外の基本層序Ⅰ～Ⅱ層内から出土したものである。ほとんどは中世の遺物であるが、66、69、71、72は近世以降の遺物である。また、第159図は磁石や硯などの石製品である。

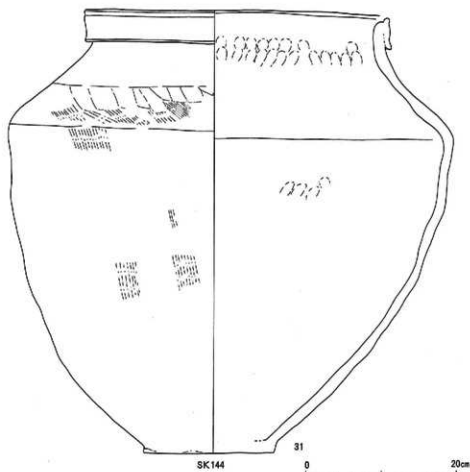
尚、3、7、11、13、16、17、20～22の9枚の土師器皿は、Ⅱ層上面(旧地表面)から1箇所に重なって出土しており、一括資料である。



第153图 土坑出土遺物実測図



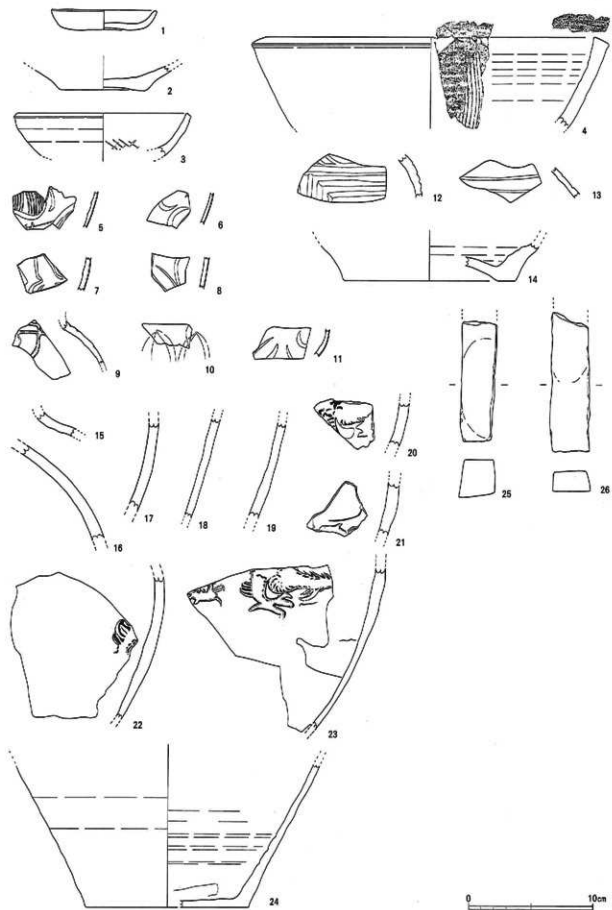
第154图 SK69出土遗物实测图



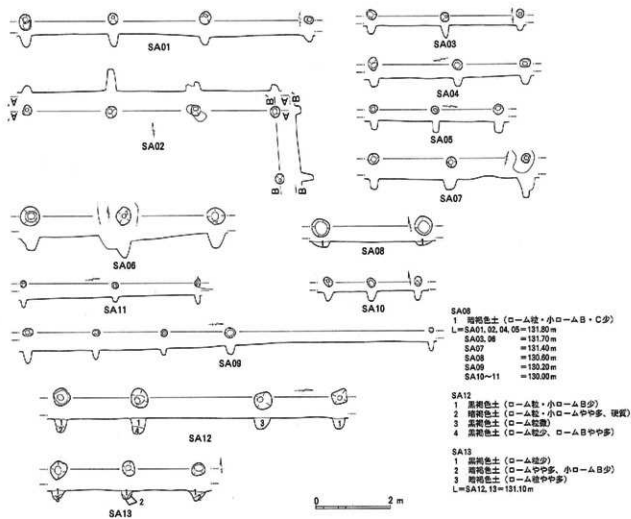
第155图 SK144出土物实测图



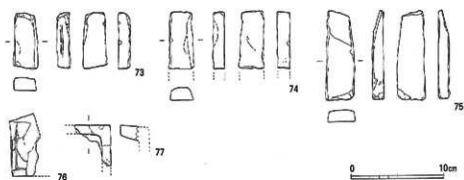
第156图 SX10平·断面图



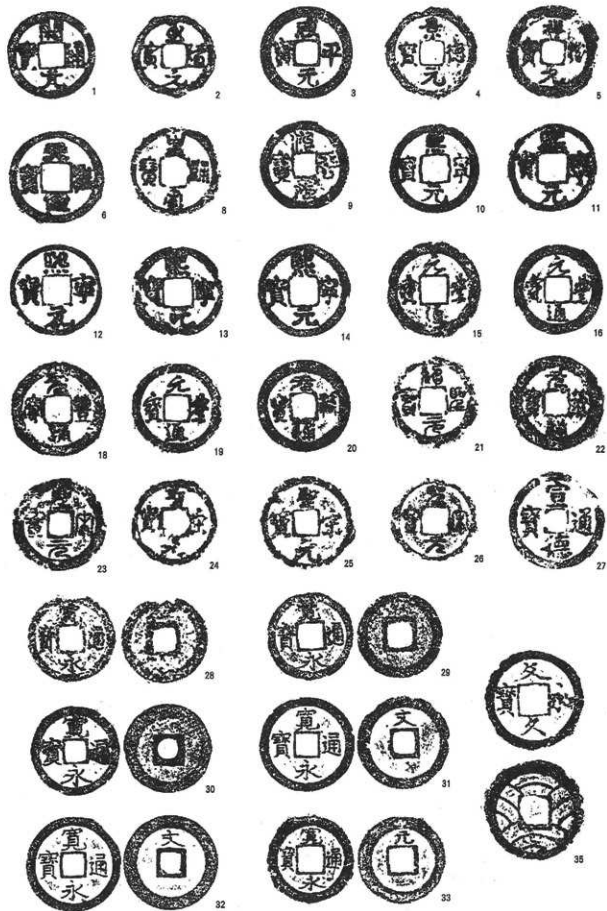
第157圖 SX10出土遺物實測圖



第158図 SA01~13平・断面図



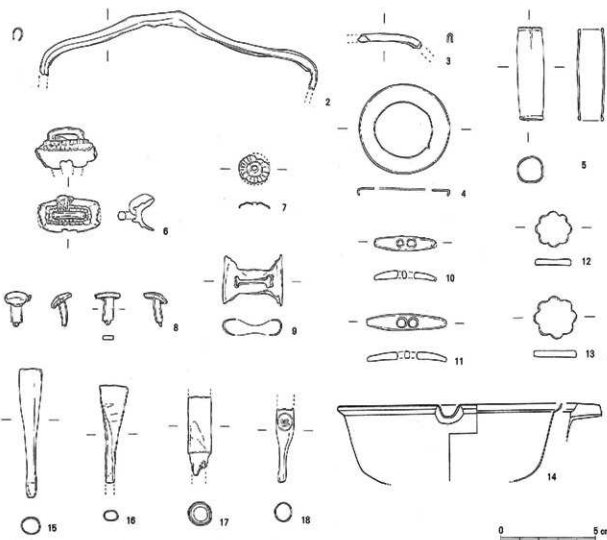
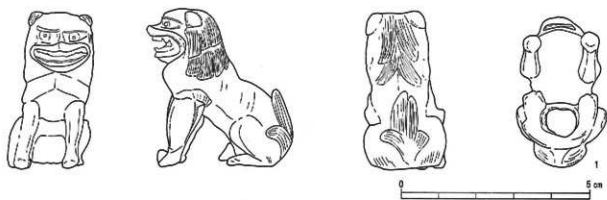
第159図 石製品 (表採)



第160圖 古錢

No.	名称	線直径 (cm)	外線幅 (cm)	外線厚 (cm)	調査	遺構名	層位	備考
1	開元通寶	2.34	0.24	0.10	Ⅵ次	SK69	埋土下層	南唐(960年)
2	至道元寶	2.242	0.22	0.12	Ⅵ次	ST17	埋土下層	北宋(995年)
3	咸平元寶	2.50	0.33	0.12	Ⅳ次	表探	埋土上層	北宋(998年)
4	景德元寶	2.425	0.26	0.14	Ⅵ次	ST22	埋土上層	北宋(1004年)
5	祥符元寶	2.505	0.34	0.12	Ⅳ次	ST01	埋土中	北宋(1009年)
6	天聖元寶	2.43	0.27	0.125	Ⅵ次	ST22	埋土上層	北宋(1023年)
7	景祐元寶	2.455	0.30	0.10	Ⅳ次	ST01	埋土中	北宋(1034年)
8	皇宋通寶	2.415	0.28	0.135	Ⅳ次	G-3	埋土中	北宋(1038年)
9	福聖元寶	2.42	0.315	0.15	Ⅳ次	ST01	埋土中	西夏(1053年)
10	熙寧元寶	2.375	0.26	0.13	Ⅳ次	ST01	埋土中	北宋(1068年)
11	熙寧元寶	2.44	0.24	0.15	Ⅳ次	ST01	埋土下層	北宋(1068年)
12	熙寧元寶	2.43	0.19	0.14	V次	ST15	埋土中	北宋(1068年)
13	熙寧元寶	2.445	0.26	0.11	V次	T-44	埋土中	北宋(1068年)
14	熙寧元寶	2.475	0.26	0.16	Ⅵ次	SK69	埋土中	北宋(1068年)
15	元豐通寶	2.35	0.265	0.13	V次	ST11	埋土中層	北宋(1078年)
16	元豐通寶	2.40	0.32	0.145	V次	ST13	埋土中	北宋(1078年)
17	元豐通寶	2.35	0.26	0.14	V次	T-44	埋土中	北宋(1078年)
18	元豐通寶	2.495	0.32	0.12	Ⅶ次	ST27	埋土中	北宋(1078年)
19	元豐通寶	2.38	0.27	0.13	Ⅶ次	ST27	埋土上層	北宋(1078年)
20	元祐通寶	2.47	0.34	0.13	Ⅶ次	SK109	埋土中	北宋(1086年)
21	紹聖元寶	2.35	0.31	0.145	Ⅶ次	ST39	埋土中	北宋(1094年)
22	元符通寶	2.495	0.37	0.13	Ⅶ次	G-15	埋土中	北宋(1098年)
23	聖宋元寶	2.42	0.275	0.125	Ⅳ次	ST01	埋土中	北宋(1101年)
24	聖宋元寶	2.50	0.32	0.11	V次	ST11	埋土中	北宋(1101年)
25	聖宋元寶	2.405	0.19	0.145	V次	SK03	埋土中	北宋(1101年)
26	聖宋元寶				Ⅵ次	ST16	埋土中	北宋(1068年)
27	宣德通寶	2.545	0.26	0.12	Ⅶ次	G-27	埋土中	明(1433年)
28	寬永通寶	2.33	0.24	0.13	V次	T-16	埋土中	江戸
29	寬永通寶	2.38	0.27	0.16	V次	T-16	埋土中	江戸
30	寬永通寶	2.285	0.23	0.10	V次	T-16	埋土中	江戸
31	寬永通寶	2.53	0.26	0.145	V次	T-44	埋土中	江戸
32	寬永通寶	2.53	0.26	0.125	Ⅵ次	表探	埋土中	江戸
33	寬永通寶	2.28	0.27	0.11	Ⅶ次	G-23	埋土中	江戸
34	寬永通寶	(2.23)			Ⅶ次	表探	埋土中	江戸
35	文久永寶	2.68	0.30	0.09	V次	T-44	埋土中	江戸
36	□□□寶				Ⅶ次	ST13	埋土中	
37	不明				Ⅳ次	ST01	埋土中	
38	不明				Ⅳ次	ST01	埋土中	
39	不明	2.415		0.14	Ⅳ次	G-3	埋土中	No.8と3枚重ね
40	不明	2.39	0.225	0.135	Ⅳ次	G-3	埋土中	
41	不明	2.46	0.31	0.105	V次	ST11	埋土中	
42	不明	2.465	0.20	0.14	V次	ST11	埋土中	
43	不明				V次	ST13	埋土中	
44	不明	(2.37)			V次	ST14	埋土中	
45	不明	2.44		0.15	V次	SK28	埋土中	
46	不明	(2.235)		(0.14)	V次	T-33	埋土中	
47	不明				Ⅵ次	ST23	埋土中	
48	不明	2.48		0.15	Ⅶ次	SK69	埋土中	
49	不明	2.475		0.12	Ⅶ次	SI10	埋土中	
50	不明	2.48	(0.31)	(0.11)	Ⅶ次	ST17	埋土中	
51	不明	2.48			Ⅶ次	ST39	埋土中	
52	不明				Ⅶ次	G-29	埋土中	

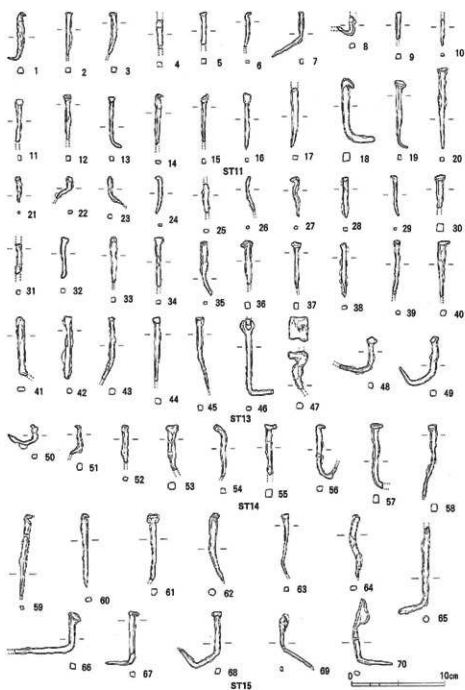
第30表 古銭一覧表



第161図 青銅品出土遺物実測図

No.	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	出土位置	備考
1	獅子鈕	高さ4.1~4.2			48.0	青銅	ST13 埋土中	
2	櫻輪		0.3	0.06	10.0	青銅	ST39 埋土中層	一部鍍金
3	櫻輪		0.3	0.1	1.0	青銅	ST15 埋土中	
4	不明		径4.8	0.1	8.0	青銅	ST12 埋土中層	
5	鞍	5.0	径1.4	0.8	13.0	青銅	ST12 埋土上層	
6	足金物				12.0	青銅	ST14 埋土中	紐が付着。

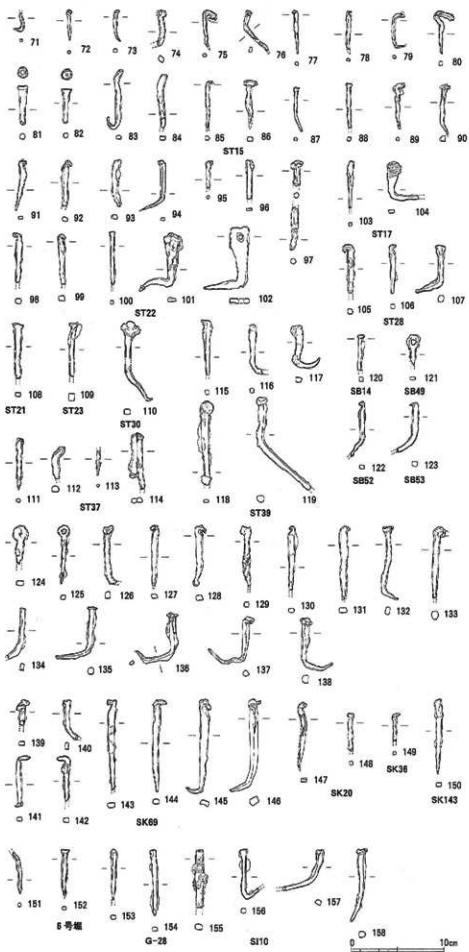
第31表 青銅品観察表(1)



第162図 鉄釘実測図(1)

No.	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	出土位置	備考
7	座金具		径1.6	0.06	1.0	青銅	ST15 埋土上層	表面に鍍金。
8	留金具	1.7	0.56	0.2	2.0	青銅	ST17 埋土上層	
9	太刀金具	2.5	3.1	0.05~0.1	5.0	青銅	SDQ2 埋土中	毛抜状穿孔あり。
10	小鉤		3.2	0.4	3.0	青銅	ST13 埋土中	一部鍍金。
11	小鉤		4.25	0.3	7.0	青銅	ST15 埋土中	全体に鍍金。
12	不明		1.9	0.3	5.0	青銅	ST15 埋土中層	
13	不明		径2.2	0.3	9.0	青銅	ST15 埋土下層	
14	鉤	口径 11.9		0.04		青銅	ST39 埋土中	
15	キセル	6.65	径0.8	0.06	4.0	青銅	ST24 埋土中	
16	キセル	5.1	径0.7	0.06	3.0	青銅	6号堀埋土上層	
17	キセル	4.1	径1.2	0.06	6.0	青銅	G-21 埋土上層	内部に笹竹が残っている。
18	キセル	3.9	径0.9	0.06	2.0	青銅	5号堀	印が押されている。

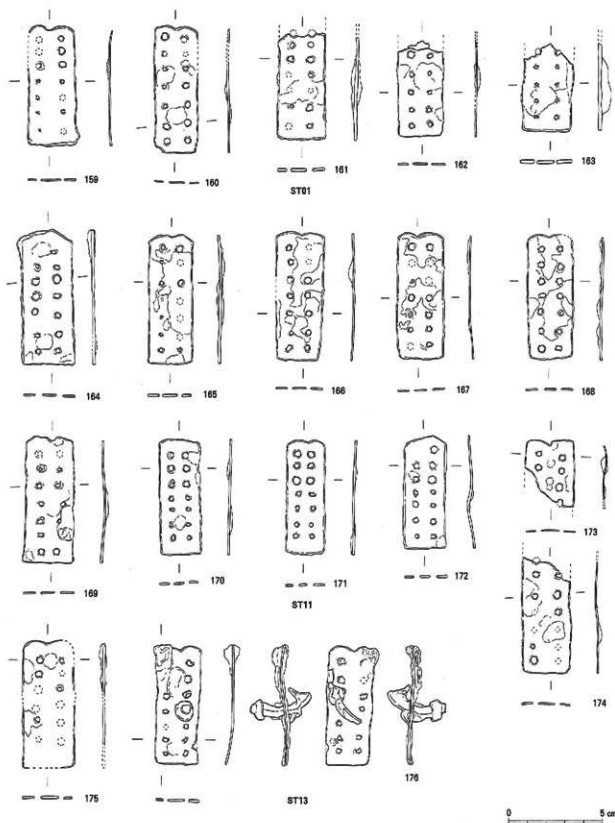
第32表 青銅品観察表(2)



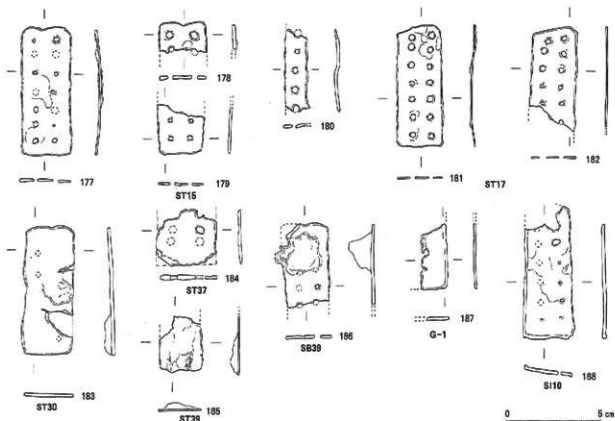
第163图 铁钉实测图(2)

No	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	出土位置	No	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	出土位置	No	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	出土位置
1	6.0	0.7	4.0	ST11 埋土中	55	(5.4)	0.7	10.0	ST14 埋土中	109	(5.8)	0.6	9.0	ST23 埋土中
2	(4.5)	0.5	3.0	*	56	(7.5)	0.6	4.0	*	110	9.5	0.65	11.0	ST30 埋土中
3	(4.5)	0.6	2.0	*	57	(7.0)	0.6	12.0	*	111	5.5	0.4	2.0	ST37 埋土中
4	(4.5)	0.35	2.0	*	58	8.0	0.7	10.0	*	112	3.4	0.75	5.0	*
5	(3.4)	0.5	2.0	*	59	(8.6)	0.4	4.0	ST15 埋土中	113	(2.1)	0.3	0.5	*
6	(4.0)	0.4	2.0	*	60	7.8	0.6	5.0	*	114	(5.9)	1.2	7.0	*
7	6.5	0.35	3.0	*	61	(6.9)	0.6	10.0	*	115	(6.0)	0.45	5.0	ST39 埋土中
8	(3.5)	0.6	1.0	*	62	(8.0)	0.7	10.0	*	116	(5.2)	0.45	7.0	*
9	(2.9)	0.6	1.0	*	63	(6.5)	0.45	4.0	*	117	6.5	0.65	10.0	*
10	(2.8)	0.4	0.5	*	64	(6.5)	0.65	8.0	*	118	(8.9)	0.5	19.0	*
11	(4.5)	0.4	3.0	*	65	(11.5)	0.6	13.0	*	119	(12.0)	0.75	22.0	*
12	(4.7)	0.5	3.0	*	66	(10.0)	0.55	19.0	*	120	(3.8)	0.4	3.0	SB14 埋土中
13	(5.0)	0.5	3.0	*	67	9.0	0.5	8.0	*	121	(3.35)	0.55	3.0	SB49 埋土中
14	(5.5)	0.6	3.0	*	68	(10.9)	0.5	11.0	*	122	(5.0)	0.5	4.0	SB52 埋土中
15	(5.0)	0.4	2.0	*	69	(7.0)	0.25	3.0	*	123	(6.3)	0.6	7.0	SB53 埋土中
16	6.0	0.4	3.0	*	70	(10.1)	0.6	8.0	*	124	(4.1)	0.75	6.0	SK69 埋土中
17	(6.3)	0.6	4.0	*	71	(2.5)	0.3	1.0	*	125	6.2	0.45	8.0	*
18	8.5	7.5	14.0	*	72	3.3	0.3	1.0	*	126	(7.5)	0.55	9.0	*
19	8.0	0.4	8.0	*	73	3.5	0.45	1.0	*	127	(6.4)	0.6	5.0	*
20	8.5	0.4	10.0	*	74	(3.7)	0.6	3.0	*	128	(6.4)	0.7	9.0	*
21	2.7	0.25	1.0	ST13 埋土中	75	(3.9)	0.45	2.0	*	129	(6.3)	0.5	5.0	*
22	(2.9)	0.45	1.0	*	76	(5.2)	0.3	3.0	*	130	(6.9)	0.55	11.0	*
23	(3.5)	0.5	1.0	*	77	4.5	0.4	1.0	*	131	(8.0)	0.85	11.0	*
24	4.0	0.4	1.5	*	78	(4.0)	0.4	2.0	*	132	(8.2)	0.5	12.0	*
25	(3.0)	0.5	2.0	*	79	(5.2)	0.5	2.0	*	131	(8.0)	0.85	11.0	*
26	(3.8)	0.3	1.0	*	80	7.1	0.4	4.0	*	132	(8.2)	0.5	12.0	*
27	4.2	0.4	2.0	*	81	4.1	0.6	3.0	*	133	(7.5)	0.75	12.0	*
28	4.3	0.45	3.0	*	82	3.7	0.5	3.0	*	134	(6.1)	0.5	8.0	*
29	4.3	0.3	1.0	*	83	7.5	0.6	4.0	*	135	8.3	0.6	8.0	*
30	(3.5)	0.7	5.0	*	84	(5.7)	0.6	8.0	*	136	9.5	0.5	9.0	*
31	(3.2)	0.4	1.0	*	85	(5.0)	0.5	2.0	*	137	8.2	0.65	8.0	*
32	4.3	0.4	2.0	*	86	(5.0)	0.6	5.0	*	138	8.0	0.65	10.0	*
33	(4.8)	0.5	2.0	*	87	5.0	0.3	2.0	*	139	(2.8)	0.6	1.5	*
34	(5.3)	0.5	6.0	*	88	(4.7)	0.4	4.0	*	140	(5.0)	0.4	2.0	*
35	5.8	0.4	4.0	*	89	4.8	0.4	3.0	*	141	5.8	0.6	3.0	*
36	(4.7)	0.5	8.0	*	90	(5.5)	0.5	4.0	*	142	5.6	0.65	4.0	*
37	(4.9)	0.45	3.0	*	91	5.0	0.5	4.0	ST22 埋土中	143	9.6	0.8	12.0	*
38	5.8	0.55	5.0	*	92	(4.8)	0.6	5.0	*	144	9.8	0.65	10.0	*
39	(5.2)	0.5	4.0	*	93	6.0	0.5	6.0	*	145	11.0	0.95	20.0	*
40	(5.9)	0.6	7.0	*	94	(6.6)	0.45	3.0	*	146	11.3	1.0	16.0	*
41	(6.2)	0.8	9.0	*	95	(2.9)	0.4	1.5	*	147	(7.0)	0.55	3.0	SK20 埋土中
42	6.7	0.55	8.0	*	96	(4.1)	0.6	4.0	*	148	(4.0)	0.4	1.5	*
43	(6.7)	0.6	7.0	*	97	(7.7)	0.5	7.0	*	149	(2.8)	0.4	1.0	SK36 埋土中
44	(6.7)	0.6	9.0	*	98	(5.7)	0.65	5.0	*	150	(7.7)	0.6	4.0	SK143埋土中
45	(8.0)	0.5	6.0	*	99	(5.8)	0.6	6.0	*	151	(4.5)	0.35	1.0	6号埋土中
46	10.2	0.5	13.0	*	100	(5.6)	0.3	3.0	*	152	5.2	0.5	3.0	*
47	(4.0)	0.6	11.0	*	101	8.5	0.9	19.0	*	153	(5.4)	0.55	2.0	*
48	(7.3)	0.5	7.0	*	102	10.0	2.2	20.0	*	154	7.0	0.55	6.0	G-28 埋土中
49	8.5	0.65	9.0	*	103	(5.0)	0.35	4.0	ST17 埋土中	155	(6.2)	0.8	11.0	ST10 埋土中
50	4.5	0.55	2.0	ST14 埋土中	104	(6.3)	0.65	7.0	*	156	(6.9)	0.5	8.0	*
51	(3.1)	0.55	1.0	*	105	(5.5)	0.55	7.0	ST28 埋土中	157	(7.0)	0.7	7.0	*
52	(4.0)	0.5	2.0	*	106	5.3	0.45	4.0	*	158	8.0	0.7	8.0	*
53	(4.8)	0.8	7.0	*	107	6.5	0.6	9.0	*					
54	(5.5)	0.5	3.0	*	108	(5.9)	0.55	6.0	ST21 埋土中					

第33表 鉄釘観察表



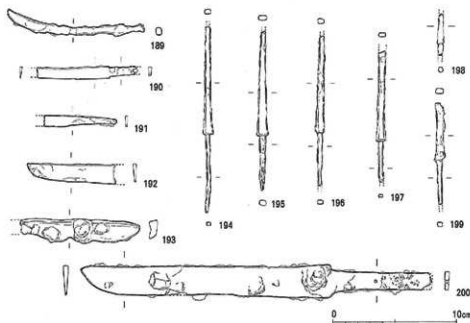
第164图 小札类测图(1)



第165図 小札実測図(2)

No.	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	出土位置	備考
159	小札	6.3	2.5	0.1	10.0	鉄	ST01 埋土中	
160	小札	6.7	2.3	0.1	3.0	鉄	ST01 埋土中	
161	小札	(5.7)	2.5	0.15	8.0	鉄	ST01 埋土中	
162	小札	(5.1)	2.35	0.1	3.0	鉄	ST01 埋土中	
163	小札	(4.7)	2.7	0.15	7.0	鉄	ST01 埋土中	
164	小札	7.1	2.6~3.0	0.15	14.0	鉄	ST11 埋土中層	
165	小札	6.8	2.3	0.15	17.0	鉄	ST11 埋土中	両面に黒漆
166	小札	6.8	2.1~2.6	0.1	10.0	鉄	ST11 埋土中	両面に黒漆
167	小札	6.8	2.5	0.1	10.0	鉄	ST11 埋土中層	両面に黒漆がきれいに残る。
168	小札	6.6	2.4	0.1	8.0	鉄	ST11 埋土中	両面に黒漆
169	小札	6.6	2.5	0.1	10.0	鉄	ST11 埋土中層	
170	小札	6.1	2.0~2.2	0.1	10.0	鉄	ST11 埋土中層	
171	小札	6.0	2.0	0.1	7.0	鉄	ST11 埋土上層	
172	小札	6.0	2.2	0.15	9.0	鉄	ST11 埋土中層	
173	小札	(3.55)	2.6	0.05	2.0	鉄	ST11 埋土中	半分に剥離している。
174	小札	6.2	2.5	0.1	4.0	鉄	ST11 埋土中層	
175	小札	6.7	2.7	0.1	12.0	鉄	ST13 埋土上層	
176	小札	6.3	2.3	0.1	11.0	鉄	ST13 埋土上層	釘状の物が残っている。
177	小札	6.8	2.7	0.15	11.0	鉄	ST15 埋土上層	
178	小札	(1.6)	2.5	0.15	2.0	鉄	ST15 埋土上層	
179	小札	(2.6)	2.5	0.1	2.0	鉄	ST15 埋土下層	
180	小札	(4.3)	(1.15)	0.15	2.0	鉄	ST16 埋土上層	
181	小札	6.4	2.4	0.1	5.0	鉄	ST17 埋土下層	
182	小札	(5.55)	2.4	0.08	3.0	鉄	ST17 埋土上層	
183	小札	6.7	2.6	0.2	10.0	鉄	ST30 埋土上層	
184	小札	(3.0)	3.1	0.15~0.3	3.0	鉄	ST37 埋土上層	
185	小札	(3.0)	2.2	0.1	2.0	鉄	ST39 埋土中	
186	小札	(4.2)	2.4	0.2	9.0	鉄	SB39 埋土中	
187	小札	(3.4)	(1.3)	0.1~0.2	2.0	鉄	G-1 埋土中	
188	小札	(6.9)	2.5	0.2	8.0	鉄	SI10 埋土中層	

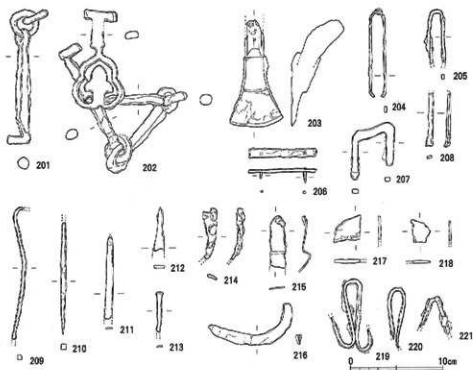
第34表 小札観察表



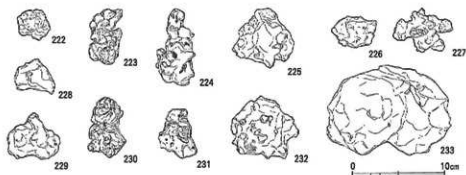
第166図 武器類実測図

No.	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	出土位置	備考
189	刀子	14.5	最大幅 1.2		28.0	鉄	ST27 埋土下層	
190	刀子	(10.6)	最大幅 1.35		10.0	鉄	ST22 埋土上層	
191	刀子	(7.8)	最大幅 1.2		10.0	鉄	G-11 埋土中	
192	刀子	(9.4)	最大幅 2.1		23.0	鉄	ST13 埋土中	
193	刀子	(12.75)	最大幅 2.5		52.0	鉄	ST35 埋土中層	
194	鉄鏃	(19.8)	1.2		30.0	鉄	ST12 埋土中層	
195	鉄鏃	(16.9)	1.2		25.0	鉄	ST13 埋土中層	矢筈の木質部分が残る。
196	鉄鏃	(16.0)	1.05		25.0	鉄	SK53 埋土上層	
197	鉄鏃	(14.0)	1.1		23.0	鉄	ST11 埋土中層	
198	鉄鏃	(4.4)	0.7		2.0	鉄	ST15 埋土中	矢筈の木質部分が残る。
199	鉄鏃	(10.7)	1.2		12.0	鉄	ST13 埋土上層	
200	刀子	28.3	最大幅 2.7		107.0	鉄	6号埋土中	
201	杏葉櫛	水付 11.5	1.2	1.2	70.0	鉄	ST21 床直	
202	杏葉櫛	水付 11.0	1.2 ~ 1.4	0.7 ~ 1.1	260.0	鉄	ST21 床直	No201 と同一個体。
203	手拵	(11.4)	5.7	0.4 ~ 1.2	158.0	鉄	ST11 埋土中	木製の柄が残る。
204	毛抜き	9.3	0.6	0.25	6.0	鉄	ST15 埋土中	
205	毛抜き	5.7	0.65	0.25	3.0	鉄	ST30 埋土上層	
206	不明	7.5	1.0 ~ 1.2	0.3 ~ 0.4	10.0	鉄	ST16 埋土上層	二箇所へ紙が留め残る。
207	不明	5.3	4.5	0.35 ~ 0.65	20.0	鉄	SK107 埋土中	
208	毛抜き	(5.65)	0.2 ~ 0.3	0.5	1.0	鉄	ST22 埋土上層	
209	不明	(14.7)	0.5		8.0	鉄	ST17 埋土中層	
210	不明	(11.4)	0.6		10.0	鉄	ST11 埋土中層	
211	不明	(8.7)	0.8		4.0	鉄	ST15 埋土下層	
212	不明	(4.5)	1.3		1.0	鉄	ST15 埋土下層	
213	不明	(4.3)	0.85		1.0	鉄	ST11 埋土上層	
214	不明	(5.5)	1.5		4.0	鉄	ST32 埋土中層	
215	不明		1.6	0.15	2.0	鉄	SK69 埋土下層	
216	不明	(12.0)	1.3		18.0	鉄	ST22 埋土中層	
217	不明	(2.85)	(2.75)	0.3	5.0	鉄	ST15 埋土下層	
218	不明	(2.4)	(1.8)	0.25	1.5	鉄	ST12 埋土中層	
219	不明				22.0	鉄	ST16 埋土上層	同一個体
220	不明		太さ 0.3 ~ 0.5		12.0	鉄	ST16 埋土上層	
221	不明				8.0	鉄	ST16 埋土上層	
222	鉄滓					49.0	鉄	ST31 埋土上層
223	鉄滓				49.0	鉄	ST37 埋土上層	

第35表 その他鉄製品観察表(1)



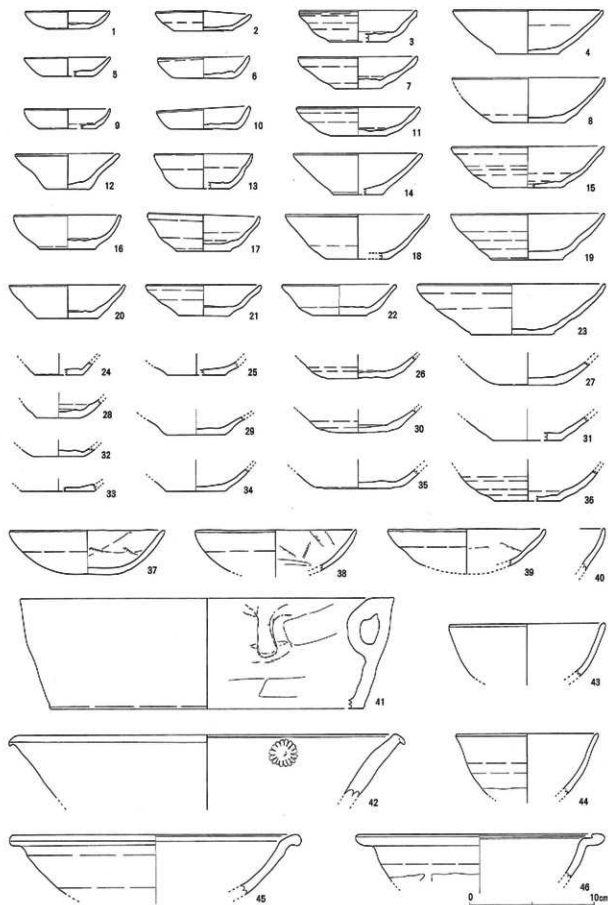
第167図 その他の鉄製品実測図



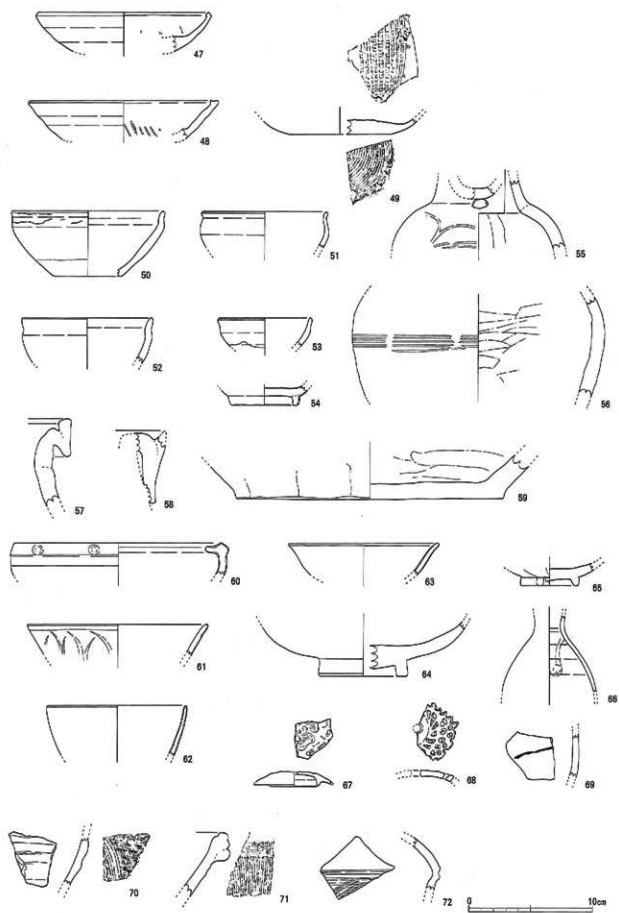
第168図 鉄滓実測図

No.	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	出土位置	備考
224	鉄滓				80.0	鉄	ST37 埋土上層	
225	鉄滓				80.0	鉄	6号堀埋土中	
226	鉄滓				26.0	鉄	ST39 埋土上層	
227	鉄滓				57.0	鉄	ST31 埋土中	
228	鉄滓				42.0	鉄	ST37 埋土上層	
229	鉄滓				63.0	鉄	ST37 埋土上層	
230	鉄滓				115.0	鉄	SX10 埋土中	
231	鉄滓				40.0	鉄	ST37 埋土上層	
232	鉄滓				120.0	鉄	ST37 埋土中層	
233	鉄滓				1155.0	鉄	ST37 埋土中層	

第36表 その他鉄製品観察表(2)



第169图 表採遺物実測図(中近世)(1)



第170图 表採遺物実測図(中近世)(2)

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(H)	7.2	1.8	4.0	Ⅲ	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	微砂粒 小石	良好	床直	2/3 残
2	皿(H)	6.7	1.7	3.7	Ⅲ	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	微砂粒 卵石	良好	床直	4/5 残
3	皿(H)	7.0	1.6	3.7	Ⅱ	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	微砂粒 卵石	良好	床直	1/2 残
4	皿(H)	6.4	1.7	4.0	Ⅲ	b1、板目状圧痕有り。	淡褐色	砂粒	良好	床直	1/3 残
5	皿(H)	6.9	1.7	3.9	Ⅲ	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	砂粒 卵石	良好	床直	4/5 残
6	皿(H)	(6.8)	1.5	(4.4)	Ⅲ	b1	淡褐色	砂粒	良好	床直	1/4 残
7	皿(H)	(6.4)	1.9	(3.8)	Ⅲ	b1	乳白色	微砂粒 卵石	良好	床直	1/3 残
8	皿(H)	(6.4)	1.7	(4.0)	Ⅱ	b1	乳白色	砂粒 卵石	良好	壇土中	1/2 残
9	皿(H)	10.8	3.3	5.5	Ⅲ	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	砂粒 卵石	良好	床直	1/2 残
10	皿(H)	11.8	3.8	4.4	Ⅱ	b1、板目状圧痕有り。	灰白色	砂粒 卵石	良好	壇土中	1/3 残
11	皿(H)			5.0	Ⅲ	b1	淡褐色	微砂粒	良好	床直	1/3 残
12	皿(H)			5.4	Ⅱ	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	砂粒 卵石	良好	床直	破片
13	皿(H)			5.6	Ⅱ	b1、板目状圧痕有り。	淡褐色	砂粒	良好	床直	破片

第37表 ST04遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考	
		口径	器高	底径								
1	皿(H)	12.1	3.0	5.3	1 1	a、板目状圧痕有り。	淡褐色	砂粒	良好	壇土下層	完形 灯明皿	
2	皿(H)	(7.2)	1.4	(4.8)	1 1	a	淡褐色	砂粒	良好	壇土中	1/4 残	
3	片口鉢? (S)	(31.4)	12.7	(14.4)		有台で、体部は直線的に閉き、口縁部は丸く仕上げられる。	クロク成色。体部下端外側へラクスリ。	灰色	砂粒 小石多	良好	壇土中	1/3 残
4	碗(青磁)			5.6		高台を付す。	高台外面まで釉がかかり、匙付を含めて外底無釉。内面に一条の墨線とスタンプ文有り。胎土との境は赤褐色を呈す。	緑灰色	釉密	良好	壇土下層	1/3 残
5	碗(白磁)			6.0		高台を付す。	高台外面まで釉がかかり、外側下縁はココ方内に取られる。	青白色	釉密	良好	壇土中	1/6 残

第38表 ST07遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(H)	5.0	1.7	2.9	Ⅱ	b1	乳白色	卵石	良好	壇土上層	完形 灯明皿
2	皿(H)	6.9	1.2	4.0	Ⅱ	b1	淡褐色	小石 卵石	良好	壇土中	ほぼ完形
3	皿(H)	7.0	1.5	4.0	Ⅲ	b1	褐色	赤色の打粒	良好	壇土中	2/3 残
4	皿(H)	7.1	1.7	3.9	Ⅱ	b1	乳白色	小石 卵石	良好	壇土上層	2/3 残
5	皿(H)	(7.1)	1.7	(4.2)	Ⅱ	b1、板目状圧痕有り。	灰褐色	微砂粒	良好	壇土下層	1/2 残
6	皿(H)	(7.3)	1.5	(4.1)	Ⅱ	b1	乳白色	砂粒 卵石少	良好	壇土上層	1/4 残
7	皿(H)	(7.4)	1.6	(3.7)	Ⅱ	b1	乳白色	砂粒 卵石少	良好	壇土上層	1/4 残 底部内面に 縁付き
8	皿(H)	12.2	3.6		1 1	a	淡褐色	砂粒 赤色の打粒	良好	壇土上層	1/2 残 口縁 に縁付き 灯明皿
9	皿(H)	12.4	3.5	6.0	1 1	a	褐色	砂粒 赤色の打粒	良好	壇土上層	ほぼ完形 口縁に縁付 着 灯明皿
10	皿(H)	(10.7)	3.9	(5.1)	Ⅱ	b1	乳白色	砂粒 赤色の打粒	良好	壇土下層	1/4 残
11	皿(H)	(10.8)	3.3	(5.2)	Ⅱ	b1	淡褐色	砂粒 卵石 赤色の打粒	良好	壇土上層	1/3 残
12	皿(H)	11.6	3.4	6.1	Ⅱ	b1	褐色	小石 卵石 赤色の打粒	良好	壇土上層	4/5 残 灯明皿
13	皿(H)	11.7	3.6	5.7	Ⅱ	b1	乳白色	卵石 赤色の打粒	良好	壇土中層	1/2 残 口縁 に縁付き
14	皿(H)	(11.9)	3.5	(6.0)	Ⅱ	b1	乳白色	小石 卵石	良好	壇土上層	1/3 残
15	皿(H)	(12.0)	3.4	(5.2)	Ⅱ	b1、板目状圧痕有り。	灰褐色	卵石少	良好	壇土中層	1/3 残
16	皿(H)	12.1	3.1	5.0	Ⅱ	b1	乳白色	砂粒 赤色の打粒	良好	壇土中層	2/3 残

第39表 ST11遺物観察表(1)

No.	器 種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
17	皿(H)	(13.0)	3.9	(6.6)	II	b1	褐色	小石 砂粒 卵石	良好	埋土上層	1/3 残
18	皿(H)	(13.6)			II	b1	乳白色	砂粒 赤色の打粒	良好	埋土下層	破片
19	皿(H)			(5.3)	II	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	砂粒 卵石 赤色の打粒	良好	埋土中層	1/3 残
20	片口鉢 (常滑)	(31.0)			口縁端部を角形 に仕上げず。	体部外面ナデ後、口縁部 横ナデ。	赤灰色	白色粒 砂粒 石英	良好	埋土中	破片 体部 上半一部
21	鉢(H)	(31.0)			口縁端部を角形 に仕上げず。	体部外面ナデ後、口縁部 横ナデ。内面ナデ。内面 に菊文。	赤褐色	卵石 石英 白色粒	良好	埋土上層	破片 体部 上半一部
22	折縁灰皿 (瀬戸)	(26.5)	7.0	(15.9)	体部が内湾気味 に立ち上がり、口 縁部が外折し、端 部はやや重らんで いる。	ロクロ成形。体部下片 1/3 原胎ヘラケズリ。底 部内外以外に、灰釉をほ どこす。底部内面に、櫛 描きによる同心円の沈 澱がある。	アゾ 灰色	砂粒	良好	埋土中層	1/3 残 底部内面に 煤付着
23	折縁灰皿 (瀬戸)	(26.6)			口縁部が外折し、 端部はやや重ら んでいる。	ロクロ成形。	アゾ 灰色	緻密	良好	埋土上層	破片 口縁部一部
24	天目茶碗 (瀬戸)	(11.8)	6.7	(4.3)	体部が外傾し、口 縁部が直立して いる。	ロクロ成形。回転糸切り 後、高台を貼りつける。 内面及び外面 2/3 上部 鉄釉。	灰褐色	砂粒	良好	埋土中	破片 外面 煤付着
25	盃				体部外面に鉄釉。	赤褐色	緻密	良好	埋土上層	破片	
26	?				体部外面に菊文。	淡褐色	緻密	良好	埋土上層	破片	
27	碗(青磁)		4.8		体部外面に磁蓮弁文。	アゾ 灰色	緻密	良好	埋土中層	1/5 残	
28	酒盃 (青磁)				外面に彫りによる文様 あり。	青緑色	緻密 卵石	良好	埋土下層	破片	
29	甕(常滑)		13.4		体部下半外傾気 味に立ちあがる。	体部下半外面ヘラナデ 後ナデ、体部下半内面ヘ ラナデ。	褐色	砂粒 白色粒	良好	埋土中	破片 底部一部
30	甕(常滑)	40.5	50.0	26.8	口縁部が受け状 を呈する。体部上 半部が張り、直線 的に底部に至る。	陶器上半に灰釉を施す。 肩部に押印文を1段塗 している。	灰アゾ 色 暗赤褐色	砂粒 白色粒	良好	埋土中	2/3 残 口縁部1部
31	甕(常滑)	31.0			口縁部がN字状 を呈する。	口縁部に灰釉を施して いる。	灰アゾ 色 暗赤褐色	砂粒 白色粒 灰色粒			破片 底部一部
32	甕(常滑)				口縁部がN字状 を呈する。	口縁部に灰釉を施して いる。	灰アゾ 色 暗赤褐色	砂粒 白色粒			破片 底部一部
33	甕(常滑)				口縁部がN字状 を呈する。	口縁部に灰釉を施して いる。	灰アゾ 色 暗赤褐色	砂粒 赤色の打粒	良好	埋土中層	破片 口縁部1部
34	石 臼					目が粗い				埋土上層	

第40表 ST11遺物観察表(2)

No.	器 種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
1	甕(常滑)				体部上半で肩が 張り、直線的に底 部に至る。	体部上半に灰釉を施す。 肩部外面にヘラを施して いる。	灰アゾ 色	砂粒	良好	埋土上層	1/5 残
2	鉢皿 (瀬戸)	14.6	3.2	7.3	体部が外傾気味 に立ち上がる。	体部上半外面、及び内面 に灰釉が施されている。 底部外面に回転糸切り。	アゾ 灰色	砂粒	良好	床直	完形
3	鉢(H)	(27.8)			体部が外半気味 に立ち上がる。	体部外面ナデ、体部内面 ヘラナデ。	淡褐色	砂粒 卵石	不良	埋土上層	1/4 残
4	大鉢(H)			(20.0)	体部が外傾気味 に立ち上がる。	洗練で体部外面ヘラケズ リ、体部内面ヘラナデ。 体部外面下半ケズリ。	赤褐色	砂粒 白色粒 卵石	不良	埋土上層	1/5 残 底部に煤付 着
5	皿(H)	7.9	1.5	4.2	II	b1	乳白色	小卵石 赤色の打粒	良好	埋土上層	完形
6	皿(H)	7.1	1.7	3.8	II	b1	乳白色	卵石少 赤色の打粒	良好	埋土下層	2/3 残
7	皿(H)	7.2	1.6	4.2	II	b1	褐色	卵石	良好	埋土中層	ほぼ完形
8	皿(H)	7.6	1.5	4.0	II	b1	淡褐色	砂粒 卵石 赤色の打粒	良好	埋土下層	ほぼ完形
9	碗(青磁)	(14.0)				体部外面に磁蓮弁文。	明緑灰色	緻密	良好	埋土上層	破片

第41表 ST12遺物観察表(1)

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
10	火舎香炉 (青銅)	5.5	2.75		幅 7cm、厚さ約 1cmの深い筒が一 周する。三脚で、 本体と脚とは銅 留めされている。		青緑色			床直	

第42表 ST12遺物観察表(2)

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考	
		口径	器高	底径								
1	皿(H)	(7.2)	1.8	4.4	Ⅲ	b1、板目状瓦痕有り。	淡褐色乳 白色	砂粒	良好	壇土上層	2/3 残 煤付着 灯明皿	
2	皿(H)	(6.6)	1.5	(4.0)	Ⅲ	b2	乳白色	砂粒	良好	壇土上層	1/2 残 煤付着 灯明皿	
3	皿(H)	(7.2)	1.5	(4.0)	Ⅲ	b1	乳白色	微砂粒 輝石	良好	壇土下層	1/4 残	
4	皿(H)	(7.0)	1.7	(4.1)	Ⅲ	b1	乳白色	砂粒	良好	床直	1/2 残	
5	皿(H)	(7.3)	1.6	(4.5)	Ⅲ	b1	淡褐色	砂粒 赤色コブ粒	良好	壇土中	1/3 残	
6	皿(H)	(6.8)	1.3	4.3	Ⅲ	b1	乳白色	砂粒	良好	壇土上層	2/3 残	
7	皿(H)	(8.0)	1.4	(5.0)	Ⅲ	b1	褐色	砂粒 輝石	良好	壇土上層	1/2 残	
8	皿(H)	(7.4)	1.55	(5.2)	Ⅲ	b1	乳白色	微砂粒 輝石	良好	壇土中	1/3 残	
9	皿(H)	(6.8)	1.2	(5.4)	Ⅲ	b1	淡褐色	砂粒 輝石	良好	壇土下層	1/4 残	
10	皿(H)			4.3	Ⅲ	b1	淡褐色	砂粒 輝石 白色粒	良好	壇土中	底部のみ残	
11	皿(H)			4.2	Ⅲ	b1	乳白色	微砂粒	良好	壇土上層	底部のみ残	
12	皿(H)			(5.0)		b1	淡褐色	砂粒 輝石	良好	壇土上層	底部破片	
13	皿(H)			(4.2)		b	淡褐色	砂粒 輝石 赤色コブ粒	良好	壇土下層	底部破片	
14	皿(H)	(11.8)	3.3	5.0	I 1	a	乳白色	砂粒 小石	良好	壇土中	1/2 残	
15	皿(H)	(13.2)	3.4	4.6	I 1	a	乳白色	砂粒 小石 灰色粒	良好	壇土下層	1/2 残	
16	皿(H)	(12.0)			II	b	黒褐色	砂粒 雲母 輝石	良好	壇土下層	1/4 残	
17	皿(H)	(14.0)			I 1	a	褐色	砂粒 赤色コブ粒	良好	壇土下層	破片	
18	皿(H)	(11.8)	3.3	5.2	II	b1、板目状瓦痕有り。	乳白色 黒褐色	輝石 赤色コブ粒	良好	壇土中	1/3 残 口縁部 に油漉付着	
19	皿(H)			(5.1)	a	a	乳白色	輝石 白色粒 黄色コブ粒	良好	壇土下層	底部破片 灯明皿	
20	皿(H)			(5.6)	b1	b1	褐色	砂粒 雲母 輝石	良好	壇土上層	底部破片	
21	皿(H)			5.0	b1、板目状瓦痕有り。	b1、板目状瓦痕有り。	乳灰色	砂粒 黒色粒 赤色コブ粒	良好	壇土中	破片	
22	皿(H)			(6.6)	II	b1、板目状瓦痕有り。	淡褐色	砂粒 輝石 赤色コブ粒	良好	壇土上層	1/5 残	
23	皿(H)			(5.4)	II	b	暗褐色	砂粒 輝石	良好	壇土上層	破片	
24	皿(H)			(6.4)	II	b1	暗褐色	砂粒 輝石 赤色コブ粒	良好	壇土上層	破片	
25	皿(H)			5.3	b1、板目状瓦痕有り。	b1、板目状瓦痕有り。	淡褐色	砂粒 輝石	良好	壇土中	底部 1/3 残	
26	皿(H)			5.0	b1、板目状瓦痕有り。	b1、板目状瓦痕有り。	黒色 淡褐色	砂粒 輝石 赤色コブ粒	良好	壇土下層		
27	皿(H)			(5.8)	b1、板目状瓦痕有り。	b1、板目状瓦痕有り。	淡褐色	砂粒 白色粒少	良好	壇土中	破片	
28	皿(H)			(6.4)	II	b、板目状瓦痕有り。	乳白色	砂粒	良好	壇土上層	1/3 残	
29	皿(H)			(5.8)	Ⅲ	b1、板目状瓦痕有り。	淡褐色	砂粒	良好	壇土中	1/5 残	
30	皿(H)			(7.2)	b1、板目状瓦痕有り。	b1、板目状瓦痕有り。	乳白色	砂粒 灰色粒	良好	壇土上層	破片	
31	皿(H)			(5.2)	b1	b1	明褐色	輝石 赤色コブ粒	良好	壇土中	破片	
32	皿(H)			4.4	b1	b1	乳白色	砂粒 金雲母	良好	壇土下層	底部のみ残	
33	皿(H)			(4.8)	b	b	乳白色	砂粒	良好	壇土中	破片	
34	皿(H)			(5.4)	b1	b1	乳白色	砂粒 白色粒	良好	壇土下層	破片	
35	天目茶碗 (瀬戸)	(11.6)					黒色	硬質	良好	壇土上層	破片	
36	碗(青銅)	(7.2)	1.8	(4.4)		体部が内湾気味 に立ち上がる。	外面に銅緑赤文。	明褐色	緻密 黒色粒	良好	壇土中層	1/5 残
37	小鉢 (白磁)			(7.9)		体部が外反気味 に立ち上がる。	外面に蓮弁文。	青白色	緻密	良好	壇土中	破片
38	鉢(土)					内面に松花文、外面は、	赤褐色	砂粒 白色粒	良好	壇土上層	破片	
39	陶杖 (白磁)					中央に底径20cm の円孔を穿つ。	白磁	緻密	良好	壇土下層	破片	

第43表 ST13遺物観察表(1)

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
40	酒金盞 (青銅)				縦文	暗緑色	緻密	良好	埋土下層	破片	
41	酒金盞 (青銅)				縦文	暗緑色	緻密	良好	埋土上層	破片	
42	酒金盞 (青銅)				縦文	暗緑色	緻密	良好	埋土中	破片	
43	碗(不明)	(16.8)			口唇部を傾み上げる。	黒色	緻密	良好	埋土中	破片	
44	折縁深皿 (瀬戸)	(25.8)				淡黄色	緻密	良好	埋土上層	破片	
45	盞			(11.2)		灰色	砂粒	良好	埋土中	破片	
46	盞	(18.4)			コクロ成形	灰白-ブ 色	砂粒	良好	埋土中	破片	
47	片口鉢 (常滑)	(29.6)	12.9	(10.8)	口唇部は角張る。	赤褐色	砂粒 小石	良好	埋土中	4/5 残	
48	襷(常滑)				スラブ 文様が施される。	暗赤褐色	砂粒 白色粒	良好	埋土中	破片	
49	襷鉢底				襷鉢後彫刻刀のようなもので、文様を削り取る。	黒褐色	緻密	良好	埋土中	破片	
50	襷鉢底				襷鉢後彫刻刀のようなもので、文様を削り取る。	黒褐色	緻密	良好	埋土中	破片	
51	襷鉢底				襷鉢後彫刻刀のようなもので、文様を削り取る。	黒褐色	緻密	良好	埋土中	破片	
52	襷鉢底				襷鉢後彫刻刀のようなもので、文様を削り取る。	黒褐色	緻密	良好	埋土中	破片	
53	梅瓶 (青白磁)				片切り形りの渦文。	青白色	緻密	良好	埋土下層	破片	
54	梅瓶 (青白磁)				片切り形りの渦文。	青白色	緻密	良好	埋土下層	破片	
55	梅瓶 (青白磁)				片切り形りの渦文。	薄青白色	緻密	良好	埋土下層	破片 被熱	
56	梅瓶 (青白磁)				片切り形りの渦文。	薄青白色	緻密	良好	埋土下層	破片 ST23と接合	
57	梅瓶 (青白磁)				片切り形りの渦文。	薄青白色	緻密	良好	埋土中	破片 被熱	
58	黄楊輪				外面に黄楊輪をほどこす。	黄褐色	緻密	良好	埋土中	破片	
59	黄楊輪				外面に黄楊輪をほどこす。	黄褐色	緻密	良好	埋土下層	破片	
60	黄楊輪				外面に黄楊輪をほどこす。	黄褐色	緻密	良好	埋土下層	破片	
61	磁石	長 5.0	幅 1.9	厚 1.4			磁石器		埋土上層		
62	茶臼(上)	16.8	18.0	16.6	手の巻込み部分に花形の溝が付け。	目が粗か。			埋土下層		
63	茶臼(下)		12.2	28.0	受け用の羽を持つ。	目が粗か。			床直		

第44表 ST13遺物観察表(2)

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(H)	6.1	1.8	4.4	Ⅲ	b1	暗褐色	砂粒 赤色心付粒	良好	埋土中	壳形
2	皿(H)	(6.2)	1.9	3.4	Ⅲ	b1	暗褐色	砂粒 赤色心付粒	良好	埋土中	2/3 残
3	皿(H)	(6.2)	1.8	(3.5)	Ⅲ	b1	暗褐色	輝石 赤色心付粒	良好	埋土上層	1/3 残
4	皿(H)	(6.2)	1.8	(3.8)	Ⅲ	b1	乳白色	砂粒 石英 赤色心付粒	良好	埋土上層	1/3 残
5	皿(H)	(6.3)	1.6	(3.6)	Ⅲ	b1	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/3 残
6	皿(H)	6.4	1.9	3.5	Ⅲ	b1	暗褐色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	4/5 残
7	皿(H)	6.6	2.0	3.9	Ⅲ	b1	暗褐色	砂粒 輝石	良好	埋土中	壳形
8	皿(H)	(6.6)	2.1	(4.0)	Ⅲ	b1	乳白色	砂粒 輝石 赤色心付粒	良好	埋土下層	2/5 残
9	皿(H)	(6.7)	1.7	(4.0)	Ⅱ	b1	暗褐色	砂粒 輝石 赤色心付粒	良好	埋土上層	1/3 残
10	皿(H)	(6.9)	1.85	(4.0)	Ⅱ	b1	灰色	白色粒 石英 小石	良好	埋土上層	1/3 残
11	皿(H)	(6.9)	2.0	(3.8)	Ⅱ	b1	暗灰色	砂粒 輝石 石英	良好	埋土上層	1/3 残
12	皿(H)	(7.0)	1.3	(4.4)	Ⅲ	b1	淡褐色	砂粒 輝石 赤色心付粒	良好	埋土上層	1/2 残
13	皿(H)	(7.0)	2.6	3.4	Ⅱ	b1	黒褐色	輝石	良好	埋土上層	1/2 残
14	皿(H)	(7.2)	2.5	3.7	Ⅱ	b1	淡褐色	砂粒	良好	埋土上層	2/3 残
15	皿(H)	7.1	2.25	4.0	Ⅲ	b1	乳白色	砂粒 輝石 石英	良好	埋土中	壳形
16	皿(H)	7.2	2.1	4.0	Ⅱ	b1	淡褐色	微細粒	良好	埋土中	壳形
17	皿(H)	(7.2)	1.9	4.3	Ⅲ	b1	暗褐色	金雲母	良好	埋土中	2/3 残
18	皿(H)	7.2	2.4	3.5	Ⅲ	b1	淡褐色 暗褐色	砂粒	良好	埋土中	ほぼ壳形

第45表 ST14遺物観察表(1)

No	器 種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
19	皿 (H)	7.4	2.3	4.0	II	b1	淡褐色	砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	3/4 残
20	皿 (H)	(7.5)	2.8	4.0	III	b1	淡褐色	密	良好	埋土下層	2/3 残
21	皿 (H)	(7.5)	2.5	3.8	III	b1	灰がか った淡 褐色	砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土中	4/5 残
22	皿 (H)	(7.6)	2.4	(3.8)	III	b1	淡褐色	輝石 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	1/2 残
23	皿 (H)	(7.9)	2.2	(4.0)	II	b1	乳白色	砂粒	良好	埋土上層	1/4 残
24	皿 (H)	(9.0)	2.1	4.8	III	b1	淡褐色	微砂粒	良好	埋土上層	2/3 残
25	皿 (H)	(6.0)	1.7	(4.3)	II	b1	暗褐色	微砂粒 輝石少	良好	埋土上層	1/5 残
26	皿 (H)	(6.0)	1.9	(3.0)	II	b1	乳白色	微砂粒 白色粒	良好	埋土上層	1/5 残
27	皿 (H)	(6.0)	2.0	(3.5)	II	b、板目状圧痕有り。	褐色	砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土中	1/4 残
28	皿 (H)	(6.1)	2.2	(4.4)	III	b1	乳白色	砂粒	良好	埋土中	1/5 残
29	皿 (H)	(6.4)	2.0	(4.0)	III	b1	乳白色	砂粒	良好	埋土上層	1/5 残
30	皿 (H)	(6.4)	1.8	(4.0)	II	b1	淡褐色	輝石多 白色粒	良好	埋土上層	1/4 残
31	皿 (H)	(6.8)	1.8	(4.0)	II	b1	淡褐色	小石 輝石 砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	1/6 残
32	皿 (H)	(6.8)	2.4	(3.4)	II	b1	淡褐色	砂粒 輝石 赤色ハ7粒	良好	埋土中	1/5 残
33	皿 (H)	(7.0)	1.7	(4.6)	III	b1	乳白色	砂粒 輝石少	良好	埋土上層	1/5 残
34	皿 (H)	(7.0)	1.9	(4.0)	III	b1	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/6 残
35	皿 (H)	(7.0)	2.0	(4.0)	II	b	淡褐色	砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	1/3 残
36	皿 (H)	(7.0)	2.0	(3.6)	II	b1	淡褐色	砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	1/4 残
37	皿 (H)	(7.1)	1.8	(4.6)	III	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	1/4 残
38	皿 (H)	(7.2)	1.8	(4.5)	III	b1	淡褐色	砂粒 石英	良好	埋土下層	1/5 残
39	皿 (H)	(7.3)	2.0	(4.6)	III	b1	淡褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/5 残
40	皿 (H)	(7.6)	2.5	(3.6)	III	b1	淡褐色	白色粒 輝石 石英	良好	埋土上層	1/4 残
41	皿 (H)	7.6	2.3	4.2	II	b1	乳白色	砂粒 小石	良好	埋土上層	1/5 残
42	皿 (H)	(7.3)	2.5	(3.5)	II	b1	淡褐色	輝石 石英	良好	埋土中	1/5 残
43	皿 (H)	(7.8)	1.4	(5.2)	II	b1	乳白色 淡褐色	赤色ハ7粒 輝石	良好	埋土上層	1/5 残
44	皿 (H)			(4.1)	III	b1	淡褐色	砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	1/5 残
45	皿 (H)			5.4	II	b1	乳白色	砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土下層	1/4 残
46	内折れ 小皿 (H)	(3.9)	0.8	(3.8)	平底、短く内湾し立 ち上がる。	b1	乳白色	輝石 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	1/2 残
47	内折れ 小皿 (H)	(4.0)	0.8	(3.6)	平底、短く内湾し立 ち上がる。	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	輝石 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	1/2 残
48	皿 (H)	(12.1)	4.5	(4.6)	II	b1	淡褐色	砂粒 輝石 石英	良好	埋土中	1/4 残
49	耳皿 (H)	6.2	2.1	4.1		a	乳白色	砂粒 黒色粒 赤色ハ7粒	良好	埋土下層	欠形
50	耳皿 (H)	(5.8)	1.6	(3.5)		a	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/2 残
51	皿 (H)	(6.2)	2.1	(3.0)	I 1	a	暗褐色	小石 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	1/6 残
52	皿 (H)	(7.1)	1.9	(4.2)	I 1	a	淡褐色	小石 赤色ハ7粒	良好	埋土中	1/2 残
53	皿 (H)	(7.2)	1.4	(4.3)	I 1	a	淡褐色	輝石 小石	良好	埋土上層	3/4 残
54	皿 (H)	7.3	1.45	5.2	I 1	a	暗褐色	砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土中	ほぼ欠形
55	皿 (H)	(7.4)	1.45	(3.0)	I 1	a	暗褐色	砂粒 輝石	良好	埋土中	1/4 残
56	皿 (H)	7.4	1.6	4.6	I 1	a	褐色	赤色ハ7粒 黒色粒	良好	埋土中	2/3 残
57	皿 (H)	7.4	1.7	5.1	I 1	a	暗褐色	赤色ハ7粒 小石	良好	埋土上層	2/3 残
58	皿 (H)	(7.6)	1.35	(4.4)	I 1	a	淡褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/4 残
59	皿 (H)	7.7	1.6	4.8	I 1	a	褐色	砂粒 黒色粒	良好	埋土下層	2/3 残
60	皿 (H)	7.7	1.4	4.8	I 1	a	褐色	砂粒 小石	良好	埋土中	欠形
61	皿 (H)	(7.8)	1.6	(5.3)	I 1	a	褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/2 残
62	皿 (H)	7.8	1.7	5.2	I 1	a	暗褐色	砂粒	良好	埋土中	3/4 残
63	皿 (H)	7.7	1.6	5.2	I 1	a	褐色	砂粒 輝石 赤色ハ7粒	良好	埋土中	ほぼ欠形
64	皿 (H)	(8.0)	1.5	(5.2)	I 1	a	淡褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/5 残
65	皿 (H)	(8.2)	1.5	(5.2)	平底で、体部が外斜 気味に立ち上がる。 腹み底。	a	暗褐色	砂粒 輝石少 小石	良好	埋土上層	1/2 残
66	皿 (H)	(8.6)	1.5	(6.0)	I 1	a	褐色	砂粒 赤色ハ7粒	良好	埋土上層	1/3 残

第46表 ST14遺物観察表(2)

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
67	皿(H)	(8.6)	1.8	(5.6)	11	a	暗褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土中	4/5 残 灯明皿 内外面に 煤付着
68	皿(H)	(6.4)	1.6	(3.6)	11	a	褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土上層	1/6 残
69	皿(H)	(7.0)	1.2	(4.5)	11	a	褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土上層	1/7 残
70	皿(H)	(7.2)	1.45	(4.8)	11	a	暗褐色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/3 残
71	皿(H)	(7.4)	1.2	(4.6)	11	a	褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土上層	1/6 残
72	皿(H)	(7.6)	1.45	(5.0)	11	a	暗褐色	砂粒 小石	良好	埋土上層	1/6 残
73	皿(H)	7.6	1.5		11	a	暗褐色	輝石	良好	埋土上層	1/5 残
74	皿(H)	(7.7)	1.4	(4.2)	11	a	褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/3 残
75	皿(H)	(7.8)	1.3	(4.2)	11	a	暗褐色	砂粒 輝石 白色粒	良好	埋土上層	1/5 残
76	皿(H)	(7.8)	1.4	(5.0)	11	a	暗褐色	砂粒 輝石 白色粒	良好	埋土上層	1/4 残
77	皿(H)	(7.8)	1.6	(5.0)	11	a	暗褐色	砂粒 小石	良好	埋土上層	1/5 残
78	皿(H)	(7.8)	1.45	(5.0)	11	a	暗褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土上層	1/7 残
79	皿(H)	(7.8)	1.4	(4.4)	11	a	暗褐色	砂粒 白色粒	良好	埋土上層	1/4 残
80	皿(H)	(7.8)	1.6	(4.7)	11	a	暗褐色	輝石 白色粒	良好	埋土上層	1/3 残
81	皿(H)	(7.8)	1.55	(5.2)	11	a	褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土上層	1/3 残
82	皿(H)	(8.0)	1.8	(5.0)	11	a	暗褐色	砂粒少	良好	埋土下層	1/2 残
83	皿(H)	(8.2)	1.5	(5.5)	11	a	淡褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/6 残
84	皿(H)	(8.2)	1.6	(5.2)	11	a	乳白色	砂粒	良好	埋土上層	1/3 残
85	皿(H)	(8.6)	1.7	(5.0)	11	a	暗褐色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/5 残
86	皿(H)	(7.0)	1.4	(4.2)	11	a	褐色	砂粒 白色粒	良好	埋土上層	1/3 残
87	皿(H)	12.2	3.5	4.2	12	a	褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土中	2/3 残
88	皿(H)	(12.2)	3.75	(4.2)	12	a	褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土上層	1/5 残 内外面に 煤付着
89	皿(H)	(12.3)	3.35	(4.4)	11	a	褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土中	1/4 残
90	皿(H)	(12.4)	3.5	(4.2)	12	a	褐色 乳白色	砂粒 石灰 赤色コ7粒	良好	埋土中	1/2 残 内外面に煤 付着
91	皿(H)	(13.9)	3.5	5.4	11	a	褐色	砂粒 小石 赤色コ7粒	良好	埋土中	3/4 残
92	皿(H)	(12.0)			12	a	褐色	砂粒 輝石 赤色コ7粒	良好	埋土上層	1/4 残
93	皿(H)	(11.8)	3.5	(3.0)	12	a	乳白色	砂粒 輝石 赤色コ7粒	良好	埋土下層	1/5 残
94	皿(H)	(12.2)	3.25	(6.0)	12	a	褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土中	1/4 残
95	皿(H)	(12.4)	3.25	(6.8)	11	a	乳白色	砂粒 輝石 赤色コ7粒	良好	床直	1/2 残
96	皿(H)	(13.6)			11	a	淡褐色	砂粒 赤色コ7粒	良好	埋土中	1/3 残 外 面煤付着
97	皿(H)	(13.6)	3.35	(5.0)	11	a	橙褐色	砂粒 白色粒 赤色コ7粒	良好	埋土上層	1/5 残

第47表 ST14遺物観察表(3)

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(H)	(11.2)	3.0	(5.5)	II	b1	乳白色	微砂 雲母	良好	埋土下層	1/3 残
2	皿(H)	(12.6)	2.6	5.1	II	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土下層	1/3 残
3	皿(H)	(12.3)	3.1	(5.5)	II	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	2/3 残 灯明皿
4	皿(H)	(12.2)	2.7	(5.0)	II	b1、板目状圧痕有り。	淡褐色	微砂粒 輝石	良好	埋土中	1/3 残
5	皿(H)	(12.0)	2.6	(5.1)	II	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	微砂粒 輝石	良好	埋土下層	1/2 残
6	皿(H)	12.1	3.3	5.5	II	b1、板目状圧痕有り。	淡褐色	微砂粒	良好	埋土上層	ほぼ丸形
7	皿(H)	(12.0)	2.8	(6.0)	II	b	乳白色	微砂粒 輝石	良好	埋土下層	1/4 残
8	皿(H)	(12.0)	3.1	(5.8)	II	b	乳白色	砂粒	良好	埋土上層	破片
9	皿(H)	(12.2)	3.2	(5.9)	II	b	淡褐色	微砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/8 残
10	皿(H)	(12.4)	3.0	(6.0)	II	b1	淡褐色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/6 残
11	皿(H)	(12.2)			III	b	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/6 残
12	皿(H)	(13.0)			II	b	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/6 残
13	皿(H)			(4.8)	平座	b1	外面乳白色 内面暗褐色	砂粒 輝石	良好	床直	1/4 残
14	皿(H)			(5.4)	平座	b1	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土下層	1/8 残
15	皿(H)			(5.6)	平座	b1、板目状圧痕有り。	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/4 残

第48表 ST15遺物観察表(1)

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
16	皿(H)			(6.0)	平底	b1, 板目状狂痕有り。	乳白色	砂粒 卵石	良好	埋土上層	1/8 残
17	蓋(青磁)	(34.6)	5.5		口縁部が、小さな缺り込みを入れた輪花形を呈する。	外面に菊花状のケズリを回す。	乳白色 緑灰色	緻密	良好	埋土中	1/8 残
18	壺(褐釉)					外面に褐釉がかかる。	緑黄褐色	緻密	良好	埋土上層	破片 被熱
19	壺(褐釉)					外面に褐釉がかかる。	緑黄褐色	緻密	良好	埋土下層	破片 被熱
20	天目茶碗? (瀬戸)	(16.8)			口縁部が幅み上げられる。	クロロ成形。外面及び内面に黒色釉をかける。	黒色	緻密	良好	埋土上層	破片 被熱
21	鉢(青磁)	(13.5)			口縁部が大きく起曲する。	外面に藍井文を回す。	緑灰色	緻密	良好	埋土中	破片
22	平碗(瀬戸)			(6.6)	高台を付す。	クロロ成形。内面及び外面に釉がかかる。	緑-青	緻密	良好	埋土上層	破片
23	不明 (石製)				ドーナツ状を呈し、外面下半に凹線が通る。	内面に被熱した部分が見られる。	灰白色	砂岩	良好	埋土上層	破片
24	不明 (石製)				ドーナツ状を呈し、外面下半に凹線が通る。	内面に被熱した部分が見られる。	灰白色	砂岩	良好	埋土上層	破片
25	壺(常滑)					肩部に押印が通る。	暗赤褐色	砂粒 小石	良好	埋土下層	破片
26	壺(常滑)					胴部下半に押印が通る。	暗赤褐色	砂粒 小石	良好	埋土中	破片
27	壺(常滑)					胴部に弧状のヘラ掻きを通す。	暗赤褐色	砂粒 小石	良好	埋土中	破片

第49表 ST15遺物観察表(2)

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(H)	(11.6)	4.3	5.4	II	b1	赤褐色	砂粒 卵石	良好	埋土上層	1/2 残

第50表 ST16遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
2	皿(H)	(11.2)	3.3	5.0	II	b1	乳白色	砂粒 雲母	良好	埋土上層	1/4 残
3	皿(H)	(11.0)	3.2	4.7	II	b1	乳白色	砂粒 雲母	良好	埋土上層	4/5 残
4	皿(H)	(6.9)	1.3	(4.0)	I 1	a	淡褐色	砂粒	良好	埋土中	1/3 残 ST16と接合
5	蓋(青磁)			(8.0)			青灰色	緻密	良好	埋土上層	破片

第51表 ST17遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(H)			(5.2)	II	b1	乳白色	砂粒	良好	埋土上層	1/7 残
2	皿(H)			(5.3)	II	b1, 板目状狂痕有り。	乳白色	砂粒 白色 赤色o1粒	良好	埋土上層	1/6 残
3	皿(H)			(5.8)	II	b1	乳白色	卵石 赤色o1粒	良好	埋土上層	1/6 残
4	皿(H)			(5.0)	II	b1	淡褐色	微砂粒 卵石	良好	埋土上層	1/4 残
5	皿(H)			(6.0)	II	b1, 板目状狂痕有り。	乳白色	小石 卵石	良好	埋土上層	1/7 残
6	銅皿 (瀬戸)	(13.5)	(3.3)	(5.5)	平底で、体部が外傾角状に立ち上がる。	口縁部に凹線が通る。体部内面に節目が見られる。底面外面は凹線が通る。節目の凹線が少なく、断面に二次焼成。	灰白色	緻密	良好	埋土上層	破片
7	折縁銅皿 (瀬戸)			(10.7)		体部内外面共に釉がかかる。底面外面は凹線が通る。	緑-青 褐色	緻密	良好	埋土中	底面破片

第52表 ST21遺物観察表(1)

No.	器 種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
8	壺(甗戸)										
9	壺(甗戸)	(12.2)	3.2	(5.9)							
10	酒会壺? (甗壺)										
11	酒会壺? (甗壺)										
12	甗(常滑)										
13	甗(常滑)										
14	甗(常滑)										
15	甗(常滑)			(18.6)							
16	甗(常滑)			(19.0)							
17	甗石	幅 3.0	厚さ 1.2								
18	甗石	幅 2.7	厚さ 1.9								
19	甗(常滑)	(37.0)									

第53表 ST21遺物観察表(2)

No.	器 種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
1	皿(土)	(9.2)	2.1	(5.8)	II	b1					
2	皿(土)			(4.8)	平底。	b1					
3	折縁深皿 (甗戸)	(24.0)									
4	折縁深皿 (甗戸)	(18.6)									
5	壺(甗戸)	(12.0)									
6	瓶子 (甗戸)										
7	瓶子 (甗戸)										
8	瓶子 (甗戸)			(10.2)							
9	瓶子 (甗戸)										
10	小壺 (甗戸)										
11	灰輪底 (甗戸)										
12	壺(甗壺)			(9.4)							
13	壺(甗壺)	(14.0)									
14	花瓶 (甗壺)										
15	(青白磁)										
16	(青白磁)										
17	甗(常滑)										

第54表 ST22遺物観察表(1)

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
18	甕(常滑)				縁帯が垂下し頸部に接合している。	口縁部横ナデ。	灰けづ色	砂粒	良好	埋土上層	破片
19	甕(常滑)					肩部外面へケ、内面指ナデ。	灰赤色	砂粒	普通	埋土中	破片
20	甕(常滑)				平底	内面へケ。	灰赤色 灰けづ色	砂粒	良好	埋土下層	破片
21	甕(常滑)				平底	胴部外面下端、タテ方向削り後ナデ。内面横方向ナデ。	灰褐色 褐色	砂粒	良好	埋土中	破片
22	片口鉢(石製)	25.9	12.6	19.5	口縁部に一ヶ所くぼみがある。	外面にノミ痕が見られる。	黒褐色	火山岩	良好	埋土中	ほぼ正形
23	甕(常滑)					内面に黒色物(漆?)付着。	赤紫色	砂粒	良好	埋土下層	破片
24	甕(石製)						褐色	泥岩	良好	埋土下層	2/3 残
25	甕(石製)					肩部に彫痕あり。	暗赤灰色		良好	埋土上層	4/5 残
26	甕(石)	径 1.7			円形で扁平。	磨いてある。	灰色			埋土下層	完形
27	甕(常滑)				口縁部がN字状を呈する。	肩部外面へケ。	暗赤褐色	砂粒 小石	良好	埋土上層	破片
28	甕(常滑)	(37.0)			縁帯が垂下し頸部に接合している。	口縁部内外共に横ナデ。	暗赤褐色	砂粒 小石	良好	埋土下層	破片

第55表 ST22遺物観察表(2)

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考	
		口径	器高	底径								
1	皿(H)	7.3	1.7	4.3	II	b1	赤褐色	砂粒	良好	埋土中	完形 灯明皿	
2	皿(H)	7.4	1.6	4.2	II	b1、板目状圧痕有り。	淡褐色	砂粒 輝石	良好	埋土中	4/5 残 灯明皿	
3	皿(H)	(7.4)	1.8	(4.5)	II	b1	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土中	1/3 残 灯明皿	
4	足高台(石)			4.8		高台を付す。	淡褐色	砂粒	良好	埋土下層	1/3 残	
5	皿(H)	(12.2)	3.1	(4.6)	I 2	a	暗褐色	砂粒	良好	埋土下層	1/4 残 内外 面煤片着	
6	皿(H)	(12.8)	3.3	(6.3)	II	b1	褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/3 残 灯明皿	
7	皿(H)			(5.6)	II	b1、板目状圧痕有り。	淡褐色	砂粒 輝石	良好	埋土下層	破片 灯明皿	
8	銅皿(銅戸)	(15.6)				体部が外傾気味に立ち上がる。	ロクロ成形、口縁端部に凹面がある。	灰緑色	緻密	良好	埋土中	1/5 残
9	丸罎?(銅戸)	(9.4)				体部が直立気味に立ち上がる。	ロクロ成形、体部外面下半を削き鉄輪がかけられる。	褐色	緻密	良好	埋土下層	破片
10	罎子(銅戸)					胴部上半に最大径を有す。	ロクロ成形、胴部外面に印花文を有す。	黒褐色	緻密	良好	埋土中	破片
11	罎子(銅戸)					肩部が大きく張る。	肩部に3条の花輪を巡らし、その下に印花文を押捺する。	暗褐色	砂粒	良好	埋土中	1/4 残 内外 面煤片着
12	大鉢(H)						印花文を押捺する。	淡褐色	砂粒	良好	埋土中	破片 外面 煤片付着
13	甕(常滑)	41.7				口縁部がN字状を呈する。	印花文を押捺し、半面口径のへづ削きが見られる。	褐色	砂粒 小石	良好	埋土中	2/3 残
14	片口鉢(常滑)	(33.6)	9.4	(14.0)		口縁端部が外方に拡張される。	外面へラケズリ後、上端部横ナデ。内面へラナデ。	赤褐色	砂粒 小石	良好	埋土中	1/5 残
15	甕(常滑)	(43.2)				口縁部が幅広くN字状を呈する。		暗赤褐色 灰けづ色	砂粒 小石	良好	埋土下層	破片
16	甕(常滑)	(40.4)				口縁部が幅広くN字状を呈する。		黒褐色	砂粒 小石	良好	埋土中	破片
17	甕(常滑)			(16.4)		平底。		暗赤褐色 灰けづ色	砂粒	良好	埋土中	破片
18	甕(常滑)			(19.0)		平底。		暗赤褐色	砂粒 小石	良好	埋土中	破片 SK69 と接合

第56表 ST23遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(H)	7.4	1.7	4.0	III	b1、板目状圧痕有り。	淡褐色	砂粒 赤色o7粒	良好	埋土中	2/3 残

第57表 ST24遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
2	皿(H)	(11.2)	3.0	5.7	Ⅲ	b1、板目状圧痕有り。内面に底部と体部の接合痕状の沈線が走る。	乳白色	微砂粒	良好	埋土上層	2/3 残
3	皿(H)	11.8	3.4	5.5	Ⅱ	b1、板目状圧痕有り。内面に底部と体部の接合痕状の沈線が走る。	乳白色	微砂粒	良好	埋土上層	1/2 残 内面附付着
4	皿(H)	14.0	3.7	5.5	Ⅱ	b1、板目状圧痕有り。内面に底部と体部の接合痕状の沈線が走る。	乳白色	微砂粒	良好	埋土上層	2/3 残 内面附付着

第58表 ST26遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
5	内折れ小皿(H)	3.4	0.9	3.9	コースター状を呈す。	b2	乳白色	微砂粒 輝石	良好	埋土下層	无形

第59表 ST27遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
6	皿(H)	(6.0)	1.6	3.2	Ⅱ	b	乳白色	微砂粒	良好	埋土上層	1/5 残
7	皿(H)			5.6	平底。	b1	淡褐色	微砂粒	良好	埋土中	破片
8	足高高台(H)				高台を付す。	ロクロ成形。底面凹形糸切り。	乳白色	微砂粒 輝石	良好	埋土中	1/2 残
9	皿(H)			4.4	平底。	b1	淡褐色	微砂粒	良好	埋土下層	破片
10	皿(H)			7.0	平底。	b1	淡褐色	微砂粒	良好	埋土中	破片 煤付着
11	皿(H)	(11.8)	3.0	(4.8)	Ⅱ	b	乳白色	微砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/5 残 煤付着
12	皿(H)			5.5	Ⅱ	b1	暗褐色	微砂粒	良好	埋土上層	1/3 残
13	鉄印印花文 瓶子(瓶口)					鉄輪で、外面に印花文を施す。	暗褐色	緻密	良好	埋土中	破片 内面に煤付着

第60表 ST28遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
14	卸皿(瓶口)			(7.4)	高台を付す。	内外面に刷目を付す。	灰-灰色	緻密	良好	埋土上層	1/4 残

第61表 ST29遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
15	皿(H)	7.0	2.0	4.0	Ⅱ	b1、板目状圧痕有り。	淡褐色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/2 残 灯明皿
16	皿(H)	(6.9)	1.5	(4.6)	Ⅱ	b	淡褐色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	破片
17	皿(H)	(11.0)	2.8	(4.8)	Ⅱ	b1	淡褐色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	1/4 残 灯明皿
18	皿(H)	(11.8)			Ⅱ	b	淡褐色	砂粒 輝石	良好	埋土上層	破片
19	酒会堂 (背彫)					知能弁文を施す。	暗緑色	緻密	良好	埋土下層	灰付密 被蝕

第62表 ST31遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
20	皿(H)			(5.6)	Ⅱ	b1、板目状圧痕有り。	淡褐色	砂粒 輝石	良好	埋土中	破片
21	皿(H)	(11.6)	2.6	(5.2)	V	b1	乳白色	砂粒 輝石	良好	埋土中	1/4 残

第63表 ST32遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
22	片口鉢 (S)	(30.8)	11.0	(13.0)	平底で、やや外反気味に立ち上がり口縁部に至る。	外面ナデ、口縁部を横ナデ。	灰白色	砂粒 小石	良好	埋土中	1/2 残 ST31, S110 と接合

第64表 ST35遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
23	皿(H)	(7.0)	1.6	(4.0)	皿	b1	赤褐色	砂粒	良好	埋土中	2/3 残
24	飯子(薄戸)						印花文あり。	緻密	良好	埋土中	破片 盛付遺
25	陶蓋蓋?						外面に軸が通れる。	暗灰色	緻密	良好	埋土上層 破片

第65表 ST36遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
26	皿(H)	(11.8)	2.8	6.1	II	b1、板目状圧痕有り。	淡褐色	砂粒	良好	埋土上層	2/3 残 灯明 皿 ST13 と 接合
27	椀底(青白磁)						薄青白色	緻密	良好	埋土中	破片

第66表 ST38遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(H)	6.6	1.5	4.6	皿	b2	乳白色	微砂粒 卵石	良好	埋土中	3/4 残
2	皿(H)	7.3	1.6	5.1	I1	a	暗灰褐色	砂粒	良好	埋土上層	2/3 残
3	皿(H)	7.4	1.4	4.8	I1	a	暗灰褐色	微砂粒	良好	埋土上層	4/5 残
4	皿(H)	7.4	1.3	5.0	I1	a	淡褐色	微砂粒 卵石	良好	埋土下層	完形
5	皿(H)	7.8	1.5	4.9	I1	a	褐色	微砂粒	良好	埋土上層	完形
6	皿(H)	7.5	1.6	4.7	I1	a	淡褐色	砂粒 卵石	良好	埋土中	2/3 残
7	皿(H)	(7.6)	1.2	(4.7)	I1	a	淡褐色	砂粒 卵石	良好	埋土上層	1/2 残
8	皿(H)	7.6	1.5	4.8	I1	a	乳白色	砂粒 卵石	良好	埋土上層	2/3 残
9	皿(H)	7.6	1.7	5.0	I1	a	褐色	砂粒	良好	埋土上層	4/5 残
10	皿(H)	7.5	1.6	5.1	I1	a	乳白色	砂粒 雲母	良好	埋土中	完形
11	皿(H)	(7.5)	1.4	(5.1)	I1	a	淡褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/2 残
12	皿(H)	(7.6)	1.6	(5.0)	I1	a	淡褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/2 残
13	皿(H)	11.3	3.2	5.0	皿	b1	乳白色	砂粒	良好	埋土中	完形
14	皿(H)	11.7	3.0	6.0	皿	b1	乳白色	砂粒	良好	埋土中	1/2 残
15	皿(H)	(12.0)	3.3	(5.0)	II	b1、板目状圧痕有り。	灰白色	砂粒 卵石	良好	埋土中	1/3 残
16	皿(H)	12.8	4.0	6.6	II	b1、板目状圧痕有り。	暗褐色	砂粒	良好	埋土下層	完形 灯明 皿
17	皿(H)	(11.2)	3.3	(5.6)	皿	b	乳白色	砂粒 卵石	良好	埋土中	1/8 残
18	皿(H)	(12.0)	3.5	(6.0)	皿	b1	灰白色	砂粒 卵石	良好	埋土上層	1/3 残
19	皿(H)	(12.1)	2.8	(6.0)	皿	b1	乳白色	砂粒 卵石	良好	埋土上層	1/2 残
20	皿(H)	(12.2)	3.0	(5.5)	皿	b1	乳白色	砂粒 卵石 雲母	良好	埋土中	1/3 残
21	皿(H)			6.0	平底	b1	乳白色	砂粒 卵石	良好	埋土中	破片
22	皿(H)			5.0	丸底	b1	灰褐色	砂粒	良好	埋土上層	1/2 残 灯明皿
23	皿(H)	11.8	3.2	5.5	I1	a	褐色	砂粒 卵石	良好	埋土中	2/3 残
24	皿(H)	12.0	3.3	5.3	I1	a	黒色	砂粒	良好	埋土中	ほぼ完形
25	皿(H)	12.3	3.0	5.5	I1	a	淡褐色	砂粒 卵石	良好	埋土中	ほぼ完形
26	皿(H)	12.3	3.0	6.5	I1	a	淡褐色	砂粒 卵石	良好	埋土中	3/4 残 SK 144 と接合
27	皿(H)	13.0	3.0	6.5	I1	a	乳白色	砂粒	良好	埋土中	3/4 残
28	皿(H)	13.1	4.0	6.0	I1	a	淡褐色	砂粒	良好	埋土中	4/5 残 ST13 と接合
29	皿(H)	(13.0)	3.0	(6.0)	I1	a	乳白色	砂粒	良好	埋土中	1/5 残
30	皿(H)	(13.8)	2.7	11	I1	a	淡褐色	砂粒	良好	埋土中	1/4 残
31	皿(H)	(12.8)	3.6	11	I1	a	乳白色	砂粒	良好	埋土中	1/3 残
32	碗(青磁)	(14.0)				外面に筋道非文	くすん 淡褐色	緻密	良好	埋土中	破片
33	壺(黄褐釉)						緑黄色	緻密	良好	埋土中	破片

第67表 ST39遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(H)			4.2	IV	b3	乳白色	砂粒 小石	普通	旧地表面	2/3 残
2	皿(H)	9.2	2.6	4.2	IV	b3	乳白色	微砂粒	普通	旧地表面	4/5 残
3	皿(H)			4.0	IV	b3	褐色	砂粒 赤色の珪石	不良	旧地表面	2/3 残 灯明皿

第68表 SB01遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(H)	(7.0)	1.5	(3.6)	III	b1	褐色	砂粒 珪石 白色粒	良好	埋土中	1/4 残
2	皿(H)			(5.0)		b1	乳白色	砂粒	良好	埋土中	破片
3	皿(H)	(13.0)			I	a	暗灰色	砂粒 珪石	良好	埋土中	破片
4	四耳家? (瓶?)						灰村ア色	緻密	良好	埋土中	破片(厚)

第69表 SB11遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
5	皿(H)			(5.2)		b	乳白色	砂粒 珪石	良好	埋土中層	破片

第70表 SB48遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
6	皿(H)			(4.2)		b	淡褐色	砂粒 珪石 赤色の珪石	良好	埋土中	破片
7	皿(H)			5.7		b1	淡褐色	砂粒 珪石	良好	埋土中	破片

第71表 SB50遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
8	皿(H)	7.5	1.9	5.9	11	a	明褐色	砂粒	良好	埋土中層	完形

第72表 SB51遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
9	皿(H)					a	乳白色	砂粒	良好	埋土中	破片

第73表 SB54遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
10	皿(H)					a	乳白色	砂粒 珪石	良好	埋土中	破片

第74表 SB57遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	碗 (青白磁)			3.1	小さく深い高台を持つ		明緑灰色	緻密	良好	埋土下層	1/3 残

第75表 SK03遺物観察表

No	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
2	皿(H)	(7.2)	1.7	4.0	III	b1	淡褐色	砂粒 雲母	良好	埋土上層	2/3 残

第76表 SK19遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
3	皿(H)	(12.8)	3.7	6.3	II	b1	褐色	砂粒 霏母 赤色x17粒	良好	埋土上層	2/3 残

第77表 SK22遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
4	碗(俵付)	(11.0)					白色	緻密	良好	埋土中	破片

第78表 SK26遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
5	石製品				ドーナツ状を呈し、 外面に凹線がめぐ る。		灰白色		良好	埋土下層	破片 内外に被 熱

第79表 SK36遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
6	鉢			(8.0)			外歪灰緑色 内歪灰色	緻密	良好	埋土下層	破片
7	銅皿(瀬戸)				口縁端部をつまみ上 げる。	体部内外面に灰釉を 施す。	ナグ 灰色	砂粒	良好	埋土中	破片
8	不明(石製)	幅 7.1	厚さ 0.7							埋土下層	破片
9	梅紙 (青白磁)						明青灰色	緻密	良好	埋土下層	破片
10	梅紙 (青白磁)						明青灰色	緻密	良好	埋土下層	破片

第80表 SK64遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
11	皿(H)	(8.0)			III		淡褐色	砂粒 霏石 赤色x17粒 霏母	良好	埋土下層	破片
12	甕(常滑)				幅広いN字状を呈 する。	灰釉を施す。	暗赤褐色 ナグ 灰色	砂粒	良好	埋土中	口縁部破片
13	菓子(瀬戸)			(14.0)		鉄釉を施す。	暗褐色 褐色	砂粒	良好	埋土中	破片
14	甕(常滑)						褐色	緻密	良好	埋土上層	破片

第81表 SK91遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
15	銅皿(瀬戸)	(14.2)	3.3	(7.2)	口縁端部をつまみ 上げる。	灰釉を施す。	灰緑色	砂粒	良好	埋土下層	破片

第82表 SK74遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
16	皿(H)	(12.2)	3.1	(5.5)	II	b1、板目状凹凸有り。	淡褐色	砂粒 霏石 赤色x17粒	良好	埋土下層	1/3 残

第83表 SK108遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
17	皿(H)	6.3	2.1	3.8	III	b1	暗褐色	砂粒 霏石 赤色x17粒	良好	埋土中	完形

第84表 SK146遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考	
		口径	器高	底径								
18	皿(耳)	(7.0)	1.2	(3.8)	II	b1	淡褐色	砂粒 輝石	良好	埋土中	2/3 残	
19	皿(耳)	11.1	3.7	7.0	II	b1	淡褐色	砂粒 輝石	良好	埋土下層	2/3 残	
20	皿(耳)	(7.4)	1.5	4.5	I 1	a	淡褐色	砂粒	良好	埋土下層	1/2 残	
21	皿(耳)	11.1	3.3	5.0	I 2	a	褐色	砂粒	良好	埋土下層	完形	
22	梅瓶(青磁)						明青灰色 灰色	砂粒	良好	埋土下層	破片	
23	煎瓶(瀬戸)	(16.3)			口縁部で外反し、 頸部を湾み上げる。		内外面に灰釉を施す。	灰-ア 灰色	砂粒	良好	埋土下層	破片
24	梅瓶(青磁)						外面に釉を施す。	明青灰色	緻密	良好	埋土中	破片
25	梅瓶(青磁)						外面に釉を施す。	明青灰色	緻密	良好	埋土中	破片
26	梅瓶(青磁)						外面に釉を施す。	明青灰色	緻密	良好	埋土中	破片
27	梅瓶(青磁)						外面に釉を施す。	明青灰色	緻密	良好	埋土中	破片
28	煎子(瀬戸)						胴部に印花文。	青灰色	緻密	良好	埋土下層	破片
29	広口蓋 (常滑)	(24.0)			口縁部はN字状。			暗赤褐色	砂粒 小石	良好	埋土中	破片
30	壺(常滑)			(13.0)				暗褐色	砂粒 小石	良好	埋土下層	破片

第85表 SK69遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
31	壺(常滑)	40.0	58.0	17.0	緑帯が垂下して頸 部に巻着する。	外面ヘケが残る。	暗赤褐色	砂粒	良好	埋土中	2/3 残 ST14 と接合

第86表 SK144遺物観察表

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	皿(耳)	(8.4)	1.6	(6.0)	I 1	a	赤褐色	砂粒 赤色多量	良好	埋土中	1/2 残
2	皿(耳)			(6.8)		b	赤褐色	砂粒多 輝石	良好	埋土下層	破片
3	煎瓶(瀬戸)	(13.6)			体部内湾気味。	ロクロ成形。	灰-ブ 黄色	緻密	良好	埋土中	破片
4	掻鉢(瀬戸)	(28.8)			口縁端部に面を 持つ。	体部内面に網指条線が 斜めにつけられる。	灰青色	砂粒 小石	良好	埋土上層	破片
5	梅瓶(青白磁)					片切彫り。	青白色	緻密	良好	埋土下層	破片 被熱
6	梅瓶(青白磁)					片切彫り。	青白色	緻密	良好	埋土中	破片 被熱
7	梅瓶(青白磁)					片切彫り。	青白色	緻密	良好	埋土上層	破片 被熱
8	梅瓶(青白磁)					片切彫り。	青白色	緻密	良好	埋土中	破片 被熱
9	梅瓶(青白磁)					片切彫り。	青白色	緻密	良好	埋土中	破片 被熱
10	鉢(青磁)					銘書本文。	青白色	緻密	良好	埋土上層	破片
11	(青磁)					片切彫り。	緑灰色	緻密	良好	埋土上層	破片
12	竜輪蓋					竜輪彫刻刀の様な物 で文様を削り取る。	褐色	緻密	良好	埋土上層	破片
13	竜輪蓋					竜輪彫刻刀の様な物 で文様を削り取る。	褐色	緻密	良好	埋土上層	破片
14	竜輪蓋		(14.0)			ロクロ成形	褐色	緻密	良好	埋土上層	底部破片
15	黄楊輪蓋						灰-ブ 色	緻密	良好	埋土中	破片 被熱
16	黄楊輪蓋						黄褐色	緻密	良好	埋土上層	破片 被熱 ST13 と接合
17	黄楊輪蓋						暗黄褐色	緻密	良好	埋土上層	破片 被熱
18	黄楊輪蓋						灰-ブ 色	緻密	良好	埋土上層	破片 被熱
19	黄楊輪蓋						灰-ブ 色	緻密	良好	埋土上層	破片 被熱
20	黄楊輪蓋					龍文が浮彫りされる。	灰-ブ 色	緻密	良好	埋土中	破片
21	黄楊輪蓋					龍文が浮彫りされる。	灰-ブ 色	緻密	良好	埋土中	破片
22	黄楊輪蓋					龍文が浮彫りされる。	黄褐色	緻密	良好	埋土上層	破片
23	黄楊輪蓋					龍文が浮彫りされる。	黄褐色	緻密	良好	埋土中	破片
24	黄楊輪蓋			(13.0)			赤褐色	緻密	良好	埋土上層	底部破片
25	磁石	長	幅 2.9	厚 3.0				磁灰岩		埋土中	
26	磁石	長	幅 3.0	厚 1.6				磁灰岩		埋土中	

第87表 SX10遺物観察表

No.	器 種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考	
		口径	器高	底径								
1	皿 (H)	(6.6)	1.4	3.5	Ⅲ	b1, 板目状狂痕有り。	乳白色	砂粒 白色粒	良好	G-14	1/4 残 灯明皿	
2	皿 (H)	(7.6)	1.5	4.6	Ⅱ	b1	乳白色	砂粒 輝石	良好	G-1	3/4 残	
3	皿 (H)	(9.4)	2.5	(4.4)	Ⅳ	b3	乳白色	砂粒	良好	T-5	1/2 残	
4	皿 (H)	(12.0)	3.5	5.0	Ⅱ	b1, 板目状狂痕有り。	淡褐色	砂粒 輝石	良好	G-8	3/4 残 灯明皿	
5	皿 (H)	(6.8)	1.5	(4.0)	Ⅱ	b1	乳白色	砂粒 輝石 赤色心打粒	良好	G-8	1/4 残	
6	皿 (H)	7.4	1.7	4.4	Ⅲ	b1	乳白色	砂粒 輝石 赤色心打粒	良好	T-52	ほぼ完形	
7	皿 (H)	(9.6)	2.5	3.8	Ⅳ	b3	乳白色	砂粒	良好	T-5	1/4 残	
8	皿 (H)	(12.3)	3.6	5.8	Ⅱ	b1	乳褐色	砂粒 小石	良好	T-4	4/5 残 遊動層付着	
9	皿 (H)	(6.8)	1.6	(4.6)	Ⅲ	b1	乳白色	砂粒 金雲母	良好	第Ⅳ次調査	3/4 残	
10	皿 (H)	7.55	1.8	5.4	Ⅲ	b1	淡紫色	砂粒 輝石 石英	良好	第Ⅴ次調査	完形	
11	皿 (H)	(9.8)	2.3	4.5	Ⅳ	b3	乳白色	砂粒 白色粒	良好	T-5	1/3 残	
12	皿 (H)	(8.4)	2.85	(3.4)	V	b1	灰褐色	砂粒	良好	G-1	2/3 残	
13	皿 (H)	(7.8)	2.8	(4.2)	Ⅳ	b1	乳白色	砂粒 白色粒	良好	T-5	破片	
14	皿 (H)	(10.4)	3.2	(4.0)	Ⅱ	b	黒褐色	砂粒	良好	G-13	破片	
15	皿 (H)	(12.4)	3.3	(5.7)	Ⅱ	b	乳白色	砂粒 輝石 赤色心打粒	良好	SI10	破片	
16	皿 (H)	(8.4)	2.7	4.2	Ⅲ	b3	乳白色	砂粒	良好	T-5	1/3 残	
17	皿 (H)	9.1	3.05	4.1	Ⅳ	b3	乳白色	砂粒 輝石 赤色心打粒	良好	T-5	3/4 残	
18	皿 (H)	(11.6)	3.6	(5.0)	Ⅱ	b	乳褐色	砂粒 輝石	良好	G-6	破片	
19	皿 (H)	(12.5)	3.7	5.7	Ⅱ	b, 板目状狂痕有り。	褐色	砂粒 小石 雲母	良好	G-11	3/4 残	
20	皿 (H)	(9.2)	2.65	4.7	Ⅱ	b3	淡褐色	砂粒 白色粒	良好	T-5	1/3 残	
21	皿 (H)	(9.2)	2.45	3.8	Ⅳ	b3	乳白色	砂粒 金雲母	良好	T-5	4/5 残	
22	皿 (H)	(9.2)	2.5	4.4	Ⅱ	b3	乳白色	輝石 赤色心打粒	良好	T-5	2/3 残	
23	皿 (H)	15.1	4.05	6.6	Ⅱ	b1, 板目状狂痕有り。	赤褐色	砂粒 輝石	良好	T-16	完形	
24	皿 (H)			(3.8)		b1	淡褐色	砂粒 白色粒	良好	G-14	底部破片	
25	皿 (H)			(4.6)		b1	乳白色	砂粒 輝石	良好	G-8	破片	
26	皿 (H)			(5.0)	Ⅲ	b1	乳白色	砂粒 輝石 赤色心打粒	良好	SI07	底部破片	
27	皿 (H)			(4.5)	Ⅲ	b1	乳白色	砂粒 赤色心打粒	良好	G-14	底部破片	
28	皿 (H)			3.5	Ⅳ	b3	乳白色	砂粒 赤色心打粒	良好	第Ⅲ次調査	底部破片	
29	皿 (H)			(4.6)		b1	乳白色	砂粒	良好	G-8	破片	
30	皿 (H)			(5.2)			ロクロ成形。底部外 周は凹縁外切り後一 方向のハケ目を残す。	淡褐色	緻密	良好	SI02	破片
31	皿 (H)			(5.4)	Ⅱ	b	淡褐色	砂粒	良好	G-14	底部破片 内面黒色物 付着	
32	皿 (H)			(5.4)		b1, 板目状狂痕有り。	乳白色	砂粒 輝石 赤色心打粒	良好	G-14	底部破片	
33	皿 (H)			(5.8)		b1	褐色	砂粒 白色粒	良好	G-8	破片	
34	皿 (H)			4.7	Ⅲ	b1	淡褐色	砂粒	良好	G-8	底部破片 灯明皿	
35	皿 (H)			(5.4)	Ⅲ	b1	淡褐色	砂粒 輝石 白色粒	良好	G-8	1/4 残	
36	皿 (H)			(5.2)	Ⅲ	b1	淡褐色	砂粒 輝石 赤色心打粒	良好	G-15	1/3 残	

第88表 表坪遺物観察表(中近世)(1)

No.	器種	寸法(cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
37	皿(H)	12.4	3.65		12	a	乳白色	砂粒 輝石 赤色コブ粒	良好	T-40	先形
38	皿(H)	(12.8)			12	a	淡褐色	砂粒 小石	良好	G-8	破片
39	皿(H)	(12.6)				a	暗褐色	砂粒	良好	G-5 C区	破片
40	皿(H)				1	a	乳白色	砂粒 輝石	良好	G-8	破片
41	内耳碗(H)	(30.0)	8.8	(25.0)	平底。口縁部は平 坦で、体部が外傾収 縮に立ち上がる。		褐色	砂粒 小石 金雲母	良好	T-34	破片
42	鉢(H)	(30.0)			口縁部端部を下方 につまみ出す。	内面に菊花文。	淡褐色 暗褐色	砂粒 白色粒	良好	T-79	破片
43	碗(瀬戸)	(12.4)					黄褐色	緻密	良好	G-7	破片
44	碗(瀬戸)	(11.4)					灰トブ色	緻密	良好	T-24黒色 地山上面	破片
45	折縁深皿 (瀬戸)	(22.8)					浅黄色	緻密	良好	T-5	破片
46	折縁中皿 (瀬戸)	(19.6)					浅黄色	緻密	良好	G-11	破片
47	煎皿(瀬戸)	(13.6)			口縁端部をつまみ 上げる。		灰トブ色	緻密	良好	T-27	破片
48	煎皿(瀬戸)	(14.8)			口縁端部に凹面が めぐる。		灰色 トブ色	緻密	良好	G-15 拡	破片
49	煎皿(瀬戸)			(8.2)		ロクロ成形。一部に 灰粒が分かる。底部 回転糸切り。	灰(トブ)色	緻密	良好	T-25	1/4 残
50	天目茶碗	(12.2)	5.2	(5.4)			暗褐色	緻密	良好	T-2	破片
51	天目茶碗	(10.0)				ロクロ成形。内外面 共に鉄粒が分かる。	灰褐色	緻密	良好	G-11	破片
52	天目茶碗	(10.4)				ロクロ成形。内外面 に鉄粒が分かる。被 熱している。	暗赤褐色	緻密	良好	G-6	破片
53	天目茶碗	(7.4)				ロクロ成形。内外面 に鉄粒が分かる。	黒褐色	緻密	良好	T-39	破片
54	天目茶碗			5.3	高台を付す。	鉄粒。	黒褐色	緻密	良好	G-3	破片
55	天目茶碗 (瀬戸)						灰トブ色	緻密	良好	G-12	破片
56	四耳堂 (瀬戸)					胴部外面に三本の花 輪が通る。内面はヘ ラナダ。	トブ灰色	緻密	良好	S110	胴部破片
57	甕(常滑)				口縁部は「N」字状 を呈す。		灰トブ色 暗赤褐色	砂粒	良好	G-8	破片
58	甕(常滑)				口縁部は幅広の 「N」字状を呈し、 頸部に接着する。		黄褐色	砂粒 白色粒 灰色粒	良好	埋土中	破片
59	甕(常滑)			(21.4)	平底		赤褐色	砂粒 小石	良好	G-26	1/6 残
60	鉢(瀬戸)	(17.0)				口縁部外面に玉飾り を付す。	明緑灰色	緻密	良好	S110	口縁部破片
61	碗(常滑)	(16.2)				縮進弁文。	トブ灰色	緻密	良好	T-101	破片
62	碗(常滑)	(11.0)					トブ灰色	緻密	良好	G-11	破片
63	皿(白磁)	(12.0)					灰白色	緻密	良好	G-14	破片
64	蓋(白磁)			(7.0)	高台を付す。		白色	緻密	良好	G-1	破片
65	碗			4.6			白色	緻密	良好	G-4	底部破片
66	徳利					外面に鉄粒。	暗褐色	緻密	良好	T-34	破片
67	蓋(青白磁)					形彫りによる花文。	白色	緻密	良好	T-23	破片
68	香炉 (青白磁)					透し彫り。	灰白色	緻密	良好	G-20	蓋破片
69	瓶(灰付)						灰白色	緻密	良好	T-102	破片
70	摺鉢(美濃)					鉄粒。	暗赤灰色	砂粒	良好	G-11	破片
71	摺鉢(備前)						暗赤褐色	砂粒	良好	T-43	破片
72	甕						茶褐色	緻密	良好	T-25	破片
73	磁石	長 5.5~6.0	幅 1.8~2.5	厚 1.35			乳灰色	磁灰岩		G-11	破片199区
74	磁石	長 6.0~6.1	幅 2.5~2.7	厚 1.3			乳灰色	磁灰岩		G-11	破片
75	磁石	長 9.4~9.5	幅 2.9~3.0	厚 1.2			乳白色	磁灰岩		G-15	破片
76	磁						灰色			S102	破片
77	磁						灰色			G-11	破片

第89表 表採遺物観察表(中近世)(2)

Ⅲ. おわりに

1. 古代について

今回の調査で、古代の竪穴住居跡が12軒確認され、その内のSI18から「烽家」と書かれた墨書土器が出土した。「烽」は「ホウ」「トブヒ」と読まれ、「のろし」を意味する。そして、ここでの「家」は、「郡家」や「駅家」のように公的施設を意味するものと考えられる。すなわち、狼煙を挙げる公的施設のことを指し示す。「烽」の設置は『日本書紀』天智天皇三年は畿内に既に見られるが、全国的規模での設置は、律令体制下になってからである。その目的が外的進入などを緊急に連絡するためのものであるため、大陸から遠く離れた東日本においては、その存在が疑問視されていた。今回のこの土器の発見は、この点に大きな見直しをせざるものとなった。この土器は新治産で、この周辺で使われ、捨てられたものであることは間違いなく、果たして本跡が「烽」の場所であるかどうかの問題となる。

その点に関しては次の3点から、本跡が「烽家」があった場所と想定される。

①第3図からわかるように、地形的に見て鬼怒川に迫り出す台地上に位置することから、こちらからの見晴らしが良いばかりでなく周辺からも目安となる場所である。また、12軒の竪穴住居跡群は、すべてこの見晴らしの良い西崖寄りに占地する。さらに、本跡から西方約2.5kmの場所で古代東山道が確認され、古代の官道との関係が指摘できる。

②「烽家」墨書土器を出したSI18は、その構造が竪穴でありながら掘立柱建物風と特殊な建物で、住居跡群のほぼ中央に位置する。

また、他の12軒の竪穴住居跡中、SI10とともに大型の住居であることから、この竪穴群の中において中心的な建物であったと考えられる。尚、これら12軒は2時期に分かれる。(今平 1997)

③この城の名前「飛山」は「烽(とぶひ)」からきている可能性が高い。因みに、白河関の近くにも「飛山」という地名がある。(梅宮 1971)

以上の点から、本跡が「烽家」があった場所の可能性が高いと考えられる。

2. 中世について

今回までの6回にわたる調査の結果、竪穴建物跡39基、掘立柱建物跡51棟、土坑146基等多数の遺構とそれを囲む堀6本と溝13条が確認された。これらの詳しい変遷については機会を改めて記すとし、ここでは概略の変遷を述べるにとどめる。

出土物は、一部染付け等に近世のものが見られるが、概ね13世紀～16世紀代のものに限られ、今まで言われてきた飛山城の歴史を裏付けるものとなった。尚、芳賀高俊が築城したといわれる13世紀末を遡る遺物は、陶磁器類で若干見られるが、確実にその時期の遺構と断定できるものは無く、本城が13世紀末以降の城であることはほぼ確実と言える。

出土物の多くを占める土師器皿は、非ロクロ土師器とロクロ土師器の2種類に分かれる。遺構の検討及び先学の研究等から、両者が並存する段階→ロクロ土師器のみの段階への変遷が想定され、その画面は、両者が伴出しているST23やSK69で中野氏の常滑甕9型式や藤澤氏の即血後Ⅱ期のものが出土していることから、15世紀前葉前後と考えられる。

土師器以外の陶磁器を見ると、常滑は中野氏の5～11型式が見られるが多くは9型式以前であり、古瀬戸

も藤澤氏の中様式Ⅱ～後様式Ⅱ段階のものが多い。これらのことから、飛山城の城としてのピークは14～15世紀前半までであったと考えられる。このことを文献史料と対比してみると、1339～1341年にかけての南北朝期の戦いにおいて、北畠親房御教書写の「高山・宇都宮後摺」や沙弥宗心書状写の「宇都宮并鷲山軍」とあるように宇都宮と行動を共にしている状況が窺われ、このことから芳賀氏の主力がこの時期は飛山にあったことを意味しているものと考えられる。

尚、この戦いの際に飛山城は落城しているが、ST13やSX10出土の梅瓶等に被熱の痕が観察できることから、この時に火を受けた可能性がある。

この段階の建物を区画する堀等の存在は確認できなかったが、比較的その時期の遺構が4号堀の北側に存在することから、4号堀もしくは5号堀のほぼ同じ位置に小規模な堀が存在し、それにより区画されていた可能性が考えられる。

その後15世紀後半～16世紀にかけての遺物は、量的に少ないが、土師器皿、内耳土器、常滑甕、火鉢等が出土している。この段階の土師器皿はST04やT-5でまとまって出土しており、城の中心が前段階同様北側にあることを示唆している。

ST04は2号堀により切られることからST04→2号堀の変遷が確認できた。このことから2号堀は最終段階に整備されたものと考えられるが、同様な形態の1号と3号堀も同時に整備されたものであろう。また、現状で確認できる4～6号堀もこの段階で最終形態に整備されたと考えられる。さらに5号堀東側の土橋前面の外柵形も曲輪Ⅶの整地面を掘りぬいていることから、この段階に造られたものである。このように、堀の本数及び規模が拡大し、戦闘の城としての体裁も整備された段階と言える。この時期の遺物は、遺構としては確認できなかったが、基本層位第Ⅱ層上面から出土したT-5出土の土師器皿や、SD01出土の内耳土器や火鉢などが挙げられる。T-5出土の土師器皿は法量的に石那田遺跡や大町遺跡のものと類似し、16世紀に位置づけられる。1557年には宇都宮城奪還の前線基地として飛山城が使用されており、この事象を前後する時期の遺物と考えられる。

最後に、城の廃城は、主家である宇都宮氏の改易の年である1597年とする説もあるが、調査の結果、堀があまり埋まり切らない段階での人為的な埋め戻しが見られることから、市村氏の言う豊臣秀吉による「破却令」(市村 1988)に際し廃城になった可能性が高い。

(参考文献)

- 秋元陽光 1985 「第2節 内耳土器について」『大町遺跡』上三川町教育委員会
市村高男 1988 「文献史料から見た飛山城の歴史と性格」『史跡飛山城保存整備基本計画』宇都宮市教育委員会
大橋泰夫他 1995 「栃木県の古代官衙とその周辺」『シンポジウム3 地方官衙とその周辺』日本考古学協会茨城大会実行委員会
鎌倉市教育委員会・鎌倉考古学研究所編 1995 『集成 鎌倉の発掘』第5巻 新人物往來社
今平利幸 1997 「飛山城跡調査概観」『雫の道』青木書店
栃木県教育委員会 1975 『石那田遺跡』
中野晴久 1995 「生産地における編年について」『常滑焼と中世社会』小学館
藤澤良祐 1995 「9中世陶器 [1] 古瀬戸」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編
梅宮茂 1971 「開跡」『新版考古学講座』第9巻特論 進山園

写 真 图 版



①SK105 (南西から)



②SK116 (南から)



③SI01 (南から)



④SI01カマド (南から)



⑤SI02 (南東から)



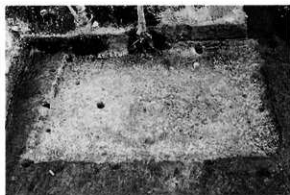
⑥SI02カマド (北西から)



⑦SI02出土遺物 (北から)



⑧SI03 (南から)



①SI18 (西から)



②SI19 (北西から)



③SK92 (東から)



④1号堀 [T-31] (西から)



⑤2号堀 [T-30] (西から)



⑥2号堀 [T-36] (西から)



⑦2号堀, SD06 [G-25] (東から)



⑧3号堀 [T-9] (西から)



①4号堀【G-1】(西から)



②4号堀, 木橋【G-1】(北から)



①4号堀[G-1] (北から)



②4号堀[G-10] (北から)



③5号堀[G-16] (南から)



④4号堀[G-26] (西から)



⑤5号堀,土橋[G-17] (南から)



⑥旧5号堀[T-102] (西から)



① 5号堀【G-17】(東から)



② 5号堀【G-18】(西から)



③ 5号堀【G-27】(北から)



④ 6号堀【G-20】(南東から)



⑤ 6号堀【G-20】(南東から)



⑥ 木橋跡【G-3】(東から)



⑦ 木橋跡【G-3】(南東から)



⑧ SD11【G-29】(北東から)



①木橋 [G-29] (東から)



②SD01 [T-13] (南東から)



③SD01 [T-14] (南から)



④SD01 [G-3坑] (東から)



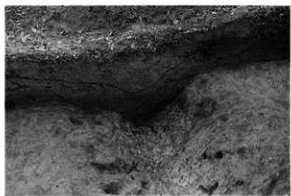
⑤SD02 [T-100] (南から)



①SD03・04【T-4】(西から)



②SD06【T-25】(北東から)



③SD07【T-51】(東から)



④SD09【T-73】(南から)



⑤SD13, SK36・37(南東から)



⑥ST03, SB06(南から)



⑦ST01(東から)



⑧ST03(南から)



①ST04 (南から)



②ST04出土遺物 (東から)



③ST06, SK23 (南から)



④ST07 (南から)



⑤ST10 (北西から)



⑥ST11 (東から)



⑦ST12 (北西から)



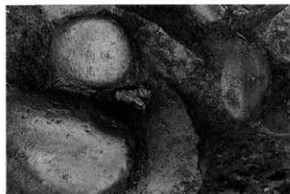
⑧ST12出土遺物 (南から)



①ST13 (北東から)



②ST13 (南から)



③ST13拍犬 (真上)



④ST14 (北から)



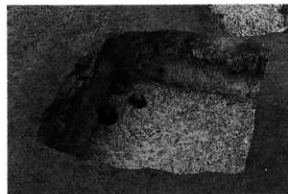
⑤ST14出土遺物 (南から)



⑥ST15 (南西から)



⑦ST16 (南西から)



⑧ST17 (東から)



①SB01 (南から)



②SB01出土遺物 (北西から)



③SB02, SK11 (西から)



④SB10, SA12・13 (北東から)



⑤SB11, SA06 (南から)



⑥SB12, SK27 (西から)



⑦SB13, SA04 (南から)



⑧SB14 (東から)



①SB20, SA09 (南東から)



②SB34 (南西から)



③SB35・42 (南西から)



④SB36 (北から)



⑤SB40 (西から)



⑥SB41 (東から)



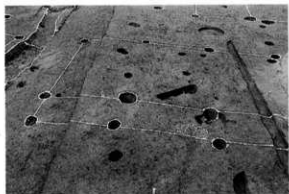
⑦SB43 (南から)



⑧SB44 (南東から)



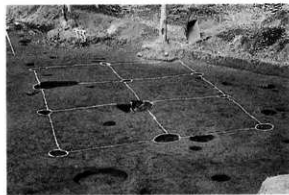
①SB45・46 (西から)



②SB47・59 (南から)



③SB47・48, SK129・130・131 (西から)



④SB49 (南西から)



⑤SB50・52 (東から)



⑥SB51 (西から)



⑦SB53 (南から)



⑧SB54・57 (西から)



①SB65 (西から)



②SB66 (南から)



③SB67・68 (北から)



④SB69 (南から)



⑤SK03 (東から)



⑥SK04~07 (南から)



⑦SK12 (北から)



①SK08 (南から)



②SK13 (東から)



③SK20 (東から)



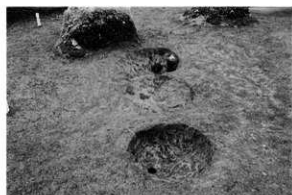
④SK22 (東から)



⑤SK27 (東から)



⑥SK28・29 (東から)



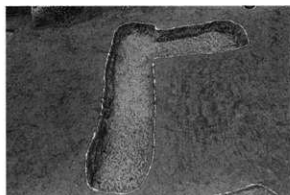
⑦SK30・31・32 (東から)



⑧SK36 (東から)



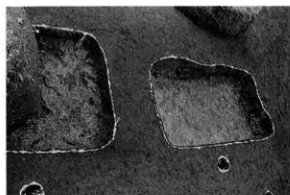
①SK37 (南東から)



②SK57・60 (東から)



③SK64 (東から)



④SK62・63 (北から)



⑤SK65, ST16 (東から)



⑥SK66 (北東から)



⑦SK68 (東から)



①SK69 (東から)



②SK75 (南から)



③SK76 (南から)



④SK77 (南から)



⑤SK78・79・80 (南西から)



⑥SK85 (南から)



⑦SK84 (北から)



①SK88 (南から)



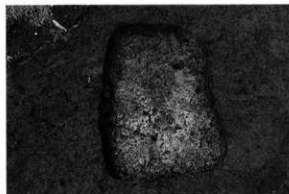
②SK91 (南から)



③SK93 (南から)



④SK98 (南から)



⑤SK101 (南から)



⑥SK102 (南から)



⑦SK107 (南から)



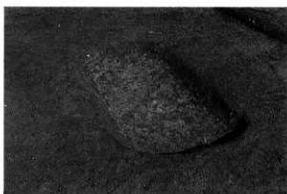
①SK108 (南から)



②SK109 (南西から)



③SK114 (南西から)



④SK115 (南から)



⑤SK117 (西から)



⑥SK120 (南から)



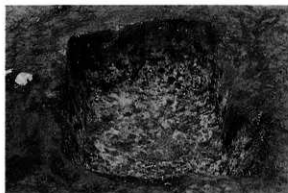
⑦SK128, SD05 (南東から)



⑧SK129・130 (南から)



①SK135 (南西から)



②SK137 (南から)



③SK141 (南から)



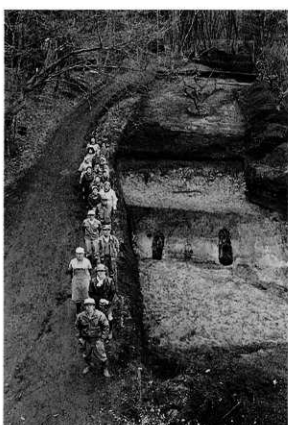
④SK145 (南から)



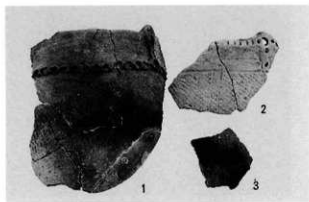
⑤SX10 [V次] (西から)



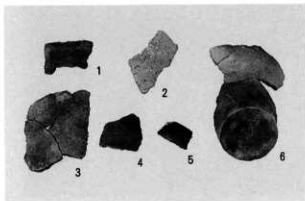
⑥SX10 [VI次] (南西から)



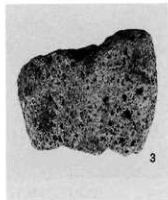
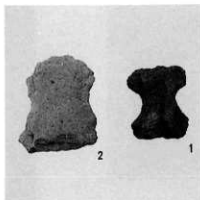
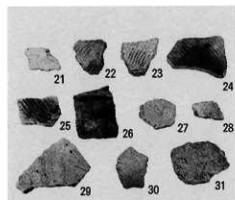
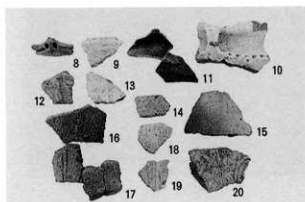
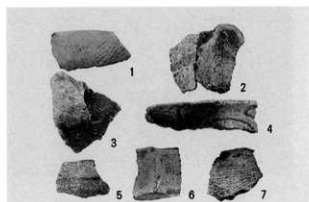
⑦調査員の方々と木橋 (南から)



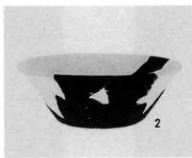
①SK105出土縄文土器



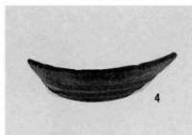
②SK116出土縄文土器



③遺構外出土縄文遺物



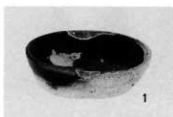
④SI01出土遺物



①SI02出土遺物



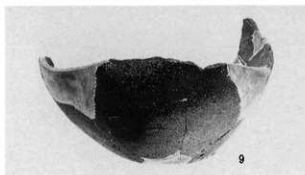
②SI03出土遺物



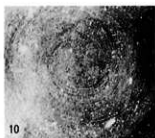
③SI04出土遺物



①SI05出土遺物



②SI06出土遺物(1)



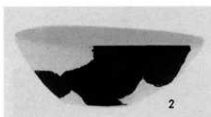
①SI06出土遺物(2)



②SI07出土遺物



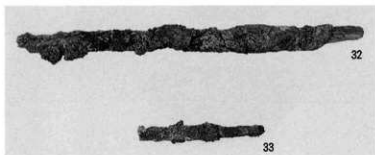
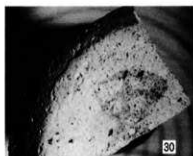
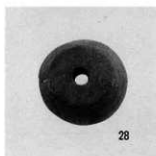
③SI08出土遺物



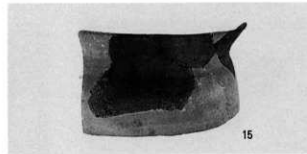
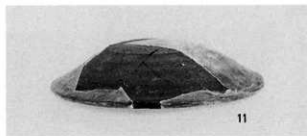
④SI09出土遺物

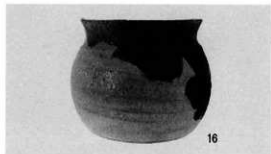


⑤SI10出土遺物(1)

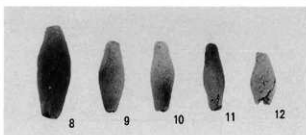


①SI10出土遺物(2)

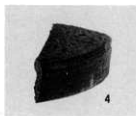




①SI18出土遺物(2)



②SI19出土遺物



③SB39出土遺物



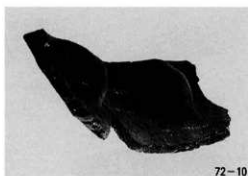
④古代表探出土遺物



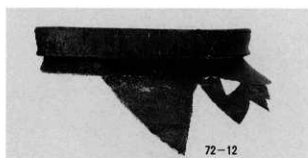
72-2



72-6

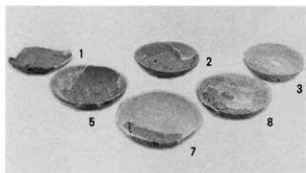


72-10

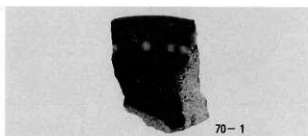


72-12

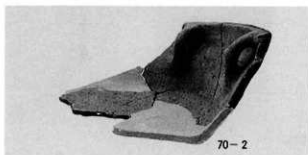
①堀出土遺物



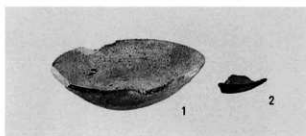
③ST04出土遺物



70-1

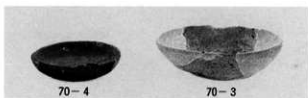


70-2



1

2



70-4

70-3

②溝出土遺物



3

④ST07出土遺物



2

4

3

5

⑤ST11出土遺物(1)



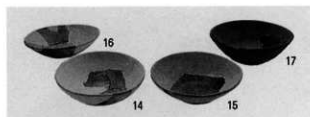
11

12

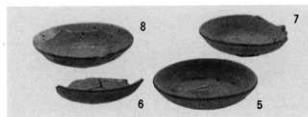
13

8

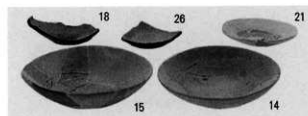
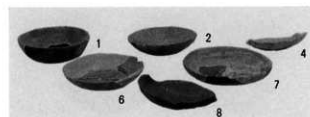
9



①ST11出土遺物(2)



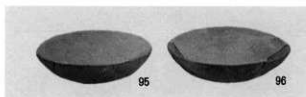
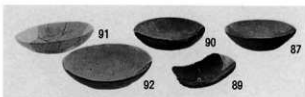
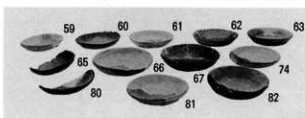
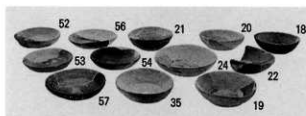
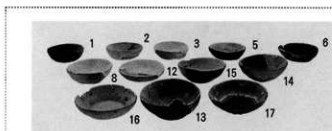
②ST12出土遺物



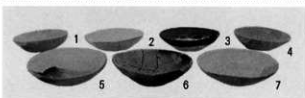
③ST13出土遺物(1)



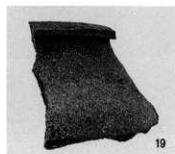
①ST13出土遺物(2)



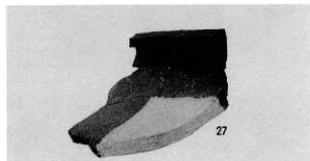
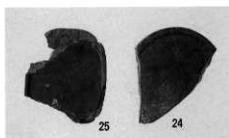
②ST14出土遺物



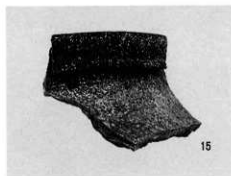
③ST15出土遺物



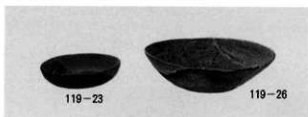
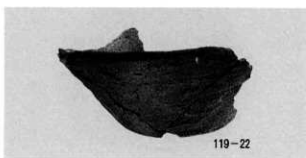
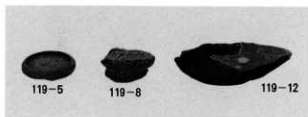
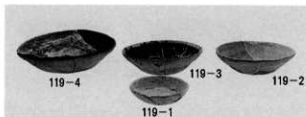
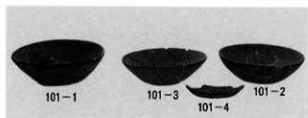
④ST21出土遺物



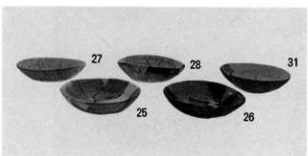
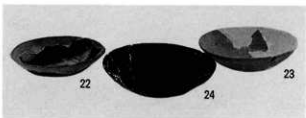
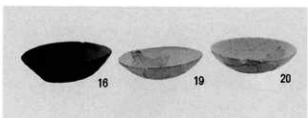
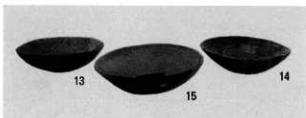
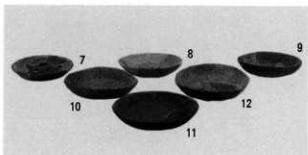
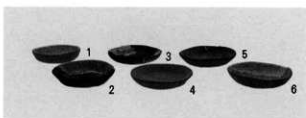
①ST22出土遺物



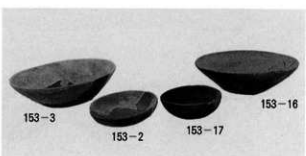
②ST23出土遺物



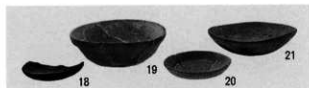
①その他の竪穴建物出土遺物



②ST39出土遺物



③土坑出土遺物



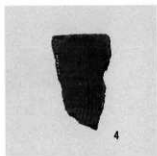
①SK69出土遺物



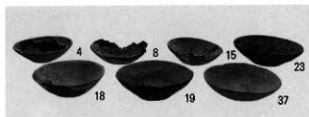
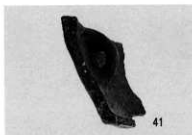
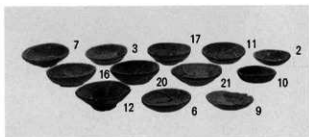
②SK144出土遺物



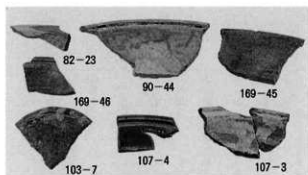
③堀立柱建物出土遺物



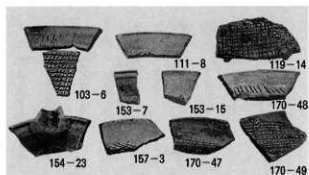
④SX10出土遺物



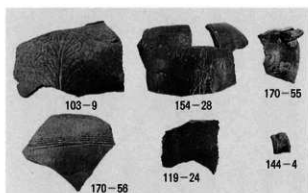
⑤中世表採出土遺物



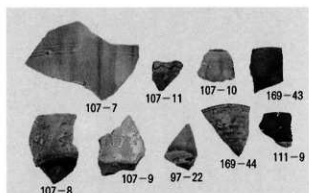
①瀬戸折縁皿



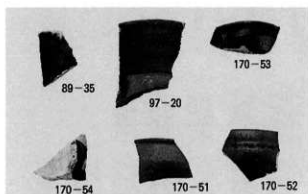
②瀬戸卸皿



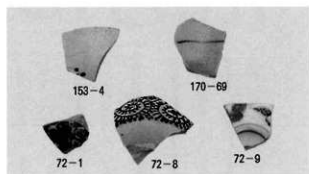
③瀬戸瓶子・梅瓶



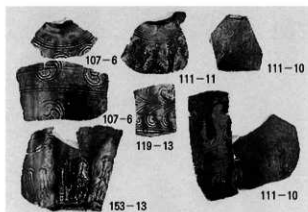
④瀬戸その他



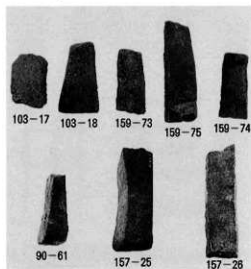
⑤天目茶碗



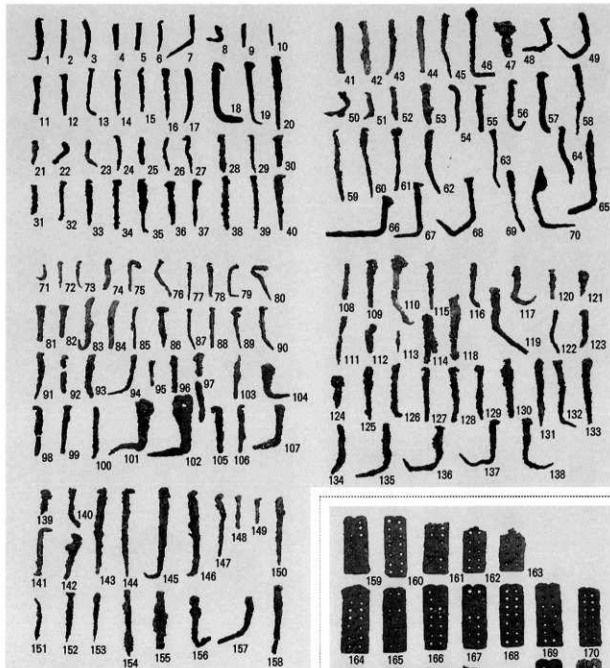
⑥染め付け



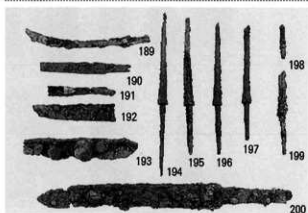
⑦鉄釉陶器



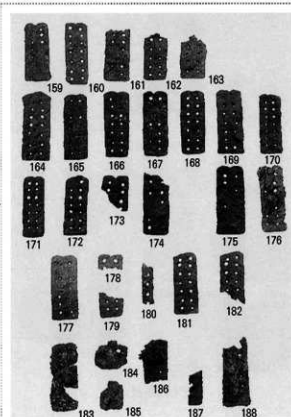
⑧砥石



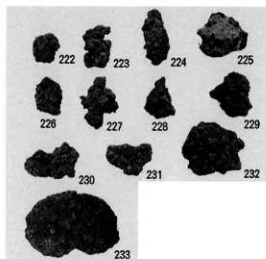
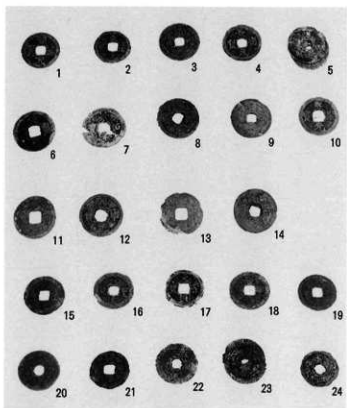
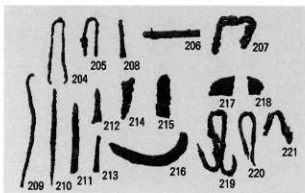
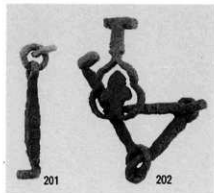
①釘



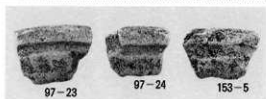
②武器



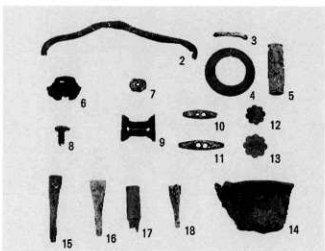
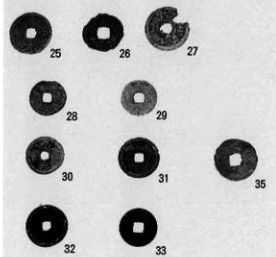
③小札



①その他の鉄製品・鉄滓



②石製品



③古銭・青銅品

報告書抄録

ふりがな	とびやまじょうせき
書名	飛山城跡Ⅲ
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第44集
編著者名	今平利幸
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 Ⅲ028-632-2764
発行年月日	西暦1999年(平成11年)3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
飛山城跡	宇都宮市 竹下町	09201	304	36度 33分 09秒	139度 58分 09秒	19920615 ～ 19980227	14,900	史跡整備 に伴う確 認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
飛山城跡	集落跡	縄文時代 古代	土坑 竪穴住居跡 12軒 掘立柱建物跡 1棟	縄文土器 土師器 須恵器	烽関連施設
	城館跡	中世	掘立柱建物跡 51棟 竪穴建物跡 52基 土坑 掘 6本 溝 13条	陶磁器 土師器 青銅品 鉄製品(釘, 釵, 小札)	

宇都宮市埋蔵文化財調査報告第44集

飛山城跡Ⅲ

平成11年3月発行

発行 宇都宮市教育委員会文化課
(宇都宮市旭1-1-5)

TEL (028) 632-2764

印刷 下野印刷株式会社
(宇都宮市宝木町1-28)

TEL (028) 622-6953
